

使いかた・おぼえかた

小学生の漢字辞典

国立国語研究所 齋賀 秀夫 編
言語計量研究部長
国立国語研究所 野村 雅昭
言語計量研究部第二室長

全国学校図書館協議会選定図書



小学館

もくじ

この本を読むまえに……………1
 この辞典の使いかた……………2
 部首さくいん……………6
 音訓さくいん……………12
 本文……………29
 学習漢字九九六字……………31
 学習漢字以外の常用漢字……………398
 人名用漢字……………416
 特別な読みのことば……………418
 ふろく……………419
 総画さくいん……………445
 学年別さくいん……………452

この本をつくられた先生がた

〈編集〉

国立国語研究所
 言語計量研究部長
 国立国語研究所
 言語計量研究部第二室長
 齋賀 秀夫
 野村 雅昭

〈協力〉

神奈川県川崎市立
 富士見台小学校校長
 松尾 桂一
 神奈川県川崎市立
 百合丘小学校教諭
 井上 利光
 神奈川県川崎市立
 下布田小学校教諭
 鈴木 良雄
 神奈川県川崎市立
 虹丘小学校教諭
 長島 徒利
 東京都東大和市立
 第八小学校教諭
 蓑田 正治
 渡部 清

〈硬筆手本・指導〉

この本を読むまえに

国語の力を正しく身につけるためには、国語の中で使われる漢字についても、しっかりと力を養うことが大切です。

漢字の力がつくということは、どういうことを意味するのでしょうか。学校での漢字の読み書きテストでいい点をとったからといって、それだけでは、漢字の力が十分だったとはいえないかもしれません。みなさんがふだんの生活の中で目にする漢字が正しく読みこなせること、また、作文や日記など実際に書く文章の中で、漢字が正しく、じょうずに使いこなせること、それが本当の漢字の力ということなのです。

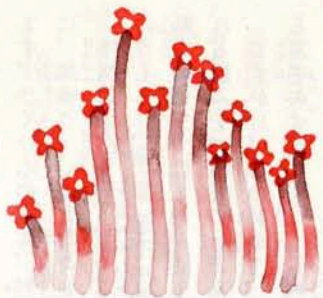
この本は、みなさんに本当の漢字の力をつけてもらうことを第一に考えて、つくりました。一つ一つの漢字に、読みかた・書きかた・使いかた・意味・熟語をしめしただけでなく、「学習」のらんを設けて、特に注意したいことを取りあげて説明したのは、そのためです。

第二に、漢字がおもしろく楽しく学べるように工夫しました。すべての字について、「便利たち」をわかりやすく説明しました。また、楽しい漢字ミニ知識や付録をできるだけ多く用意しました。みなさんに漢字を興味深く学習してもらいたいと願ったからです。

この本は、漢字の力をつけたいと思う人なら、たとえ低学年のみなさんでも、きつと楽しく利用できるはずだと思います。ひまな時、どのページでもいいから、パッと開いて、そこを眺めてみてください。しらすしらすのうちに、漢字の学習が楽しくなってくるにちがいないと、わたしたちは信じています。

昭和五十三年八月

齋賀 秀夫
 野村 雅昭



この辞典では、一字一字について、さし絵がつけてあります

ぶつかった熟語でも、だいたいの意味は見当がつくものです。

この辞典の使いかた

この辞典は、四つのさくいんと本文とふろくからできています。さくいんのうち、部首さくいんと音訓さくいんは巻頭に、総画さくいんと学年別さくいんは巻末にあります。本文は、小学校でならう学習漢字九九六字をとりあげ、そのうしろに、学習漢字以外の常用漢字ぜんぶを、読みかたと熟語の例をつけてのせました。人名用漢字も、ふつうに使われる読みをつけてのせてあります。

ですから、この辞典で、げんざい日本で公式に使われている漢字のすべてを、しらべることが出来ます。

また、だれでもこの辞典が使えるように、説明はできるだけやさしくし、漢字には、ぜんぶふりがなをつけました。

1 見出し漢字と書きかたの handbook

はじめに、学習指導要領に従い、九九六字の学習漢字を、一字一字大きくかかれています。教科書活字の字体をそのまま採用し、配列は、部首別・画数順で、カッコの中は、その字をおそわる学年と、その字の画数です。

見出し漢字の下には、書きかたの handbook があります。

字形は、その細部においては、必ずしも一つに限定されない場合もありますが、この handbook は、上の見出し漢字の字形に従いました。この字形が、小学生の皆さんには、いちばん分

かりやすい基本的な形といえましょう。

手本には、赤字で、それぞれの字を的確に形よく、きれいに、じょうずに書けるコツを示しました。

2 読みかた

見出し漢字の左の **かんじ** は、常用漢字表音訓欄に示されている音読みと訓読みです。音はかたかな、訓はひらがなでしめました。送りがなをもなう訓は、送りがなのぶぶんを赤字でしめました。たとえば「親」のところ、

かんじ …… したしい・したしむ

とあるのは、「親しい・親しむ」を「したしい・したしむ」と読むことをしめます。

また、――のついている読みは中学校卒業までにならう読み、――のついているのは高校卒業までにならう読みです。

3 なりたち

なりたちのらんででは、その字がどのようにしてできたかということ、その字のもとの意味を、わかりやすく説明しました。説明だけではわかりにくいときは、ひと目でわかるよう、図解してあります。なお、この説明は、原則として、藤堂明保編「例解学習漢字辞典」(小学館)にもとづいて

4 さし絵

この辞典では、一字一字について、さし絵がつけてあります。

- 見出し漢字 (教科書体活字)
- 習う学年と画数
- 読みかた (は 中学で、――は 高校で習う読み。赤字は送りがな)
- 常用漢字表で新しく加わった読み。
- 書きかたの handbook と、じょうずに書くための注意
- その字のできかたと本来の意味
- 代表的な使いかたの例
- 熟語を意味ごとにまとめてしめす (熟語は音読み・訓読みの順)
- 特に注意する点を取りあげて説明
- 筆順

赤 (1年・7画)

おん セキ・シヤク
あか・あかい・あからむ・あからめる

なりたち 大 (おおきい) と火 (ひ) を合わせた形からできた字です。大きくもえあがつた火のいろを表します。

つかいかた

- 赤と白の旗。○ 夕日が赤い。
- 顔を赤らめる。○ 赤ちゃんのえがお。
- 赤電話から電話をかける。
- 誕生日に赤飯をたく。

いみじゅく

① あか。あかい。赤外線・赤十字・赤道・赤面・赤血球・赤字・赤潮・赤信号・赤ら顔

② なにもない。赤心・赤誠・赤貧

● 学習 ● シヤクという読みは「赤銅色」ということばに使われます。● 特別な読みかたに「真つ赤まら」があります。

赤赤赤赤赤赤

す。さし絵は、その字の意味をそのままあらわしたものと、その字を使った熟語の意味を絵にしたものがあります。その絵が、どんな意味やことばをあらわしているか、考えてみてくだささい。そうすれば、漢字にしたしみがもてるようになり、楽しくおぼえることができるでしょう。

5 つかいかた

漢字は、その字の読みや意味をしっているだけでは、あまりやくに立ちません。その読みや意味が、文の中で、どんなことばとして使われるかをしらないと、せつかくおぼえたことも、学習に十分いかすことができません。

それで、つかいかたのらんででは、その字だけで一つのこ

とばとして使われるばあいと、ほかの字と結びついて熟語として使われるばあいの例をしめました。

6 いみじゅく

漢字の意味は、一字について一つとはかぎりません。もとの意味は一つでも、長いあいだに、そこからわかれて、いくつかの意味がうまれてくるからです。

また、漢字は、ほかの字と結びついてたくさん熟語をつくりまます。その漢字の代表的な意味をしつていけば、新しくぶつかった熟語でも、だいたいの意味は見当がつくものです。

部首さくいん

句 80	包 80	勸 80	勢 80	勝 79	勤 79	務 79	勉 78	勇 77	効 77	勞 77	努 76	助 76	加 76	功 75	力 75	力 74									
章 立	率 玄	單 日	早 日	古 口	支 支	博 84	南 84	協 84	卒 83	半 83	午 83	千 82	十 82	医 82	区 81	比 81	北 81	化 81							
反 87	友 87	又 部	弁 升	台 口	公 八	參 87	去 86	争 89	カ 部	勇 力	予 89	マ 部	帰 89	リ 部	皮 支	支 支	受 88	取 88	収 88						
兼 90	ノ 部	象 豕	魚 魚	負 貝	急 心	角 角	色 色	危 尸	カ 部	勇 力	予 89	マ 部	帰 89	リ 部	皮 支	支 支	受 88	取 88	収 88						
名 94	同 94	合 94	各 93	号 93	司 93	右 92	史 92	台 92	可 91	句 91	古 91	口 90	口 部	養 食	義 羊	着 羊	差 工	首 首	美 羊	前 刀	弟 弓	羊 羊	半 十		
足 94	谷 94	局 93	舌 93	石 93	加 92	器 92	喜 92	善 92	問 91	商 91	唱 91	員 90	品 90	呼 99	和 99	命 98	味 98	周 97	告 97	否 97	君 96	吸 96	向 95	后 95	
城 109	型 109	垂 108	均 108	坂 108	地 107	在 107	庄 106	土 106	士 部	幸 105	走 105	赤 104	至 104	寺 104	去 103	增 103	境 103	塩 103	墓 102	場 102	報 102	城 101	堂 101	基 101	
处 114	女 部	志 心	売 心	声 心	壳 心	士 部	大 部	死 夕	名 口	夜 口	多 口	外 口	夕 口	夕 部	美 麦	条 木	各 口	夏 口	変 口	冬 口	女 部	女 部	女 部	女 部	女 部
安 127	守 127	孫 126	学 126	季 125	孝 125	存 125	字 124	子 124	子 部	要 西	婦 西	姿 西	姉 西	委 西	始 西	妻 西	妹 西	好 西	女 西	女 部	女 部	女 部	女 部	女 部	女 部
究 135	字 135	穴 134	察 134	寒 134	富 134	密 134	寄 133	宿 133	宮 133	容 132	家 132	害 131	室 131	宣 131	客 131	宝 130	宙 130	実 129	定 129	官 129	宗 128	完 128	字 128	宅 127	

部首さくいん

平 千	天 大	五 二	才 手	干 干	十 十	両 35	世 34	不 34	万 33	下 33	上 32	三 32	七 31	丁 31	一 31	一 部	
人 人	九 乙	乘 37	久 36	ノ 部	良 良	永 水	主 36	丸 36	の 部	旧 日	中 35	の 部	至 至	正 止	一 部		
米 木	夫 大	元 儿	五 39	二 38	二 部	予 マ	事 38	の 部	乳 38	乱 37	九 37	乙 部	矢 矢	失 大	丸 止		
人 41	人 部	率 玄	夜 夕	卒 十	衣 衣	立 立	市 巾	方 方	文 文	六 八	京 40	交 39	亡 39	示 示	一 部		
仲 47	全 46	会 46	伝 46	休 45	任 45	件 45	仮 44	仕 44	以 44	令 43	代 43	付 43	他 42	仏 42	今 41	仁 41	
信 54	保 53	俗 53	係 53	便 52	舎 52	価 52	供 51	例 51	使 51	体 50	作 49	余 49	何 48	住 48	低 47	位 47	似 47
入 62	入 部	党 小	売 士	児 一	兆 61	光 61	先 61	兄 60	元 60	化 60	食 60	食 60	命 55	命 55	合 54	合 54	
用 66	再 65	冊 65	円 65	内 65	口 部	谷 64	分 64	典 64	具 64	兵 63	共 63	六 63	公 63	八 62	八 部	八 部	
刀 67	刀 部	齒 齒	画 田	出 67	口 部	次 欠	冷 66	の 部	軍 車	写 66	の 部	周 口	肉 肉	同 口	同 口	同 口	
割 74	創 74	副 73	前 73	則 73	刻 72	券 71	刷 71	制 71	利 70	別 70	判 70	初 69	列 69	刊 68	切 68	分 68	

小学校の学習漢字を、部首ごとに分けてならべました。部首の順序は画数順です。おなじ部首のなかでも、画数順にしてあります。数字は、上がページ、下が段です。部首をまちがえやすい字ものせました。たとえば「化」が「イ(にんべん)の部首の字とまちがえても、ほんとうは「匕(ひ)の部首の字とまちがえます。

部首さくいん

数	敬	散	敗	救	教	政	故	放	改	支	支	操	損	揮	提	探	捨	推	接	採	授			
212	211	210	210	210	209	209	209	208	208	支の部	支の部	207	207	206	206	206	205	205	205	204	204			
日	日	放	旗	族	旅	方	所	新	断	斤	料	斗	对	文	文	牧	整	敵						
216	日の部	放の部	215	215	215	214	戸	214	214	斤の部	213	斗の部	对の部	213	文の部	牧の部	212	212						
曲	日	量	者	曜	暴	暖	暗	晚	暑	晴	景	時	映	昼	是	昭	昨	春	星	易	明	早	旧	
224	日の部	量の部	者の部	224	223	223	223	222	222	222	221	221	221	220	220	219	219	219	218	218	217	217	217	
腦	骨	胸	脉	能	肺	背	胃	前	青	育	肥	期	朝	望	朗	服	有	月	申	由	最	書		
225	225	225	225	225	227	227	227	226	226	226	225	227	227	226	226	226	225	225	225	225	224	224		
校	染	榮	柱	查	枚	果	林	板	東	来	条	村	材	机	本	末	未	木	木	臆	腹	腸	勝	
234	234	234	233	233	233	232	232	232	231	231	231	230	230	230	229	229	228	228	木の部	228	228	225	224	
乘	禁	集	相	樹	機	橋	横	権	標	模	様	構	楽	業	棒	檢	極	植	森	械	案	格	根	株
235	235	235	242	242	241	241	241	240	240	239	239	239	238	238	238	237	237	236	236	236	235	235	235	235
殺	段	女	列	残	死	歹	齒	歴	步	武	正	止	止	飲	飲	歌	欲	次	欠	欠	欠	欠	欠	
247	247	女の部	列の部	246	246	歹の部	齒の部	246	245	245	245	244	244	244	244	243	243	243	243	243	243	243	243	
池	永	氷	水	水	汽	气	气	民	氏	氏	毛	毛	比	比	毒	每	母	母	母	母	母	母	母	
252	252	251	251	251	250	250	250	249	249	249	249	249	248	248	248	247	247	247	247	247	247	247	247	
深	液	流	消	浴	洗	浅	海	派	活	洋	泉	沿	泣	泳	注	波	法	治	油	河	汽	決	求	
260	260	259	259	259	258	258	257	257	257	256	256	256	255	255	255	254	254	254	253	253	253	253	253	
災	灯	灰	火	火	酒	潮	潔	演	漁	源	漢	準	滿	湯	湖	港	測	温	減	濟	清	清	混	
267	267	267	266	266	266	266	265	265	264	264	264	264	263	263	263	262	262	262	261	261	261	261	260	
物	牧	牛	牛	版	片	片	父	父	蒸	黑	魚	烟	燃	熟	熟	照	燒	然	無	点	点	点	炭	
272	272	272	271	271	271	271	271	271	270	270	270	270	269	269	269	269	269	269	268	268	268	268	268	

賞	挙	常	堂	光	党	当	少	小	小	導	尊	将	射	專	对	寺	寸	寸	憲	窓	案	空
138	137	137	137	136	136	136	135	135	135	138	139	139	139	138	138	139	139	138	138	139	138	138
川	川	密	炭	島	岩	岸	山	山	山	戸	層	属	展	屋	届	居	局	尺	戸	就	尤	
144	川の部	密の部	炭の部	144	144	143	143	山の部	山の部	戸の部	142	142	142	141	141	141	140	140	戸の部	140	尤の部	
幕	常	帳	帯	席	師	希	布	市	巾	改	卷	己	己	功	差	左	工	工	順	州		
150	149	149	149	148	148	148	147	147	巾の部	改の部	146	146	己の部	功の部	146	145	145	工の部	順の部	145	州	
康	座	庭	庫	度	府	店	底	序	序	序	序	序	序	序	序	序	序	序	序	序	序	序
156	156	156	155	155	155	154	154	154	153	153	153	152	152	152	152	151	150	150	150	150	150	150
形	強	張	弱	弟	引	弓	弓	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式
160	160	160	159	159	159	158	158	158	158	158	158	157	157	157	157	157	157	157	157	157	157	157
榮	学	勞	嚴	營	單	衛	街	術	行	德	復	得	徒	後	律	待	徑	往	役	役	役	役
165	165	165	165	165	165	165	165	165	165	164	164	164	163	163	163	162	162	162	161	161	161	161
近	辺	幕	幕	菜	藏	蒸	葉	落	著	菜	荷	草	茶	若	芽	英	苦	芸	花	覚	挙	
172	172	幕の部	幕の部	171	171	171	170	170	170	169	169	168	168	168	167	167	167	166	166	166	166	166
郡	遺	選	適	遠	達	過	道	運	遊	進	週	連	造	速	通	逆	送	退	追	迷	迷	返
181	180	180	180	179	179	179	178	178	177	177	177	176	176	176	175	175	174	174	174	173	173	173
志	必	心	心	障	際	階	隊	陽	險	陸	降	除	院	陞	限	防	郷	郷	都	都	都	部
189	188	188	188	187	187	187	186	186	186	185	185	184	184	184	183	183	182	182	182	182	181	181
成	憲	慣	態	感	愛	意	想	悲	情	愚	息	思	思	急	性	念	忠	快	忘	忘	忘	忘
196	196	195	195	195	194	194	194	193	193	193	192	192	192	191	191	190	190	190	189	189	189	189
挙	指	持	拾	担	招	拈	拈	承	批	折	投	技	打	才	手	手	手	手	手	手	手	手
204	203	203	202	202	202	201	201	201	200	200	200	199	199	199	198	197	197	197	197	197	197	196

部首さくいん

複 342	製 342	裏 341	補 341	裁 341	表 340	衣 340	衣 339	衞 339	街 339	術 338	行 338	衆 338	血 337	血 337	蚕 337	虫 336	虫 336	色 336	色 336		
記 348	訓 348	討 347	計 347	言 347	言 346	解 346	角 346	角 346	現 345	親 345	覧 345	親 344	覚 344	視 344	規 344	見 343	見 343	要 343	西 342		
謝 356	講 356	諸 355	論 355	談 355	調 354	課 354	誌 354	説 353	誤 353	認 353	語 352	誠 352	話 351	詩 351	試 350	詞 350	評 350	証 349	訪 349	訳 349	許 348
貴 361	貯 361	貴 361	貨 360	貧 360	財 360	負 359	貝 359	貝 358	象 358	豕 358	頭 358	豕 358	豆 358	欲 358	谷 358	谷 357	護 357	議 357	警 357	識 356	識 356
射 367	身 367	身 366	路 366	足 366	足 366	起 366	走 365	走 365	赤 365	赤 365	贊 365	質 364	質 364	賞 364	資 364	質 363	質 363	費 362	費 362	買 362	買 362
里 371	里 371	釈 371	采 371	酸 370	酒 370	配 370	西 370	農 370	辰 370	辞 369	辛 369	輸 369	輪 368	輪 368	輕 368	軛 368	軍 368	車 367	車 367	車 367	車 367
鏡 378	鋼 377	録 377	錢 377	銅 376	銀 376	鉦 376	鉄 375	針 375	金 374	金 374	麦 374	麦 374	覽 373	臨 373	臣 373	臣 373	童 373	黒 373	黒 372	野 372	野 372
需 384	電 383	雲 383	雪 383	雨 382	雨 382	難 382	難 381	集 381	佳 381	問 381	問 381	關 380	關 380	間 380	開 380	閉 379	門 379	門 379	長 378	長 378	長 378
題 388	頭 388	領 388	預 387	順 387	頂 387	真 386	音 386	音 386	革 386	革 385	面 385	面 385	悲 385	非 385	非 385	静 384	青 384	青 384	青 384	青 384	青 384
驗 394	馱 393	馬 393	馬 393	首 393	首 392	館 392	養 392	飯 392	飲 391	食 391	食 391	飛 391	飛 391	風 390	風 390	願 390	類 389	類 389	類 389	類 389	類 389
鼻 397	鼻 397	齒 397	齒 397	黒 397	黒 396	黄 396	黄 396	鳴 396	鳥 395	鳥 395	魚 395	魚 395	高 394	高 394	高 394	骨 394	骨 394	骨 394	骨 394	骨 394	骨 394

生 277	生 277	聖 277	望 276	皇 276	全 276	理 276	球 276	現 276	班 275	王 275	玉 275	玉 275	率 274	玄 274	然 274	独 274	状 274	犯 273	犬 273	犬 273	特 273		
疑 283	正 283	奮 283	胃 282	思 282	番 282	異 282	略 281	留 281	畑 281	界 281	画 280	町 280	男 280	申 279	由 279	田 279	田 279	用 278	用 278	産 278	産 278		
目 287	目 287	盟 287	益 286	血 286	皮 286	皮 286	習 286	泉 286	皇 285	的 285	百 285	白 285	白 285	登 284	癸 284	六 284	六 284	痛 283	病 283	疒 283	疒 283		
示 294	示 294	確 293	磁 293	破 293	砂 292	研 292	石 292	石 291	短 291	知 291	矢 291	矢 291	具 290	貝 290	見 290	眼 290	真 290	看 289	県 288	省 288	相 288	直 288	
積 302	穀 301	種 301	程 301	税 300	移 300	秘 300	称 299	秒 299	科 299	秋 298	私 298	禾 298	禾 298	視 297	福 297	禁 297	祭 296	粟 296	神 296	祝 295	祖 295	社 295	礼 295
買 306	署 305	置 305	罪 305	罪 305	意 305	意 305	競 304	童 304	章 304	立 304	立 304	立 304	窓 303	空 303	究 302	穴 302	穴 302	季 302	委 302	和 301	利 301	利 301	
糸 313	糸 313	料 312	糖 312	精 311	粉 311	米 311	米 311	簡 311	築 310	管 310	算 310	節 309	筋 309	策 308	答 308	等 308	筆 307	第 307	笑 307	竹 306	竹 306	竹 306	
緑 321	練 320	総 320	綿 320	統 319	絹 319	絵 319	統 318	給 318	絶 318	結 317	経 317	組 316	終 316	細 316	素 315	紙 315	純 315	納 314	紅 314	級 314	約 313	紀 313	系 313
孝 326	者 326	考 326	老 326	老 325	習 325	羽 325	羽 325	養 324	義 324	群 324	着 324	美 323	羊 323	羊 323	羊 323	羊 323	織 323	縮 322	績 322	縦 322	編 321	線 321	線 321
臟 333	腹 332	腸 332	腦 332	胸 331	脈 331	能 331	肺 331	背 330	胃 330	育 330	肥 329	肉 329	肉 329	肉 329	職 328	聞 328	聖 328	耳 327	耳 327	耳 327	耕 327	来 327	来 327
根 336	限 336	良 336	良 335	船 335	航 335	舟 335	舟 335	舌 334	舌 334	興 334	曰 334	曰 334	至 334	至 334	鼻 334	息 334	自 334	自 334	自 334	骨 334	骨 334	骨 334	骨 334

ヨウ よい よ ヨ
 ゆわえる ゆるす ゆみ ゆび ゆたか ゆく ゆき ゆえ
 [よ]

曜	養	様	陽	葉	容	要	洋	羊	用	幼	善	良	夜	四	代	世	預	余	予	結	許	弓	指	豊	行	雪	故														
224	392	239	186	170	133	343	257	323	278	152	101	336	117	102	43	34	387	49	89	317	349	158	203	358	338	383	209														
ラ	ン	ラ	ク	ラ	イ	よ	ん	よ	わ	る	よ	わ	め	る	よ	わ	い	よ	ろ	こ	ぶ	よ	る	よ	む	よ	ぶ	よ	つ	つ	よ	せ	る	よ	し	よ	こ	ヨ	ク	よ	う

[ら]

覽	卯	乱	楽	落	来	礼	四	弱	弱	弱	弱	喜	夜	寄	因	読	呼	四	四	寄	由	横	翌	欲	浴	ハ	
345	85	37	239	170	231	295	102	159	159	159	159	101	117	134	103	353	98	102	102	134	279	241	325	243	259	62	
ル			リ	ン	リ	ヨ	ク			リ	リ	ヨ	ウ			リ	リ	ヤ	ク			リ	リ	チ	ク	キ	リ

[る]

[り]

流	臨	輪	林	緑	力	領	漁	量	料	良	両	旅	留	流	立	略	率	律	立	律	陸	力	裏	理	里	利	
259	373	369	232	321	75	388	265	373	213	336	35	215	281	259	304	282	274	162	304	162	185	75	341	277	371	70	
わ	わ	わ	わ	わ	わ	ワ	ロ	ン		ロ	ク		ロ	ウ			レ	ン	レ	ツ	レ	キ		レ	イ	ル	イ

[わ]

[ろ]

[れ]

分	分	若	輪	我	話	和	論	録	緑	六	朗	勞	老	路	練	連	列	歴	例	冷	礼	令	類	留																							
68	68	168	369	196	351	98	355	377	321	63	226	77	326	366	320	176	69	246	51	66	295	43	389	281																							
											わ	れ			わ	ら	べ	わ	ら	う	わ	た	く	し	わ	す	れ	る	わ	ざ	わ	い			わ	ぎ		わ	け	わ	か	れ	る	わ	か	れ	る

割	我	悪	割	割	童	笑	私	綿	忘	災	業	技	分	訳	列	分
74	196	193	74	74	304	307	298	320	189	267	238	199	68	349	70	68

学習漢字 九九六字

学習漢字以外の常用漢字
 人名用漢字
 特別な読みのことば
 418 416 398

一 (1年・1画)


おんイチ・イツ
ひと・ひとつ

なりたち 一本の横線
で、数の「いち」を表した字です。

つかいかた
○ミカンを一つ食べる。
○つかれたから一休みしよう。
○弟は一年生で、一月生まれです。
○一匹きの金魚。○一本のえんぴつ。

いみじゆく
①数の「いち」。ひとつ。——「個」・「一本」
②はじめ——一位・一番・一着
③もつともすぐれている——日本一
④ひととまとまり。ぜんいん。——一同・一家
⑤おなじ——一様・一致・統一・同一
⑥あるひとつの——(春の)一日・一説

学習 ●数を表すとき、「壹(113)を使うこともあります。●特別な読みかたに「一日(いちいつ)・一人(いちひと)」があります。



丁 (3年・2画)

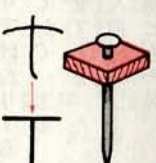
おんチヨウ・テイ
——

なりたち たいらな面に直角にくぎをうったようすを表した字。

つかいかた
○どうふを三丁買う。
○私の住所は朝日町一丁目六番地です。
○丁重なもてなしを受けた。

いみじゆく
①四ばんめ——甲△乙△丙△丁
②一人まえのおとこ——園丁・△壮丁
③本の表と裏二ページ分——落丁・乱丁
④町の区分につかうことは——三丁目
⑤大工道具やどうふなどを数えることは——(のこぎり)一丁・(とう)半丁

学習 「丁」のつく字は、「丁」字型や直角にあたっている」という意味にかんけいがあります。「打丁(うちてい)」上から直角にうつ、「町丁(まちてい)」(丁字型に交わっている、田の道)。



七 (1年・2画)

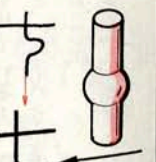
おんシチ
なな・ななつ・なの

なりたち 縦線を横線できり、下のはしをきりすてた、はんばな形を表した字。7は、わりきれないはんばな数。

つかいかた
○旅行の七つ道具をそろえた。
○一月七日に七草がゆをたべた。
○お七夜に子どもの名まえをつける。

いみじゆく
①ななつ——七番(ななばん)・七曜(しちよう)
②数の多いこと。たくさん。——七ころび

学習 ●七のつくことばの中には、年中行事・神仏にかんけいのあるものが多いみられます。例)七夕・七五三・お七夜・七福神・春の七草・秋の七草。●特別な読みかたに「七夕(なつたね)」があります。



漢字ミニ知識もぐいじ

打ち消しの文字	34	植物の名を漢字で書くこと	169
仏教からきたことば	42	陸の交通——江戸時代の五街道	185
作家と作品	49	特急・急行列車の名	191
体の部分を表す漢字	50	「指」のつくいいまわし	203
時刻と方位	72	敬語のつかい方	211
動物の名を漢字でかくこと	78	料・費・賃・代のつくことば	213
むずかしい読みの人名	95	太陽系の星の名	217
商品についているマーク	100	いろいろな模様	240
国字	105	都道府県名の漢字	289
むずかしい読みの地名	107	「者」のつくことば	327
巷・式・参……	113	人間の内臓	333
姉妹都市	123	「虫」のつく漢字	337
読み方で意味がちがうことば	132	魚と鳥の名を漢字で書くこと	395
年中行事	151	犬の鳴き声——擬音語	396

さし絵

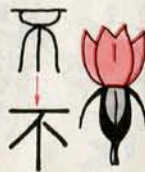
若月 孝吉
月田 孝吉
中野 博之
木下 欣久

不

(4年・4画)



【なりのたち】もとは、ふつくらとふくれた花のガクを表した字で「ふくれた」という意味でした。のちに、ふつとふかれて、はきすてるようにことわることから、「……ない」と、打ち消す意味に



【つかいかた】○不幸な子どもたちのために募金する。○あの人は不作法な人です。

【いみ・じゆん】○……ない。……しない。……ではない。不運・不可能・不服・不満・不要

【学習】●不(……ではない)と口とを合わせた字に「否(いな) (96字)」があります。●頭に不をつけるは反対の意味になることばは安定・案内・用意・景気・公平。

打ち消しの文字

「完全」ということばに「不」をつけて「不完全」にすると、「完全ではない」という意味になります。このように、あることばの上について「……ではない」「……がない」という打ち消しの意味を表す字に「不・非・無・未」などがあります。このうちのどの文字がつくかは、下のことばによってちがいます。

Table of characters and their meanings: 不 (不可能, 不健康, 不十分, 非課税, 非公式, 無のつくことば, 無関心, 無神経, 未のつくことば, 未処理, 未完成, 未経験, 未成, 年), 非 (非課税, 非公式, 非常識, 非公開), 無 (無関心, 無関係, 無気力, 無理解), 未 (未処理, 未完成, 未経験, 未成, 年).



両

(3年・6画)



【なりのたち】もとの字は両。左右がつりあっている、はかりのようすを表した字です。

【つかいかた】○道の両側にイチヨウの木が植えてある。○両親とも元気でいます。○千円札を百円玉に両替する。

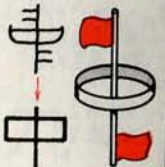
【いみ・じゆん】①ふたつ。ふたつで対になっているもの。両岸・両手・両方・両面・左右両翼・衆参両院・水陸両用・東西両軍

②左右の輪がつりあっている車を数える単位——六両編成

③むかしの重さやお金の単位——千両 学習 けんか両成敗・両手に花・両雄並び立たず・両てんびんにかけるなどは、よく使われることばです。

中

(1年・4画)



【なりのたち】わくのまんなかを、棒または旗がおがつきぬけている形を表した字です。

【つかいかた】○わたしの成績は、クラスの中で、中の上ぐらいです。○学校の中庭には、花だんがある。○中学校は、町の中央にあります。

【いみ・じゆん】①まんなか——中央・中心・中日②物と物との間——中間・中継・中休み③なかほど——中旬・中年・中流④かたよらないこと——中立・中和⑤うちがわ——空気中・車中・船中⑥ある時期の間。あることをしていること——中途・お話し中・今週中・最中・授業中・暑中・進行中・相談中・道中

⑦あたる。あてる。——中毒・命中

世

(3年・5画)



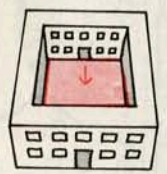
【なりのたち】十を三つ書き、下のはしをつないだ形です。「三十年もあいた」という意味で、人間の一代、つまり一代とかわる期間を表します。

【つかいかた】○世の中のためになる仕事をする。○世間の評判が気になることがある。○後世に名を残す人になろう。

【いみ・じゆん】①よのなか——世界・世間・世事・世俗・世話・時世・出世・乱世・世論・世渡り②時代。時のくぎり。——世紀・近世・中世③人の一代——世代・三世・二世

【学習】●「世」は、次のように「大小・上下・高低・長短」などについて、「なかほど」を示すのに使われます。大小(大型・中型・小型・大学・中学・小学、大企業・中企業・小企業)上下(上旬・中旬・下旬、上級・中級・下級) 中級(下級) 高低(高学年・中学年・低学年。ただし、高等教育・中等教育・初等教育) 左右(野球の、左翼・中堅・右翼) 長短(電波の、長波・中波・短波) 「中日」という熟語は読みかたによっていろいろの意味に使われます。

「ちゅうにち」(1)お彼岸の中日。(2)中国と日本。(3)中部日本新聞。「なかび」(大)「な」や演劇などの興行期間のまん中の日。「なかがよい」の「なか」は、「仲」です。

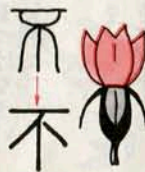


不

(4年・4画)



【なりのたち】もとは、ふつくらとふくれた花のガクを表した字で「ふくれた」という意味でした。のちに、ふつとふかれて、はきすてるようにことわることから、「……ない」と、打ち消す意味に



【つかいかた】○不幸な子どもたちのために募金する。○あの人は不作法な人です。

【いみ・じゆん】○……ない。……しない。……ではない。不運・不可能・不服・不満・不要

【学習】●不(……ではない)と口とを合わせた字に「否(いな) (96字)」があります。●頭に不をつけるは反対の意味になることばは安定・案内・用意・景気・公平。

打ち消しの文字

「完全」ということばに「不」をつけて「不完全」にすると、「完全ではない」という意味になります。このように、あることばの上について「……ではない」「……がない」という打ち消しの意味を表す字に「不・非・無・未」などがあります。このうちのどの文字がつくかは、下のことばによってちがいます。

Table of characters and their meanings: 不 (不可能, 不健康, 不十分, 非課税, 非公式, 無のつくことば, 無関心, 無神経, 未のつくことば, 未処理, 未完成, 未経験, 未成, 年), 非 (非課税, 非公式, 非常識, 非公開), 無 (無関心, 無関係, 無気力, 無理解), 未 (未処理, 未完成, 未経験, 未成, 年).



両

(3年・6画)



【なりのたち】もとの字は両。左右がつりあっている、はかりのようすを表した字です。

【つかいかた】○道の両側にイチヨウの木が植えてある。○両親とも元気でいます。○千円札を百円玉に両替する。

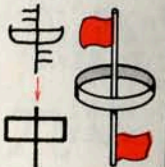
【いみ・じゆん】①ふたつ。ふたつで対になっているもの。両岸・両手・両方・両面・左右両翼・衆参両院・水陸両用・東西両軍

②左右の輪がつりあっている車を数える単位——六両編成

③むかしの重さやお金の単位——千両 学習 けんか両成敗・両手に花・両雄並び立たず・両てんびんにかけるなどは、よく使われることばです。

中

(1年・4画)



【なりのたち】わくのまんなかを、棒または旗がおがつきぬけている形を表した字です。

【つかいかた】○わたしの成績は、クラスの中で、中の上ぐらいです。○学校の中庭には、花だんがある。○中学校は、町の中央にあります。

【いみ・じゆん】①まんなか——中央・中心・中日②物と物との間——中間・中継・中休み③なかほど——中旬・中年・中流④かたよらないこと——中立・中和⑤うちがわ——空気中・車中・船中⑥ある時期の間。あることをしていること——中途・お話し中・今週中・最中・授業中・暑中・進行中・相談中・道中

⑦あたる。あてる。——中毒・命中

世

(3年・5画)



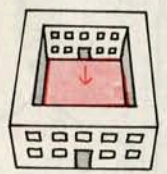
【なりのたち】十を三つ書き、下のはしをつないだ形です。「三十年もあいた」という意味で、人間の一代、つまり一代とかわる期間を表します。

【つかいかた】○世の中のためになる仕事をする。○世間の評判が気になることがある。○後世に名を残す人になろう。

【いみ・じゆん】①よのなか——世界・世間・世事・世俗・世話・時世・出世・乱世・世論・世渡り②時代。時のくぎり。——世紀・近世・中世③人の一代——世代・三世・二世

【学習】●「世」は、次のように「大小・上下・高低・長短」などについて、「なかほど」を示すのに使われます。大小(大型・中型・小型・大学・中学・小学、大企業・中企業・小企業)上下(上旬・中旬・下旬、上級・中級・下級) 中級(下級) 高低(高学年・中学年・低学年。ただし、高等教育・中等教育・初等教育) 左右(野球の、左翼・中堅・右翼) 長短(電波の、長波・中波・短波) 「中日」という熟語は読みかたによっていろいろの意味に使われます。

「ちゅうにち」(1)お彼岸の中日。(2)中国と日本。(3)中部日本新聞。「なかび」(大)「な」や演劇などの興行期間のまん中の日。「なかがよい」の「なか」は、「仲」です。



丸

(6年・3画)

丸

おんガン
丸まる・まるい・まるめる



なりたち 人がからだをまるめてしやがむようすを表した字です。

- つかいかた
 - 丸木船に乗って川を下る。
 - 地球も月も丸い形をしている。
 - 薬草の粉を丸めて丸薬を作る。

いみじくも ①まる。まるい。――弾丸・砲丸・丸太

②すつかり。ぜんぶ。――丸一年・丸焼け

③人や船などの名まえにつけることば
牛若丸・こがね丸・氷川丸

学習 「丸」は「すつかり」という意味ですが、「丸千し・丸焼き・丸飲み」の「丸」は、切ったり、かんだりしないで「そのまま」という意味です。――まちがいやすい字②丸

主

(3年・5画)

主

おんシュ・ズ
ぬし・おも



なりたち ろうそく立の上で、じつともえている火をえがいた字で、一所にじつとしてることを表します。

- つかいかた
 - 主だった選手は国体に出場している。
 - 池の主は大じやだという伝説がある。
 - 主として体育に力を入れたいと思う。

いみじくも ①あるじ――主君・主従・主人

②かしら――主権・主将・主席・君主

③おもな――主演・主食・主役・主力

学習 「主」のついた字は「じつ」として「主」という意味にかんけいがあります。――注②水をじつとそそぐ。(↓255頁) 注③水をじつと立っている木。(↓233頁)

久

(5年・3画)

久

おんキユウ・ク
ひさしい



なりたち 老人の背中のまがったところに、「こですよ」とさししめすしるしをつけた字です。「まがって長い」という意味を表します。

- つかいかた
 - 私はあの人に久しくあわなかつた。
 - ぼくの決心は永久に変わらない。

いみじくも ①時間・年月ながい。ながくつづく。――永久・持久力・耐久力・久しぶり

学習 地名や人名に使われる「久我・久保・久米・久留米・久美子・喜久子」などの「久」はクと読みます。――かたかなの「ク」、ひらがなの「く」は、「久」からできました。――「久」を「父・久」と書かないよう、注意しましょう。

乗

(3年・9画)

乗

おんジョウ
ののせる



なりたち もとの字は乗。人が両足で木の上のぼつたすがたを表しています。

- つかいかた
 - お年よりの手を引いて、電車に乗せる。
 - みんな旅行をすることに乗り気だ。
 - 相手のすきに乘じて、ゲームに勝った。
 - 港は乗船する人でいっぱいだった。

いみじくも ①のる――乗客・乗車・乗用車・乗組員

②かけあわせる。かけ算。――乗法・自乗

③つけこむ――乗じる。便乗

学習 たし算・ひき算・かけ算・わり算のことを、「加減乗除」といいます。――反対の意味をもつ字と組み合わせでできた熟語に「乗除(かけるとわる)」、「乗降(のるとおきる)」などがあります。

乗乗乗乗乗乗乗乗

九

(1年・2画)

九

おんキユウ・ク
このこのつ



なりたち うでをまげて引きしめるすがたをえがいた字です。数のうち、さいごのつきあたる数を表します。

- つかいかた
 - リングが九つありました。
 - 九月九日は、キクの節句です。
 - 兄といっしょに九州を旅行した。
 - かけざんの九九をおぼえる。

いみじくも ①数の「きゅう」。このつ。――九人

②数の多いこと。たくさん。――三拝九

③(なんどもおじぎをすること)――三拝九

学習 よく使うことば「九死に一生を得る(死にそうになったところをやつと助かる)」、「九分九厘(ほとんど全部)」。

九九

乱

(6年・7画)

乱

おんラン
みだれる・みだす



なりたち もとの字は亂。番は、糸まきを手で引っぱり合っているようすを表します。これにし(おさえる)がついて「もつれたものをおさえる」という意味でしたが、のちに「もつれる・みだれる」だけの意味になりました。

- つかいかた
 - 子どもたちが列を乱してかけよつた。
 - 風が強くて、かみの毛が乱れる。
 - つくえの上が乱雑だ。

いみじくも ①みだれる。みだす。――乱視・乱暴・混乱

②おやみやたらに――乱作・乱発・乱用

③あらそい――戦乱・内乱・反乱

学習 「みだりに立ち入りを禁ずる」の「みだり」はかなで書きます。

乱乱乱乱乱乱乱乱

乳

(6年・8画)

おん ニュー
くん ちち・ち

なりたち 乳 (子を手でかばうようす)と、し(子をさずける使いのツバメがとぶようす)を合わせた字で、子を産んで育てることを表します。

つかいかた

- 赤ちゃんが母親の乳首をくわえる。
- 乳飲み子がいると仕事の手につかない。
- 毎朝、乳牛の乳をしぼる。



乳

はねる まげる

事

(3年・8画)

おん ジ・ズ
くん こと

なりたち うらないをするときに使う竹のぼうをつつの中に入れて、手に立てて持っているようすを表した字です。

つかいかた

- 事故のもようを事細かに説明した。
- 事情を話せばゆるしてくれれると思う。



事

はねる

二

(1年・2画)

おん ニ
くん ふた・ふたつ

なりたち 二本の横線をならべて、数の2を表した字です。

つかいかた

- 朝顔の二葉が開く。
- 教室のそうじを二つ返事で引き受けた。
- 音楽の時間に二部合唱を練習した。



二

みじかく なかく

五

(1年・4画)

おん コ
くん いっ・いっつ

なりたち 線がまじわることを表す字です。かた手のゆびで数をかぞえるとき、5のところで、いきかえりの方向がまじわってぎやくにもどることから、数の5を表すようになりました。

つかいかた

- 種をまいて五日目に芽が出ました。
- 見る・きく・味わう・かぐ・ふれるの五つの感覚を五感といひます。
- 五月五日に五月人形をかざります。



五

タテ横、交なめに

亡

(6年・3画)

おん ホウ・モウ
くん ない

なりたち ものをし(し)がたのか(こい)でかくしているようすを表す字です。「見えなくなる・なくなる」という意味を表します。

つかいかた

- 母を十年前に病気で亡くしました。
- 亡父はたいへんりっぱな人だった。
- 大地震で多数の死亡者が出たもよう。



亡

はねる

交

(2年・6画)

おん コウ
くん まじわる・まじえる・まじる・まざる・まざる・かう・かわす

なりたち 人が足をXがたにまじわせたようすをえがいた字です。

つかいかた

- 米に麦が交ざる。
- 外国の子どもを交えて遊ぶ。
- 道が交わるところを交差点という。
- 交番のおまわりさんが交通整理をする。
- 大通りを人々が行き交う。
- 見知らぬ人とことばを交わす。



交

はねる

五五五五

○数の「こ」。いっつ。五穀・五色・五十音・五線紙・五体・五人・五番

学習 「いっつ」は「五つ」と書き、「五つ」ではありません。●特別な読みかたに「五月雨だれ・五月晴れ」があります。

亡亡亡

①なくなる。うしなう。ほろびる。亡国・亡失・欠亡・興亡・存亡・滅亡

②しぬ。なくなる。亡夫・亡霊・死亡

③きえうせる。にげる。亡命・逃亡

学習 モウという読みかたは「亡者(ゆうれいのこと)」ということばのときに使います。

交交交交交

①たがいにいりくむ。交互・交渉・交通

②つきあう。交際・交友・外交・国交

③かわる。かえる。交換・交替

学習 「交」のついた字は「まじわる」という意味にかんけいがあります。「校」(234ページ)、「効」(77ページ)。

付付付付付

① そえる。つく。つける。付加・付記・付近・付言・付設・付属・附着・付録

② てわたす。あたえる。寄付・交付

③ たのんでまかせる。付託

【学習】 「付」と同じ意味で、「附」といふ字も使われます。 「付」のついた字には、「政府・都道府県」の「府」(155画)や「符号・切符」の「符」があります。



なりたち イ(人)とす
(手)とを合わせた字で
す。手をのばしてびたりと相手の体につけることを表します。

おんフ
おん つかいかた
おん つかいかた

代代代代代

① かわりになる。代議士・代用・代理

② かわりにあたえるもの。代金・足代

③ ある人が当主であるあいだ。初代・世代・先祖代代・先代・歴代

④ れきしのうえて、ながい時間のくぎり

⑤ 年・齢のはんいを表すことば。十代・年代・のり代」などのことばに使います。

【学習】 「しろ」という読みかたは、「苗代」のり代」などのことばに使います。



なりたち 代(イ)にイ(人)をつけた代は、「よじれるように人がいれかわる」という意味を表す字です。

おんダイ・タイ
おん かわる・かえる・よ・しろ

令令令令令

① いいつけ。号令・伝令・命令

② おきて。きまり。禁令・省令・条令・司令・辞令・政令・法令

③ よい。きよらかで美しい。令名

④ 相手にかんけいのある人をそんけいしていることば。令嬢・令息・令夫人

【学習】 小学校では、「年・齢」を「年令」と書いてもかまいません。



なりたち 令(集めるしるし)と人がひざまづくすがたを合わせた字で、人を集めて命令することを表します。

おんレイ
おん つかいかた

仏

(5年・4画)

仏



なりたち もとの字は佛で、佛は音を表します。むかし、中国に仏教が伝わってきたとき、インド語で「ほとけ」という意味の「ブツダ」に「仏陀」という字をあてたところから、仏の一字で「ほとけ」を表すようになりました。

つかいかた

仏さまのように心のきれいな人です。

父の仏前に花をそなえる。

奈良の大仏は、見上げるような高さだ。

いみ・じゆく

ほとけ 仏教・佛像・仏法・仏門

【学習】 「日仏文化交流・仏和辞典」などの「仏」は、フランスのことで、ブツとに「ら」をよみます。これは、あて字の「仏蘭西」を略したものです。

仏教からきたことば

わたしたちがふだん使っていることばの中には、もともとは仏教のことばだったものがあります。つきにあげたのは、仏教からきたことばで、いまでは仏教とかんけいのない意味に使われているものです。①は仏教の、②はいま使われている意味です。



天 有頂天

① 天上の世界で最高のところ

② たいへん得意なようす

有象無象

① 有形無形のすべてのもの

② 価値のない、もの・人々

① 仏の教えは、ことばで説明しつくせないということ

② もつてのほが

他

(3年・5画)

他



なりたち 也(サソリ)とイ(人)を合わせた字です。也はむかしから「た(くへび)とまちがえて使われ、「変わりないか」ということを「た(へび)に食いつかれなかつたか」といってました。そこから、他は、「かわったこと・ほかのもの」という意味になりました。

つかいかた

交通費その他で約一万円かかります。

他の例についても調べてみましょう。

他人のことには口を出さないこと。

いみ・じゆく

ほか。ほかの。べつもの。他家・他校・他国・他言・他殺・他日・他力・自他

【学習】 他人に対した時のようによそよそしくすることを「他人行儀」といいます。

他他他他他

仲仲仲仲仲仲

○なりたち中(まんなか)とイ(人)とを合わせた字です。「人と人のあいだがら・まんなかの子・まんなか」という意味を表します。

○仲間が集まって仲良く遊ぶ。

○はやく仲直りしたほうがよい。

○友だちどうしのけんかを仲裁した。

○人とおのあいだから仲介・仲買

○い・仲立ち・仲直り・仲間・仲見世

○まんなか 仲秋の名月

○学習 仲秋の名月(旧暦八月十五日の月)は、「中秋の名月」とも書きま

○特別な読みかたに「仲人(なご)結婚の仲立ちをする人」があります。



仲 (6年・6画)

似似似似似似

○なりたち以(道具をつかって)にイ(人)とを合わせた字です。人がうまく細工して実物と同じ形につくることから、「にる・にせる」という意味を表します。

○姉とわたしは、顔がよく似ています。

○親子はどこか似通った性質がある。

○類似の品にご注意ください。

○おなじようである。にている。にる。近似・相似・類似・似合う・似顔絵

○学習 「似ても似つかない(少しも似ていないこと)といういいかたがありま

○「似」と「以(44画)」は形がにているので、まちがえないようにしましょう。



似 (5年・7画)

位位位位位位

○なりたち立(たつ)とイ(人)とを合わせて、人がある位置にしっかりとつことを表します。

○だれでもが王様の位にはつけない。

○計算をする時、位取りをまちがえない。

○この位置から、富士山がよく見える。

○いみじゆく

○1 ばしょ。ところ。位置・地位・方位

○2 身分。くらい。王位・学位・名人位

○3 等級や程度をしめすことば 首位・順位・第一位・単位

○4 計算上のくらいどり 十の位

○5 人をうやまうことば (会員) 各位

○学習 「そのくらい」「三つぐらい」というときの「くらい・ぐらい」は、ふつうかなで書きます。



位 (4年・7画)

伝 (4年・6画)

○なりたちもとの字は傳で、専(まるい糸まき)とイ(人)を合わせた字です。糸まきをころがすように、人から人へとつぎつぎにわたすことで、「つたえる」という意味を表します。

○谷川ぞいの道を伝わって山を下りた。

○手紙で日本のようすを伝えた。

○漢字は中国から伝来しました。

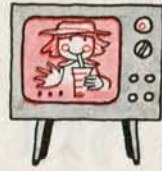
○いみじゆく

○1 受けついで次にわたす。つたえる。伝言・伝授・伝習・伝達・伝統・伝令

○2 世間にひろめる。伝道・宣伝

○3 言いつたえ。物語。伝記・伝説・自伝

○学習 特別な読みかたに「手伝(てん)馬船(ばせん)」があります。



伝 (4年・6画)

会 (2年・6画)

○なりたちもとの字は會で、人(集めるしるし)と「増」の字の右がわの首(かさねてふやす)とを合わせた字です。多くの人が集まることを表します。

○おじさんと駅で会うことになっっている。

○PTA会員のなかから会計係を選ぶ。

○いみじゆく

○1 あう。出あう。集まる。会議・会見・会合・会場・会食・会話・集会・面会

○2 集まり。会館・会則・会長・会費・運動会・音楽会・開会・議会・司会

○3 行きあつたおり。とき。機会・会得

○4 のみこむ。理解する。会釈・会得

○5 かぞえる。計算する。会計

○学習 「合」と書きまちがえないように。



会 (2年・6画)

全 (3年・6画)

○なりたちむかしの字は人(集めるしるし)と工(工作)とを合わせた形でした。たりないところがないようにそろえ集めることで、「すっかり・まったく」という意味を表します。

○貯金が全然(ぜんぜん)なくなって全くひどい話だ。

○バレーボールで全勝(ぜんしょう)して全国(ぜんこく)になる。

○全勢力(ぜんせいりき)をそそいで完全(ぜんぜん)にやりとげた。

○いみじゆく

○みな。すべて。すっかり。まったく。

○全員(ぜんいん)・全快(ぜんかい)・全校(ぜんこう)・全集(ぜんじゅう)・全焼(ぜんしょう)・全身(ぜんしん)・全然(ぜんぜん)・全体(ぜんたい)・全部(ぜんぶ)・安全(あんぜん)・完全(かんぜん)

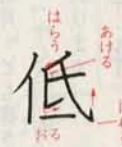
○学習 「全」は「余(あま)」「(49画)」や「金(かね)」「(37画)」、「会(かい)」「(46画)」などと形がにているので、注意(ちゅうい)しましょう。



全 (3年・6画)

低

(4年・7画)



なりたち 低は、つみあげた土のいちばん下を一の線でしめした字で、「下のほう・ひくい所」という意味です。それにイ(人)をつけて、背のひくい人のことを表しました。

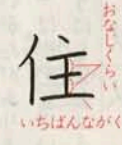


つかいかた
 ○高音に対して、低い声を低音という。
 ○飛行機が低空を飛んだ。
 ○ひくい。高くない。程度がさがる。
 ○低圧・低温・低下・低気圧・低級・低減・低姿勢・低俗・低地・低調・高低・最低

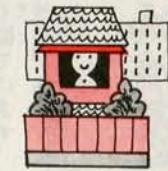
学習 「低」がつく字には、ほかに「底」(154)や「邸」(邸宅・公邸)、「抵」(抵抗・大抵)などがあります。

住

(3年・7画)



なりたち 主(じつ)ととどまる)とイ(人)とを合わせた字です。人が一か所にじつとどまることで、「すむ」という意味を表します。



つかいかた
 ○お住まいは、どちらですか。
 ○先祖代々、この地に住み着いている。
 ○新しい住居に引っこしたので、役場に住民登録の手続きをとる。

学習 「主」のつく字には、ほかに「注」(255)、「柱」(233)、「往」(161)や、「駐」(駐車禁止)などがあります。

余

(5年・7画)



なりたち 余(土をおしひろげるスコップの形)とハ(わけ散らすしるし)とを合わせた字です。ゆつたりとあまらがること、ゆとりがある。あまりがある。の意味を表します。



つかいかた
 ○卒業まで余すところ一週間しかない。
 ○しずかに余生をおくっている老人。

学習 「余」のつく字は「ゆつたり」とのばし「ゆたか」とのびた道、「塗」(土をのばしてぬる)、「徐」(ゆつたりと行く)。

余 余 余 余 余 余 余 余 余 余

作

(2年・7画)



なりたち 乍(刀で木などに切れ目を入れること)とイ(人)とを合わせた字です。人が材料に手を入れること、つまり「つくる」という意味を表します。



つかいかた
 ○指人形を作ったことを、作文に書いた。
 ○天気がよいので、作業がはかどった。

学習 「作」は広く使われますが、「造る」(176)は、おもに機械や道具を使って組み立てる場合に使います。↓431

作 作 作 作 作 作 作 作 作 作

何

(2年・7画)



なりたち 人がかたに荷物をかつぐようすをえがいた字です。「になう」という意味は「荷」の字で表すようになり、「何」は「カア！」という音によって、「どなつてどがめる・たずねる」という意味を表すようになりました。



つかいかた
 ○大火事で何もかも焼けてしまった。
 ○この船には何人乗れますか。

学習 「何」は「何食わぬ顔」といういいかたがあります。「ほんとうは知っているのに、なにも知らない」というような顔つき・へいきな顔つき」という意味です。

何 何 何 何 何 何 何 何 何 何

作家と作品

つぎにあげたのは、日本の有名な作家とその作品です。どの作家がどの作品を書いたか、知っていますか。



- | | |
|----------|-----------|
| ① 芥川 竜之介 | ① 小僧の神様 |
| ② 川端 康成 | ② たけくらべ |
| ③ 志賀 直哉 | ③ 蜘蛛の糸 |
| ④ 壺井 栄 | ④ 吾輩は猫である |
| ⑤ 夏目 漱石 | |
| ⑥ 樋口 大祐 | |
| ⑦ 宮沢 賢治 | |
| ⑧ 森 鴎外 | |
| ⑨ 太宰 治 | |
- ⑩ 伊豆の踊子 ⑪ 山椒大夫 ⑫ 風の又三郎 ⑬ 二十四の瞳 ⑭ 走れメロス

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

使 使 使 使 使 使

①はたらかせる。つかう。もちいる。
使役・使途・使用・行使・酷使・勞使
②人をさしおける。つかい。使者・使節・遣唐使・大使・天使・特使・密使
学習 ●「気をつかう。心づかい。かなづかい」などの場合は、ふつう「使」はつかいませぬ。かなで書きましょう。(ただしくは「遣」です) ●「便(52画)と形がにているので、注意しましょう。

使 (3年・8画)
なりたち 吏(役目)をさちん(役人)とイ(人)とを合わせた字です。役目にほうしする人を表します。
つかいかた
●お金を使うには、使道が大切だ。
●学校代表としての使命をはたした。
いみじく
①はたらかせる。つかう。もちいる。
使役・使途・使用・行使・酷使・勞使
②人をさしおける。つかい。使者・使節・遣唐使・大使・天使・特使・密使
学習 ●「気をつかう。心づかい。かなづかい」などの場合は、ふつう「使」はつかいませぬ。かなで書きましょう。(ただしくは「遣」です) ●「便(52画)と形がにているので、注意しましょう。



例 例 例 例 例 例

①同じようなものの仲間
②ならわし。しきたり。
③同じ種類のものの中から
④いつもきままっている
学習 ●「人生を旅にたどる」のような場合は、「例」を使わず、かなで書きます。

例 (4年・8画)
なりたち 列(切り)はなしてならべる。とイ(人)を合わせた字で、同じようなものがならぶようすを表します。
つかいかた
●体に害のあるもの、例えばタバコなどは、すいすぎないように注意しよう。
●氏神さまの秋の例祭が近づきました。
いみじく
①同じようなものの仲間
②ならわし。しきたり。
③同じ種類のものの中から
④いつもきままっている
学習 ●「人生を旅にたどる」のような場合は、「例」を使わず、かなで書きます。



供 供 供 供 供 供

①神や仏にそなえる
②役だてる。さします。
③事情をのべる
学習 ●「節供」などのことばに使われます。

供 (6年・8画)
なりたち 共は、もと「両手をそろえてささげ持つ。さしあげる」という意味もありました。のちに「ともにとるって」という意味にだけ使うようになったので、イ(人)をつけて、もとの意味を表すようにしました。
つかいかた
●子供が仏さまに花と水を供えた。
●大都会に農村から野菜を供給する。
いみじく
①神や仏にそなえる
②役だてる。さします。
③事情をのべる
学習 ●「節供」などのことばに使われます。



体

(2年・7画)

体

なりたち もとの字は體。骨と豊(形よくとのう)からできています。体はふるくから、體のかわりに使われてきました。

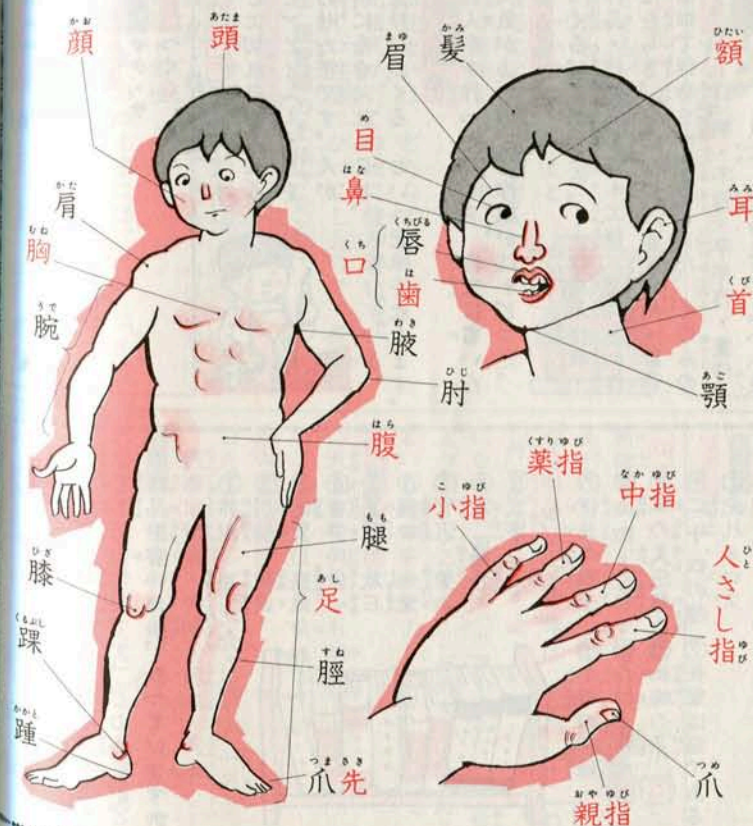


体 (2年・7画)
なりたち もとの字は體。骨と豊(形よくとのう)からできています。体はふるくから、體のかわりに使われてきました。
つかいかた
●体育の時間に体操をして体力をつける。
●体裁のよい車だがスピードはおそい。
いみじく
①からだ 体温・体重・体操・身体
②かたち 体積・形体・固体・字体
③もともになるもの 実体・主体・本体
④ようす。うわべ。体面・体裁・風体
⑤じゆうぶん(ぶん)にわかつて自分のものにする。体得
学習 ●仏像などは一体、二体とかぞえます。●書きまちはえやすい字「休」。

体の部分を表す漢字

人間の体の部分を表す漢字を、ま

めてみました。赤字は小学校で習う学習漢字です。ほかには、どんなものがあるでしょう。



価

(5年・8画)

価

じやうふん
あける

○なりたち もとの字は「**価**」は西(おおい)か(くす)と貝(おかね)や(たから)とを合わせた字で、品物を買いだめする商人のことで、これに「人」をつけて、商人がつけるねだんを「**価**」は「**価**」の略字としてきた字です。



つかいかた

○むかしよりお金の**価値**がさがった。
○品物の**価格**には、**原価**と**市価**がある。

いみじゆく

○ねうち。ねだん。— **価格**・**価値**・**高価**・**時価**・**声価**・**代価**・**定価**・**特価**・**評価**
○「**価**」は、「**値**」は、どちらも「あた」と読みますが、商品のねだんという意味では「**値**」が使われます。

係

(3年・9画)

係

けい

○なりたち 系(つながる)とイ(人)を合わせた字で、人がつながることを表します。



つかいかた

○みんなて 学級の係をきめた。
○人間の生死に係る重要な問題。
○天候は作物のできぐあいに関係する。

いみじゆく

①つなぎとめる。かんけいを持つ。かわる。— **係数**・**係争**・**関係**・**連係**
②仕事を受けもつ人— **係員**・**受付係**
○「**系**」(313画)とは、区別して使い分けましょう。
○「**受付係**」「**給食係**」のように「**〇〇係**」となるときは、送りがなの「**リ**」はつけません。よく注意しましょう。

係係係係係

舍

(5年・8画)

舍

しや

○なりたち もとの字は「**舍**」で、余(ゆとり)がある(と口(ある場所)をしめす(し))とを合わせた字です。体をのばして、ゆつくりとくつろぐ所を表します。



つかいかた

○新しい**校舎**がもうすぐできます。
○兄は大学の**寄宿舎**に入っています。

いみじゆく

①いへ。建物。— **職舎**・**学舎**・**官舎**・**寄宿舎**・**牛舎**・**鶏舎**・**宿舎**・**庁舎**・**兵舎**
②じぶんの。わたしの。— **舎兄**・**舎弟**
○「**舎利**」といひます。●「**会**」「**合**」などど形がにているので、注意しましょう
●特別な読みかたに「**田舎**」があります。

舍舍舍舍舍

俗

(6年・9画)

俗

ぞく

○なりたち 俗(くぼんだに)とイ(人)を合わせた字です。くぼんでたりない所があれば、だれでもなにかほしくなることから、「みんなのやりたがること・ごくふつうのこと」という意味になりました。



つかいかた

○民間の**風俗**を集めた**民俗館**を見学する。
○静かな温泉町も**観光ブーム**で**俗化**した。

いみじゆく

①世の中のならわし— **世俗**・**風俗**・**民俗**
②ありふれた— **俗語**・**俗説**・**通俗**
③損得に気をとられた、世の中。いやしいこと。— **俗悪**・**俗世間**・**俗界**・**低俗**
○「**俗**」のつく字は「**浴**」(259画)、「**欲**」(243画)、「**容**」(133画)などがあります。

俗俗俗俗俗

便

(4年・9画)

便

べん

○なりたち 更(かたくぴんとはる)とイ(人)を合わせた字です。かたくなったものを、人がならしてつごうよく使いこなすという意味を表します。



つかいかた

○いなかの母から**便り**がとどいた。
○九州までトラックに**便乗**させてもらう。

いみじゆく

①つごうがよい— **便乗**・**便船**・**便宜**・**便利**・**簡便**・**軽便**・**鉄道**・**不便**・**方便**
②たより。手紙。— **便せん**・**客車便**・**航空便**・**小包便**・**定期便**・**船便**・**郵便**
③はいせつ物。つうじ。— **便器**・**便所**・**便通**・**便秘**・**検便**・**小便**・**大便**
○「**便**」(519画)と形がにているので書きまちがえないようにしましょう。

便便便便便

保

(5年・9画)

保

ほ

○なりたち 呆(あかぼう)をたいせつにくるんで守るようすを表す字です。それに「人」をつけて、「かばいもる・かばいまる人」を表します。



つかいかた

○わかさを**保つ**ため、毎日運動をします。
○森林や鳥を**保護**して自然のままに保つ。

いみじゆく

①まもる。せわをする。— **保育**・**保護**・**保守**・**保身**・**保険**・**保母**
②たもつ。もちつづける。— **保安**・**保温**・**保健**・**保持**・**保存**・**保有**・**保養**・**確保**
③うけあう。あずかっつておく。— **保管**・**保険**・**保証**・**保障**・**保留**・**担保**
○「**保**」は、「**保**」から作られました。

保保保保保

倉 倉 倉 倉 倉 倉

倉 (4年・10画)

なりたち 倉(食の略)と口(ものを入れるかこい)とを合わせた字です。穀物をしまっておく小屋を表します。

つかいかた 倉の中には米俵がたくさん積んである。港には倉庫が立ちならんでいる。

読み・じゆく 穀物や品物をしまっておく建物。くら。倉庫・穀倉・船倉・倉。穀料・倉。荷・米倉。

学習 「倉」と同じように「くら」という意味をもつ漢字が、ほかにもあります。「庫」(武器をしまっておくくら)は「金庫・車庫・冷蔵庫」などと使います。「蔵」(びっしりとつまっているくら)は「蔵書・土蔵・大蔵省」などと使います。



倉 (4年・10画)

倉

個 個 個 個 個 個

個 (5年・10画)

なりたち 固(かたい)とイ(人)とを合わせた字で、かたい一つ一つのものを表します。

つかいかた 個展に二十個の焼き物がならべられた。あの人はいへん個性の強い人だ。

読み・じゆく ぜんたいに對して、「ひとつ・ひとり」のこと。個個・個室・個人・個性・個展・個別・各個・別個。

②ものをかぞえる単位。一個・数個。

学習 「個」と意味のよくにた字に、「箇」があります。もとは、「かたくしまっている竹づつ」のことで、のちに、「かたい形をしている物を数えることば」にも使うようになり、「五箇所・箇条書き」などと使います。



個 (5年・10画)

個

倍 倍 倍 倍 倍 倍

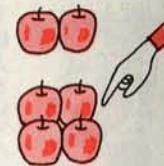
倍 (4年・10画)

なりたち 音は、否のかわったもので、「ふくれたものが割れる」「二つにはなれる」という意味です。それにイ(人)をつけて、二つにはなすこと、つまり、二ばいになることを表します。

つかいかた ①人口がわずか五年間で二倍になった。②宣伝をしたので売れ行きが倍加した。

読み・じゆく ①もとの数とおなじ数だけふやすこと。倍加・倍額・倍増・二倍・百倍。②ふやす。くわえる。倍旧・倍率。

学習 「音」のつく字は、「二つにはなれる」という意味にかんけいがあります。部々(ぶぶ)ぎりにつけて分けた村里(むら)部分(ぶぶん)の二刀(にとう)で二つに切りさく。例(れい)解(かい)剖(ぶつ)。



倍 (4年・10画)

倍

信 (4年・9画)

信

なりたち 言(はつきりいう)とイ(人)とを合わせた字です。一度(いちど)いったことをどこまでもつらぬく、人間のおこないを表します。

つかいかた ①ぼくのいうことを信じてください。②品物は信用のある店で買いたい。

読み・じゆく ①まこと。うそをいわない。信義(しんぎ)・背信(はいしん)。

②思いこんでうたがわかない。信仰(しんぎやう)・信者(しんしや)・信念(しんねん)・信用(しんぎよう)・信頼(しんらい)・確信(かくしん)・自信(じしん)。

③知らせ。手紙(てがみ)。あいず。信号(しんごう)・信書(しんしよ)・私信(ししん)・受信(じしん)・送信(しんしん)・通信(つうしん)・返信(へんしん)。

学習 「信」は、「信濃国」を略していうのにも使います。例(れい)信(しん)州(しゅう)・信(しん)越(こ)本(ほん)線(せん)。



修 (5年・10画)

修

なりたち 修(ひと)は、せなかにさらさらと細(ほそ)長く水をそいで、行(い)水(みづ)させるようすを表す字です。それに多(かざり)をそえて、すらりと細長く形をととのえることを表します。

つかいかた ①医者は医学を修め、精神の修養もする。②武士は剣と心の修行にとめた。

読み・じゆく ①学んで身につける。心(こころ)や行(い)をみがく。修業(しゆぎやう)・修身(しんしん)・修養(しゆぎやう)・修練(しゆれん)・必修(ひしゆ)。

②かざり、ととのえる。修辞法(しゆじほう)・修飾(しゆし)。

③つくる。なおす。修正(しゆじん)・修理(しゆり)。

学習 「修業」は、学問(がくもん)や技術(ぎじゆつ)を身につけること、「修行」は、武芸(ぶげい)や宗教(しゆぎやう)を身につけながら人格(じんかく)をみがくことです。



俵 (5年・10画)

俵

なりたち 表(おもて)に出(だ)してひろげる)とイ(人)とを合わせた字です。中国では、中(ちゆう)のものをおもてに出(だ)してさらすことを意味しますが、日本では、米(こめ)づつみのおもて、つまり、「たわら」の意味に使います。

つかいかた ①俵の中から米(こめ)がざくざく出てきました。②土俵(どひょう)上(じやう)では横綱(よこづな)のすもうが始(はじ)まった。

読み・じゆく ①わらや、かやであんだ大きなふくろ。たわら。土俵(どひょう)・米俵(こめひょう)・炭俵(すみひょう)。

②たわらに入(い)れたものの量(りやう)をかぞえることば。米二俵(こめにひょう)・百俵(ひゃくひょう)。

学習 米俵(こめひょう)一俵(ひょう)の米(こめ)の重さ(おもさ)は、約(やく)六〇キログラムあります。



値 値 値 値 値 値

なりたち 直(目)をま
つすぐにあてて物をび
たりと見る)とイ(人)
とを合わせた字です。
「物のねうちにびたり
とみあうねだん」という意味を表します。

つかいかた
○ほめたたえるに値する行いであった。
○野球の入場料が値上げされた。
○これは百万円の価値がある本だ。

いみ・じゆく
①ねだん・ねうち。 価値・値上げ・値
切る・値下げ・値段・価値・言値・
売り値・捨て値・底値・高値・安値
②かずの大きさ。 数値・絶対値

学習 「値」と「価」は、どちらも「あた
い」ですが、「価」は商品のねだん、「値」
は物のねうちという意味で使われます。



¥1,000,000円

値

値

おんチ
ね・あたい

おんチ
ね・あたい

候

(4年・10画)

候



なりたち 候(矢で、
まどをねらいうかがう
武士)とイ(人)とを合
わせた字です。「うか
がいのぞく・こきげん
をうかがう」などの意味を表します。

つかいかた
○児童会の役員選挙に候補を立てる。
○測候所では気候の変化を観測する。

いみ・じゆく
①うかがう。 さぐる。 ねらう。 斥候
②まつ。 まちうける。 候補
③物事のようにす。 それを知る手がかり。
きざし。 気候・測候所・徴候・天候
④時節。 時季。 時候・春暖の候

学習 「候」は「さうろう」と読み、「ま
す・です」の意味で、むかしの手紙文に使
いました。(これを「候文」といいます)

借

(4年・10画)

借



なりたち 昔(日数を
かさねたむかし・かさ
ねる)とイ(人)を合
わせた字です。 お金や
物がたりないときに、
他人に、かさねくわえてもらう、つまり、
「かりる」という意味を表します。

つかいかた
○遠足のためにバス五台を借り切る。
○借金をして、借地に家を建てた。

いみ・じゆく
①かえすやくそくて、人のお金や物を使
う。 借財・借地・借家・借用・借金。
貸借・貸借・拝借・前借り・間借り
②仮にあてがう。 まにあわせ。 仮借

学習 「借」の反対語は「貸す」です。
「お金を借す」「家を借りる」などと書き
まちがえないようにしましょう。

俳

(6年・10画)

俳



なりたち 非(羽が右
と左にひらいたよう
す)とイ(人)とを合
わせた字です。 足ぶり
おもしろく右に左にそ
れてあるく役者のことを表します。 また、
「たわむれごと」という意味もあります。

つかいかた
○俳句をつくる人のことを俳人という。

いみ・じゆく
①人前で芸をする人。 役者。 俳優
②俳句(五・七・五の十七字でできてい
る短い詩)。 俳画・俳号・俳人・俳
壇・俳文・俳友・雑俳

学習 「非」がついてハイと読む字には、
ほかに「俳」(おしのける。 例 排気ガス、
排水ポンプ)や「輩」(なかま。 例 先輩、
後輩)があります。

停 停 停 停 停 停

なりたち 亭は、建物
の足がじつと立って動
かないことを表します。
それにイ(人)がつい
て、とまっていること
を表す字になりました。

つかいかた
○交差点では一時停止を忘れないように。
○近くに雷が落ちたため、停電した。

いみ・じゆく
①とちゆうで一時うごかなくなる。とま
る。とめる。 停止・停車・停船・
停滯・停電・停泊・停留所
②とちゆうでやめさせる。 停学・停職・
停戦・停年・調停

学習 「停年」(公務員や会社員などが、
退官・退職しなければならぬときまっ
ている年齢)は、「定年」とも書きます。



停

停

おんチ
ね・あたい

おんチ
ね・あたい

健 健 健 健 健 健

なりたち 建は、も
「すつく」と立つ・体を
立てて歩く」の意味で
したが、のち、「たっ」
という意味にだけ使う
ようになったので、それにイ(人)をつ
けて、もとの意味を表すようにしました。

つかいかた
○健康にじゆうぶん注意しましょう。
○けがをしたので、保健室に行った。
○明るい家庭で心も体も健やかに育つ。

いみ・じゆく
①体がじようぶ。つよい。すこやか。
健康・健在・健勝・健全・強健・壮
健・保健

②よく……する。 健闘・健忘・健
健・保健

学習 「建築・建物」の「建」とまち
がえやすいので、注意しましょう。



健

健

おんチ
ね・あたい

おんチ
ね・あたい

側

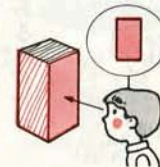
(4年・11画)

側

はねる

おんソク
かんかわ

なりたち 側は、もと、「くつつく・かたよる」という意味でしたが、後、「いつもくつついてはなれないおきて」という意味になったので、それにイ(人)をつけて、もとの意味を表しました。



つかいかた

① 両側から見て、紙の裏表をたしかめる。
② 四角柱を側面から見ると長方形だ。

いみじゆく

① そば。わき。側近
② (ものや場所の)一部分をさして)のほう。側側・表側・片側・右側
③ ものの横。側壁・側面

学習 「規則」の「則」や、「測量」の「測」と形がにているので、書きまちがえないようにしましょう。

備

(5年・12画)

備

はねる

おんビ
そなえる・そなわる

なりたち 備は、矢をそろえて入れてせおうえびらをえがいた字です。それにイ(人)をつけて「用意してそろえておく」という意味を表します。



つかいかた

① 前もって用意する。そなえる。そなえ。
② そろっている。そなえる。

いみじゆく

① 前もって用意する。そなえる。そなえ。
② そろっている。そなえる。

学習 古代中国地方にあった「吉備」の略称としても使われます。例 前・備中・備後・芸備線・伯備線

傷

(6年・13画)

傷

はらう

おんショウ
きず・いたむ・いためる

なりたち 音を表す易とイ(人)とを合わせた字です。「強くものにぶちあたってきずつく」という意味を表しています。



つかいかた

① ナイフで指に傷をつけてしまった。
② 母の病気に心を傷める。
③ 交通事故にあったが軽傷ですんだ。

いみじゆく

① きず。死傷者・重傷・打撲傷・負傷・傷口・傷物
② きずをつける。殺傷・傷害・損傷
③ 心をいためる。かなしく、つらい思いをする。傷心・感傷・愁傷

学習 「いたむ・いためる」と読む字には、ほかに「痛(283画)」があります。

働

(4年・13画)

働

はねる

おんドウ
はたらく

なりたち 動とイ(人)とを合わせた字です。動は音を表し、人が動きまわってはたらくことを表しています。



つかいかた

① わが家では父と兄が外で働いています。
② 年を取ると、頭の働きがにぶくなる。
③ 農村の仕事は重労働です。

いみじゆく

① 仕事をする。はたらく。実働・労働・働きざかり・働き手・働き者
② 働は日本まできた字で、国字といえます。「畑・峠・込(む)」なども国字ですが、音読みがあるのは「働」だけです。↓105画。働の字は、日本から中国にも輸出されましたが、今の中国では、略して「働」と書きます。

学習 「働」は日本まできた字で、国字といえます。「畑・峠・込(む)」なども国字ですが、音読みがあるのは「働」だけです。

億

(4年・15画)

億

はねる

おんオク
かん

なりたち 意(だまつて心で考え、胸がいつぱいになる)とイ(人)とを合わせた字です。「心で想像できるかぎりの、いっばいにつかえた大きな数」という意味を表します。



つかいかた

① 日本には一億人以上の人が住んでいる。
② あの人は巨億の富を築いたそうだ。

いみじゆく

① 数の「おく」。万の一万倍。三億
② ひじょうに多いこと。億兆・億方長者(大金持ちのこと)・巨億
③ 「億」とよく似た字に、「記億・億測」などの「億」があります。
④ 「億の一万倍の数を「一兆」といいます。

学習 「億」とよく似た字に、「記億・億測」などの「億」があります。

先 先 先 先 先

なりたち 止(足)とル(人)とを合わせた字です。足のつまさきは、からだのいちばん先にあるので、「さき」という意味を表すようになりました。

つかいかた
 ○先生は子どもたちの先に立って歩いた。
 ○近道を先回りしてみんなを待たした。
 ○先週、先祖の墓まいりをしました。

いみ・じゆく
 ①いちばんはじめ——先頭・先発・優先
 ②今より前。むかし。——先月・先日・先例
 ③今より後。しようらい。——古い先
 ④めあて。ゆく所。——勤め先・行く先

学習 先の反対は「後」です。例「先刻→後刻」「先日→後日」「先攻→後攻」「先手→後手」「先△輩→後△輩」



先 (1年・6画)

おんせん さき

光 光 光 光 光

なりたち 人が頭の上に火をのせているようすを表している字です。

つかいかた
 ○月の光がまぶしい。
 ○かれの作品が、ひとときわ光っている。
 ○神戸のすき間から光線がもれる。

いみ・じゆく
 ①ひかる。てりかがやく。——光輝・夜光
 ②ひかり。——光源・光線・光明・日光
 ③ひかりにてらされて美しくみえるすがた、かたち、いろ、つやなど——光景・光沢・威光・観光・風光

学習 「光る・光った」や「黒光り・親の七光り」のときは、送りがなをつけませんが、「一字で「ひかり」と使うときは、「光」と書いて、送りがなはつけません。



光 (2年・6画)

おんこう ひかる・ひかり

兆 兆 兆 兆 兆

なりたち カメのこうらや、動物のほねに小さなあなをあげ、そこにやけ火ばしを入れたときで、ひびわれをえがいた字です。むかし、そうやって物事をうらなつたので、「まえぶれ・きざし」という意味を表します。

つかいかた
 ○草原にはもう春の兆しが見えはじめた。
 ○この地震は噴火の兆候だろう。

いみ・じゆく
 ①物事のきざし——兆候・兆兆・前兆
 ②億の一万ばい——億兆・兆兆

学習 兆のつく字は「二つにわたる・はなれる」という意味があります。「兆逃(はなれてにげる)」「兆跳(地面からはなれてとぶ)」「兆桃(二つにわたるモモ)」



兆 (6年・6画)

おんちよう きざし・きざし

優

(6年・17画)

おんユウ やさしい・すぐれる

なりたち 憂(心)がしずんで、しずかにふるまう姿(すがた)とイ(人)とを合わせた字です。しなやかにふるまう役者を表します。

つかいかた
 ○どの教科にも優れた成績をおげる。
 ○あの子は優しい心をもっている。
 ○山本君はマラソン大会で優勝した。

いみ・じゆく
 ①しとやか。上品。——優雅・優美
 ②すぐれている。まさっている。——優位・優越・優秀・優勢・優等・優良
 ③であつて——優遇・優先・優待
 ④役者——女優・男優・俳優・名優・老優

学習 秀・優・良・可・不可の五段階で、成績や等級を示すことがあります。



優 (6年・17画)

おんユウ

元

(2年・4画)

おんゲン・ガン もと

なりたち 人のからだのうち、頭をどくに強めてえがいた字です。頭はからだのいちばん上にあるので、「はじめ」という意味を表します。

つかいかた
 ○元の総理大臣がなくなつた。
 ○元日に門に国旗を立てました。
 ○子どもたちが、元気に学校に通う。

いみ・じゆく
 ①一番はじめ——元日・元祖・元年・元来
 ②もと。おこり。——元金・元手・元氣・根元
 ③第一の人。かしら。——元首・元老
 ④年号の最初の年——元号・改元・紀元

学習 「もと」と読む字に「下(33画)」「本(29画)」「基(109画)」があります。



元 (2年・4画)

おんゲン・ガン

兄

(3年・5画)

おんケイ・キヨウ あに

なりたち 大きな頭の人をえがいた字です。きょうだいのうちの大いほうを表します。

つかいかた
 ○私の兄は大学生です。
 ○かれは五人兄弟の長男だそうです。
 ○長兄は学校を卒業して会社に勤めた。

いみ・じゆく
 ①年上の男のきょうだい。あに。——義兄・次兄・実兄・父兄・兄上・兄貴
 ②友だちなどを尊敬してよぶことば——兄貴・貴兄・諸兄・大兄・山田兄

学習 「兄」の対語は「弟」と「妹」です。「兄弟」は「つう」「きょうだい」と読みますが、特別に「けいてい」と読むこともあり、特別な読みかたに「兄いさん」があります。



兄 (3年・5画)

おんケイ・キヨウ

児

(5年・7画)



なりたち もとの字は児です。おさない子ども、頭の、ひざまずいた人からだとを合わせた字です。

- 小学校の児童に児童劇をみせました。
- 小児科の医師が幼児を診察します。
- 友だちが健康優良児にえらばれる。

つかいかた

①子ども。おさない。児童・愛児・育児・小児科・女児・男児・乳児・幼児

②わかい男。九州男児・健児・風雲児

学習 ●ふつ、「児童」は小学生のこと、「生徒」は中学生・高校生のこと、「学生」は大学生のことをさして使います。

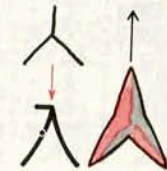
●二という読みは「小児」ということばのときにだけ使います。

入

(1年・2画)



なりたち 中へはいって行くことをしめす字です。



- 日の出は午前六時、日の入りは午後五時です。
- コーヒーにさとうを入れてのむ。
- 夕はんのあとで、ふるに入る。
- 病気で入院し、手術をした。

つかいかた

①中へはいる。いれる。入会・入学・入居・入港・入国・入浴・移入・加入

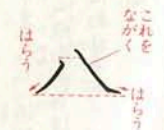
記入・購入・収入・出入・新入生・転入・投入・納入・編入・輸入

②必要である。かかる。入費・入用

学習 ●反対の意味をもつ字は「出」(前字)です。●「入」と書きまちがえやすい字なので注意しましょう。

八

(1年・2画)



なりたち 左右にわけようすを示す字です。



- 公園の八重ざくらがさきました。
- 父にしかられて、弟に八つ当たりする。
- 八日間に八つの木ばこを作りました。
- 立春から八十八日めが八十八夜だ。

つかいかた

①かずの「はち」。やつつ。八十八

夜・八人・八番・八歳

②かずの多いこと。四方八方・八千代

学習 ●八は「二つにわけやすい数」のことをさし、八のついた字は、「わかる」という意味をふくみます。「分(刀でわける)」、「半(牛を二つにわける)」、「谷(水がわけ出る谷)」。●特別な読みかたに「八百屋・八百長」があります。

公

(3年・4画)



なりたち □(小さくかこむしるし)と八(左右にわけるとを合わせた字)とを合わせた字です。かくしているものをひらいて、おおびらに見せることを表します。



- 二人の結婚を公にする。
- おかしをみんなで公平に分ける。

つかいかた

①大ぜいの人や世の中ぜんたい。公園・公開・公共・公金・公私・公衆

②政府や役所。公庫・公告・公職・公団・公費・公報・公務・公用・公立

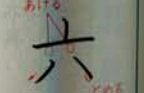
③かたよらない。正しい。公正・公明

④すべてにあてはまる。公約数・公理

学習 ●「公」の反対は「私」です。●「公立↓私立」「公用↓私用」「公費↓私費」

六

(1年・4画)



なりたち おおいにしたあなに入っていく形をえがいた字とも、高く土をもった形をえがいた字ともいわれています。●「たくさん」の意味をもっています。6の意味に使うのは、あて字でした。

つかいかた

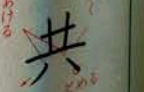
○計算問題を六つまちがえました。

○おどりは六歳の、六月六日に習いはじめると上手になるといわれています。

学習 ●「六十の手習い」というのは、「年をとってから学問やけいこことをはじめると」という意味です。

共

(4年・6画)



なりたち ものと両手を合わせた字です。両手でささげ持つようすで、両手がいっしょにはたらくことから「ともに」という意味を表します。

つかいかた

○国と国が共に栄えるよう協力し合う。

○両店が競争して共だおれになった。

○二人の共通点は努力家ということだ。

学習 ●「共」を部分にもつ字には、「異」と(282頁)、「供」、「共(51頁)」などがあります。

①いっしょにする。いっしょに。共栄・共学・共感・共存・共著・共通・共鳴・共有・共用

②共産党。共産主義。親共・反共

内内内内

① なか。うち。内外・内角・内規・内
向・内周・内心・内政・内戦・内部・
内面・内容・校内・国内・市内・幕内
② ないしよ。うちうち。内示・内緒・
内証・内談・内通・内聞・内報・内密
学習ダイという読みかたは、「内裏・
境内・参内」などということばのときに
使われます。

なりたち もとの字は
内で、口(おおい)と
入(いれる)を合わせ
た字です。「おおいの
中に入れること」から、
「なか・うち」の意味を表します。

つかいかた
○身内の者だけで 婚約の内祝いをした。
○新聞社には内外のニュースが入る。

読み・じゆく
いみ・じゆく



おんナイ・ダイ (3年・4画)

内

円円円円

① まる。まるい。円形・円周・円陣・
円卓・円柱・円筒・円盤投げ・円舞
曲(ワルツのこと)・同心円・半円形
② かどがない。おだやか。円熟・円満
③ そのあたりゼンたい 関東一円
④ おかねの単位——一円・千円
学習「まるい」ということばは、「丸い」
とも書きます。↓丸(36画)。

なりたち もとの字は
圓。員(まるい入れ物)
と口(かこい)とを合
わせて、まるくかこつ
たことを表します。

つかいかた
○一年生が円く輪になってダンスをした。
○遠足のおかしは三百円までです。
○おかしの円形劇場のあと。

読み・じゆく
いみ・じゆく



おんエン (1年・4画)

円

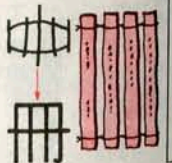
冊冊冊冊

① 書物——大冊・分冊・別冊
② 書物をかぞえる単位——五冊・数冊
③ 書きつけ用の紙——短冊
学習 ●紙や布など、うすく平らなもの
をかぞえるには「枚(まい)(233画)」を使いま
す。それをとじた本のときには「冊(さく)」を
使います。●サクという読みは、今では
「短冊」のときにしか使いません。

なりたち 字を書いた
竹や木のふだを、ひも
で横につないだ形をえ
がいた字です。おかし
の書物は、短冊をひも
でつないだ形をしていました。

つかいかた
○学校図書館で本を二百冊買いました。
○修学旅行の思い出を小冊子にまとめた。

読み・じゆく
いみ・じゆく



おんサツ・サク (6年・5画)

冊

兵

(4年・7画)

兵

(3年・8画)

具

(4年・8画)

具

(4年・8画)

典

(6年・5画)

典

(4年・8画)

なりたち 斤(おの)と両手を合わせた字です。武器を手にもち、敵にぶつかっていくすがたを表します。

つかいかた
○戦争でなくなった兵士の墓にまいる。
○監督の用兵の差が勝敗を分けた。

読み・じゆく
いみ・じゆく



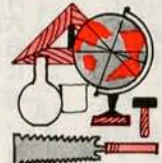
① へいたい。兵卒・兵隊・兵力・強兵・将兵・新兵・水兵・敵兵・番兵・歩兵
② いくさ。戦争。兵糧・兵火・兵器・兵士・兵法

学習 ●ヒョウという読みは、「兵糧」・「大兵」などのことばに使います。
●いくさをする時の役目のちがいによって、歩兵・砲兵・騎兵・水兵・戦車兵・飛行兵などとわけられています。

なりたち 三本足のまるい入れもの(かなえ)を略したもの両手とを合わせた字です。食べものを入れたものに、手をそろえてさし出すことから、「そるえる・ひとそるい・そろえた道具」などの意味を表します。

つかいかた
○新しい学校で、教具や文房具・工具・農具など必要な道具をそろえました。

読み・じゆく
いみ・じゆく



なりたち 冊と足のついた台とを合わせた字です。本を台のうえにたいたらならべた形で、「古い本」「書物のおしえを手本にすること」を表し、そこから「きまり・手本」の意味になりました。

つかいかた
○創立五十周年の式典が行われました。
○ゆうびんの歴史を百科事典で調べる。

読み・じゆく
いみ・じゆく



① たいせつな書物——教典・古典・辞典・字典・事典・仏典・文典・宝典・法典
② きまり。規則。典拠・典範・典例
③ よりどころ。典拠・出典
④ ぎしき。祭典・祝典

学習 ●日本の代表的な古典には、古事記・万葉集・源氏物語などがあります。


刊 刊 刊 刊 刊

なりたち 干(まつす)ぐなえのついたおの(と)り(かたな)とを合わせた字です。もとは「はもので切る」という意味でした。むかしは、字を木や竹のふだに書き、まちがいはずつてなおしたので、本などをつくることを表すようになりました。

つかいかた
○小さい子どものための絵本を刊行する。
○きょうは新聞の休刊日です。

いみ・じゆく
○ほんや新聞をつくって世に出す刊
行・月刊・週刊誌・新刊・創刊・増刊・続刊・朝刊・日刊・発刊・復刊・タ刊
学習 △刑(刑事・死刑)と形がにているので、書きまちがえないように。

おんカン
刊
(5年・6画)



列 列 列 列 列


なりたち 歹(一本ず)つばらした骨(かたな)につけて、背骨を刀で切りはなしてなべることを表します。

つかいかた
○二列にならんで、列車を待ちました。

いみ・じゆく
① 順にならぶ。ならんだかたち。――列
記・列挙・列車・列島・行列・整列・前列
② なかまにはいる。――列席・参列
③ いくつかならんでいる。――列強・列国

学習 ●「列」のつく字は「切りはなしてならべる」という意味にかんけいがあります。「例」(同じようなものがならぶ)、「裂」(きりさく。例 破裂)、「烈」(きりさく)のようにはげしくもえる。例 烈火)。「列」と形がにています。注意しましょう。

おんレッ
列
(3年・6画)



初 初 初 初 初


なりたち 丩(きもの)と刀とを合わせた字です。きものをつくるには、まずはじめに布を切るの、「はじめ」という意味になりました。

つかいかた
○夏の初めのころを初夏といひます。
○初めて会ったのに話がはずんだ。
○あなたに弟がいるとは、初耳です。

いみ・じゆく
① 物事の始まり。もと。早い時期。――初
期・初志・初心・初日・初歩・最初
② はじめての。――初対面・初氷・初霜・初荷・初孫・初物・初雪・初夢
③ はじめる。――書き初め・出初式

学習 「うい」という読みかたは「初孫。初々しい」などのことばに使います。

おんシヨ
初
(4年・7画)



分

(2年・4画)

おんブン・フン・ブ
わける・わかれる・わかる・わかっ

なりたち ハ(わける)印)と刀とを合わせた字です。二つに切りわけることを表します。

つかいかた
○二人で、パンを半分ずつに分ける。
○ここから道が二つに分かれます。
○あなたのお話は、よく分かりました。
○この写真を実費でお分かちします。
○四年生から分校を出て、本校に通う。
○今は、七時を五、六分過ぎました。
○かせて熱が三十八度五分もあります。
○新校舎は、九分どおり、完成した。



いみ・じゆく
① べつべつにする。くぎりをつける。――
分解・分割・分業・分数・分析・分
担・分納・分配・分布・分野・分類・
分裂・区分・細分・処分・等分・配分



分 分 分 分 分


なりたち 七と刀を合わせた字です。はものできり口をきれいにそろえて、うすくきることを表します。

つかいかた
○木を切りおえて切り株に△腰をおろす。
○手術の成功を切望する。

いみ・じゆく
① きる。きれる。――切開・切除・切断
② さしせまる。しきりに。――ひたすら。切実・切迫・親切・大切・適切
③ みんな。すべて。――一切・一切合切
④ なくなる。おわりにする。――時間切れ・品切れ・幕切れ・読み切り

学習 「成功・功績」の「功」(75画)と形がよく似ていますから、書きまちがえないようにしましょう。

おんセツ・サイ
切
(2年・4画)



④ ある単位からさらに細かくわけたあた
い――(1)わりあい。りつ。五分五分・七分三分(打率) 三割二分六厘。(2)時間・角度・重さの単位。一時五分・三又七分(東経)百三十度五分・分銅。(3)長さ・温度・むかしのお金の単位。一両三分・九寸五分(短刀のこ)と) 三十七度八分
⑤ 全体の中の一部
⑥ 物質を作っている。――塩
⑦ わけてわりあてられたもの。――性分・天分・領分・取り分
⑧ 自分のなすべきつとめ。――職分・本分
⑨ 全体の中での地位。――大義名分・身分
⑩ ぶんりよう。――一年分・三十人分
⑪ 人と人とのかんけい。――兄弟分・親分
⑫ ようす。ていど。――十分・多分

学習 「分かれる」は、一つだったものがいくつかにはなれること、「列れる」は、いっしょだった人がはなれていくことです。

切 切 切 切 切

制制制制制制制

①おさえとどめる。制圧・制御・制裁・制止・制動・制約・強制・統制・統制。

②とりきめる。きそく。制定・制度・学制・規制・法制・民主制。

【学習】制作は絵や彫刻などをつくること。「製作」は品物をつくることです。

③おみこし。おみこし。

○音楽会の入場人員を制限した。

○中学校になると制服を着ます。

【なりたち】糸は木とノ(切るしるし)とを合わせた字で、木を切つて製材するようすを表します。それに刀(刃)をつけて、「はみ出た部分を切りそろえる」「勝手にふるまいをおさえる」という意味を表します。



おんせい
制 (5年・8画)

刷刷刷刷刷

①こすつてきれいにする。刷新・印刷・縮刷・増刷・色刷り・手刷り。

②はけ。ブラシ。刷子。

【学習】おかしは木版刷りといって、板に字をほり、それに墨をぬって紙をかぶせ、紙をバレンでこすつて印刷しました。

③おみこし。おみこし。

○回転機で学校新聞を刷る。

○印刷屋さんで年賀状の印刷をたのんだ。

【なりたち】刷は、尸(からだ・しり)と巾(ぬしり)のよこれをぬのでふきとるとい意味です。それに刀(刃)をつけて、「刀でよこれをこすりとる」ことを表します。



おんさつ
刷 (4年・8画)

券券券券券券券

①証拠になる書きつけ。手形。株券・債券・証券・商品券・旅券。

②きつぷ。いた。回数券・乗車券・招待券・入場券・優待券。

【学習】「券」の「刀」の部分に「カ」と書かないようにしましょう。

③おみこし。おみこし。

○おじさんに野球の入場券をもらった。

○定期券を買って電車で通学する。

【なりたち】券は、米(てのひら)と両手とを合せて、まくようにしてにぎつた「こぶし」のことです。それに刀を付けた券は、やくそくのしるしを刀で板きれにほりつけて、それを、ひもでぐるぐるまいて保存することを表します。



おんけん
券 (5年・8画)

判

(5年・7画)

判

どめる



【なりたち】半(両方にわける)と刀(刃)とを合わせた字です。刀で二つに切りわけることから、よしあしをはつきりわける意味になり、「みわける・くべつする」などの意味を表します。

①みわける。區別する。はつきりさせる。判決・判事・判断・判定・判読・判別・判明・判例・裁判・審判・批判。

②はん。はんこ。印刷・三文判。

③紙や本の大きさ。A5判・新書判。

【学習】いつも同じであることを、「判で押ししたように」といいます。

④おみこし。おみこし。

○公正な判定なので、評判がよかった。

○公平な判定なので、評判がよかった。

別

(4年・7画)

別

あける



【なりたち】牙(骨の上の部分)がかわつたもので、それに、刀(刃)をつけて、骨の関節を刀でべつべつに切つてわけることを表します。

①わける。くべつする。別格・區別・差別・性別・大別・判別・類別・死別・生別・惜別・送別・離別。

②ほかのもの。きわだつてちがう。口・別個・別人・別世界・別別・特別。

③「別れる」と「分かれる」のちがいは四三三ベージにあります。

④おみこし。おみこし。

○友だちと取で別れる。

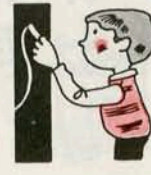
○兄はけつこんして父母と別居した。

利

(4年・7画)

利

どめる



【なりたち】禾(イネ)と刀(農具のすき)を合わせた字で、もとは畑をたがやして、土に風をとおすことでした。のちに「物事がすらすら運ぶ」「はものがよく切れる」という意味になりました。

①よくきれる。するどい。利器・鋭利。

②役にたつ。つこうよくする。利害・利己・利点・利用・不利・便利・有利。

③もうけ。利益・利子・利息・暴利。

【学習】ひらがなの「リ」、かたかなの「リ」は、この「利」からできました。

④おみこし。おみこし。

○工作であきはこを利用する。

○元金に対する利息の割合が利回りです。

○右手より左手がよく利く人がいます。

刻

(6年・8画)

刻 このる はねる



なりたち 亥は、ごつごつしてかたいブタの骨ぐみをえがいた字です。それにリ(刀)をつけて、かたい物を刀でごつごつとほることを表します。

つかいかた
 ○石を刻んで仏像をつくりました。
 ○予定の時刻に目がさめず、遅刻した。

いみ・じゆん
 ①ほりつける。きざむ。彫刻・復刻・刻みタバコ一寸刻み小刻み
 ②時計のきざみめ。時間。刻限・刻
 ③きびしい。むごい。刻苦・深刻

学習「亥」は人名にはつけてよい字で十二支の十二番めのイノシシを表します。「核」にも「亥」がついています。

則

(5年・9画)

則 このる



なりたち 貝は鼎を略した字で、食器のことです。それに、リ(刀)をつけて、食器のそばにいつもナイフがくつついてはなれないさまを表します。のちに、「人がはなれてはならない、道理やてほん」という意味になりました。

つかいかた
 ○わたしは原則として、十時にはねます。
 ○交通規則をよく守りましょう。

いみ・じゆん
 ①きそく。きまり。会則・校則・細則・総則・鉄則・罰則・反則・法則
 ②てほん。てほんにする。教則本

学習「則」がついてソクと読む字には、「側面・両側」の「側」(58画)と「測量・観測」の「測」(262画)があります。

則 則 則 則 則 則

時刻と方位

①時刻

いまは、一日を二十四時間にわけて「午前六時」とか「午後三時」とかいつています。しかし、むかしは「子の刻」とか、「明け六つ」「暮れ六つ」などいつていました。

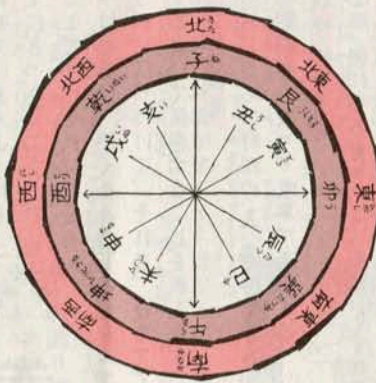
例 午前二時ころ……丑の刻(夜)八つ
 午前六時ころ……卯の刻(明け)六つ
 午後六時ころ……午の刻(昼)九つ
 午後十時ころ……亥の刻(夜)四つ

図にすると、つぎのとおりです。



②方位

方位も、いまどむかしでは呼びかたがちがいます。むかしは、時刻とおなじように、「子・丑・寅・卯……」という十二支を使って表していました。図にすると、つぎのようになります。



例 北東……艮(丑寅)
 南西……坤(未申)
 北西……乾(戌亥)
 南東……巽(辰巳)

十二支は、「子(ねずみ)・丑(うし)・寅(うま)・卯(うさぎ)・辰(へび)・巳(うへひ)・午(うま)・未(うま)・申(まけ)・酉(とり)・戌(いぬ)・亥(ぶた)」です。

前

(2年・9画)

前 このる



なりたち むかしの字は葺。止(あし)と舟(ふね)とを合わせた字です。「へさき」「足さき」「まえへすむ」という意味を表し、のちに前という形になりました。

つかいかた
 ○会に参加しないことを前もって伝えた。
 ○目的にむかって前進しよう。

いみ・じゆん
 ①顔のむいているほう。ある場所より先のほう。前方・前面・眼前・門前
 ②ある時よりまえ。もと。むかし。前
 ③わりあて。五人前・自前・分け前

学習「前」の反対は「後ろ」(163画)です。

前 前 前 前 前 前

副

(4年・11画)

副 このる



なりたち 音を表す副とリ(刀)を合わせた字で、もと、二つに切りわけけることを意味しましたが、のち、切った二つがびたりついて対になっていることを表すようになりました。

つかいかた
 ○主食よりも副食を多くとりまます。
 ○社会科で、教科書以外に副読本を使う。

いみ・じゆん
 ①つきそ。つきそってたすけるもの。副議長・副業・副賞・副題・副官
 ②つけかわる。副作用・副産物
 ③本物のひかえ。うつし。副本

学習「副」のついた字は、ほかに「幸福・福の神」の「福」(297画)や「幅員・走り幅飛び」の「幅」があります。

副 副 副 副 副 副

勞 勞 勞 勞 勞 勞

なりたち もとの字は勞。必は「火をはげしくもやしつづける」という意味です。それに力をつけて、「火をもやしつづけるように、はげしく力をだすこと」はげしくはたらいてつかれること」を表します。

つかいかた
○機械を入れてむだな労力をはぶく。
○長年の苦勞がむくいられた。

いみじゆく
①せいをだしてはたらく。ほねおり。――
勞役・勞苦・勞作・勞働・勞務・勞力・勤勞・苦勞・功勞・徒勞
②つかれる。つかれ。――過勞・疲勞

学習 「労働」の「労働者」の意味にも使われます。例 勞使・勞資・勞組



おんロウ
くん
勞
(4年・7画)
はねる

効 効 効 効 効 効

なりたち 交(二つのものがまじわる・しぼりだす)と力を合わせた字です。よいけつかがでるよう力をしぼりだすという意味を表します。

つかいかた
○薬が効いたのか頭痛がなくなった。
○歩くことは健康のために効果がある。

いみじゆく
○ききめ――効果・効能・効用・効率・効力・実効・特効薬・無効・有効

学習 「効果」には、「ききめ・できばえ」という意味がありますが、映画・演劇・放送で使う場合は、「本当の音にた音を使って、そのできばえをよくすること」の意味です。●「△郊外」の「△郊(町はずれ)」と書きまちがえないように。



おんコウ
くん
効
(5年・8画)
はねる

勇 勇 勇 勇 勇 勇

なりたち 甬は人と用(つきとおす)とを合わせた字で、地面につきとおすように、とんとん足ぶみすることを表します。それに力をつけて、力があふれ足ぶみして、「ふるいたつ」という意味を表します。

つかいかた
○敵と戦うために勇んで出かけました。
○勇ましい行進曲に合わせて入場する。
○勇気があって強い将軍を勇将という。

いみじゆく
○氣力があって強い。いさましい。――勇士・勇者・勇退・勇名・武勇

学習 「勇退」というのは、後の人のために、自分から進んで辞職することです。例 校長はこの三月に勇退される。



おんユウ
くん
勇
(4年・9画)
はねる

おんカ
くん
加
(4年・5画)
はねる

なりたち 力(ちからをいれた手)と口(くち)とを合わせた字です。手のほかに口もそえて、いきおいをたすけることを表します。

つかいかた
○転校生を野球チームに加えた。
○かれは探検隊の一員に加わった。
○ミカンをかんづめに加工した。



いみじゆく
①たす。ふやす。くわえる。ふえる。
加害者・加減・加護・加工・加重・加勢・加筆・増加・追加・倍加・付加
②たし算をする。たし算。――加算・加法
③なかにまはいる――加入・加盟・参加
学習 ひらがなの「か」、かたかなの「カ」は、この「加」からできました。

おんジョ
くん
助
(3年・7画)
はねる

なりたち 目(まは、ものをつみかさねたようすを表します。それに力をつけて、力がたりない時、そばから力をそえかさねてやるという意味を表しました。

つかいかた
○かれが助太刀してくれたので助かった。
○浦島太郎はカメを助けました。
○先生の助言が研究に役だった。
○市の助役さんの話を聞く。



いみじゆく
○力をかす。力をそえて人をたすける。
助演・助言・助手・助勢・助成・助命・助力・△援助・救助・補助
学習 「すけ」という読みは、「助太刀」のほか、男の人の名前によく使われます。例 助三郎・大助・長助・喜助

おんド
くん
努
(4年・7画)
はねる

なりたち 奴(がまんぶよく働く女どれい)と力とを合わせた字です。ねばりぶよく力を入れることを表します。

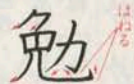
つかいかた
○わずかな時間もおしんで研究に努める。
○努力を重ねて、大音楽家になる。

いみじゆく
○力いっぱい働く。つとめる。――努力
○力い「努める」は「一生けんめいにする」、「勤める」は「仕事につく」、「務める」は「役目につく」という意味です。「解決に努める」・「勉学に努める」・「会社に勤める」・「病院に勤める」・「社長を務める」・「主婦の務め」などと使い分けます。
●「△怒(怒る・激怒)」と形がにているので、注意しましょう。



勉

(3年・10画)



【なりたち】免のものと字は免で、足をひらいてしゃがんだすがた、とを合わせた字。赤ちやんが母親からやとと生まれでるようすを表し、「やととぬけでる・のがれでる」という意味を表します。それに、力をつけて、せまい門をとりぬけようとして、むりに力をいれてがんばることから、「つとめる」ことを表します。

つかいかた

○毎日きまった時間に勉強する。

いみ・ぶくべい

○力をだしてはげむ。どりよくする。つとめる。勉学・勉強・勉勵・勤勉(22画)があります。

【習】「免」のつく字には、ほかに「晚」

【習】「勤」(58画)は、音が同じで、形もにいますから、注意しましょう。

動

(3年・11画)



【なりたち】重(地面に人のおもさがかかること)と力とを合わせた字です。もとは、足でとんと地面をつく動作、とんとんと上下にうごくことを表しましたが、のちにひろく、「うごく」という意味を表すようになりました。

つかいかた

○机を動かしてへやのもようがえをした。

○選手がよく動いたので試合に勝った。

○いつもきびきびした動作で行動しよう。

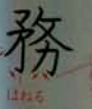
いみ・ぶくべい

○うごく。うかす。動員・動機・動向・動物・動力・移動・運動・活動・感動・行動・自動・出動・躍動

【習】「勤」(58画)は、音が同じで、形もにいますから、注意しましょう。

務

(5年・11画)



【なりたち】救は矛(むり)をおかしてつきす(むほこ)と父(動作を表すしるし)とを合わせた字で、むりにすることを表します。それに力をつけて、「むり」にがんばって力をいれる」という意味を表しています。

つかいかた

○私は児童会で議長を務めました。

○子どものしつけは、親の務めです。

○街頭に出て、交通整理の任務につく。

いみ・ぶくべい

○つとめ。しごと。やくめ。業務・勤務・兼務・公務・国務・雑務・事務・職務・任務・服務・本務・用務

【習】「務める・勤める・努める」の使

い分け↓「努」(76画)・付録431

勤

(6年・12画)



【なりたち】もの字は勤。董は、動物のあたまを火でもやすようすをえがいた字で、もやすねつで、水分がつきてこなごなになることを表します。それに力をつけて、「体力がつきるほどこまめにはたらく」という意味を表します。

つかいかた

○父は勤め人で食品会社に勤めています。

○日本人は勤勉な国民だといわれます。

いみ・ぶくべい

①力をつくして働く。精をだす。勤

②しごとにつく。皆勤・外勤・欠勤・

出勤・通勤・転勤・夜勤

【習】「勤める・務める・努める」の使

い分け↓「努」(76画)・付録431

勝

(3年・12画)



【なりたち】朕(ふねを水にうかべる力)と力とを合わせた字です。ふねを水にうかべるように、「重さにたえて上にもちあげる・ほかのものより上にでる」という意味を表します。

つかいかた

○試合に勝っても練習をおこたらない。

○子に勝る宝はない。○男勝りの女性。

○勝敗は時の運、優勝してもおこらない。

いみ・ぶくべい

①あいてをまかす。かつ。勝因・勝者・勝負・勝利・全勝・必勝・連勝

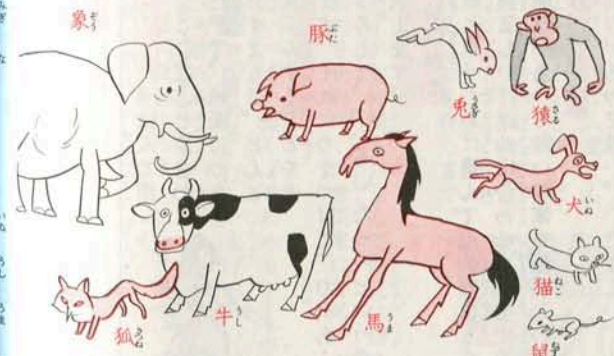
②まさる。すぐれている。景勝・名勝

【習】「勝」の反対の字は「敗」(210画)

です。「勝因↓敗因」「勝者↓敗者」「勝利↓敗北」などとなります。

勝勝勝勝勝勝勝

動物の名を漢字で書くと動物の名は、かなで書くのがふつうですが、漢字で書くと、つぎのようになります。



化 化 化 化

① 形や性質・心などが別のものになる。かわる。かえる。——化学・化合・化石・悪化・近代化・消化・進化・電化・都市化・美化・変化・民主化・緑化

② おおげ——妖怪変化

学習 ケという読みは、「化粧・変化」ということばのときに使います。

○ キツネやタヌキは人を化かすそうだ。
○ まほう使いが女の子に化ける。
○ 大むかしの植物が変化して化石になる。



なりたち イ(ちゃん)と立つ人)とヒ(しゃがむ人)とを合わせた字で、立った人が姿勢をかえてしゃがむことから、「すがたや形をかえる」意味です。

つかいかた

おんカ・ケ
くんばける・ばかす

化 (3年・4画)

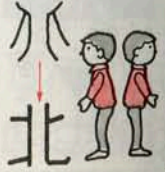
北 北 北 北

① きた——北上・北斗七星・北部・北辺・北洋・北方・北風・北国・北半球

② にげる。まける。——敗北

学習 「北」がついて方向を表すことばには、「西北・東北・南北・北西・北東・北北西・北北東」などがあります。

○ つめたい北風が、ふきはじめた。
○ 北極海は一年中氷におおわれている。
○ 北陸地方は雪どけがおそい。



なりたち 背中をむけた人)をえがいた字です。背をむけてにげること、そむくことを表します。また、寒いほうには背をむけるので、寒い方向、つまり「きた」という意味にも使います。

つかいかた

おんホク
くんきた

北 (2年・5画)

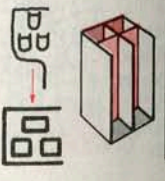
区 区 区 区

① くまかくくぎる。くぎり。——区画・区間・区分・区別・学区・地区

② 大都市を小さくわけた行政上の単位

学習 日本で区政をしているのは、東京都と大阪名古屋・京都・横浜・神戸・福岡・北九州・札幌・新潟・川崎の十市です。

○ 年賀状を区分けして郵便局に出す。
○ ミカンを大小に区別してはこにつめる。
○ 区議会議員の選挙が近づいた。



なりたち もとの字は区。まがつたかこいと、さらに小さく入りくんだしるしとを合わせた字で、「こまかく、いくつものに、くぎること」を表します。

つかいかた

おんク
くん

区 (4年・4画)

なりたち 勢は、木と土と両手をのびた人とを合わせた字で、人が木をうえて、形をととのえるさまを表します。それに力をつけて、「力をくわえて物をほどよくおさえる」ことを表します。

つかいかた

おんセイ
くんいきおい

勢 (4年・13画)



① ほかのものをおさえる力。いきおい。——威勢・火勢・氣勢・運勢・攻勢・優勢
② ようす。ありさま。——姿勢・時勢・情勢・大勢・趨勢・地勢
③ 人数。軍隊。——大勢・軍勢・多勢

学習 「おおぜい(大勢)」を「多勢」と書かないように注意しましょう。

なりたち 背中をむけた人)をえがいた字です。背をむけてにげること、そむくことを表します。また、寒いほうには背をむけるので、寒い方向、つまり「きた」という意味にも使います。

つかいかた

おんカン
くんすすめる

勸 (6年・13画)



① はげます。すすめる。教えみちびく。——勸業・勧告・勧進・勧学
学習 音が同じで書きまちがえやすい字に、「飲(24画)」と「観(34画)」があります。どれも「着」がついているので、「口をそろえて」という意味にかんけいがあります。「飲」にぎやかに話し合います。「観」全体をそろえて見わたす。

つかいかた

おんカ
くん

勸 (6年・13画)

なりたち あかんぼうが母親のおなかの中につまれているようすを表す字です。

つかいかた

おんホウ
くんつつむ

包 (4年・5画)



① おおいくるむ。中に入れこむ。つつむ。つつみ。——包囲・包含・包装・包装・包容力・金包み・小包

学習 「こづつみ」には送りがないが、小包がなをくつけないことになっています。色(36画)という字と形がよく似ていますから、書きまちがえないように注意しましょう。

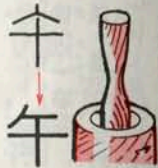
午 午 午 午

なりたち 上下に動かしてもちをつくきねの形をえがいた字です。「上下にまじわる」という意味をふくみ、十二支の前半と後半のまじわるところをさします。

つかいかた
○午前・午後にかけて学芸会を行った。

読み・じゆく
○十二支の七番め。うま。①(時刻)では昼の十二時、またはそれを中心に二時間)午後・午前・正午、②(方角)では南(子午線)、③(むかしの日のよび名)うまの日(△端午)

学習 ●「牛(272画)」と形がよくて、注意しましょう。●「正午」を「正后」と書くのはまちがいです。



午 (2年・4画)

午

半 半 半 半

なりたち ハ(わける)と牛(ウシ)とを合わせた字です。ウシなどの大事なものを二つに分けることから、「はんぶん・なかば」という意味を表します。

つかいかた
○学級の半ばで終了のベルが鳴る。
○子どもの運賃は、半額です。

読み・じゆく
①はんぶん。なかば。半円・半期・半月・半減・半紙・半数・半島・半日・半値・半年・半病人・半分・後半・折半・前半・大半・夜半
②不完全。少し。半端・一知半解

学習 ●「半」のついた字は「二つに分ける」という意味にかんけいがあります。判(70画)で切り分けて調べる。(↓70画)



半 (2年・5画)

半

卒 卒 卒 卒

なりたち 衣(ころも)と十(と)を合わせた字で、上着をきて十人ごとにまとめて引きつけられる兵士(ひょうし)のことを意味しました。位(たい)がひくく、小さい単位にまよることから、「小さい・おえる・しめくくる」などの意味を表します。

つかいかた
○もうすぐ、小学校を卒業します。
○中卒で就職する人は少なくなりました。

読み・じゆく
①地位のひくい兵士 従卒・兵卒
②急に。にわかに。 卒中・卒倒
③おえる。おわる。 卒業・新卒

学習 ●「率直・率先・引率」の「率」(274画)とは形も意味もよくて、使いかたをまちがえないようにしましょう。



卒 (4年・8画)

卒

医

(3年・7画)

医



なりたち もとの字は「醫」。医は亡(かくす)と矢(や)とを合わせた字で、矢をしまいこむはこのことです。それに、又(また) (動作を表すし)をつけて、「しまいこんでかくす」ことを表し、さらに西(さけつぽ)をつけて、酒(さけ)つぽに薬(やく)草(そう)をいれて薬酒(やくしゆ)をつくることを表します。

つかいかた
○医科大学で医学をおさめ、医師になる。

読み・じゆく
○病(びやう)気(き)やけ(げ)をな(な)お(お)す(す)こ(こ)と。また、な(な)お(お)す(す)人(ひと)。医学・医師・医者・医薬・医療・外科医・校医・歯科医・女医・名医

学習 ●家畜(けいしゆ)の病(びやう)気(き)をな(な)お(お)す(す)医(い)師(し)を「獣医」といいます。●「医」の「矢」の部分を「夫」と書かないように。

十

(1年・2画)

十



なりたち 大(おほ)む(む)か(か)し(し)の(の)字(じ)は(は)一(いち)で(で)、全(ぜん)部(ぶ)を(を)一(いつ)本(ぽん)に(に)ま(ま)ど(ど)め(め)る(る)こ(こ)と(と)を(を)表(あらわ)し(し)ま(ま)した(した)。の(の)ち(ち)に(に)ま(ま)ん(まん)な(な)か(か)が(が)ふ(ふ)く(く)れ(れ)て(て)十(じゅう)な(なり)ま(ま)した(した)。

つかいかた
○だんごを十たべました。
○この答えて十中八九まちがいない。
○十三夜と十五夜に月見をしました。

読み・じゆく
①かずの「じゅう」とお。十進法・十五夜・十二支・十人・十両力士
②かんぜん。ぜんぶ。十二分・十分

学習 ●「十」の正しい発音は「ジュツ」ではなく「ジツ」です。●特別な読みかた「十重二十重」・「二十歳」・「二十日」

千

(1年・3画)

千



なりたち イ(人が前へすすむようす)に一つつけて、かずの一〇〇〇を表しました。

つかいかた
○きれいな千代紙で、人形を作りました。
○かたがいてくれれば千人力だ。
○人間の心は千差万別である。

読み・じゆく
①かずの「せん」 千円・千枚
②かずがひじょうに多いこと 千金・千古・千万・千里眼・千草・千代

学習 ●かたかなの「千」は「千」からできました。よく使われる四字の熟語に「千客万来」(多くの客がきつきぎに来ること)、「千変万化」(種々さまざまに変わること)、「千差万別」(さまざまにちがっていること)などがあります。

印 印 印 印 印

①はんをおす。しるしをつける。版で刷る。印刷・印刷・印紙・印象・印税・旗印・目印・矢印

②はんこ 印鑑・印材・印章・印肉・印判・押印・消印・検印・実印・調印

③インド(印度) 日印文化協定

【学習】「しるし」を「印し」と書く人がいますが、送りがなは、イリません。

【おんイン】
なりたち 手と、ひざまずいた人とを合わせた字です。人を手でおさえつけることから、「上からおさえてはんこをおす」という意味になりました。

【つかいかた】
乗車券は運賃をはらった印です。修学旅行の印象が強くのこっている。



印 (4年・6画)

印

危 危 危 危 危

①あぶない 危機・危急・危険・危篤

②きずつける。そこなう。危害

【学習】「危機」(髪)の毛一本ぐらいのわずかの差で、危険に追いこまれるというせとぎわ)を、「危機一発」と書きましがえやすいので注意しましょう。

【おんキ】
なりたち 戸は、人が(がけ)のふちに立って落ちそうなようすを表します。それに、(ひざまずく人)をつけて、「不安定であぶない」という意味を表します。

【つかいかた】
川岸の危ないところへ行かないように。危うく車にはねられるところだった。道路で遊ぶのは大へん危険だ。



危 (6年・6画)

危

卵 卵 卵 卵 卵

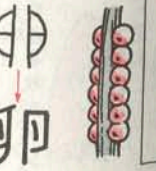
①鳥・魚・虫などのたまご 卵子・魚卵・鶏卵・産卵・卵焼き・生卵・ゆで卵

②そのしごとでまだ一人前にならない人 (医者) 卵(先生の) 卵

【学習】鳥や魚のように卵から生まれることを「卵生」といい、人間やけものように、子が、母親のおなかの中で赤んぼうになってから生まれることを「胎生」といいます。

【おんラン】
なりたち まるくつらなつたたまごをえがいた字です。

【つかいかた】
ニワトリのひなが、卵のからをやぶって出てきました。卵の黄身を「卵黄」といい、白身を「卵白」といいます。



卵 (6年・7画)

卵

おんキヨウ 協 (4年・8画)

【おんキヨウ】
なりたち 協(多くの力を合わせる)と十(ひとまとめ)とを合わせた字です。力を合わせることを表します。

【つかいかた】
赤十字の活動に協力した。重要な問題は、全員で協議して決める。



協

おんナン・ナ 南 (2年・9画)

【おんナン・ナ】
なりたち 十(草のめ)と門(かこい)と羊(入れこむ)とを合わせた字です。あたたかい室に入れて、植物のめを早く出させるようすを表すことから、あたたかい方角「みなみ」を意味します。

【つかいかた】
ツバメが南の島々にむけて飛び立った。南極をとりまく南氷洋でクジラをとる。



南

おんハク・バク 博 (4年・12画)

【おんハク・バク】
なりたち もとの字は博。十(あつめる)と、音を表す専(たいらにひろがる)とを合わせた字です。

【つかいかた】
祖父は博學で、なんでも知っている。みんなが交通博物館へ見学に行った。万国博覧会は、さいわい好評を博した。



博

①力を合わせる。調子が合う。協議・協賛・協調・協同・協力・協和

②相談してきめる 協議・協定・協約

【学習】「協同」と「共同」は、「心や力を合わせていっしょに仕事をする」という意味では、どちらを使ってもかまいません。ただし、「水道の共同利用・共同便所・共同基金・共同作業」のような場合には、ふつう「協同」は使いません。

【おんキ】
なりたち 戸は、人が(がけ)のふちに立って落ちそうなようすを表します。それに、(ひざまずく人)をつけて、「不安定であぶない」という意味を表します。

【つかいかた】
川岸の危ないところへ行かないように。危うく車にはねられるところだった。道路で遊ぶのは大へん危険だ。

【おんラン】
なりたち まるくつらなつたたまごをえがいた字です。

【つかいかた】
ニワトリのひなが、卵のからをやぶって出てきました。卵の黄身を「卵黄」といい、白身を「卵白」といいます。

厚

(5年・9画)

厚



なりたち 高のむかし
の字(高)をさかさにし
て、厂(がけ・つち)
をつけた字です。高が、
上にたかく出ることを
表すのに対して、下にぶあつくだまるこ
とを表します。

つかいかた

○図書室には分厚い事典がならんでいる。
○人の厚意はすなおに受けましょう。

いみじゆく

①ぶあつ—厚紙・厚着・厚地・厚手
②であつ—厚意・厚情・厚生・温厚
【学習】「厚意」は「思いやり」の気持ち
「好意」は「親しみ」の気持ちを表し、
「厚意に感謝する」大げいの厚意で入院で
きた「好意を寄せる」好意を感じる」な
ど、使い分けます。

参

(4年・8画)

参



なりたち もとの字は
参。頭に三つの玉のか
んざしをさらにらせ
た女性をえがいた字に、
シ(かざり)をつけた
ものです。「いりまじってちらちらする
こと」を表します。

つかいかた

○家じゅうそろうって神社にお参りした。
○父母が授業を参観しました。

いみじゆく

①いりまじる。加わる。あずかる。
加参会・参画・参集・参照・参戦・参列
②どうとい人の所や寺・神社などへいく
参賀・参宮・参上・参内・参拝・参参
【学習】金額を書くときなどに、まちがい
をふせぐため、「三」の代わりにつくこ
とがあります。例 金参千参百貳拾万円

参参参参参参参

原

(2年・10画)

原



なりたち 厂(がけ)
のあいだのあなから、
水がわくようすを表す
字です。水のわきでる
もとであるところから、
「もと」を表し、ゲンという音から、「広
い野原」の意味を表します。

つかいかた

○広い野原でボール投げをした。
○原油を原料にしてガソリンを精製する。

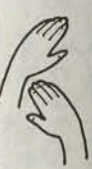
いみじゆく

①はら—原野・高原・草原・平原
②もと。はじめ。おこり。原案・原因・
原価・原画・原形・原作・原子・原始・
原住民・原色・原生・原泉・原典・原
動力・原文・原理・原流・起原
【学習】特別な読みかたに「海原(うみ)・河原
(かわ)・川原(かわ)」などがあります。

友

(2年・4画)

友



なりたち かばうよう
にまげた手を二つ合わ
せた字です。「なかよ
くかばい合うなかま」
という意味を表します。

つかいかた

○友だちとはいつもなかなかよく助け合う。
○かれとの友情はいつまでも変わらない。
○川上君は、ぼくの親友です。

いみじゆく

①ともだち—友軍・友人・友邦・悪友・
学友・旧友・級友・交友・親友・良友
②ともだちとしての親しみ—友愛・友
好・友情
【学習】下の段の「反」の字と形がよく
にているので、まちがえないようにしま
しょう。●特別な読みかたに「友達(とも)

友友友友

去

(3年・5画)

去



なりたち ふた付きの、
くぼんだ入れ物をえが
いた字です。「くぼむ」
ひっこむ・すがたをか
くす」という意味を表
します。

つかいかた

○友だちがつきつぎに村を去っていく。
○去る二月一日、新住所に移りました。
○去年の冬休みにはスキーに行った。
○過去三年間この町では交通事故がない。

いみじゆく

①さる。たちさる。いなくなる。—去
就・去来・死去・辞去・退去
②時がすぎる。すぎさる。—去年・過去
③とりのぞく—除去・撤去
【学習】コという読みは、「過去」という
ことばのときだけに使います。

反

(3年・4画)

反



なりたち 厂(布また
は、うすい板)を、又
(手)でおして、そり
かえらせるようすを表
す字です。そったもの
は、もとにもどるので、「もどる・はね
かえる」という意味を表します。

つかいかた

○写真を日なたにおくと、反りかえる。
○父に反対したことを、あとで反省した。

いみじゆく

①もとにもどる。くりかえす。—反映・
反響・反射・反動・反応・反復
②はねかえす—反撃・反発・反問
③そむく。あべこべ。—反感・反抗
反則・反対・反乱・△違反・背反
【学習】タンと読んで、もと、畑の面積や
布の長さの単位にも使われました。

反反反反

帰 (2年・10画)


おんキ
かえる・かえす

なりたち もとの字は「歸」で、音を表す自と止(足・い・く)と帚(女)の人のし(こ)とを合わせた字です。むかしは、女がおよめにいくことも表しました。「あるべき所へいつておちつくこと・もとへもどる」の意味を表します。

つかいかた
①五時に家に帰る。○子どもを早く帰す。
○アメリカから明日兄が帰国する。

読み・ことば
①かえる。もとのところへもどる。帰京・帰港・帰省・帰宅・帰途・復帰
②あるべき所へいく。おさまる。したがう。帰化・帰順・帰着・帰納

学習 「帰る」と「返る」は、意味が違います。注意しましょう。↓付録429参照。



予 (3年・4画)

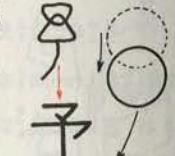
おんキヨ

なりたち まるい輪をずらして、むこうへおしやるようすをえがいた字です。「ゆっくりとずらす・ずれるだけゆとりがある」ことを表します。

つかいかた
○予想どおり日本チームが優勝した。
○予防注射の日を月末に予定している。

読み・ことば
①まえもって。あらかじめ。予感・予期・予見・予言・予行・予告・予算・予習・予選・予想・予測・予断・予知・予定・予備・予報・予防・予約・予鈴

学習 「予」と「矛盾」とは、形がよく似ているので、書きまちがえないように注意しましょう。



争 (4年・6画)


おんソウ
あらそう

なりたち もとの字は争です。ものを両手で引っぱり合うようすから、「あらそう」という意味を表します。

つかいかた
○国と国で争うことをやめ、平和を守る。
○姉と競争して、百人一首をおぼえた。
○会社と組合の争議がやつと解決した。

読み・ことば
○あらそう。あらそい。争議・争点・争乱・競争・戦争・闘争・紛争・論争

学習 「論争」という熟語の上下を入れかえると「争論」となりますが、「言い争うこと」という意味はわかりません。このように、上下の字を入れかえても、意味がかわらない熟語がほかにもあります。例「議論」論議「熱情」情熱




収 (5年・4画)

おんシユウ
おさめる・おさまる

なりたち 斗(二本のひもをよじり合わせる)と又(手)とを合わせた字です。ばらばらのものを一つにひきよせて、とりこむことを表します。

つかいかた
○マラソン大会でよい成績を収めた。
○手紙が二枚の便せんにきちんと収まる。
○いろいろな国の切手を収集した。



取 (3年・8画)

おんシユ
とる

なりたち 耳と又(手)とを合わせた字です。むかしの中国で、たたかいに勝ったしるしに敵の耳をとったことから、「とる」という意味になりました。

つかいかた
○弟の持っていた棒を取り上げた。
○学校新聞の記事を市役所で取材した。

読み・ことば
○手にとる。自分のものにする。取材・取捨・取得・採取・奪取・聴取
○「とる」には、「取る」のほかに、「採る・執る・捕る・撮る」があります。「雑草を取る・料金を取る」「血を採る・新人を採る」「筆を執る・事務を執る」「ネズミを捕る・ボールを捕る」「映画を撮る・写真を撮る」など使い分けれます。



受 (3年・8画)

おんジュ
うける・うかる

なりたち 音を表す舟と二つの手を合わせた字です。手から手にうけとるようすを表します。

つかいかた
○兄が医師の国家試験を受ける。
○いなかからの小包を受け取りました。
○ノーベル賞を受賞した学者。

読み・ことば
○うけとる。もらう。うける。ひきうける。受験・受講・受講・受信・受像・受諾・受理・受領・受話器・伝受・受付

学習 ●「受け付ける・受け取る」のときは送りながをつけてますが、「受付・受取」のときは、特別につけません。
●「受賞」は「賞をもらうこと」、「授賞」は「賞をあげること」です。



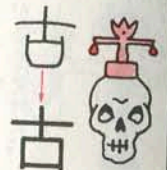
古古古古古古

なりたち 口(あたま)の上に、かんむり、または、まげかざりがついた字です。祭つてある祖先のすがい骨をえがいたもので、「ひからびてかたくなつた、むかしのもの」という意味です。

つかいかた
倉の中から古い本を出してきた。
姉が着古した洋服をなおして着た。
古書をみて古代人のくらしを調べた。

いみ・じゆく
①ふるい。ふるびた。古式・古書・古城・古典・古着・古本
②むかし。古人・古代・古老・上古

学習 「古」のつく字は「ひからびてかた」という意味にかんけいがあります。「固」(105画)、「故」(209画)、「枯」(105画)。



古 (2年・5画)

古

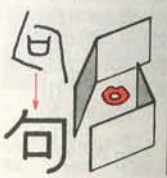
句句句句句

なりたち 夕(かこむ印)と、口(ことば)とを合わせた字です。かぎ形で小さくかこつたことばを表します。

つかいかた
意味がわからない語句を辞書で調べる。
文の終わりにつける。「」を句点という。

いみ・じゆく
①ことばや文章のきれめ。くぎり。句点・句読点・禁句・語句・字句・文句
②はいく。句会・句集・名句

学習 「節句」ということは、「季節のかわりめのお祝いの日」という意味です。七草(一月七日)、ももの節句(三月三日)、端午の節句(五月五日)、七夕(七月七日)、重陽の節句(九月九日)の五つを、「五節句」といいます。



句 (5年・5画)

句

可可可可可

なりたち 丁(まげる)と口とを合わせた字です。のどをまげて、かすれた声をやつと出すことを表します。「さまさまのなりゆきを経て、どうにかよい」という意味に使います。

つかいかた
先生から早退の許可をもらった。
市議会が今年の予算案を可決しました。

いみ・じゆく
①ゆるすことができる。よいとする。よろしい。可決・可否・栄養可・許可・認可・不可・優良可
②できる。可視光線・可燃性・可能

学習 「可」のついている字は、「河」(253画)、「何」(48画)、「荷」(169画)、「歌」(244画)のように、どれも力と読みます。



可 (6年・5画)

可

兼 (6年・10画)

兼



なりたち もとの字は兼。二本のイネと手とを合わせた字です。「二つのものをあわせもつ」ことを表します。

つかいかた
このへやは食堂と居間を兼ねている。
総理大臣が外務大臣を兼任する。
このかさは晴雨兼用のかさです。

いみ・じゆく
①あわせもつ。かねる。兼業・兼職・兼任・兼備・兼務・兼用・昼夜兼行
②「兼業農家」というのは、農業のほか別業のしごとをしたり、つとめに出たりなどしている農家のことです。「昼夜兼行で作業する」というのは、夜昼の区別なく、仕事をすることをいいます。

部首の説明



くちの形をうつしとつたもので、「口」のつく字には、「くち」「ことば」「あな」「四角いもの」などかんけいのあるものが多くあります。形のにているものに「口」くがまえ)があります。これは「かこい」という意味ですから、まちがえないようにしましょう。

いみ・じゆく
①人や動物のくち。口笛・口元
②出入りする所。火口・河口・噴火口・表口・昇降口・出口・戸口・非常口
③くちを使つてものをいう。口調・口伝・口演・口外・口実・口迷・口頭・口約・口論・口数・口車・口答え・口早・口険・口人数や器具などを数えることは「口銭・人口」

学習 「口」には、物事のはじまりという意味もあります。例)口火・糸口

口 (1年・3画)



部首の説明

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた
口をそろえて「さんせい」とさげぶ。
おだやかな口調で話をする。
この事件を口外してはいけない。

いみ・じゆく
①人や動物のくち。口笛・口元
②出入りする所。火口・河口・噴火口・表口・昇降口・出口・戸口・非常口
③くちを使つてものをいう。口調・口伝・口演・口外・口実・口迷・口頭・口約・口論・口数・口車・口答え・口早・口険・口人数や器具などを数えることは「口銭・人口」

学習 「口」には、物事のはじまりという意味もあります。例)口火・糸口



合

(2年・6画)

おんゴウ・ガツ・カッ
あう・あわす・あわせる

合

【なりたち】
と口(あな)とを合わせた字で、あなにふたをかぶせて、びたりと合わせることを表します。



【つかいかた】

○意見が合うことを「合意する」という。
○声を合わせて歌うのが「合唱」です。

【いみじゆく】

①一つにあわせる。いっしょになる。
【学習】「合点」は「がてん」とも読みます。割合点がいかない・割合点

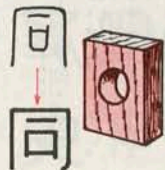
同

(2年・6画)

おんドウ
おなじ

同

【なりたち】
あなとを合わせた字で、板にあなをとおした形を表します。あながつきぬけて、むこうとつながることから、「いっしょ・おなじ」という意味を表します。



【つかいかた】

○同級生が同時に同じ会社に入った。

【いみじゆく】

①おなじ。ひとしい。同一・同音・同類・同時・同色・同点・同様・同類
②いっしょにする。同感・同居・同行・同情・同席・同封・共同・混同
③なにかま。同士・同人・同盟・一同
④その。同校・同社・同上
【学習】「志が同じ」の意味では「同志」を、それ以外は「同士」を使います。

名

(1年・6画)

おんメイ・ミヨウ
な

名

【なりたち】
と口を合わせた字です。うすぐらい所で口から声をだして自分の名をいい、人にしらせることから「なまえ」という意味を表します。



【つかいかた】

○わたしの名字は木村、名前は進です。
○世界的に有名な、野球の名選手。

【いみじゆく】

①なまえ。氏名・人名・地名・本名
②ひょうげん。すぐれて名高い。名案・名医・名家・名曲・名言・名作・名士・名手・名所・名将・名勝・名人・名声・名著・名刀・名物・名門
③人数を数えることは。三名・数十名
【学習】特別な読みかたに「仮名・名残」があります。

后

(6年・6画)

后

【なりたち】
戸(人)と口(あな)とを合わせた字です。人のうしろのほうにあるあな、おしりのあなということから、「うしろ」の意味を表します。さらに、「ごてんのうしろのほうの建物にすむ」「きさき」という意味も表します。



【つかいかた】

○皇后陛下は、日本画がお上手です。
○皇太后のお墓にお参りする。

【いみじゆく】

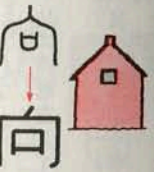
○天子のつま。きさき。后宮・皇后
【学習】前の天皇のおきさきのことを、「皇太后」といいます。「后」を「後」の代わりに使って、「午后三時」など、書く習慣がありますが、ただしく「午後」と書くようにしましょう。

向

(3年・6画)

向

【なりたち】
やねとあなとを合わせた字です。かべにあけた空気あなから空気がでていくように、ある方向にむかってすすむことを表します。



【つかいかた】

○東京に向かって列車が発発した。
○小学生に向く辞典をさがす。
○船を南に向けて、島の向こうへまわる。
○小学生の体力を向上させる。

【いみじゆく】

①ある方向にすすむ。むかう。向学
向上・意向・傾向・越向・動向
②むき。転向・風向・方向
【学習】「何だ(48?)」と形がよくているので、書きまちがえないようにしましょう。

向 向 向 向 向

【むずかしい読みの人名】
人の名まえには、読みかたのむずかしいものがあります。つぎのような名まえが読めますか。

△姓▽日下—くさか
毒島—ぶすじま
百濟—くだら
百目鬼—どめき
一寸木—ちまき
九十九—つくも
御手洗—みたらい
四月一日—わたぬき
十二月一日—しわすだ

△名▽早苗—さなえ
小百合—さゆり
五十鈴—いすず
齊加年—まさかね
七五三太—しめた
また、つぎのようなめずらしい姓の名人も、ほんとうにいます。

一 一—かず・はじめ
阿井 卯栄雄—あい・うえお
太平 洋—おおひら・ひろし
清水 清—しみず・きよし

告 告 告 告 告 告 告 告 告 告 告

① つげる。話す。しらせる。告示・告知・告白・勧告・警告・広告・申告・宣言・忠告・通告・報告・密告・予告

② うったえる。告発・原告・被告

【学習】「告知板」はみんなに知らせたいことを書いたり、はったりする板で、人が大ぜい集まるところに立っています。

告 告 告 告 告 告 告 告 告 告 告

【なりのち】 ウシのつのに、たてよこの棒をしぱりつけ、つのが人にあたらないうようにした形をえがいた字です。

きけんを知らせることを表します。

つかいかた

- ウグイスは春を告げる鳥といわれる。
- かれは自分の罪を告白しはじめた。
- おじさんの告別式に出る。

いみじゆく



告 告 告 告 告 告 告 告 告 告 告

おんコク
おんツける
おんツける

周 周 周 周 周 周 周 周 周 周 周

① 十分にゆきとどく。周知・周到

② まわる。まわり。周回・周期・周航・周年・周遊・一周・円周・半周

【学習】「週」と書きまちがえないように、「週」は、おもに「週間の意味」に使い、それ以外は、「周」を使います。

周 周 周 周 周 周 周 周 周 周 周

【なりのち】 吉は、田の中いっぱいに米がちらばっている形をえがいた字で、ぜんぶにゆきわたることを表します。

それにかこいをつけて、「かこいの中ぜんぶにゆきわたらせる。かこいのまわり」という意味を表します。

つかいかた

- 池の周りに石をならべた。
- 大都市の周辺にあるベッドタウン。

いみじゆく



周 周 周 周 周 周 周 周 周 周 周

おんシユウ
おんまわり

味 味 味 味 味 味 味 味 味 味 味

① たべ物のあじ。味覚・酸味・調味・珍味・美味・風味・甘味・辛味

② 心であじわう。よくしらべる。味読・吟味

③ おもしろみ。意味・興味・趣味

④ なかま。味方・一味

【学習】特別な読みかたに「三味線」があります。

味 味 味 味 味 味 味 味 味 味 味

【なりのち】 未は「ほそくこまかい・はつきりしない」という意味。それに口をつけて、はつきりしないあじを、口でこまかくあじわうことを表します。

つかいかた

- 山菜の味を味わってみる。
- 薬味を入れ、そばの味覚をひきたてる。

いみじゆく



味 味 味 味 味 味 味 味 味 味 味

おんミ
おんあじ・あじわう

吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸

おんキユウ
おんキユウ

【なりのち】 及(とどく)と口とを合わせた字です。水や空気が自分までとどくように、口ですいつくことを表します。

つかいかた

- ポンプで池の水を吸いあげました。
- 食物を消化し、栄養分を腸で吸収する。

いみじゆく



君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君

おんクン
おんクン

【なりのち】 尹は、手(て)に上下を通わせる(印)を持ったようすで、上のつりあいをとることから「天の神」と人をつなぐ、りっぱな人」を表します。それに口をつけて「すべての人に天の神のことは伝えておさめる人」を表します。

つかいかた

- 卒業式で「君が代」を歌った。
- エリザベス女王はイギリスの君主です。

いみじゆく



否 否 否 否 否 否 否 否 否 否 否

おんヒ
おんヒ

【なりのち】 不(ふ)ではない)と、口とを合わせた字です。ことばで、「ではない」と打ち消すことを表します。

つかいかた

- 父は九州から帰るや否や、すぐにまた北海道へ飛んで行った。
- 木を切ったのは私ではないと否定した。

いみじゆく



吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸 吸

【なりのち】 人の血をすう化けものことを「吸血△鬼」といいます(例吸血△鬼ドラキユラ)。また、しめり気をすいとる性質を「吸△湿性」といいます。

○「吸」のつく字は、みな、キユウと読みます。「吸」もそうです。

おんキユウ
おんキユウ
おんキユウ
おんキユウ
おんキユウ
おんキユウ
おんキユウ
おんキユウ
おんキユウ
おんキユウ

君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君

【なりのち】 天(てん)をおさめる人。天皇・王。君子・君主・君臨・主君・名君

② 父母などを敬う。先君・父君・母君

③ 友だちや目下の人をよぶ。諸君・林君

【学習】「君」のつく字は、ほかに「群」(324ページ)、「郡」(107ページ)があります。

おんクン
おんクン
おんクン
おんクン
おんクン
おんクン
おんクン
おんクン
おんクン
おんクン

否 否 否 否 否 否 否 否 否 否 否

【なりのち】 未は「ほそくこまかい・はつきりしない」という意味。それに口をつけて、はつきりしないあじを、口でこまかくあじわうことを表します。

つかいかた

- 山菜の味を味わってみる。
- 薬味を入れ、そばの味覚をひきたてる。

いみじゆく

味 味 味 味 味 味 味 味 味 味 味

【なりのち】 未は「ほそくこまかい・はつきりしない」という意味。それに口をつけて、はつきりしないあじを、口でこまかくあじわうことを表します。

つかいかた

- 山菜の味を味わってみる。
- 薬味を入れ、そばの味覚をひきたてる。

いみじゆく

命

(3年・8画)

命

はらる

おんメイ・ミョウ



なりたち△(あつめる)とP(人)と口とを合わせた字です。人々をあつめて、口でつたえること、特に神や王が人々に考えをつけることを表します。

つかいかた

- 戦場で命をおとした人に花をささげる。
- 発見した島に「新島」と命名した。
- 人命をたいせつにする交通規則。

いみ・じゆく

- ① 1いつけ。いつけける。— 命令・任命
- ② 名づける — 命名
- ③ いのち — 命日・寿命・助命・人命・生命・存命・短命・長命・薄命・余命
- ④ めぐりあわせ — 運命・宿命・天命
- ⑤ 学習 神さまの名の下につけて「みこと」と読むことがあります。例 天国・主命

品

(3年・9画)

品

おんヒン



なりたち△(四角いもの)を三つならべて、いろいろなものを表します。

つかいかた

- あの洋品店には品数がたくさんある。
- どこか品のある老人夫婦。
- 品種を改良しておいしい米を作る。

いみ・じゆく

- ① 物にそなわるうち — 品位・品格・品行・品質・品性・気品・下品・上品
- ② したもの — 品種・品名・一品料理・景品・作品・商品・賞品・新品・製品・珍品・物品・名品・薬品・洋品
- ③ 学習 「品」は多くの熟語の下についてひろく使われます。例 食料品・国産品・輸出品・輸入品・高級品・有名品・特価品・化粧品・家庭用品

和

(3年・8画)

和

どめる

おんワ・ヘオン



なりたち△禾(アワ)のほが、まるくしなやかにたれた形)と口とを合わせた字です。「おだやかな、ものの言いかた」という意味を表します。

つかいかた

- 学級のみんなで和やかに話し合った。
- しづぶをしたたら、痛みが和らいできた。
- 和服を着る。○寺の和尚さん。

いみ・じゆく

- ① おだやか。やわらぐ。— 温和・緩和
- ② 仲よくする — 和解・和平・講和・平和
- ③ いっしょに合わせる — 唱和
- ④ 日本・日本風の。— 和室・和風・和服
- ⑤ こうけい (二と三) — 和・総和
- ⑥ 学習 特別な読み「日和」とあり、大和と読む。

員

(3年・10画)

員

おんイン



なりたち△(まる)とかなえ(三本足のかま)とを合わせた字です。はじめはまるい器のこをいいましたが、のちに、まるいものや、いろいろなものをかぞえることばになり、最後に人の数をかぞえることばとなりました。

つかいかた

- 参加者の員数を報告する。
- きょうの午後、代表委員会がある。

いみ・じゆく

- ① 人のかず — 員数・人員・定員・満員
- ② 役や係をもつた人。メンバー。委員・会員・議員・教員・社員・職員
- ③ 学習 「員」は多くの熟語の下についてひろく使われます。例 会社員・銀行員・公務員・指導員・事務員・特派員

呼

(6年・8画)

呼

はらる

おんコ



なりたち△乎は、息が下から上へとのびて、ハのようにちらばるよすをえがいた字です。「はあと声をだす・よぶ」という意味でしたが、のちにべつの意味になったので、それに口をつけて「よぶ」というもとの意味を表しました。

つかいかた

- 人ごみの中で友だちに呼びかけられた。
- 人間は肺で、魚はえらで呼吸する。

いみ・じゆく

- ① 声を長くしてよびかける。よぶ。
- ② 呼ぶ・歎呼・点呼・連呼
- ③ 名づける — 呼称・称号・呼息
- ④ 息をはく。はく息。— 呼吸・呼吸
- ⑤ まねく。せそつ。— 呼び水・呼び物
- ⑥ 学習 「呼吸」の反対語は「吸気」です。

唱

(4年・11画)

唱

おんシヨウ



なりたち△唱は、日(あかるい太陽)と日(いう)とを合わせた字で、「あかるくはつきりという」ことを表します。しかし、のちに「さかん・あかるい」の意味に使うようになったので、口をつけて、もとの意味を表すようにしました。

つかいかた

- 合唱の練習をする。
- 念仏を唱える。○戦争反対を唱える。

いみ・じゆく

- ① 節をつけてうたう。うた。唱歌・愛唱・合唱・独唱・二重唱・万歳三唱
- ② となえる。声にだして読みあげる。唱和・暗唱・吟唱・首唱・提唱
- ③ 学習 形と読みのにた字に「晶」(水晶・結晶)があります。注意しましょう。

善 (5年・12画)

なりたち 善(羊)は物事の程度やうでまえがすくれていること、「善い」は道德的に正しいことに使います。↓付録433頁。

① 正しい。道德にかなった。善悪・善行・善政・善人・善良・最善・慈善・善い・善い。十分。善処・善戦・善用・善くする。善隣・親善。

② 「善い」は物事の程度やうでまえがすくれていること、「善い」は道德的に正しいことに使います。↓付録433頁。

③ 善い行いをして、ほめられました。人の善意はすなおに受けるものだ。

④ 羊(ヒツジ)おしい(いたべ物)と言の古い形(けじめがはっきりする)からできています。「おいしくてみごとな」という意味から、「よい」という意味になりました。

⑤ 善い行いをして、ほめられました。人の善意はすなおに受けるものだ。



善 (5年・12画)

善

喜 (4年・12画)

なりたち 喜は、合つきの器(ヒツジ)ごちそうを山もりにしたようすを表します。それに口をつけて、ごちそうを前にしてよろこぶことを表します。

① よろこぶ。喜色・歓喜・驚喜・悲喜。七十七歳まで長生きしたためたさを、「喜寿」といいます。●情況の変化に喜んだり心配したりすることを、「喜△愛」といいます。●人間の感情を表すことばに「喜△怒△哀△楽」(よろこび・いかり・悲しみ・楽しみ)があります。

② 父の喜ぶ顔が見えなかった。喜劇映画を見に行く。優勝したという知らせに狂喜する。



喜 (4年・12画)

喜

器 (4年・15画)

なりたち もとの字は器で、口四つと犬とを合わせた字です。四つの口は、いろいろな入れものを表します。それに、「いろいろな」という意味を強めるために、種類の多い犬をくわえました。

① 入れもの。道具。器具・器材・楽器・食器・茶器・陶器・土器・武器。才能のあること。器用・器量・大器。

② 「器」は、道具やしくみのかんたんなものに使います。「機」(242頁)は、形の大きい、複雑なしくみのものを使います。



器 (4年・15画)

器

商 (3年・11画)

商

なりたち 商(魚)を代表する音を表す章の一部と、高い台を合わせた字で、平原の中にある、あかるい高台のことです。むかしの中国で高台にすむ「商」という国の人々が品物を売りあるいてくらしていたので、売りあるく意味になりました。

① 駅前通りには、商店がたくさんある。父は魚を商うのがしごとです。

② わり算の答え(の中心)の商は三



商品については、いろいろなマークがついていきます。しらべてみましょう。

安全マーク グッドデザイン マーク JISマーク

ALL NEW WOOL 特殊栄養食品マーク JASマーク

問 (3年・11画)

問

なりたち 問(中)をかきしてわからなくする(と)口とを合わせた字です。かくれてわからないことを、口でききだすことを表します。

① 先生が出した問いに、みんなが答える。店の人に品物のねだんを問う。品物は問屋で買うと安い。テストの問題はやさしかった。

② おとずれる。みまう。慰問・訪問。疑問・顧問・質問・尋問・第一問。

③ 「専門」「学問」ということばにひかれて、「専門」を「専門」と書きまちはかえる人がたくさんいます。注意しましょう。



因 因 因 因 因


なりたち □(ふとん)と大(手足をひろげた人)を合わせた字です。ふとんを下にして、その上に大の字にのることから「一つのことが、次におこることの下地になる」という意味を表します。

つかいかた
○できごとにはすべて原因と結果がある。○因習にとられず新しい方法を考える。

いみ・じゆく
①ものごとがおこるもと 因果・遠因・原因・勝因・敗因・病因・要因
②もとづく。したがう。 因習・因襲

学習 ●「よる」という読みは、「成功するかどうかは、きみの努力いかに因る」などと使われます。●書きまちはがえやすい字に「困」があります。

おんイン
くんによる



大 (5年・6画)

団 団 団 団 団


なりたち もとの字は、團でした。専(まるい)と口(かこむ)とを合わせて、「まるくかこむ」ことを表します。

つかいかた
○花より団子。
○団地のアパートの五階に住む。
○少年少女合唱団の団員になる。

いみ・じゆく
①玉のようにまるい 団子・布団
②一かたまりに集まる。ひとの集まり。 団員・団結・団体・一団・楽団・劇団・公団・財団・集団・少年団・退団・入団

学習 ●「団」は熟語の下について広く使われます。例 合唱団・青年団・視察団・旅行団・曲芸団。●トンという読みは、「布団」ということばに使います。

おんダン・トン
くんによる



団 (5年・6画)

團 團 團 團 團

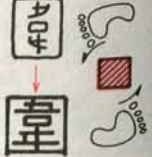
なりたち もとの字は團でした。韋は口(もの)のまわりを右足と左足が回っているようにすすです。それに口(かこむ)をつけて、ぐるりとまわりをかこむことを表します。團は、韋のかわりに読みかたを示す「井」を中に入れて作った字です。

つかいかた
○花だんをさくで團う。
○こたつを團んでトラップをする。
○周囲五メートルの大木。

いみ・じゆく
①かこむ。かこみ。 團基・團・團・包團
②まわり。ぐるり。 胸團・四團・周囲

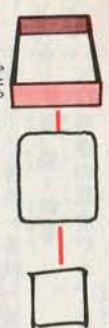
学習 農家などにある「いろり」は、「團炉裏」と書きます。

おんイ
くにかこむ・かこう



團 (4年・7画)

●部首の説明



かこいの形をうつしとったもので、「かこい」「まわりをかこむ」という意味を表します。

●「口」のつく字には、かこわれた場所(国・園など)、かこまれておこる状態(困など)をしめす字が多くあります。

おなじように「かこい」の意味をもつ部首には、「口」(かくしがまえ)があります(区など)。

「口」(くち・くちへん)と形がにているので、注意しましょう。

●四回 因 団 團 困 国
●田 園 園 田 279

四 四 四 四 四


なりたち □(四角いかこみ)とル(分けるしるし)とを合わせた字です。いくつにもばらばらに分かれる数を表します。

つかいかた
○おそくとも四時まで(に)下校する。
○宿題がたままって四苦八苦する。

いみ・じゆく
○かずの「し」。よつつ。 四冊・四海・四角・四季・四散・四重奏・四則

学習 ●算数で、求めるけたの次のけたが四以下ならきりすて、五以上ならきりあげる方法を、「しご五入」といいます。●一日(二十四時間)じゅうのことを、「四六時中」といいます。●二度も三度も「四」といふとき、「再三再四」と使います。

おんシ
くんによる



四 (1年・5画)

回




えがいた字。くるくる回るようすを示します。

つかいかた
○こまを回す。
○風車(かぜぐる)ぐる回転する。
○三回目にやつと成功した。

いみ・じゆく
①もとにもどる。もどす。まわす。まわる。 回収・回生・回復・回覧・転回
②度数をかぞえることば 一回・次回・初回・前回・最終回・何回

学習 ●「回答」はきかれたことに答えること。「解答」は問題をわかるようにとくことです。●エという読みは、「回向」(仏教で、死んだ人のめいふくをいのるためにお経をよんだり、そなえ物をする)ことばに使われます。

おんカイ・エ
くんにまわる・まわす



回 (2年・6画)

固 固 固 固 固 固 固 固

なりたち □(かこい)
と古とを合わせた字で
す。古は頭がい骨で「か
たい」という意味をも
つています。まわりを
かたかがつちりとかこんで、動かないこ
とを表します。

つかいかた
○ 団結が固い。○ 団結を固める。
○ ふたをあけておくと絵の具が固まる。
○ ボルトを締めて土台を固定する。

いみじゆく
① がつちりとして動かない。かたい。
固形・固持・固体・固定・強固・堅固
② がんご。かたくな。固執・頑固
③ もともと。はじめから。固有

学習 「硬い」「堅い」は同じ読みで、
意味もだいたい同じように使われます。



固 (4年・7画)

固

囧 (2年・7画)

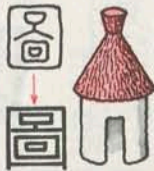
囧

なりたち もとの字は
圖(かこい)で、
と昔(米倉のある村の
土地)とを合わせた字
で、土地の区分けを紙
のわくの中に書きこんだ地図を表します。

つかいかた
○ 教室のかべに図画をはりだす。
○ 図書室で、本を読みました。
○ 計画は図にあたった。
○ 交通事故の防止を図る。

いみじゆく
① 物の形をえがいたもの。図案・図解
図形・図工・図表・図面・合図・絵図
構図・縮図・製図・地図・略図
② 考えてくふうする。意図・企図

学習 熟語の下について広く使われます。
図説・図鑑・天図・平面図・見取り図



困 (6年・7画)

困

なりたち □(かこむ)
と木とを合わせた字で
す。木をかこいの中に
おしこんで動けないよ
うにすることから、
「どうにも動きがとれなくてこまる」と
いう意味を表します。

つかいかた
○ 難問をかかえて、ほんとうに困った。
○ 勉強しないで、遊んでばかりいるとは、
まったく困り者だ。
○ あらゆる困難をのりこえて成功する。

いみじゆく
○ 動きがとれなくて、こまる。くるしむ
— 困苦・困難・困惑・貧困

学習 「困(原因・因果)」と形がよくに
ているので、書きまちがえないように注
意しよう。



国 (2年・8画)

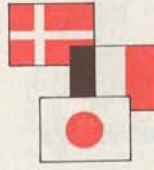
国

なりたち もとの字は
國(かこい)で、
下の線でくぎった領
地(を戈(ほこ)でまも
ることを表します。そ
れに□(かこい)をつけて、外わくでか
こんだ領土を表します。

つかいかた
○ 国と国とのつきあいを国交という。
○ 国内だけでなく国外にも目を向けよう。

いみじゆく
○ くに。領土。国語・国際・国産
○ 国史・国政・国土・国宝・国民・国家
○ 国旗・国境・愛国・外国・帰国・小国
○ 諸国・他国・敵国・天国

学習 ● わかし、日本をいくつかに分け
て、「尾張国・大和国」などとよびまし
た。● 「国鉄」「日本国有鉄道」。



園 園 園 園 園 園 園 園

なりたち 素は○(ま
るい形)と衣を合わせ
た字で、まるくゆつた
りと体をつつむ着物
のことで。それに□
(かこい)をつけて、まるくかこまれた
庭を表します。

つかいかた
○ 美しい花園で遊ぶゆめを見ました。
○ あの人は、動物園の園長さんです。

いみじゆく
① かきねなどでかこまれた畑や庭。園
芸・果樹園・菜園
② 人が集まって楽しむ場所。学園・公
園・植物園・庭園・動物園・保育園・公
名園・遊園地・幼雅園・楽園

学習 公園などの名まえの下につけて使
います。例 後楽園・兼六園・六義園



園 (3年・13画)

園

鱒... 雪がふる
鳴... 鳥田にいる
躰... 身を美しくする
凪... 風が止ま



焔... 草を火で
焔... 焼いた田
凪... 風が木を
焔... 焔

辻... 十字に交わ
榎... 堅い木
嘶... 口から新し
神... 神にそなえ
働... 人(イ)が
峠... 山の上りと
下りの境



型 型 型 型 型 型 型 型 型 型

②てほん 典型

【学習】「型」は右の①②のように使いますが、「形」は「物のすがた・かたち」のことで、「形見・ひし形・手形・花形・屋形船」などと使います。↓160頁。

①物のもとになる形——原型・紙型・模型・類型・型紙・型どおり・型破り・鑄型・大型・木型・血液型・ひな型

- 型紙をあてて布を切る。
- 建物の模型を作る。
- 流線型のスポーツカー。

【なりのち】型（わくにはめる）と土を合わせた字です。土で作った、いものの「かた」を表します。



おんケイ
かた

型
(4年・9画)

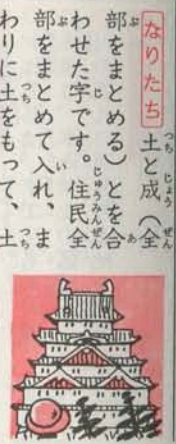
型

城 城 城 城 城 城 城 城 城 城

【学習】「宮城」は天皇のいらっしゃる所ですが、今は、ふつう「皇居」とよんでいます。●「不夜城」は、夜も昼と同じように灯火がついて明るく、にぎやかな場所のことをいいます。

○敵を防ぐためにきずいたとりで。しろ。城下・城主・城中・城内・城壁・城門・宮城・古城・築城・落城

- 名古屋には有名なお城があります。
- 城のまわりの町を城下町といいます。



おんジョウ
しろ

城
(6年・9画)

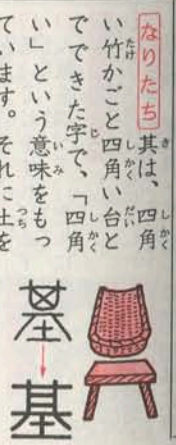
城

基 基 基 基 基 基 基 基 基 基

【学習】「基点」は物をはかるときのもことになる点のことで、「起点」は出発点のことです。「東京駅を基点に各駅までの距離をはかる」、「東海道本線は、東京駅が起点だ」のように使います。

○ものごとの土台。根本。基幹・基金・基準・基礎・基地・基調・基点・基盤

- 規則に基づいて行動する。
- 憲法は国の基となるものです。
- スポーツは基本の練習がたいせつだ。



おんキ
もと・もとい

基
(5年・11画)

基

おんハン
さか

坂

(3年・7画)

坂

【なりのち】反（そりかえってかたむく）と土とを合わせた字です。山がたにそりかえってかたむいている土地、つまり「さか」のことを表します。



- 五十の坂をこす(五十歳をすぎる)。
- 上り坂はゆくり、下り坂はいそいで。
- 見上げるような急坂をかける。

【なりのち】反（そりかえってかたむく）と土とを合わせた字です。山がたにそりかえってかたむいている土地、つまり「さか」のことを表します。

均 均 均 均 均 均 均 均 均 均

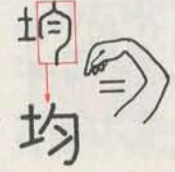
おんキン

均

(5年・7画)

均

【なりのち】勻は手を一まわりさせた印と＝（そろえる）とを合わせた字です。それに土をつけて、土をならして、全体にゆきわたらせることを表します。



- 全部に公平にゆきわたる。ならず。均一・均し。
- 四回のテストの平均点を計算する。
- どれもこれも百円均一です。
- 均整のとれた、美しいからだ。

【なりのち】土と成（全部をまとめる）とを合わせた字です。住民全部をまとめて入れ、まわりを土をもって、土かべでかためた「しろ」を表します。

垂 垂 垂 垂 垂 垂 垂 垂 垂 垂

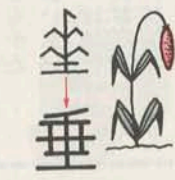
おんスイ

垂

(6年・8画)

垂

【なりのち】イネのほのたれたかたちと土とを合わせた字で、ほが土の上にたれ下がっていることから、「たれる」意味を表します。

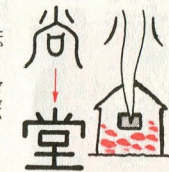
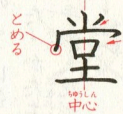


- 机の上にインキを垂らす。
- 雨雲がひくく垂れる。
- 三角形の底辺に垂直な線。
- 医者に胃下垂だといわれる。

【なりのち】其は、四角い竹かごと四角い台とでできた字で、「四角い」という意味をもっています。それに土をつけて、「四角い土台」を表します。

堂

(4年・11画)



なりたち 尚は、かべのあなから空気が出ていくようすをえがいた字で、高くひろくひろがることを表します。それに土をつけて「ひろく高い土台・ひろく高い土台の上のごてん」を表します。

- お寺の本堂に古い仏像がある。
- 音楽会の会場は公会堂です。
- 選手たちが堂々と行進する。

おん ジョウ
ん ドウ

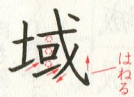
① 寺や神社の拝殿——金堂・聖堂・本堂
② ひろく大きな建物——議事堂・公会堂・講堂・食堂・殿堂・禮拜堂
③ 大きくりっぱなようす——堂々

学習 他人の母親をうやまつて、「母堂」とよぶことがあります。

堂 堂 堂 堂 堂 堂 堂 堂 堂 堂

域

(6年・11画)



なりたち 或は(二)上下の線でくぎったり(領地)を(ほこ)で守ることを表し、もとは「くぎった土地」という意味でした。のちに或が別の意味に使われるようになったので、土をつけて、もとの意味を表すようにしました。

- かれの芸は、すでに名人の域に達した。
- 赤旗は、水泳禁止の区域を示す。
- 川の流れの周囲の土地を流域という。

おん イキ
ん 域

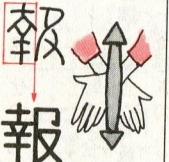
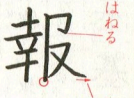
① さかい。くぎり。かぎられたところ。音域・区域・地域・流域・領域
② 地方。くに。異域・西域

学習 「域」と形がにているので、書きまちがえないようにしましょう。

域 域 域 域 域 域 域 域 域 域

報

(5年・12画)



なりたち 幸(手じょう)と良(ひざまずいた人と手)とを合わせた字です。罪人に手じょうをかけてひざまずかせ、手でしかえしをすることから、「おかし・むくい」の意味を表します。

- 優勝して先生のご恩に報いたい。
- 悪いことをすれば必ず報復を受ける。
- 人数を調べて、先生に報告する。

おん ホウ
ん ムクイ

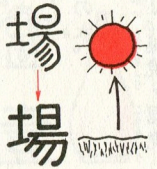
① むくい。おかし。しかえし。報酬・報奨・報償・報復・因果応報
② しらせ。しらせる。報告・報道・官報・△吉報・警報・公報・急報・時報・情報・速報・電報・年報・予報

学習 「報」と書きまちがえないように。

報 報 報 報 報 報 報 報 報 報

場

(2年・12画)



なりたち 易は、日(太陽)と、高くのぼる印とを合わせた字で「高くあがる」という意味です。それに土をつけて、高く土を盛りあげた土地を表します。

- きみのすわる場所はこちらだ。
- 雨の場合は運動会を中止します。
- バレーボール大会の会場は体育館です。

おん ジョウ
ん バ

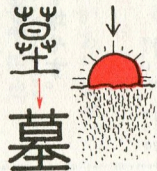
① ところ。ばしよ。場外・場内・運動場・会場・工場・退場・登場・農場・飛行場・市場・現場・広場・役場
② とぎ——場合

学習 「場」のついた字には、「陽(太陽)」「湯(湯水)」「△場(揚げ物)」などがあります。

場 場 場 場 場 場 場 場 場 場

墓

(5年・13画)



なりたち 莫は、太陽が草原にしずむようすをえがいた字で、「見えなくなる・ない」という意味を表します。それに土をつけて、死んだ人が見えなくなる土盛りを表します。

- 母の命日に墓参りをする。
- 墓前に花をそなえる。

おん ボ
ん ハカ

○死んだ人をほうむる所。はか。墓穴
○墓参・墓石・墓地・墓標・墓場
学習 「墓」や「△墓(募集)」と書きまちはがえやすいので、注意しましょう。

学習 「墓穴をほる」ということばは、「自分で失敗のもとをつくること」のたとえに使われます。

墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓

塩

(4年・13画)



なりたち もとの字は鹽でした。鹵(塩のかたまりが点々と見えるようす)と音を表す監とを合わせた字です。

- 海の水は塩からい。
- 海からの風は塩気をふくむ。
- ゆでたまごに食塩をかける。
- 塩素は強い気体です。

おん エン
ん シオ

① しお——塩害・塩水湖・塩田・塩分・岩塩・食塩・製塩・塩から・塩づけ
② 化学に使うことは——塩酸・塩素

学習 海水をさしていう「しお」は、「潮(266頁)」を使います。例 潮風・黒潮・満ち潮。元気がなく、しおれたようすを、「青菜に塩」といいます。

塩 塩 塩 塩 塩 塩 塩 塩 塩 塩

境

(5年・14画)

境

おんキヨウ・ケイ
くんさかい

なりたち 境は、音と、ル(ひざまずいた人)とを合わせた字で、人が音楽を一曲うたいおわつて、くぎりをつけてたことを表します。それに土をつけて土地の「くぎり・さかい」を表します。



つかいかた

- となり村との境に橋がある。
- 国境をまもる兵士たち。
- 静かな環境で勉強したい。
- お宮の境内のイチヨウの木。

いみじゆく

- ①さかい。くぎり。境界・越境・国境
 - ②場所。境・境・境地・辺境・理想境
 - ③ありさま。逆境・心境・進境
- 学習 「鏡」も、つくりが「鏡」で、音読みもキヨウです。訓読遠鏡

増

(5年・14画)

増

おんゾウ
くんます・ふえる・ふやす

なりたち 曾は、こんろの上にせいろを重ねて、ふかしているようすをえがいた字で、「上」に重なることを表します。それに土をつけて、土がつみ重なることを表します。



つかいかた

- 長雨のため、川の水が増す。
- 都市の人口が年々増える。
- 商売にはげんで貯金を増やす。
- 交通事故が増大する。

いみじゆく

- ①ます。ふえる。ふやす。増員・増加・増額・増強・増減・増産・増収・増進・増水・増設・増大・増築・急増・倍増
 - ②おごり、たかぶる。増上・増長
 - ③「増」の反対は「減」です。
- 学習 「増」の反対は「減」です。

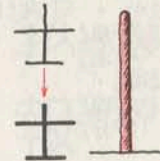
士

(4年・3画)

士

おんシ
くん

なりたち 士は、まっすぐき立った形をえがいたものです。



つかいかた

- 主君につかえる武士。
- 父のしごとは弁護士です。
- あのおじいさんは村の名士です。

いみじゆく

- ①つわもの。さむらい。軍人。士官・士気・士族・士農工商・騎士・義士・武士・兵士・勇士・力士
 - ②学問やしごとの資格を身につけた人。運転士・博士・学士・計理士・操縦士・代議士・博識・弁護士
 - ③男をほめて言う。居士・紳士・名士
- 学習 「士」とまちがえやすいので、注意しましょう。●特別な読みかたに「一」言居士・博士・名士があります。

壺

(6年・7画)

壺

おんイチ
くん

なりたち もとの字は壺でした。口をかたくしめ、中にいっばい物がつまっている、つぼの形を表します。そのイチという音をかりて、「一」を表します。



つかいかた

- 壺万円。○金五拾壺万円。
 - ひとつ。「一」に代用する字。壺万円・金参拾壺万円
- 学習 領収書・証書・小切手・証券などに金額を書くとき、「一」だともっと多い数字に書き変えられるおそれがあるので、それを防ぐために、「壺」を使います。その場合、「二・三・十」も、それぞれ「式・参・拾」と書きます。

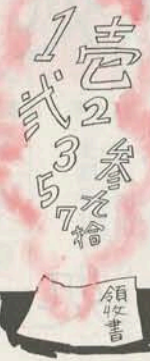
壺 壺 壺 壺 壺 壺

壺・式・参...

品物などの代金をはらったとき、そのことを証明する紙をもらうことがありますが、それが領収書です。領収書の数字を見ると、壺万式千参百五拾円也などと書いてあることがあります。これを、もし、金 一万二千三百五十円也と書くと、

- 「一」に「一」を加えて「十」
- 「二」に「一」を加えて「三」
- 「三」に「一」を二本加えて「五」

としたりして、金 十万三千五百五十円也 などと書きかえることができます。これをふせぐために、「壺・式・参・拾」などの、むずかしい漢字を使うのです。



声

(2年・7画)

声

おんセイ・シヨウ
くんこえ・こわ

なりたち もとの字は聲でした。声(石板をぶら下げた形)と(声)をたたく棒を手にもつ形)と耳とを合わせた字で、耳にひびく声や音を表します。



つかいかた

- となりの家から大きな声がかえってくる。
- 無理な発声をして声帯を痛めました。

いみじゆく

- ①おと。ひびき。とくに人や動物の口から出すこえ。声楽・声帯・音量・音声・銃声・笑声・大声・肉声・美声
 - ②ことばを出す。声援・声明・声優
 - ③ひょうばん。声価・声望・声名人
- 学習 「シヨウ」「こわ」という読みは、「大音聲」「声色・声高・声音」などのことばに使われます。

声 声 声 声 声 声

変 変 変 変 変 変

なりたち もとの字は變です。(糸がもつれる)と夕(動作を表す印)とを合わせた字で、「もつれて、へんなぐあいになること」を表します。

つかいかた

- つくえの置き場所を変える。
- 雲の形がいろいろに変化する。
- 風が出て天候が急変した。

いみじゆく

- ①次々とかわる。かえる。かわり。変へん
- 化・変形・變更・変質・変色・変心・変身・変遷・変転・変動・不変
- ②かわったでき事 異変・事変・政変
- ③ふつうでない 変死・変種・変人・変則・変態・変調

学習 「代わる」とのちがいで付録429頁。



変 (4年・9画)

変

売

(2年・7画)

売



なりたち もとの字は賣で、さらにその前は士の部分が出た。出と買(取引)してもうける)とを合わせた字で「物をうりに出してもうけること」を表します。

つかいかた

- 古い自動車を売って新しいのを買う。
- 売れっ子の歌手は、ねむる時間もない。
- このたんすは売約済みです。

いみじゆく

- 物をうる。あきなう。売備・売店・売買・売品・売名・売業・商売・専売・特売・発売・販売・非売品

学習 「売」の反対は、「買」です。音も同じなので、「買売、発売」などと書きまわがえないように気をつけましょう。

売 売 売 売 売 売 売 売

夏 (2年・10画)

夏



なりたち かざりのあ大きなお面をかぶつておどっている人をえがいた字です。大きくかぶさるということから、草木が大きくしげって地をおおう季節、つまり「なつ」を表します。

つかいかた

- 待ちに待った夏休みです。
- 夏季国民体育大会が始まりました。
- 昼がもつとも長い日が夏至です。

いみじゆく

- なつ。暑い季節。夏季・夏期・初夏・盛夏・夏草・夏場・常夏・真夏

学習 「夏季」は「夏の気候・季節」の意味。「夏期」は「夏の期間」の意味です。「夏季ポーンナス」「夏期林間学校」などを使い分けます。

夏 夏 夏 夏 夏 夏

処

(6年・5画)

処



なりたち 処(足)と几(台)とを合わせた字です。「足をとめて台にこしかける」ことから、もとは「場所」という意味でした。

つかいかた

- ゴミを処理する工場。
- すてネコの処置にこまる。
- むずかしい問題ですが善処します。

いみじゆく

- ①きまったところに住んでいる。ある地位についている。処世・出処・進退
- ②ところ。ばしょ。居処・要処
- ③しまつする。きりもりする。処刑・処置・処分・処方せん・処理・対処

学習 「居処・要処」などは、「居所・要所」とも書いて、同じ意味に使われます。

処 処 処 処 処 処

夕 (1年・3画)

夕



なりたち 三日月の形をえがいた字で、「日ぐれどき」を表します。

つかいかた

- 夕飯を食べる。
- 公会堂で、「映画の夕べ」が開かれる。
- すぐれた作品は、一朝一夕に生み出されるものではない。

いみじゆく

- 日ぐれどき。夕方。夕刊。夕食。夕涼み。夕立。夕月夜。夕日。夕焼け。朝夕

学習 「夕」のついた字は、「暗くて見えな」という意味にかんけいがあります。「外」内よりも暗い、「夜」暗くてよく見えないとき、「名」内うす暗いところ、口から声を出して自分のいることを人に知らせる。●特別な読みかたに「七夕」があります。

夕 夕 夕

冬

(2年・5画)

冬



なりたち もとの字は冬で、夕(食べ物)をぶらさげてかわかし、たぐわえるようすと、「冬(こおり)を合わせた字です。「ふゆ」を表します。

つかいかた

- 冬休みが近づきました。
- 冬至は一年で夜がもつとも長い日です。

いみじゆく

- 四季の一つ。ふゆ。冬季・冬期・冬至・冬眠・初冬・晩冬・立冬・冬着・冬空・冬場・冬物・冬山・真冬

学習 「冬季」は「冬の季節・冬の気候」などの意味。「冬期」は「冬のあいだ・冬のある時期」の意味です。「冬季オリンピック」・「冬季ポーンナス」・「冬期休暇」・「冬期講習会」などを使い分けます。

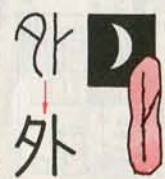
冬 冬 冬 冬 冬 冬

外

(2年・5画)

おんガイ・ゲ
そと・ほか・はずす・はずれる

○なりたち 夕(みかづき)とト(うらなう)とを合わせた字です。むかしは、月の欠けかたによつてうらないをしました。三日月の内がわが欠けて、外がわだけが残ることから、「そとがわ」という意味を表します。



○窓をあけて、外の空気をいれる。
○読書より外のことには、まったく興味がありません。
○ラッシュの時間を外して、家を出る。
○シャツのボタンが外れています。
○一度でいいから、外国に行ってみよう。
○これ以外にうまい方法はありませぬ。
○外科の病院で手術をする。

○窓をあけて、外の空気をいれる。
○読書より外のことには、まったく興味がありません。
○ラッシュの時間を外して、家を出る。
○シャツのボタンが外れています。
○一度でいいから、外国に行ってみよう。
○これ以外にうまい方法はありませぬ。
○外科の病院で手術をする。

夜

(2年・8画)

おんヤ
よ・よる

○なりたち 人間の両わきをしめす印と月とを合わせた字です。昼をはさんでその両がわにあり、月がでる「よる」のことを表します。



○くらい夜道を歩く。
○工事は夜となく昼となく続けられた。
○夜行列車で九州に行く。

○よる。暗いうち。夜学・夜間・夜具・夜景・夜食・夜半・夜分・一夜・今夜・昨夜・十五夜・深夜・昼夜・夜寒・夜空・夜中・夜長・夜店・月夜・やみ夜
○「夜」は、日がくれてからあくる日の日の出までを、「晩」は、日がくれてから夜中までの間のことをいいます。

夜
夜
夜
夜
夜

多

(2年・6画)

おんタ
おおい

○なりたち 肉をたつぷりかさねたようすを表した字です。「おおい、たくさん」の意味を表します。



○窓をあけて、外の空気をいれる。
○読書より外のことには、まったく興味がありません。
○ラッシュの時間を外して、家を出る。
○シャツのボタンが外れています。
○一度でいいから、外国に行ってみよう。
○これ以外にうまい方法はありませぬ。
○外科の病院で手術をする。

○窓をあけて、外の空気をいれる。
○読書より外のことには、まったく興味がありません。
○ラッシュの時間を外して、家を出る。
○シャツのボタンが外れています。
○一度でいいから、外国に行ってみよう。
○これ以外にうまい方法はありませぬ。
○外科の病院で手術をする。

大

(1年・3画)

おんダイ・タイ
おお・おおい・おおいに

○なりたち 人が両手と両足をひろげて立つたすがたをえがいた字です。「おおい、りっぱな」という意味を表します。



○大きくなったら医者になりたい。
○夏休みになったら、大いに遊ぼう。
○台風が近づいて、海は大あれです。
○展覧会に大勢の人がつめかけた。
○大の男がめそめそしては、おかしい。
○声を大にしてさげぶ。
○兄は大学生です。
○かれは、きつと大人物になるでしょう。
○タバコの火の不始末から大火になることもあるので、油断大敵です。

○大きくなったら医者になりたい。
○夏休みになったら、大いに遊ぼう。
○台風が近づいて、海は大あれです。
○展覧会に大勢の人がつめかけた。
○大の男がめそめそしては、おかしい。
○声を大にしてさげぶ。
○兄は大学生です。
○かれは、きつと大人物になるでしょう。
○タバコの火の不始末から大火になることもあるので、油断大敵です。

①かたちが大きい。ひろい。大海・大工事・大小・大地・大脳・大爆発。

多

おんタ
おおい

○なりたち 肉をたつぷりかさねたようすを表した字です。「おおい、たくさん」の意味を表します。

○窓をあけて、外の空気をいれる。
○読書より外のことには、まったく興味がありません。
○ラッシュの時間を外して、家を出る。
○シャツのボタンが外れています。
○一度でいいから、外国に行ってみよう。
○これ以外にうまい方法はありませぬ。
○外科の病院で手術をする。

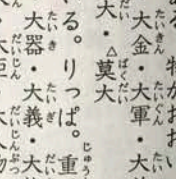
○窓をあけて、外の空気をいれる。
○読書より外のことには、まったく興味がありません。
○ラッシュの時間を外して、家を出る。
○シャツのボタンが外れています。
○一度でいいから、外国に行ってみよう。
○これ以外にうまい方法はありませぬ。
○外科の病院で手術をする。

大

(1年・3画)

おんダイ・タイ
おお・おおい・おおいに

○なりたち 人が両手と両足をひろげて立つたすがたをえがいた字です。「おおい、りっぱな」という意味を表します。



○大きくなったら医者になりたい。
○夏休みになったら、大いに遊ぼう。
○台風が近づいて、海は大あれです。
○展覧会に大勢の人がつめかけた。
○大の男がめそめそしては、おかしい。
○声を大にしてさげぶ。
○兄は大学生です。
○かれは、きつと大人物になるでしょう。
○タバコの火の不始末から大火になることもあるので、油断大敵です。

○大きくなったら医者になりたい。
○夏休みになったら、大いに遊ぼう。
○台風が近づいて、海は大あれです。
○展覧会に大勢の人がつめかけた。
○大の男がめそめそしては、おかしい。
○声を大にしてさげぶ。
○兄は大学生です。
○かれは、きつと大人物になるでしょう。
○タバコの火の不始末から大火になることもあるので、油断大敵です。

①かたちが大きい。ひろい。大海・大工事・大小・大地・大脳・大爆発。

央央央央央

○ なかば。まんなか。中心。中央。中央線・中央道路・中央部

学習 ●「央」の字のつく熟語は、今では、ほとんど「中央」しか使われませんが、「映」(映画・映写)があります。これらはエイと読みます。

なりたち 大(人が立っているすがた)のまじり中(くびのところに、横線のしるしをつけた字。「まん中」という意味を表します。



央 (4年・5画)

央

天 (1年・4画)

なりたち 大の字に立った人の頭の上に一本の線をつけて、高い所のようすをしめした字で、「大空」を表します。

つかいかた

- 天体の中で月がいちばん地球に近い。
- 夏の夜空に天の川がはつきり見える。



天

天天天天

つかいかた

- ①おおぞら——天下・天気・天上・天体・天地・雨天・晴天・曇天
- ②万物をおさめる神——天子・天罰・天命
- ③キリスト教で、神が住むといわれている所——天国・天使・天主・昇天
- ④大しぜん(の)力——天災・天然
- ⑤うまれつき——天才・天職・天性・天分

学習 ●「あめ」というのは、古い読みかたで「天の下」など使います。

太 (2年・4画)

なりたち 泰の略字としてできた字で、大と二を合わせた字です。「ひじょうに大きい」ということから、「ふ」とい・はなはだしい」意味に使われます。

つかいかた

- お宮のケヤキの木は、幹が太い。
- 病気がなあって、すつかり太った。
- 丸太をころがす。太陽がしずむ。



太

太太太太

つかいかた

- ①ふとい。まわりが大きい。——太陽・肉太
- ②ひどい。はなはだしい。——太古・太平
- ③いちばんどうとい——太子・皇太子
- ④ものごとのいちばん初め——太初

学習 ●「大(117画)」と形も意味もよいてるので注意しましょう。●特別な読みかたに「太刀」があります。

失失失失失

なりたち 下の図のようになり、手と横へぬけるしるしを合わせた字。手の中のもの、するりと横にぬけて、どこかへ行ってしまうことから、「うしなう・あやまち」の意味に使われます。

つかいかた

- 火事で家を失う。○失敗は成功のもと。
- むりな計画で大きな損失をこうむった。

学習 ●「失」と書かないように。ましがいいです。●「失」と書かないように。



失 (4年・5画)

失

夫 (4年・4画)

なりたち 大の字に立った人の頭に、かんむりをのせたすがたをえがいた字。「一人前のおとこ」を表します。

つかいかた

- わたしの夫は三年前に病死しました。
- クラス会に先生ご夫妻をおまねきする。
- 農夫が畑をたがやしている絵。
- 夫婦が協力して子どもをそだてる。



夫

夫夫夫夫

つかいかた

- ①おつと——夫婦・夫妻
- ②一人前のおとこ——美丈夫・凡夫
- ③労働にたずさわる人——漁夫・工夫・水夫・人夫・農夫

学習 ●「夫人」というのは、男のことではなく、「他人の妻」をうやまつていうことばです。●例 大統領夫人・大使夫人

奏奏奏奏奏

なりたち えだ葉のついた玉ぐしに、両手をそえた形を表す字です。形をそろえて神前にさしたすことから、「も」うしあげる」という意味を表します。

つかいかた

- 音楽会でバイオリンを奏でる。
- 音楽隊の奏する曲にあわせて行進した。
- みかたの作戦が功を奏した。
- 大ぜいの前でピアノを独奏した。

学習 ●「奏」(117画)は、男のことでなく、「他人の妻」をうやまつていうことばです。●例 大統領夫人・大使夫人



奏 (6年・9画)

奏

好 好 好 好 好 好

なりたち 女と子とを合わせた字です。女の人が子どもをたいせつにして、かわいがることを表します。

つかいかた

- あまいものを好む。
- みんなに好かれる人。
- すなおな人からに好意をいだけ。
- 健康状態は良好です。

いみじゆく

① すき。このむ。愛する。好意・好物

② ちよとよい。このましい。好日・好人物・好調・好都合・好評・良好

③ 仲がよい。したしい。修好・友好

学習 「好意」(人に対してもつ悪げのない気持ち)と「厚意」(思いやりのある親切な気持ち)を区別して使いましょう。



好 (6年・6画)

好

奮

(6年・16画)

奮



なりたち 大と世(とリ)と田(じめん)とを合わせた字です。鳥が大きくとび立とうとして、地上で力をこめてはばたくことから、「力をこめてものごとをする」ことを表します。

つかいかた

- 勇気を奮って、試合にでる。
- みんなの声を援をうけて奮起した。
- オートレースを見てすっかり興奮した。

いみじゆく

○元気をだす。ふるいたつ。奮起・奮戦・奮闘・奮発・興奮

学習 「奮」(奮)と書きまちがえないように、「ふるう」と読む字には、「奮」(奮)・「震」(震)があります。「勇気を奮う」・「力を振るう」・「身震い」と使い分けします。

妹 妹 妹 妹 妹

なりたち 未(まだのびぎらない若いえだ)と女とを合わせた字です。女きようだいのうち、まだのびぎらない年下の人という意味から「いもうと」を表します。

つかいかた

- 妹は幼稚園に通っています。
- かれは、たいへんな妹思いです。
- あの三人はなかのよい姉妹です。

いみじゆく

○いもうと——義妹・姉妹・弟妹・令妹

学習 つくりの「未」は、「未知(まだ知らない)」、「未来(まだ来ない世の中)」など、「まだ……しない」「まだ……でない」という意味です。「未」と書きまちがえやすいので、注意しましょう。



妹 (2年・8画)

妹

妻 妻 妻 妻 妻 妻

なりたち 下の図に示したように、はたと手と女を合わせた字です。はたきを手にもつてそうじをする女の人のことから、「つま」の意味を表します。

つかいかた

- 夫と妻。
- しごとのつごうで妻とはなれてくらす。
- わたしも妻も元気にくらしています。
- あの夫妻はそろって学者です。

いみじゆく

○つま——妻子・妻女・妻帯者・後妻・先妻・夫妻・亡妻・良妻

学習 「妻」の対語は「夫」です。「良妻賢母」というのは、夫にはよい妻であり、子どもにはかしこい母であることをいいます。



妻 (5年・8画)

妻

女

(1年・3画)

女

女

部首の説明
女 おんな・おんなへん

○おんなの人が手とひざをまげているすがたをうつしとった形で、「おんなの人」の意味です。

○「女」のつく字は、「おんな」「なよなよした」という意味にかんけいがあります。

○女 好 妹 妻 始 委 姉 姿

●要↓西343号。

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた

- 女の子、男の子。
- 女性むぎの雑誌。
- 天女の羽衣。○勝利の女神。

いみじゆく

① おむすめ。女の子。女子・王女・次女・少女・処女・長女・婦女・養女

② おんな。婦人。女医・女王・女学生・女官・女権・女史・女性・女流・才女・男女・美女・幼女・老女

学習 ニヨウという読みは、「女△房」ということばに使います。●ひらがなの「め」は「女」のくずし字から、かたかなの「メ」は「女」の字の一部からできました。●特別な読みかたに「海女(うみづめ)」「乙女(おんな)」があります。



姿 姿 姿 姿 姿 姿 姿 姿

○からだつき。からだのかっこう。みなり。――姿勢・姿態・勇姿・雄姿・容姿・姿見・後ろ姿・寝姿
【学習】「姿勢を直す」には「政治の姿勢を直す(人に非難されないような正しい政治をする)」という使いかたもあります。

- つかいかた
- おかあさんの姿が見えない。
- 姿見で服そうをなおす。
- よい姿勢で本を読む。

【なりたち】次(こし)をかがめて物をそろえる)と女とを合わせた字です。女の人が顔やみなりをととのえることから、「からだつき・みなり」の意味を表します。



姿 (6年・9画)

次女 (どめる)

婦 婦 婦 婦 婦 婦 婦 婦

【なりたち】女と帯(ほ)うき)を合わせた字です。そうじなど、家の中のことをする女の人のことから、「つま・よめ」のことを表します。

- つかいかた
- 家庭の主婦。
- デパートの婦人服売り場。
- 入院して看護婦さんのお世話になった。

【なりたち】女と帯(ほ)うき)を合わせた字です。そうじなど、家の中のことをする女の人のことから、「つま・よめ」のことを表します。



婦 (5年・11画)

主婦 (どめる)

始 (3年・8画)

始 (どめる)



【なりたち】台は、ム(ま)がったすき)と口とを合わせた字で、人がすきを持ち、口でかけ声をかけて仕事を始めることを表します。それに女をつけて、女の人に赤んぼうがでけははじめることから、「物事を始める」意味を表します。

- つかいかた
- 新学期は四月に始まりです。
- いよいよ試合開始です。

始 始 始 始 始 始 始 始

【なりたち】台は、ム(ま)がったすき)と口とを合わせた字で、人がすきを持ち、口でかけ声をかけて仕事を始めることを表します。それに女をつけて、女の人に赤んぼうがでけははじめることから、「物事を始める」意味を表します。

委 委 委 委 委 委 委 委

委 (4年・8画)

委 (どめる)



【なりたち】禾(ほ)がたれたイネ)と女を合わせた字です。女やイネのほのように、しなやかで力がないことから、人のするまにまかせることを表します。

- つかいかた
- 学級委員をえらぶ。
- 委員をひらく。
- 委細はお会したときに話します。
- すっかり自信をなくして委縮する。
- このしごとは、専門家に委任しよう。

姉 姉 姉 姉 姉 姉 姉 姉

姉 (4年・8画)

姉 (はわる)



【なりたち】むかしの字は姉でした。朱は、つるの巻いた棒の上のはしを一で示した字です。それに女をつけて、女さよふだいのうちの年上の者を表します。のちに、姉を使うようになりました。

- つかいかた
- わたしには姉が二人います。
- なかのよい三人姉妹が通ります。
- 二つの都会は姉妹都市の関係にある。

【なりたち】むかしの字は姉でした。朱は、つるの巻いた棒の上のはしを一で示した字です。それに女をつけて、女さよふだいのうちの年上の者を表します。のちに、姉を使うようになりました。

姉妹都市

「姉妹都市」というのは、文化の交流や親善のために、友好関係をむすんでいる二つの都市のことです。つぎは姉妹都市の例ですが、地図で、その場所をしらべてみましょう。

- 札幌 ― ポートランド(アメリカ)
- 仙台 ― リバースайд(アメリカ)
- 東京 ― ニューヨーク(アメリカ)
- 横浜 ― サンジエゴ(アメリカ)
- 新潟 ― リヨン(フランス)
- 金沢 ― ハバロフスク(ソ連)
- 名古屋 ― イルクーツク(ソ連)
- 京都 ― ロサンゼルス(アメリカ)
- 大阪 ― ポストン(アメリカ)
- 神戸 ― シアトル(アメリカ)
- 下関 ― マルセーユ(フランス)
- 長崎 ― 釜山(韓国)
- 鹿児島 ― セントポール(アメリカ)
- 鹿兒島 ― ナポリ(イタリア)

●部首の説明
子(こ)二(へん)



○両手をひろげた小さい赤んぼうの姿をうつしとったもので、「こども」の意味を表します。

○「子」のつく字は、こどものおこない(孝・学など)とか、こどもにかんけいのある意味をもっています。
子 字 存 孝 季 学 孫



子

(1年・3画)

おんシ・ス

なりたち 部首の説明
とおなじです。

つかいかた



○けさ、シロが三びき子をうんだ。

○広場で子どもたちが遊んでいる。
○親会社と子会社。
○男子と女子にわかれて、体操をする。

いみ(じゆく)

①こども 子女・子息・子孫・子弟・王子・父子・母子・養子・利子
②りっぱな男の人 君子・才子
③ちいさなもの 原子・種子・粒子
④ことばの下にそえることば 菓子・障子・調子

子 子 子

孝

(6年・7画)

おんコウ



なりたち 老(ろう)の上の部分と子(こ)を合わせた字です。マは「老」とおなじで、「かみ」の毛(け)がなく、こしのまがたつた「孝」の意味をもっています。年をとった親を、子どもがたいせつにするようすを表します。



つかいかた
○親孝行な子ども。
○親に心配をかけるのは不孝なことです。
○忠孝とは、忠義と孝行のことです。

いみ(じゆく)
○父母をたいせつにすること 孝子・孝女・孝心・孝養・忠孝

学習 「考(かう)る」や「老(らう)」と形や読みがにっています。まちがえないようにしましょう。

孝 孝 孝 孝 孝 孝 孝 孝

字

(1年・6画)

おんジ



なりたち 宀(やね)と子(こ)を合わせた字です。子どもががつぎつぎに生まれるように、もじもつぎつぎとふえていくことから、「もじ」を表すようになりました。

つかいかた

○字はきれいに書きましょう。
○「未」と「末」は字形がにている。
○大きな活字の見出し。

いみ(じゆく)

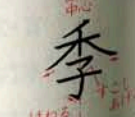
①もじ 字画・字句・字体・字典・字幕・赤字・活字・漢字・黒字・誤字・数字・題字・点字・文字・字配り
②町や村の中の小さな区分 大字・小字
学習 「字」と形がにているので、まちがえないようにしましょう。

字 字 字 字 字 字 字 字

季

(4年・8画)

おんキ



なりたち 禾(いね)の「ほ」と子(み)のつてできたことも。たね」とを合わせた字です。「イネがみのつてとられる時期」を表します。

つかいかた
○秋はさわやかな季節です。
○雨季がくると雨が降りつづきます。
○一年に四回でる季刊雑誌。

いみ(じゆく)
○一年を春、夏、秋、冬の四つにわけたそれぞれとき 季語・季候・季節風・季題・夏季・乾季・四季・秋季・春季・冬季

学習 俳句には季節を表すことが必要で、それを「季語」、あるいは「季節」といいます。

季 季 季 季 季 季 季 季

存

(6年・6画)

おんソン・ゾン



なりたち 在(ざい)の上の部分と「子」を合わせた字で、「のこされた子ども」の意味でした。それから、「なにかがそのままある」という意味になりました。

つかいかた

○わたしはなにも存じません。
○神様はほんとうに存在するだろうか。
○かんづめは保存のきく食料品だ。
いみ(じゆく)
①ある 存在・存続・依存・温存・共存・現存・実存
②生きている 存命・所存・生存
③知る おもう。考え。 異存・一存
学習 「共存・依存」は、「きようぞん・いぞん」とも読みます。

存 存 存 存 存 存 存 存

守 守 守 守 守 守 守

守 (3年・6画)

なりたち 宀(やね)と寸(手)とを合わせた字です。やねの下にかこいこんでまもることを表します。

つかいかた

- 交通規則を守りましょう。
- 小さい子どものお守をする。
- 神社で守りふだをもらう。
- 九回の裏、最後の守備につく。
- きょうは午後から家を留守にします。

いみ・ぶく

○まもる。みまもる。――守衛・守護・守勢・看守・攻守・固守・死守・保守・守り神・守り袋・子守

学習 「守」の反対の字は、「攻(せめ)」です。「守備」の反対語は「攻撃」です。



おん シュ・ス
く まもる・もり

守 (ほろ)

安 安 安 安 安 安 安

安 (3年・6画)

なりたち 宀(やね)と女(に)とを合わせた字です。女の人が家の中でしずかにしているようすを表します。

つかいかた

- よい品物を安く売る店。
- あかちゃんのアラかな寝顔。
- 安易にものごとを考えて失敗する。

いみ・ぶく

①おだやか。おちついている。――安住・安心・安静・安全・安置・安定・安眠・安楽・慰安・治安・不安・平安・保安

②ねだんがやすい。――安価・安物・格安

③かんたん。――安産・安直

学習 「安」をふくむ熟語とその反対語には、「安価↑高価」「安心↑不安」「安全↑危険」などがあります。



おん アン
く やすい

安 (やす)

宅 宅 宅 宅 宅 宅 宅

宅 (6年・6画)

なりたち 宀(やね)と毛(け)が土(つち)にじつと根をおろしたようすを表します。それに(やね)をつけ、「おちついてすむ家」の意味の字になりました。

つかいかた

- 町はずれに新しい住宅がどんどん建つ。
- 仕事がたくさんあって帰宅がおくれた。
- 山をけずって宅地をつくる。
- 日曜日に先生のお宅にあそびに行った。

いみ・ぶく

○すまい。やしき。うち。――旧宅・居室・在宅・私宅・自宅・社宅・新宅・邸宅・別宅・本宅

学習 「お宅ではいかがですか」などを使うと、あいての家庭や、あいてのことをいねいというこばになります。



おん タク

宅 (たく)

学 (1年・8画)

なりたち 勹(か)はしは學と書きました。爻(えん)はまじわるしるしです。先生(せんせい)とでし(し)がまじわって知識(ちしき)のやりとりをするたてものを表します。

つかいかた

- 学校で学んだことを社会で生かす。
- 外国の児童文学の全集。
- 科学の発達。

いみ・ぶく

①べんきようする。まなぶ。――学者・学習・学生・学年・学問・学用品・学力・学期・学級・見学・勉学

②学校――在学・進学・大学・通学・入学

③学問 研究・学説・学部・医学・化学・心理学・天文学・物理学・文学

学習 「まなぶ」は、もとは、「まね」が、先生の教えをまねる意味でした。



孫 (4年・10画)

なりたち 子(こ)と系(けい)とを合わせた字です。系は血(け)がつながっているようすを表します。糸(いと)がつながるように、「血がつながってつくく小さい子ども」の意味です。

つかいかた

- 孫の手をひいて散歩するおじいさん。
- 子孫のために財産をのこす。
- 背中をかく道具を孫の手といいます。

いみ・ぶく

○おじいさん、おばあさんからみた、こどもの、こども――子孫・孫子・孫引き・内孫・外孫・初孫

学習 「孫引き」とは、本に書いてあることを、もとにあたって調べないで、そのまま使うことです。



●部首の説明

宀(うかんむり)

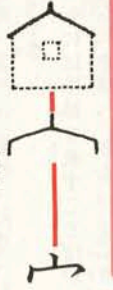
●高いやねのいへの形をうつしとつたもので、「いえ」「やね」「おおい」などの意味を表します。

●「子」のついた字は、いへの種類(たぐい)や状態(あん・富(ふ)ど)にかんけいする意味をもっています。

ほかに「尸(まだれ)も、「いえ」の意味をもっています。

また、「(わかんむり)は、「かぶる」「おおう」の意味で、形も意味もにしていますから、まちがえないように注意しましょう。

302 宀。空↓穴303 宀。案↓木236 宀。窓↓穴303 宀。憲↓心196 宀。



官 官 官 官 官 官 官 官

なりたち 宀(やね)
と目(め)をつみかさねた形(かたち)とを合わせた字(じ)です。建物(たてもの)に大きい人が集(あ)まったようすから、役所(やくしょ)を表(あらわ)すようになりました。

つかいかた
○官製(くわんせい)はがき。○重要な官職(くわんしやく)につく。○外交官(がいこうくわん)として外国(がいこく)でくらす。○身体(からだ)の器官(きくわん)のはたらきが弱(よわ)まる。

いみ・じゆく
①政府(せいふ)・役所(やくしょ) 官(くわん)吏(し)・官立(くわんりつ) 官(くわん)舎(しゃ)・官庁(くわんてい)・官報(くわんぱう) 官(くわん)吏(し)・官立(くわんりつ)
②役所(やくしょ)につとめる人(ひと) 教官(きょうかん)・事務官(じむくわん)
③人のからだの中の、いろいろなのはたらき 官能(くわんのう)・器官(きくわん)・五官(ごくわん)

学習 「官」と形(かたち)がにているので、書きまちがえないようにしましょう。



官

(4年・8画)

官

宇

(6年・6画)

宇



なりたち 于(おほ)とまげることと宀(やね)とを合わせた字(じ)で、大きくまるいやねのことを表(あらわ)します。さらに、天(あま)という大きなやねにおおわれたところつまり、「天地四方」という意味(いみ)に使(つか)われるようになりました。

つかいかた
○宇宙旅行(うちゅうりょこう)は、人類(じんるい)のゆめでした。

いみ・じゆく
○天地(てんち)。かぎりない空間(くわんかん)。——宇宙(うちゅう) 天(あま)地(ち)

学習 ひらがなの「う」は「宇」のくずし字(じ)から、かたかなの「ウ」は「宇」の上の部分(うへ)からできました。●「宇」は「宇宙(うちゅう)のほかに「宇野(うの)・宇都宮(うつのみや)・宇部(うべ)など人名(な)や地名(ち)によく使う字(じ)です。●「宇」と形(かたち)がにているので、書きまちがえないように。

完

(4年・7画)

完



なりたち 「すつばり」とまるくへいでとりまいた家(いえ)の意味(いみ)から、「欠(か)けたところがない」という意味(いみ)に変わりました。

つかいかた
○伝染病(でんせんびょう)にそなえ、消毒(しょうじく)を完全(かんぜん)にする。○まもなく体育館(たいいくくわん)が完成(かんせい)する。○未完(みかん)の作品(さく品)のおおい小説家(しょうせつか)が。○エラーがつづいて試合(しあひ)に完敗(かんぱい)した。

いみ・じゆく
①ぜんぶそろっている。欠(か)けたところがない。——完勝(かんしょう)・完敗(かんぱい)・完備(かんび)・完備(かんび) ②すつかりおわる。完結(かんけつ)・完工(かんこう)・完遂(かんすい)・完投(かんとう)・完納(かんなつ)・完了(かんりょう)

学習 映画(えいが)や小説(しょうせつ)の最後(さいご)に、「完(かん)」とあるのは、「おわり」という意味(いみ)です。

宗

(6年・8画)

宗



なりたち 宀(やね)と示(かみ) (神(かみ)と祖先(そせん)をまつる祭(まつ)だん)とを合わせた字(じ)です。それから、「祭(まつ)だんのある、一族(いっさく)の中心(ちゅうしん)となる家(いえ)や「祖先(そせん)をまつること」の意味(いみ)に変わりました。

つかいかた
○宗教(しゅうきょう)は人のなやみをなくすため(ため)にある。○宗家(しゅうけ)から茶道(さどう)の免状(めんじょう)をもらう。

いみ・じゆく
①神(かみ)や仏(ぶつ)のおしえ——宗教(しゅうきょう)・宗旨(しゅうし)・宗徒(しゅうと)・宗派(しゅうはい)・宗門(しゅうもん)・改宗(かいしゅう) ②本家(ほんけ)。茶(ち)の湯(ゆ)やいけ花(はな)などのおおもとになる家(いえ)。——宗家(しゅうけ)・宗匠(しゅうしやう)

学習 「禪宗(ぜんしゅう)・日蓮宗(にっれんしゅう)などの「宗(しゅう)」は、仏教(ぶつぎょう)の流派(りゅうはい)を表(あらわ)します。●仏教(ぶつぎょう)・キリスト教(きりすとぎょう)・回教(かいぎょう)は世界の三大宗教(さいだいしゅうきょう)です。

定

(3年・8画)

定

なりたち 疋(あし)をとめることと宀(やね)とを合わせた字(じ)です。一つの家(いえ)におちついて動(うご)かないことを表(あらわ)します。

つかいかた
○旅行(りょこう)の日(ひ)どりが定(さだ)まる。○ねらいを定(さだ)めて矢(や)を射(や)る。○三角定規(さんかくていぎ)で線(せん)をひく。○毎週木曜日(まいしゅうもくようび)は定休日(ていきゅうび)です。

いみ・じゆく
①さだめる。きめる。——規定(きぎてい)・決定(けつてい)・指定(しじ)定(てい)・測定(さくてい)・測定(さくてい)・未定(みてい)・予定(よくてい) ②かわらない。きまつている。——定員(ていゐん)・定温(ていおん)・定価(ていげ)・定期(ていき)・定食(ていじき)・一定(いてい)・不定(ふてい) ③ぐらぐらしない。——定着(ていさく)・安定(あんてい)・固定(こくてい)

学習 きまつたやりかたを「定(てい)石(せき)」、将棋(しょうぎ)では「定跡(ていせき)」といいます。



実

(3年・8画)

実

なりたち もとの字(じ)は實(じつ)です。宀(やね)と母(はは) (イネのいっばいみのつた田(た)と貝(かい)(たから)とを合わせた字(じ)。家の中(うち)にたからをいっばいにみたくことです。

つかいかた
○早く実(み)がなれ、カキの木(き)よ。○努力(どりよく)が実(み)って試験(しけん)に合格(ごうかく)した。○実(み)は、ぼくがガラスをわったんです。

いみ・じゆく
①木(き)や草(くさ)のみ——果实(じつ) ②ほんとうのこと——実感(じつかん)・実感(じつかん)・実感(じつかん)・実行(じつこう) ③まごころ——実直(じつちく)・誠実(せいじつ) ④なにかみ——実質(じつしつ)・充実(じゅうじつ)

学習 「現実(げんじつ)」はほんとうのこと、「実(じつ)」はほんとうになることです。



定 定 定 定 定 定 定 定

実 実 実 実 実 実 実 実

宙

(6年・8画)

おんチユウ



なりたち ㄥ(やね)
と由とを合わせた字で
す。由は、「やねをさ
さえるじく」のことで、
「大空」の意味から、
「かぎりない時間」の意味に使うようにな
りました。

つかいかた

- 鉄棒にぶらさがると、足が宙にういた。
- 体操の選手が宙返りをする。
- 予算がないので計画が宙にまよう。
- 宇宙飛行士がロケットに乗りこむ。

いみ・じゆく

- ①空中。地面からはなれたところ。――
宙返り・宙ぶり・宙乗り
 - ②かぎりなくつづく長い時間――宇宙
- 学習** 本などを見ないで返事をするこ
とを、「宙で答える」といいます。

宝

(6年・8画)

おんホウ



なりたち もとの字は
寶でした。ㄥ(やね)
と王(玉)と缶(うつ
わ)と貝(おかね)と
を合わせた字です。家
の中にたいせつなものがたくさんあるよ
うすを表します。

つかいかた

- この絵はわが家の宝です。
- 星が宝石をちりばめたように美しい。
- 日本列島の近海は魚の宝庫だ。

いみ・じゆく

- たから。たいせつなもの。めずらし
なもの。――宝玉・宝典・宝物・家
宝・国宝・財宝・名宝・宝船・子宝
- 学習** 「重宝」は、読み方で意味がかわり
ます。「じゆうほう」は、たいせつなたから
「ちようほう」は、便利で役にたつようす。

客

(3年・9画)

おんキヤク・カク



なりたち ㄥ(やね)
と各(つかえてうごか
ないこと)とを合わせ
た字です。「他人の家
にしはらくとどまる
人」を表します。

つかいかた

- お客さん、忘れ物ですよ。
- お正月は来客がおおい。
- 観光シーズンで旅客がふえる。

いみ・じゆく

- ①たずねてきた人。まねかれた人。――客
室・客人・客席・客間・主客・先客
 - ②お金をはらってものを買ったり、利用
したりする人――客車・観客・乗客
 - ③心のそとにあるもの――客体・客観
- 学習** 形をまちがえやすい字に「内容・
容器」などの「容」があります。

客 客 客 客 客 客 客 客

宣

(6年・9画)

おんセン



なりたち 亘(まるく
とりまくこと)と、ㄥ
(いえ)を合わせて、
まわりにへいのある、
りっぱな建物のことで
した。「かこむ」意味から、それをまわ
りにひろげて、「ひろくゆきわたらせる」
という意味になりました。

つかいかた

- 新しい製品をテレビで宣伝する。
- 大会委員長が開会を宣言する。

いみ・じゆく

- ひろく、大ぜいの人に知らせる――宣
教師・宣言・宣告・宣戦・宣伝
- 学習** 書きまちがえやすい字に「宣
味で、「仕事があまくいくように便宜を
はかる」などと使います。

宣 宣 宣 宣 宣 宣 宣 宣

室

(2年・9画)

おんシツ



なりたち ㄥ(いえ)
と至(おくまでとどく
こと)とを合わせた字
で、もとは、「いちば
んおくの行きどまりの
へや」のことでした。

つかいかた

- ぼくの教室は三階にあります。
- 室内と室外では、温度が五度もちがう。

いみ・じゆく

- ①へや――室温・暗室・温室・客室・私
室・事務室・職員室・寝室・茶室・別
室・待合室・密室・浴室
 - ②むろ。土をほって、ものを入れておく
あな。――石室・氷室
- 学習** 「至」をふくんでいる「屋」も、
もとは「家のおくにあるへや」の意味で
した。

室 室 室 室 室 室 室 室

読み方で意味がちがうことば

「重宝」のように、読みかたで意味
がちがってくることは、ほかにも
あります。注意しましょう。

工夫 工事をする人
よくなるように試みること
和歌などを書く四角い紙
いろいろな色にそめた紙



初日 しばいなどの最初の日
元日の朝日・日の出

生物 生命のあるもの
なまの食べもの
みがわり・代理

名代 ゆうめいなこと
ゆうめい

風車 風力で作業をするしかけ
風ではねが回るおもちゃ



容容容容容容容容

なりたち 一 (いえ)
と谷(くぼみ)とを合わせた字です。「なかに物を入れるようなあな」の意味です。

つかいかた
○ジュースを紙の容器に入れる。
○声が小さくて話の内容が聞きとれない。
○病人の容体が急に悪くなる。
○二階から家具をおろすのは容易でない。

いみ・じゆく
① なかにいれる。入れたなかみ。容器・容積・容量・収容・内容
② ききいれる。ゆるす。容認・許容
③ たやすい。やさしい。容易
④ すがた。かたち。容姿・美容

学習 書きまちがえやすい字に「客」があります。気をつけましょう。



容

(5年・10画)

容

容

宮宮宮宮宮宮宮宮

なりたち 一 (やね)
と二つの口(家のある四角い場所)とを合わせた字です。おくのほうまでいくつも家のある、りっぱな建物のことです。

つかいかた
○七五三でお宮参りに行く。
○ヨーロッパの王宮を見学する。
○伊勢神宮に参拝する。
○犯人がわからずに迷宮入りした事件。

いみ・じゆく
① くてん。りっぱなやしき。王宮・迷宮・離宮・竜宮
② 天皇のすまい。宮中・宮廷
③ じんじや。おみや。参宮・神宮

学習 形のにた字に、「官」があります。気をつけて書いてください。



宮

(3年・10画)

宮

宮

宿宿宿宿宿宿宿宿

なりたち 百は、ものがちぢまる意味で、宿は、一(やね)の下に、イ(ひと)がちぢこまることを表しました。それから、「人がとまるところ」を表すようになりました。

つかいかた
○こんどの旅行の宿はまだきめてない。
○この屋根のしたで雨宿りをしよう。
○この町は江戸時代の宿場町だった。

いみ・じゆく
① ねとまりをする。また、その場所。宿舎・宿泊・合宿・下宿・民宿・宿屋
② まえまえからの宿願・宿題・宿敵
③ 前の世からの宿業・宿命

学習 「宿」に「糸」のついた「縮」には「ちぢむ」という意味が残っています。



宿

(4年・11画)

宿

宿

害

(4年・10画)

害

害

なりたち もとは、うえからおさえつける意味でした。それから、「じやまをする」という意味がうまれました。



つかいかた

○タバコは健康に害があるそうだ。
○公害になやむ工場街の住民。
○台風のために損害をうけた建物。

いみ・じゆく

① わるいこと。よくないできこと。害悪・災害・水害・無害・利害・冷害
② きずつける。危害・殺害・傷害
③ じやまをする。障害・妨害

学習 「一利一害」(よい点もある点もある)のように、反対は、「一利」です。ただし、虫や鳥などは、「害虫」「益虫」(「害鳥」「益鳥」)のようにいいます。

害害害害害害害害

家

(2年・10画)

家

家

なりたち 一 (フタ)
などの、たいせつな家ちくを、一(やね)でおおう意味でした。それから、人や家ちくがすむ建物の意味になりました。



つかいかた

○むこうの空き地に家が建った。
○野口英世は、まずしい家に生まれた。
○夕方、家路をたどるひとびと。
○家じゆろをさがしても、なくしたものがでてこない。
○家族にだまって家出をする。
○アパートの家賃をはらう。
○人への思いやりが我が家の標語です。
○心のかよいあう、あたたかな家庭。
○山田さんの一家は、みな、しんせつな人ばかりだ。
○イス、サル、キジを家来にする。
○本家のおじさんには、あいさつに行く。

学習 ●書きかたが同じでも、読みかたがかわると、意味もかわることがあります。「大家」||りっぱなひと、「大家」||りっぱないえ、「大家」||いえを貸すひと、のようなばあいです。●「家」とにた使いかたをすれば、「屋根・酒屋」の「屋」があります。注意してください。●「いえ」と同じ意味で「うち」というときは、かなで書きます。

家家家家家家

いみ・じゆく

① 人のすむ建物。家屋・家具・家財・人家・民家・貸し家・二階家
② おやこ・きょうだいなど、いっしょにくらしている、血のつながりのある人たちでつくる集まり。家計・家事・家族・家庭・家風・実家・商家・農家・武家・分家・本家・良家
③ けいここの流派。宗家・家元
④ そのことを職業にしている人。音楽家・画家・作家・実業家・評論家
⑤ そのことで、めだつ人。専門家・努力家・勉強家



家家家家家家

宿

(4年・11画)

宿

宿

寒寒寒寒寒寒寒寒

①ざむい。つめたい。寒暑・寒帯・寒暖・寒天・寒波・寒風・寒冷・極寒・耐寒・防寒・寒空・夜寒

②さびしい。まずしい。寒村

学習 一月六日ごろから二月三日ごろまでを「寒」の季節といいます。

【なりのち】 ㇿ(やね)の下にれんがや石を積み、ハ(両手)であなをふさいでミ(こおり)のつめたさをふせぐようすを表した字です。

【つかいかた】 寒い北風がふく。かぜをひいたのか、寒気がする。サケやマスは寒流にいる魚です。剣道の寒げいこが五時から始まる。



寒

(3年・12画)

寒

察

(4年・14画)

察

察察察察察察察察

①よく見る。しらべる。観察・警察・視察・巡察・診察

②おしはかる。おもいやる。察知・考察・推察・明察

学習 音はサツです。サイとまちがえないようにしましょう。

【なりのち】 ㇿ(いえ)と祭(すみずみまできよめる)とを合わせた字です。家のよごれをとりのぞくことから、「よく見る・よくしらべる」の意味になりました。

【つかいかた】 病人の心を察して、勇気づける。アサガオの生長を観察して、記録する。事故の原因を推察する。



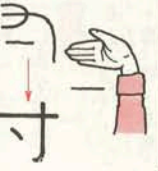
寸寸寸

①わすか。すこし。寸暇・寸劇・寸時・寸秒・寸評

学習 「寸」をふくむ字は、もとは、みな、手や、手でなにかをすることに、寸けいがありました。●日本の一寸は、約三センチの長さです。

【なりのち】 手にゆび一本のしるしをつけた形です。むかし中国では、ゆび一本のはば(約二・二五センチ)を一寸としました。

【つかいかた】 ゴール寸前でばったりたおれる。洋服の寸法をはかってもらう。台風のために、道路が寸断される。この写生は、実物と寸分かわらない。



寸

(6年・3画)

寸

寄

(5年・11画)

寄

【なりのち】 ㇿ(いえ)と奇(かたよる)とを合わせた字です。「家のひさしに身をよせる」ことから、「よりかかる・あずける」という意味に使われます。

【つかいかた】 紙くずをはいて寄せる。車をよけて、道の右がわに寄る。学校にピアノを寄付する。

①よりかかる。たよる。寄宿・寄生

②人にまかせる。あずける。おくる。寄進・寄贈・寄託・寄付

③あつまる。あつめる。寄せ書き・寄せ木細工・寄り合い・客寄せ

学習 特別な読みかたに「寄席」があります。落語などを聞かせる所です。



密

(6年・11画)

密

【なりのち】 音を表す密(すきまがない)と山(さわ)を合わせた字です。もとは、すきまがなくつづく山のおくにあつて、「人の近づけない山」の意味でした。

【つかいかた】 宝物を秘密の場所にかくす。アフリカの密林地帯。

①こっそりと。ひそかに。密航・密告・密売・密輸・機密・内密

②ぎつしりとつまる。密集・密度

③こまかくて、くわしい。精密・綿密

④くつつく。密接・密着・親密

学習 ハチミツのミツは「密」ではなく「蜜」ですが、かなで書きます。



富

(5年・12画)

富

【なりのち】 畠は中にいっぱい酒をつめたつぼの形をえがいたものです。それにㇿ(いえ)をつけて、「家の中にものがいっぱいある」ことを表します。

【つかいかた】 代で△巨万の富をきずいた人。音楽の才能に富む。

①この地方は産物が豊富です。

②いみさん。たくさんのおかねや品物。富貴・富強・富豪・富国・富裕

学習 反対語は「貧」です。「畠」をふくむ字に「福」があります。これも、お金や物がたくさんあり、ゆたかなことです。



射射射射射射射射射射射射

なりたち 身は、もとは、弓に矢をつがえた形でした。それに寸(手)をつけて、「矢をいれる」ことを表します。

つかいかた

- まどをめぐらして矢を射る。
- 畑をあらすクマを射殺する。
- インフルエンザの予防注射をする。
- かがみて光を反射させる。

いみじゆく

- ①弓で矢をいれる。鉄砲などでうつ。
- ②いさおひよくすすむ。注射・直射・日射・反射・放射

学習 言べんをつけた「謝」は、はりつめた弓のつるがゆるむように、気がゆるむことで、「射」とかんけいがあります。



おんシヤ
くん いる

射 (6年・10画)

射

将将将将将将将将将将将将

なりたち ものをもち手(寸)のなかで、いちばんながい(オ)指のことを「将指」(中指)といいました。それから、先頭にたつて行動する人のことを「将」というようになりました。

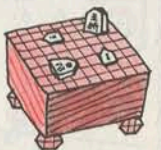
つかいかた

- 江戸時代の将軍は徳川氏でした。
- おじさんに、将棋を教わった。
- 将来はアナウンサーになりたい。

いみじゆく

- ①軍隊をひきいて指揮する人。将軍・王将・主将・大将・知将・名将・勇将
- ②これから、なにかをしようとするようす。将来

学習 「将」の寸は、もとで、「台にわたした細長い木」の意味でした。



おんシヨウ
くん

将 (6年・10画)

将

尊尊尊尊尊尊尊尊尊尊尊尊

なりたち 首(すわり)と形がよく、すわりのよいつば)を手でささげている形です。形のよいことから、「ねうちがある・みぶんが高い」などの意味になりました。

つかいかた

- 国のために尊い命をささげた戦士。神仏を尊ぶ心を失いたくない。

いみじゆく

- ①みぶんが高い。気品をそなえている。たつと。尊厳・尊卑
- ②たいせつにして、うやまう。たつとぶ。尊敬・尊称・尊重・自尊

学習 「貴」も「たつとぶ」と読みます。どうと(とうとぶ)と読みます。



おんソ
くん たつとい・とうとい・たつとぶ・と

尊 (6年・12画)

尊

おんジ
くん てる

寺 (2年・6画)

寺

なりたち 足と寸(手)とを合わせた形の字です。手足をうごかしてはたらくことで、もとはいろいろな仕事をする役所のことでした。のちに「ほどけをまつる所」を意味するようになりました。

つかいかた

- お寺に行つて仏像をおがむ。
- 京都には寺院がおおい。

いみじゆく

- てら。寺院・寺社・古寺・小僧・寺参り・尼寺・山寺

学習 「寺」のついた字は「手足をうごかす」という意味にかんけいがあります。待ててうごかして人をもてなす。時々太陽がうごいていく時間。詩心(うごき)をこばに表すうた。



寺寺寺寺寺寺寺寺寺

おんタイ・ツイ
くん

对 (3年・7画)

对

なりたち もとの字は対です。まは、楽器をかけるはしらの形をえがいた字で、これは、二つで一組になつていきます。それに寸(手)をつけて「一組になるようにそろえる」意味です。

つかいかた

- 質問に對して答える。
- 遠足を休むのは絶対(絶対)にいやだ。
- 一对の人数をプレゼントする。

いみじゆく

- ①むかいあう。あいてになる。対決・対戦・対談・対立・対話・絶対・反対
- ②二つで一組になるもの。対句・一对り(対句)・対象(あいて)・対照(くらべる)はみな意味がちがいます。



对对对对对对对对对对对对

おんセン
くん もつばら

専 (6年・9画)

専

なりたち もとの字は専で、車は糸まき用のおもりです。細い糸を何本か合わせ、おもりをまわして一本のより糸をつくることから、一つにまとめる意味を表すようになりました。

つかいかた

- 小児科専門のお医者さん。
- 市長には専用の自動車がある。
- 父は日曜日は専らゴルフに出かける。

いみじゆく

- ①それだけを一すじにするようす。ひたすら。専一・専業・専攻・専属・専任・専念・専売・専務・専門
- ②ひとりじめにする。専横・専有

学習 「専門」を「専門」と書かないように気をつけましょう。



専専専専専専専専専専専専

少 少 少 少

① 少ない。すこし。わずか。少額・少少・少少・少食・少数・少量・減少
 ② わかい。少女・少年・年少・幼少
 学習 ●「少」の反対は「多」です。「少数」→「多数」「少量」→「多量」。「少ない」を「少い」「少くない」としないように。

つかいかた
 ○きょうの会議は出席者が少ない。
 ○ほんの少ししか時間がない。
 ○参加者は予定より多少へるでしょう。
 ○少年野球大会が開かれた。

なりたち 小とノ(けずり)とる(しる)し)とを合わせた字です。けずってへらすことから、たりないという意味が生まれ、「すこし」の意味になりました。



おんショウ
 少 (2年・6画)
 少

当 当 当 当 当

① あたる。あてる。当選・当番・配当
 ② ぴったり合う。ちょうどよい。当
 然・順当・正当・適当・不当
 ③ その。当時・当日・当地・当人
 ④ さしあたっての。当座・当分・当面
 学習 わりあてる意味のときには、「充分」と書くこともあります。

つかいかた
 ○つめたい風が顔に当たる。
 ○ボールをバットのまっしんに当てる。
 ○選挙のけっか、めでたく当選した。

なりたち わかしの字は當です。田をとりかえるとき、二つの田の広さがおなじことを當と書きました。そこから「ぴったり合う」の意味になりました。



おんトウ
 当 (2年・6画)
 当

党 党 党 党 党

① なかま。残党・徒党・郎党
 ② 政治家の集まり。党员・党首・党派・結党・脱党・入党・野党・与党
 学習 自分のなかまのためだけを考へることを「党利党略」といいます。「不偏不党」というのは、「どのなかまにもはまらない」という意味です。

つかいかた
 ○党を代表して質問演説をする。
 ○自分の支持する政党に投票する。
 ○父はどちらかという洋酒党だ。

なりたち もとは、こたかい土地の意味で、そこに人が集まるところから、人が集まってつくる、「なかま」の意味になりました。



おんトウ
 党 (6年・10画)
 党

導

(5年・15画)

導

なりたち 道(みち)と寸(手)とを合わせた字です。手でひいて、きまった道や方向へつれていくことです。



つかいかた

○先生が生徒を教え導く。
 ○新しい技術を導入した海底トンネル。
 ○絵の先生について指導を受ける。

いみじゆく

① みちびく。おしえる。導入・指導・補導・誘導
 ② つたえる。とおす。導火線・導体

学習 「道」と「導」の使い分けに気をつけましょう。「伝道」は人の心み行すべき正しい道を伝えること、「伝導」は熱や電気などがものを伝わってうつることです。

導 導 導 導 導 導 導 導

小

(1年・3画)

小

なりたち ちいさい点を三つかいて、ちいさいもの、こまかいものを表す形から、この字が生まれました。「小」をふくむ、「消」「削」なども、「なくなる・けずる」など、ちいさくなる意味にかんけいがあります。

小 小

つかいかた

○赤ちゃん小さい手を動かしている。
 ○弟は小さなきから、いたずらだった。
 ○小さいことにこだわらない人。
 ○白雪ひめと七人の小人。
 ○おとうさんが犬小屋をつくってくれた。
 ○うちの庭には小鳥がやってくる。
 ○さらさらと流れる小川。
 ○妹は、こしから、小学生になった。
 ○小児科のお医者さん。
 ○読んで小説を書く。

いみじゆく

① ちいさい。こまかい。小銃・小腸・最小・縮小・大小・小型・小聲・小包・小判・小道・小文字・小指
 ② ちよつと。わずか。小差・小破・小雨・小出し・小太り
 ③ つまらない。くだらない。小事・小人
 ④ おさない。小児・小人



学習 ●「少」をよくにているので、まちがえないようにしてください。「小額のお金」といえば、一円・五円・十円などの単位のちいさい貨幣のことです。「少額のお金」は、金額が小さいことをいいます。

●「小」の反対は「大」です。「小国」→「大国」「最小」→「最大」「小型」→「大型」「小雨」→「大雨」「小道具」→「大道具」「小人数」→「大人数」「小麦」→「大麦」「小文字」→「大文字」の「お」という読みかたは、「小田・小野・小田原」など、人名や地名に使われます。●特別な読みかたに「小豆」があります。

小 小 小

就

(6年・12画)

おんシユウ・シユ
くんとく・つける

就

はわる

【なりたち】京は高い所にある建物、尤はまげた手に一のしるしがついた字です。手をまげて高い所に人をまねきよせること、また、ある場所に近づいてくつつくことを表します。



【つかいかた】

- 社長の地位に就く。
- やつのことで就職がきまった。
- 長い間の念願が成就した。

【いみ・じゆく】

①役目や仕事につく。ことにとりかかるとなす。なる。できあがる。――成就
――就学・就業・就職・就任・就眠
【学習】「つく・つける」は、ほかに「つく・付ける」「着く・着ける」という書きかたがあります。↓付録107。

就就就就就就就

居

(5年・8画)

おんキヨ
くんにいる

居

はる

【なりたち】尸(おしり)と古(こちん)とつかえる、かたいもの)とを合わせた字で、かたい台におしりをのせて、おちつくことを表します。



【つかいかた】

- 事故現場に居合わせる。
- ここは居心地がよい。
- 家族が居間にあつまる。
- 居留守をつかって客をことわる。
- 原始人の穴居生活のあと。

【いみ・じゆく】

①すまい――皇居・住居・転居
②すむ――居住・居留・群居・同居・別居
③すわる――居直る・居眠り
【学習】特別な読みかたに「一言居士(いちごんじ)」があります。

居居居居居居居

尺

(6年・4画)

おんシヤク
くんとく

尺

はる

【なりたち】人が手で長さをはかるようすをえがいた字です。大むかしの一尺のはばは、約二二・五センチでした。



【つかいかた】

- 六尺ほどもある大男。
- 巻き尺を使って校庭にラインをひく。
- 食欲は健康をはかる尺度だ。

【いみ・じゆく】

①長さの単位(一尺は約三〇・三センチメートル)――尺貫法
②長さ。長さをはかる。――尺度・縮尺
③ものさし――巻き尺・メートル尺
【学習】尺貫法というのは、長さに「尺」、重さに「貫」、量に「升」、広さに「坪」などを単位として、中国から伝わり、最近まで使われてきた、はかりかたです。

尺尺尺尺

届

(6年・8画)

おん
くんとどける・とどく

届

はる

【なりたち】もとの字は届です。由は口(あな)と土を合わせた字で土のかたまりのこと。それに尸(からだ)をつけて、ずんぐりして動きがにぶい、ということから、「ある場所にとまる・とどいてうごかない」という意味を表します。



【つかいかた】

- いなかから、きのう小包が届いた。
- 注文の品物を自転車で届ける。
- 市役所に転出を届け出る。
- 学校に欠席届を出す。

【いみ・じゆく】

①わたす。申し出る。――届け先・無届け
②申し出の書類――死亡届・出生届
【学習】形のにている字に、まげる意味の「屈」があります。注意しましょう。

届届届届届届届

局

(3年・7画)

おんキヨク
くんとく

局

はる

【なりたち】もとは、せまく入りくんだようすを表す字でした。それから、こまかくくざられた部分の意味に使われるようになりました。



【つかいかた】

- 病院の薬局で順番を待つ。
- 延長戦になったが、結局、負けた。

【いみ・じゆく】

①しごとの一部を受けもつところ――局員・局長・支局・放送局・郵便局
②くぎる。かぎる。――局所・局地・局部分
③ものごとのようす――局面・時局
④事件のなりゆき――結局・終局
⑤碁や将棋のしようぶ――対局
【学習】まちがえやすい字に、「極」があります。「いちばんはて」という意味です。

局局局局局局局

屋

(3年・9画)

おんオク
くんや

屋

はる

【なりたち】尸(かぶさってたれたぬの)と至(いさがる)とを合わせた字で、「おおってふさいだ」、さらに、「おおいかくすやね」の意味を表します。



【つかいかた】

- 肉屋にお使いに行く。
- 屋根にスズメが三羽とまっている。
- 天気が良い日は屋外で遊ぶ。

【いみ・じゆく】

①やね。いえ。――屋上・屋内・家屋・屋敷・屋根・小屋・長屋
②商店――米屋・酒屋・問屋・本屋
③人の持ちようを示すことば――皮肉屋
【学習】「屋」と「家」の使い分け↓「家」(32頁)。
●特別な読みかたに「母屋(ははや)・部屋(へや)」があります。

屋屋屋屋屋屋屋

岩

(3年・8画)

岩

はらう



島

(3年・10画)

島

はねる

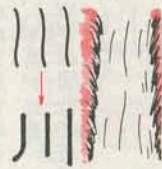


川

(1年・3画)

川

おなじに



なりたち 山と石とを合わせた字で、山にある大きなごっこつした石を表します。

- 道ばたの岩にこしかけてひと患いれる。
- あの山には、すごい岩場がある。
- この岩石は火成岩です。

つかいかた

いみじゆく
 ○いわ——岩塩・岩石・岩礁・岩盤・岩壁・巨岩・砂岩・溶岩・岩場・岩山・岩屋

学習 「岩」と「石」のちがいは、大きさで、それがある場所で区別されます。人が手で動かせるものは、「岩」とはいけません。「岩」は、山や川の中などにあり、庭にあるものは、どんなに大きくても、「石」といいます。

岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩

川

(1年・3画)

川

おなじに

なりたち 山と山のあいだをぬうようにしてながれる川のようにすえがいた字です。川は巡の「川」とおなじで、水のながれを意味します。

- 川にうかぶ木の葉。
- 川上から川下へと川岸にそって歩く。
- 日本の河川は流れが急でみじかい。

つかいかた

いみじゆく
 ○かわ——河川・川魚・川風・川口・川床・川開き・川辺・大川・小川・谷川

学習 おなじ読みかたの字に「河」(253画)があります。日本の川は、「利根川・信濃川」のように、「川」と書くのがふつうです。特別な読みかたに「川原(かわら)」があります。

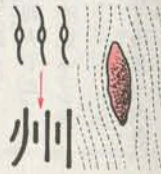
川 川 川

州

(3年・6画)

州

はらう



なりたち 川の中に、すながたまって島ができたようすをえがいた字です。

- 河口にできる州を三角州といいますが、台風は九州に接近している。
- アメリカには、五十の州がある。

つかいかた

いみじゆく
 ①川や海で、すながたまってできた島——三角州・中州
 ②おおきな陸地——欧州・本州
 ③外国での行政上の区分——州政府
 ④日本のむかしの国のよびかた——甲州・上州・信州

学習 「六大陸」とは、アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州のことです。

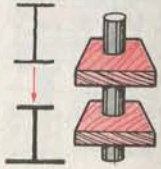
州 州 州 州 州

工

(2年・3画)

工

はらう



なりたち 上下の板にあなをあけ、それをぼうでつきぬいた形を表した字です。それから「手」を使って、しごとの意味に使われるようになりました。

つかいかた

いみじゆく
 ①つくる——工学・工具・工芸・工作
 工場・工法・加工・細工・手工・人工
 ②ものをつくる職人——石工・熟練工・女工・職工・名工・木工

学習 「工夫」は読みかたで意味がちがいます。「工夫」は「工事をする人」、「工夫」は「よい方法を考え出すこと」です。

工 工 工

左

(1年・5画)

左

はらう



なりたち ナ(ひだり手)と工(しごと)とを合わせた字で、工作のとき、物をささえてやる左手のことです。

つかいかた

いみじゆく
 ①ひだり——左岸・左記・左右・左翼手・左腕・左利き・左手・右左
 ②進歩的な考え——左派・左翼・極左

学習 進歩派を「左派」、保守派を「右派」というのは、むかしのフランスの議会で、進歩派が左側の席にいたためです。

●「左」と「右」の筆順に気をつけましょう。「右」の第一筆は「ノ」です。

左 左 左 左 左

部首の説明
巾ははへん・さんべん

●たれさがったぬのの形をうつしとったもので、「巾」のつく字は、「ぬの」「おりもの」にかんけいする意味をもっています。
にた意味の部首には、「ネ」(ころもへん)があります。これは「きもの」の意味です。

●市 布 希 師 席 帯 帳 常

差

(4年・10画)

おんサ
くんさす

なりたち 音を表す左と、イネのほ先とを合わせた字で、ほの先がふぞろいなことから、「そろわない・くいちがう」という意味を表します。



つかいかた

- 朝日が、へやいっばいに差す。
- 台の上に水差しが置いてある。
- 実力に大きな差のある両チーム。
- 男女の差別をしてはいけない。

①ちがいが——差異・差別・格差・大差
②さしひき——差額・時差
③さす——差しこみ・差出人・状差し

学習 「差す」は、「ゆびさす・つぎこむ・はいる・かざす・ふえる」などの意味を表します。

己

(6年・3画)

おんコ・キ
くんおれ

なりたち まがつたものが、のび上がることを表す字で、よばれたとき返事をしておきあがることから、「自分」という意味に使われます。



つかいかた

- 自己のことばかり考えるな。
- かれとは十年來の知己(知己知りあい)だ。
- 己のいたらなさをはじる。

いみ・じゆく
学習 ●「己」を、いくむ字は、「おきる・おこす」という意味とかんけいがあります。「起」からだをおこす。「改」もまがつたものをのびして、あらためる。

●「己」は、「己」(己)と書く、列の字になります。注意しましょう。

卷

(6年・9画)

おんカン
くんまく・まき

なりたち 人が両手をあげて、ひざをまげているかたちから、「まく」意味になりました。また、「巻いた物」の意味で、本のことまします。



つかいかた

- 寒くなったので木になわを巻きつける。
- 相手チームの強さに舌を巻く。
- タニシは巻き貝の一種です。
- 蔵の中から、古い巻き物が出てきた。
- 全巻の中で下巻のできばえは庄巻だ。

いみ・じゆく
①まく——巻紙・巻き舌・巻き尺・うず巻き・腹巻き・左巻き
②ほん——巻頭・巻末・開巻・上巻

学習 形にている字に「乗車券」の「券」(71画)があります。注意しましょう。

市

(2年・5画)

おんシ
くんいち

なりたち 「人があつまって、品物の交かんをするところ」の意味から、「人がおおぜいいる、大きなまち」の意味に使われるようになりました。



つかいかた

- この町は、去年、市になったばかりだ。
- 下町気分をつたえる、アサガオ市。
- 朝早くから魚市場で働く人々。
- 市電がなくなつて、バスが走っている。

いみ・じゆく
①まち——市価・市街・市販・都市
②いちば——青物市・朝市・植木市
③地方自治体の一つ——市営・市外・市制・市長・市民・市立

学習 「市場」を「しじょう」と読むと経済用語の意味にかかります。

市市市市市

布

(5年・5画)

おんフ
くんぬの

なりたち 巾は、「ぬの」で、ぬのをびつたりとたいらにしくことを表しました。フという音は、「たいらに、うすくひつつく」という意味を表します。



つかいかた

- 綿でできた布。○布目のあらいシャツ。
- 寒いので毛布をかさねてねる。
- パンフレットを市民に配布する。

いみ・じゆく
①ぬの。きれ。——湿布・布地・麻布
②ひろめる。ゆきわたらせる。——布教・布告・公布・散布・塗布・流布

学習 ●「巾」を、いくむ字には、「帯」(帯)「幕」など、ぬのとかんけいのある字があります。●上の段の「市」と形がよくにているので、注意しましょう。

布布布布布

帯帯帯帯帯帯帯帯

なりたち 帯 (ひもに物をおとした形) と巾 (ぬの) とを合わせた字で、「おび」の意味を表します。

つかいかた

- 姉が母に帯を結んでもらう。
- 青白かった顔がすこし赤みを帯びる。
- 地域の住民に連帯感が生まれる。

いみじゆく

- ① おび。細長いきれ。
- ② 細長い場所。温帯・寒帯・地帯・熱帯
- ③ 身につける。いっしょにする。
- ④ 生活をともにすること。所帯・世帯

学習 「帯びる」を「帯る」と書かないように注意してください。



帯 (4年・10画)

帯

希希希希希希希希

なりたち 希 (まじわるもよう) と巾 (ぬの) とを合わせた字で、織りめのこまかい布のことです。のちに、「小さくて少ない」の意味から、さらには「なかなかありそうもないこと」を、ねがうの意味になりました。

つかいかた

- そんなことがあろうと希望を持つ。
- 平和を希求する人々。
- ダイヤモンドには希少価値がある。

いみじゆく

- ① ごく少ない。希少・希代・希薄
- ② ねがう。のぞむ。希求・希望

学習 「希」は「希硫酸・希塩酸」など、化学用語では、薬品を水などでうすめる意味に使うことがあります。



希 (4年・7画)

希

帳帳帳帳帳帳帳帳

なりたち 帳 (つみかさなり) と巾 (はた) とを合わせて、軍隊などの集団を表しました。

つかいかた

- 師弟の関係をもつとたいせつにしよう。
- 兄は、医師の国家試験に合格した。

いみじゆく

- ① 教える人。先生。師事・師匠・師範・恩師・教師・講師・法師・牧師
- ② 技術をもった人。技師・美容師
- ③ ぐんたい。師団

学習 「師」は別の字です。形がにているので、注意してください。● 特別な読みかたに「師走(ししゅう)」があります。



師 (5年・10画)

師

師師師師師師師師

常常常常常常

なりたち 常 (ながい) と巾 (ぬの) を合わせた字でした。のちに、ぬのの意味がなくなり、「長い時間」の意味にかわりました。

つかいかた

- 先生は常にえがおをたやさなかつた。
- 地動説は今では常識である。
- この薬は祖父が常用しています。

いみじゆく

- ① いつも。いつでも。常温・常時・常習・常設・常備・常常・常夏
- ② ふうふう。あたりまえ。常人・常態

学習 「異常」は「正常」の反対です。「いつもの状態とちがう」の意味のときは「異状」を使います。



常 (5年・11画)

常

席席席席席席席席

なりたち 巾 (ぬの) と戸 (かされる) とを合わせた字で、「ざぶとん」という意味でした。

つかいかた

- 先に行って席をとっておいてくれ。
- 静かに着席してください。
- 送別会の席上であいさつをする。
- 大学を首席で卒業した優等生。

いみじゆく

- ① すわる場所。席順・いす席・議席・客席・空席・座席・満席
- ② 成績などの順位。席次・次席
- ③ まよおしをする場所。席料・貸し席

学習 特別な読みかたに「寄席(よせ)」があります。



席 (4年・10画)

席

年年年年年年

なりたち イネのほとんどのすがたを合わせた字です。イネが一年に一回みのることから、「とし」の意味を表すようになりまし。

つかいかた

- ことは、いつもの年よりも暑い。
- 母は父よりも年が三つ下だ。
- ともだちに年賀状を出す。

いみ・じゆく

- ① 十二月。三百六十五日。年始・年内・年末・学年・新年・豊年・翌年
- ② ねんれい 年少・年配・青年・晩年
- ③ まいとしの 年鑑・年表・年報
- ④ とき 年月・年代・近年・長年

学習 特別な読みかたに「今年」とがあります。

年 (1年・6画)

おんネン
くんとし



幕 (6年・13画)

おんマク・バク

なりたち 莫は草原のむこうに日がかくれるようすをえがいた字で、「見えなくなる・ない」という意味を表します。それに巾(ぬの)をつけて、物をおおいかくす布を表します。



つかいかた

- 幕がおりると、場内が明るくなった。
- 暗幕の設備がしてある教室。
- 徳川幕府がほろび、明治時代となった。

いみ・じゆく

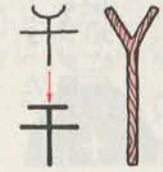
- ① まく 銀幕・黒幕・除幕式・天幕
- ② しばいのくざり 開幕・終幕・序幕
- ③ ばくふ 幕末・倒幕・討幕

学習 「莫」のついた字に「墓」「暮」「幕」があります。まちがえないようにならなう。

干 (6年・3画)

おんカン
くんほす・ひる

なりたち 敵とたたかう二またのぼうをえがいた字で、「相手とかかりあいをもつ」という意味を表します。また、乾と音がおなじなので、「かわく」の意味にも使われます。



つかいかた

- 雨がふらなくて川の水が干上がる。
- 父は干物が大好きです。
- ふとんを干して日光消毒をする。
- 雨がすくなくて干害が心配だ。

いみ・じゆく

- ① かかわりをもつ 干渉・干渉
- ② かわく。かわかす。干害・干拓・干潮・干天・干満・潮干・干狩り
- ③ いくらか。すこし。若干

学習 「干」と書きまちがえないように。

平 (3年・5画)

おんヘイ・ビヨウ
くんたいら・ひら

なりたち うき草が水面にたいらにうかんだ形をえがいた字です。



つかいかた

- 山頂が平らな山。
- ごちそうをせんぶ平らげる。
- 平たい石にこしかける。
- 先に、相手が平手でぼくをたたいた。
- 戦争のない平和な毎日。
- 人間はみな平等の権利をもっている。

いみ・じゆく

- ① たいら 平原・平坂・平野・水平
- ② おだやか 平安・平穩・平靜
- ③ ふつう 平気・平日・平常・平凡
- ④ ちがいがたい 平等・平均・公平

学習 平清盛「日本平・佐久平」など、人名や地形を表す場合は、「たいら」の「ら」を送らずに書きます。

おもな年中行事

毎年きまった時期に行う行事があります。これを年中行事といひます。そのおもなものには、つぎのようなものがあります。

一月 一日 おとそを飲み、雑煮を食べて、新年を祝う

二月 二日 書き初め

三月 三日 ももの節句・ひなまつり

四月 八日 花まつり(お釈迦さまの誕生日)

五月 五日 端午の節句

七月 七日 七夕(地方によつては八月七日)

十五日 左義長・どんと焼き...しめなわ、門松などをもちやす



四月 八日 花まつり(お釈迦さまの誕生日)

五月 五日 端午の節句

七月 七日 七夕(地方によつては八月七日)

十五日 左義長・どんと焼き...しめなわ、門松などをもちやす

九月 中秋の名月・お月見(日は年によつてちがう)

十一月 十五日 七五三・宮参り

十二月 八日 針供養:古い針の供養をする

三十一日 大晦日・除夜の鐘

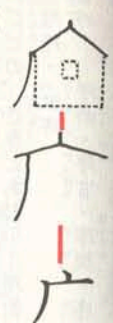
☆ ☆

火などを燃やす(地方によつては八月)



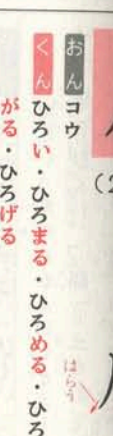
●広の部首の説明
 广 広
 庭 座席
 店 康度
 府 庫底
 庁 序
 応 ↓ 心 189 坪
 ↓ 巾 148 坪

●やねのおおいがたれさがっているようすを、うつしとったものです。
 ●「广」のつく字は、「いえ」「やね」「おおい」という意味にかんけいのあるものが多くあります。
 にた意味の部首に「广」(うかんぶり)があり、これは、「いえ」の意味を表します。
 形のにている部首に「广」(かんたれ)と「广」(やまいだれ)があります。「广」は「がけ」の意味、「广」は、「病気」の意味です。



●広の部首の説明
 广 広
 庭 座席
 店 康度
 府 庫底
 庁 序
 応 ↓ 心 189 坪
 ↓ 巾 148 坪

●「广」のつく字は、「いえ」「やね」「おおい」という意味にかんけいのあるものが多くあります。
 ●「广」のつく字は、「いえ」「やね」「おおい」という意味にかんけいのあるものが多くあります。
 ●「广」のつく字は、「いえ」「やね」「おおい」という意味にかんけいのあるものが多くあります。



●幸の部首の説明
 幸 幸
 心 運 福
 多 幸 不 幸
 天 皇 が お で か け に な る こ と 行 幸
 学 習 海 の 幸 ・ 山 の 幸 という の は 自然 から め ぐ ま れ た え も の と い う 意 味 で す

●「なりたち」もとは、「手じょう」の形をえがいた字でした。さいわいなことに、手じょうをはめられないですむという意味から、ひろく「しあわせ」の意味を表すようになりまし。



●「なりたち」もとは、「手じょう」の形をえがいた字でした。さいわいなことに、手じょうをはめられないですむという意味から、ひろく「しあわせ」の意味を表すようになりまし。

●「なりたち」もとは、「手じょう」の形をえがいた字でした。さいわいなことに、手じょうをはめられないですむという意味から、ひろく「しあわせ」の意味を表すようになりまし。

●幹の部首の説明
 幹 幹
 木 の 幹 に セ ミ が と ま っ て い る
 父 は 社 内 旅 行 の 幹 事 を ひ き う け た
 東 京 から 新 幹 線 で 九 州 に 行 く

●「なりたち」幹は日がいきおいよくのぼる、カづよいようすを表します。それに音を表す干(ふといぼう)を合わせて、カづよく、ふとい「木のみき」のことを表しました。



●「なりたち」幹は日がいきおいよくのぼる、カづよいようすを表します。それに音を表す干(ふといぼう)を合わせて、カづよく、ふとい「木のみき」のことを表しました。

●「なりたち」幹は日がいきおいよくのぼる、カづよいようすを表します。それに音を表す干(ふといぼう)を合わせて、カづよく、ふとい「木のみき」のことを表しました。

●幼の部首の説明
 幼 幼
 小 さ い 子 ども
 幼 稚 園 バ ス が 園 児 を わ け へ ぬ

●「なりたち」幼(ほそく小さい糸)とカとを合わせた字で、カのよわい、小さい子どもを表します。



●「なりたち」幼(ほそく小さい糸)とカとを合わせた字で、カのよわい、小さい子どもを表します。

●「なりたち」幼(ほそく小さい糸)とカとを合わせた字で、カのよわい、小さい子どもを表します。

庭

(3年・10画)

庭

【おんテイ】
くんにわ

なりたち 庭(いえ)
と延(たいら)にのびる(と)を合わせた字で、いえの中のたいらにひろがった所を表します。もとは、やねのある中庭のことでした。



座

(6年・10画)

座

【おんザ】
くんにわ

なりたち 坐(ざ)は人が土の上にすわるようすを表します。それに「いえ」をつけて家の中の人がすわる場所を表します。



康

(4年・11画)

康

【おんコウ】
くんにわ

なりたち 康(かたい)しんがとおっているようす(と、米のみみ)がらを合わせた字です。「かたいすじのはいつた穀物のから」の意味から、「すじがねのはいつたようなからだ」や「ものごとがかわらないようす」を表します。



庭庭庭庭庭庭庭庭

座座座座座座座座

康康康康康康康康

【つかいかた】
○美しい花が庭にたくさんさいている。
○庭先で羽根つきをする。
○晴れた日は、校庭で元気に遊ぶ。
○わが家はゆかいな家庭です。
○わたしの姉は庭球がとくいです。

【おんテイ】
くんにわ

庭・中庭・△箱庭
庭園・庭球・庭石・庭木・裏庭

【おんザ】
くんにわ

座高・座禪・座談・正座
すわる・座高・座禪・座談・正座
すわる・座高・座禪・座談・正座

【おんコウ】
くんにわ

健康・小康
からだ・健康・小康

【つかいかた】
○座布団の上にきちんと座る。
○自分の座席につきなさい。
○座談会で楽しく話し合う。

【おんザ】
くんにわ

座高・座禪・座談・正座
すわる・座高・座禪・座談・正座
すわる・座高・座禪・座談・正座

【おんコウ】
くんにわ

健康・小康
からだ・健康・小康

【つかいかた】
○父はなによりも健康をたいせつにする。
○からだがいよぶでも、心が不健康では、なんにもならない。
○祖父の病状は、小康をたもっている。

【おんコウ】
くんにわ

健康・小康
からだ・健康・小康

延

(6年・8画)

延

【おんエン】
くんにわ

なりたち 止(あし)と又(ながひく)とノ(のばすしるし)とを合わせた字で、長くのばしてすすむ意味です。

【つかいかた】
○会議が来週に延びる。
○新幹線を東京から北へ延ばす。
○金の延べ板。○延長戦で勝負がきまる。

【おんエン】
くんにわ

延焼
①ひろがる
②ながびく。先へのばす。
③合わせた数。延べ日数・延べ人数

【おんエン】
くんにわ

学習 「のびる・のばす」は「伸びる・伸ばす」とも書きます。「延」は、先へつぎたすこと。「伸」は、全体に長くすることの意味に使います。



建

(4年・9画)

建

【おんケン】
くんにわ

なりたち 聿(ふで)を立てたようす(と)又(すむ)とを合わせた字で、からだをまっすぐに立ててあることの意味でした。

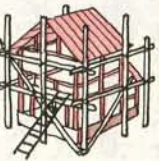
【つかいかた】
○家を新しく建てなおす。
○ここに大きなビルが建つ予定です。
○新校舎の建築工事がはじまった。
○文部大臣に建議書を提出した。

【おんケン】
くんにわ

建設・建造・建具
①家などをつくる
②あたらしくつくる
③意見を申しのべる

【おんケン】
くんにわ

学習 「たてる・たつ」は、「立てる・立つ」とも書きます。「立(304六)」のほうが広い意味に使われます。



弁

(5年・5画)

弁

【おんベン】
くんにわ

なりたち もとは「かんむり」のことでしたが、同じ発音の辨(刀で分ける)、辯(ことば、辯(はなびら))のかわりに使われるようになりました。

【つかいかた】
○弁当をもってピクニックに行く。
○弁解するなんて、男らしくないぞ。

【おんベン】
くんにわ

弁別・弁明
①はっきりさせる
②しはらう
③のべる。いいあらそう
④地方のことば
⑤うすくて小さなもの

【おんベン】
くんにわ

学習 「駅弁」は、「駅で売られる弁当」のことです。



建建建建建建建建

弁弁弁弁弁

引 引 引 引

なりたち 弓と一(ま)つづくにひくようす)とを合わせた字で、弓をひくことを表します。

つかいかた

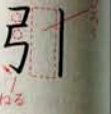
- ① ひっぱる — 引力・吸引・綱引き
- ② つれていく — 引率・誘引
- ③ のばす — 延引・引き伸ばし
- ④ さがる。しりぞく。 — 引退・引き潮
- ⑤ ほかからもつてくる — 引用・引例
- ⑥ さがす — 字引
- ⑦ かずをへらす — 引き算・割引

学習 ●「引く」の反対は「押し」です。●「楽器をひく」は「弾く」です。



引

(2年・4画)



弟 弟 弟 弟 弟

なりたち ひものたれたようすと、棒ぐいと書き、棒の下のほうにノじるしをつけてできた字で、ひくい下の位置を表します。それから、「年下のも・おとうと」の意味が生まれました。

つかいかた

- 弟は、なまいきだけれど、かわいい。
- いつも兄弟なかよくしています。
- イエス・キリストの十二人の弟子。
- 子弟の教育に熱心な父兄。

学習 ●「弟」の読みかたは「テイ・ダイ・テ」です。●「弟」の読みかたは「テイ・ダイ・テ」です。



弟

(2年・7画)



弱 弱 弱 弱 弱

なりたち もようのついた、よわい弓を二つならべた字で、弓の意味がなくなり、「よわい」という意味がのこりました。

つかいかた

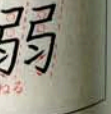
- 弟は気が弱い。
- このひよこは、からだが弱っている。
- ストープの火を弱めてほしい。
- そんな弱虫で、どうする。
- 相手チームの弱点はレシーブだ。

学習 ●「弱」の読みかたは「じやく」です。●「弱」の読みかたは「じやく」です。



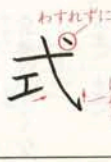
弱

(2年・10画)



式

(3年・6画)



なりたち 弋(二またのぼう)と工(しごと)を合わせて、道具でしごとをする意味から、「きまった、しごとのしかた」という意味になりました。

つかいかた

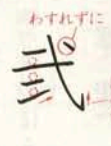
- 姉は秋に教会で式をあげた。
- この本だちは組み立て式だ。

学習 ●「式」の読みかたは「しき」です。●「式」の読みかたは「しき」です。



式

(6年・6画)



なりたち もとの字は貳でした。弋(ぼう)と二で、二本ならんだぼうを表し、それに貝(おかね)をつけて「ふたつ」の意味を表します。

つかいかた

- 領収書には貳拾万円と書いてある。
- 一月二十三日を壹月貳拾参日に書きなおした。

学習 ●「式」の読みかたは「しき」です。●「式」の読みかたは「しき」です。



弓

(6年・3画)



なりたち 矢を射る道具をえがいたものです。「ゆみ・ゆみの形をしたもの」を表します。

つかいかた

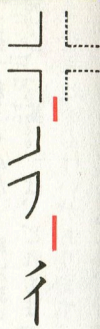
- 弓に矢をつがえる。
- からだを弓なりに曲げる。
- 日本列島は弓形をしています。
- 武道の一つに弓道がある。

学習 ●「弓」の読みかたは「ゆみ」です。●「弓」の読みかたは「ゆみ」です。



○十字路の片がわをうつしとった
 ○「イ」のつく字は、「みち」「ゆく」「おこなう」という意味にかんけい
 があります。
 ①に意味の部首には、「え」（しんにゆう・しんによう）と、「又」（えんにゆう・えんによう）があります。
 「え」は「いく」という意味、「又」は「速くへいく」という意味をもっています。
 また、「イ」（にんべん）と形がいますが、意味がぜんぜんちがうので、書きまちがえないように注意しましょう。

○役 往 復 徳 待 律 後 徒 従
 ○行 行 338 衛 行 339 衛 行 339

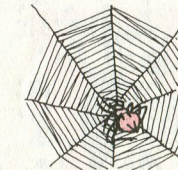


部首の説明
イ きょうにんべん

張

(5年・11画)

すこしなめに
 張
 はねる はらう



○「なりたち」長（ながくはりわたす）と弓とを合わせた字で、弓につるをかけてびんとはることを表します。

○きれいな張りのある声で歌う。
 ○クモが糸を張っている。
 ○電柱にビラを張る。
 ○自分の考えを主張する。
 ○工事をどンドン拡張している。

① ひろげのばす — 拡張・誇張・伸張
 ② ひきしめる — 緊張
 ③ いいはる — 主張
 ④ ふくらむ — 膨張
 学習 「張」と読みと形のた字に「帳」(149)と「脹」(ふくらむ)があります。

強

(2年・11画)

すこしなめに
 強
 はねる



○「なりたち」じょうぶな弓と虫を合わせた字で、かたいからをもったカブトムシを表す字でした。それから、「かたくてじょうぶ」という意味が生まれました。

○強いからだをつくる。○風雨が強まる。
 ○人のいやがることを強いるのは悪い。
 ○自分から進んでやるのが本当の勉強だ。

① つよい — 強固・強弱・強大・強調・強敵・強風・強力・強引・強情
 ② つよくなる — 強化・補強
 ③ わりにする — 強行・強制・強要
 学習 「強」の反対は「弱」です。「強者」弱者。「強気」弱気。「強火」弱火」というようになります。

役

(3年・7画)

まげる
 役
 はらう
 どめる



○「なりたち」役は、ほこを手にしてしごとをするようにすを、それに「イ」(ゆく)がついて、遠くへ行つてしごとをすることを表しています。

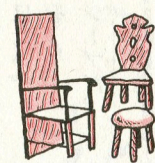
① おおやけのしごと — 役所・役場
 ② やくめ — 役員・役者・役割・重役・主役・世話役・大役・適役・配役
 ③ しごとをさせる — 役務・雑役・使役・服役・兵役・労務
 学習 「役」とにている形の字に、「投」(200)があります。まちがえないように。

役 役 役 役 役 役 役 役

形

(2年・7画)

はらう
 形
 どめる



○「なりたち」开（四角いわく）とシ（もよう）を合わせた字で、いろいろな「かたち」を表します。

○おもしろい形をした貝。
 ○父の形見の時計。○映画の花形スター。
 ○自由形で泳ぐ。○形式にとられる。
 ○フランス人形をプレゼントされる。

① かたち。ようす。 — 形相・形成・形勢・形態・形容・円形・球形・原形・三角形・図形・造形・地形・長方形
 学習 「形」は「物のかたち」がたの意味に、「型」(109)は、「新型」型紙のように、「つ」のきまつたかたち・タイプ」の意味に使います。

往

(5年・8画)

はらう
 往
 どめる



○「なりたち」往の右がわは、もとは主ではなく、草のめが大きくひろがる意味の字でした。それに「イ」(ゆく)をつけて、いきおいよく前へすすむことを表します。

① ゆく — 往信・往診・往來・往路
 ② わかしの — 往時・往年
 学習 「往復」「往來」は反対の意味の字を組み合わせたことばです。
 ○「往信」に対しては「返信」。「往路」には「復路・帰路」が反対語です。

往 往 往 往 往 往 往 往

後 後 後 後 後 後 後 後

後 (2年・9画)

なりたち 幺(すこし)と久(足をひきずる)とイ(ゆく)とを合わせて、おくれです。こしずつ歩く意味でした。

つかいかた

- 後程(うかがいます) ○後ろ(うしろ)をふりむく
- 食事は後(あと)回(まわ)した。○先頭(せんとう)に後(あと)れて歩く
- 試合(しあい)開始(かいし)は午後(ごご)二時(にじ)だ。
- バス(ばす)の後方(ごほう)に見えるのが富士山(ふじさん)です。

いみ・じゆく

- ①あと。のち。
- ②うしろ。後衛(ごゑい)・後退(ごたい)・後輪(ごりん)・背後(はいご)
- ③おくれる。後れ毛(ごれもう)・氣後(きご)れ

学習 「後(あと)」は「うしろ」になる、「遅(おそ)れる」は時間(じかん)にまにあわない、の意味(いみ)に使(つか)います。○「後(あと)」の反対(たいひ)は、「先(まへ)」(61頁)と「前(まえ)」(73頁)です。



おんゴ・コウ
くんのち・うしろ・あと・おくれる

後 (2年・9画)

おんケイ
径 (6年・8画)

なりたち もとの字(じ)は徑(けい)です。聖(せい)は、上下(じやうげ)のわくの間にまつすぐにたて糸(いと)をはった、はたおりの台(だい)のことです。それにイ(ゆく)をつけて、「まつすくな道(みち)」を表(あらわ)します。

つかいかた

- 円の直径(ちやうけい)は円の中心(ちゆうしん)を通(とお)ります。
- 口径(けいけい)がハミリのピストル。

いみ・じゆく

- ①こみち。小径(せうけい)・山径(さんけい)
- ②さしわたし。口径(けいけい)・直径(ちやうけい)・半径(はんけい)

学習 「径(けい)」をふくんだ、「経(けい)」(317頁)、「軽(けい)」(368頁)、「茎(けい)」は、どれもまつすぐという意味(いみ)とかんけいがあります。とくに、「経(けい)」とはまちがえやすいので、注意(ちゆうい)してください。



径 径 径 径 径 径 径 径

おんタイ
待 (3年・9画)

なりたち 音(ね)を表(あらわ)す寺(てら)は、ひとどころにとどまる意味(いみ)で、のちにタイという発音(はつおん)にかわりました。それとイ(みち)を合(あ)わせて、道(みち)でうごかず「まつ」意味(いみ)になりました。

つかいかた

- 駅(えき)で主人(しゆじん)の帰(かえ)りを待(まち)つ。
- 心(こころ)からきみの成功(せいこう)を期(き)待(たい)している。
- 誕生(たんじゆ)会(かい)に招(まね)待(たい)されてうれい。

いみ・じゆく

- ①まつ。待機(たいき)・待望(たいぼう)・期待(きたい)
- ②もてなす。待遇(たいぐ)・款待(くわんたい)・虐待(ごくたい)・接待(せうたい)・優待(ゆうたい)

学習 「待(まち)」と形(かたち)がにいていてまちがえやすい字(じ)に、「持(もち)」(203頁)、「侍(さむらい)」(417頁)があります。注意(ちゆうい)しましょう。



待 待 待 待 待 待 待 待

おんリツ・リチ
律 (6年・9画)

なりたち 律(りつ)はふでをもつ手(て)の形(かたち)で、それにイ(おこない)をつけて、「おこないのきまり」をふでで書(か)き表(あらわ)すことと、さらに「きまり」の意味(いみ)を表(あらわ)します。

つかいかた

- 規律(きりぎ)正しい生活(せいかつ)を送(おく)ろう。
- 国会(こくかい)で法律(ほりつ)を定(さだ)める。
- 全員(ぜんいん)が一律(いちりつ)にそうするとはかぎらない。
- 日本語(にほんご)の音律(おんりつ)の美(うつく)しさを生(な)かした詩(うた)。

いみ・じゆく

- ①きまり。規律(きりぎ)・法律(ほりつ)
- ②きまりにしたがう。一律(いちりつ)・自律(じりつ)
- ③音(おと)のちようし。律動(りつどう)・旋律(せんりつ)・調律(てうりつ)

学習 リチという読み(よみ)は、「律義(りつぎ)」(まじめて正直(しやうじき)なこと)ということばに使(つか)います。



律 律 律 律 律 律 律 律

徒 徒 徒 徒 徒 徒 徒 徒

徒 (4年・10画)

なりたち 音(ね)を表(あらわ)す土(つち)と止(とど) (あし)とイ(ゆく)とを合(あ)わせた字(じ)で、土(つち)に足(あし)をつけてあることを表(あらわ)します。「でし」という意味(いみ)は、先生(せんせい)の後ろ(うしろ)からある人(ひと)ということから生(な)まれました。

つかいかた

- 駅(えき)から家(いえ)まで徒歩(とほ)二十分(にじゅうぶん)です。
- 学校(がっこう)の生徒(せいと)はぜんぶで二千名(にせん)です。
- 運動会(うんどうかい)で徒手(とほ)体操(たいそう)に出(で)る。

いみ・じゆく

- ①あるく。徒走(とほそう)・徒歩(とほ)
- ②でし。徒弟(とひ)・生徒(せいと)
- ③なま。徒党(とどう)・信徒(しんたう)・暴徒(ぼうと)
- ④なにも持(も)たない。徒手(とほ)

学習 下の段(くだ)の「従(じゆ)」と形(かたち)がにいて書(か)きまちがえないようにしましょう。



おんト
徒 (4年・10画)

従 従 従 従 従 従 従 従

従 (6年・10画)

なりたち もとの字(じ)は従(じゆ)で、人と止(とど) (あし)とイ(ゆく)とを合(あ)わせた字(じ)です。「人のあとからついてゆく」という意味(いみ)を表(あらわ)します。

つかいかた

- 先生(せんせい)のおっしやることに従(したが)います。
- 王さま(おうさま)がけらいを従(したが)えて現(あら)れた。
- 農業(のうぎょう)に従事(じゆじ)する人がへつてきています。
- 弟(あに)は、よく対(たい)して、とても従順(じゆん)だ。

いみ・じゆく

- ①いうことをきく。従属(じゆりやく)・服従(ふくじゆん)
- ②人(ひと)につきしたがう。従者(じゆしや)・主従(しゆじゆん)
- ③しごとにつく。従業(じゆぎやう)・従事(じゆじ)・専従(せんじゆん)
- ④まえから。ずつと。従前(じゆぜん)・従来(じゆらい)

学習 「従(じゆ)」をシヨウと読(よ)むのは「従容(じゆじやう)」(おちついたようす)のときだけです。



おんジュウ・シヨウ・ジュ
くにしたがう・したがえる

従 (6年・10画)

単 単 単 単 単 単 単 単

単

(4年・9画)

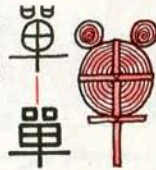
単

なりたち もとの字は單で、平らな一枚のうちわをえがいたものです。うすくて平らな形から、「こみいっていい・ひとつ」などの意味を表します。

つかいかた
○この本は単におもしろいだけではない。
○子どもの病氣は単なるかせです。
○ここから列車は単線運転になる。

いみ・じゆく
①ただひとつ——単一・単価・単眼・単記・単行本・単色・単数・単独
②ひとまとまり——単位・單元・単語
③こみいっていい——單純・簡單

学習 「單」の反対語は「複(34画)です。例「単眼↓複眼」「単式↓複式」「単数↓複数」「単線↓複線」「単利↓複利」



営 営 営 営 営 営 営 営

営

(5年・12画)

営

なりたち もとの字は營でした。たいまつなどの火で、まわりをとりまいた、いくつもの建物(呂)の意味から兵舎のことをさし、それから、「すまいをつくる・なにかをする」という意味に使うようになりました。

つかいかた
○ぼくのおじは旅館を営んでいる。
○市営プールに泳ぎに行く。

いみ・じゆく
①しごとをする——營業・營林・運営・経営・果営・公営・国営・私営・直営
②建物などをつくる——設営・造営
③兵士のとまる建物——營舎・軍営

学習 「営なむ」のように、「な」をおくらないように気をつけましょう。



嚴 嚴 嚴 嚴 嚴 嚴 嚴 嚴

嚴

(6年・17画)

嚴

なりたち もとの字は嚴です。嚴は「こつこつ」ついかたいようす」を表します。それに口を二つつけて、かどばつてものを言うことから「くちやかましく、きびしい」という意味になりました。

つかいかた
○やがて嚴しい寒さがやってくる。
○戦死者のための嚴かな式典。
○やくそくの時間を嚴守してください。

いみ・じゆく
①きびしい。おだやかでない。——嚴格・嚴禁・嚴重・嚴正・嚴選・嚴密・嚴命
②おごそか——威嚴・莊嚴・尊嚴

学習 ゴンという読みかたは「莊嚴(莊嚴な寺院)と地名の「華嚴の滝」などのことばに使われます。



得

(5年・11画)

得

なりたち 得は貝と寸(手)とを合わせた字で、手で貝をとるようすを表し、それにイ(ゆく)をつけて、出かけていって物を手に入れることを表します。

つかいかた
○苦労したわりに得たものが少ない。
○今、なし得るのは努力することだ。
○そのやりかたは、あまり得ではない。
○先に得点したほうが有利だ。

いみ・じゆく
①手に入れる——得票・獲得・所得
②もうける——得策・得失・損得・利得
③よくのみこむ——得心・会得・納得

学習 「得る」はほかのことばについて「…することができる」の意味にも使われます。例理解し得る・考え得ない



復

(5年・12画)

復

なりたち 復は、上下におなじ形がかさなり、まんながふくれたつぼと、久(足)とでできた字で、もとは「上にかさなる」という意味でした。それにイ(ゆく)をつけて、「おなじコースをかさねてもどる」意味を表します。

つかいかた
○算数を復習する。○往復で一時間。

いみ・じゆく
①もとへもどる——復路・復帰・回復
②もう一度。ふたたび。——復活・反復

学習 「復」のつく字には、「復」のほかに「復」の二つ字があります。まちがえないように注意しましょう。
複：複雑・複数・複眼・重複
履：空腹・満腹・腹まき



徳

(5年・14画)

徳

なりたち もとの字は徳です。恵は直(まっすぐ)と心とを合わせた字で、それにイ(おこない)をつけて、「まっすぐな心で、ものごとをおこなうこと」という意味を表します。

つかいかた
○その王さまは徳の高い人でした。
○交通徳を守らない人が多い。
○この品は、お徳用です。

いみ・じゆく
①正しいおこない——徳育・徳性・徳望・徳行・人徳・道徳・美德・不徳
②ためになるもうけ——徳用

学習 買ってとくする意味の「とくようひん」は「徳用品」と「得用品」のどちらをも使います。



苦苦苦苦苦苦

なりたち 古(ひからびてかたい)と艹(くさ)とを合わせた字で、「口がかたくこわばるような、にがい草」のことから、「にがい・くるしい」の意味が生まれました。

つかいかた

- 走ってきたので、息が苦しい。
- 高い熱で苦しむ。○苦い菓をのむ。
- はげしい苦痛にたえる。○苦心の作品。
- 長いあだの苦勞がむくわれる。

いみじゆく

①くるしい。つらい。— 苦学・苦行・苦戦・苦難・困苦・病苦・貧苦・勞苦
 ②おもしろくない。— 苦言・苦笑・苦情

学習 若(168画)とまちがえないように。



苦

(3年・8画)

苦

おんク
 くるしい・くるしむ・くるしめる・にがい・にがる

英英英英英英

なりたち 央(まんなかをおさえる)と艹(くさ)を合わせた字で、花のしんを花びらがとりかこむ形を表します。

つかいかた

- 英才教育で有名な学校。
- 英語は世界で一番よく話される言語だ。

いみじゆく

①すぐれる。とびぬけている。— 英気・英姿・英断・英知・英△雄・育英
 ②イギリス — 英語・英国
 ③英語 — 英会話・英文・英和辞典

学習 ●もとは、イギリスを「英△吉利」と書きました。●人の名まえでは、「英夫・英子」など、「ひで」とも読みます。



英

(4年・8画)

英

おんエイ

芽芽芽芽芽芽

なりたち 牙は上下がかみ合っているきばのことで、それと艹(くさ)を合わせた字です。ねじれて、きばのように出てくる「草木のめ」を表しています。

つかいかた

- 花だんのチューリップが芽を出した。
- ふたりの間に友情が芽生えた。
- ヤナギの新芽がうつくしい。
- ダイズの発芽のようすを調べる。

いみじゆく

○草木のめ — 麦芽・発芽・新芽・若芽
学習 「芽が出る」「芽を出す」は、つぎのような意味にも使います。
 「芽が出る」— しあわせがめぐってくる。
 「芽を出す」— かくれていた、すぐれた力が表にあらわれる。



芽

(4年・8画)

芽

おんガ
 め



●草がはえているようすをうつしとったもので、「くさ」の意味をもっています。

●「サ」のつく字には、草や植物の種類(茶・菜など)や状態(芽・若など)にかんけいする意味を表すものが多いです。

●花芸 著落葉 蒸蔵菜
 ●荷菜 著落葉 蒸蔵菜
 ●墓土山坪。



●部首の説明
 艹 くさかんむり

花

(1年・7画)

花



花花花花花花

なりたち 艹(くさ)と化(すがたがかわる)とを合わせた字です。つぼみがひらき、はながさき、やがてちるというように、草や木のなかで、すがたがかわっていく「はな」を表しています。

つかいかた

- 春の花がさきみだれている庭。
- 花園にまう、美しいチョウ。
- こん虫や風が花粉をはこびます。

いみじゆく

①はな — 花壇・花卉・開花・造花・花畑・花見・花輪・生け花・草花
 ②はなのような — 花形・花火・花△嫁

学習 「はな」と読む字には、ほかに、「華」があります。「華やか・華華しい」などは「華」を使います。

芸

(4年・7画)

芸



芸芸芸芸芸芸

なりたち もとの字は藝で、人がしやがんで木を土に植えているようすを表した字です。「草木をそだてる」意味から、「人間のはたらき・わざ」の意味になりました。

つかいかた

- あの手品師の芸はすばらしい。
- 古代ギリシアでは芸術がさかんだった。

いみじゆく

①身につけたわざ — 技芸・手芸・武芸
 ②文化的なしごと — 芸術・学芸・文芸
 ③人をたのしませるわざ — 芸事・芸人・芸能・芸名・演芸・曲芸・△隠し芸

学習 「芸が細かい」(よく気がつく)、というように「芸」が「くさかんむり」(おもしろくない)、という

荷 荷 荷 荷 荷 荷 荷 荷

なりのたち 荷は、人がかたの上に平らに天びんをかつぐようすを表しています。そのすがたが、かたハスの花にているところから、**荷**をつけてハスの意味に使い、さらに「物がかつぐ」の意味に使います。

つかいかた

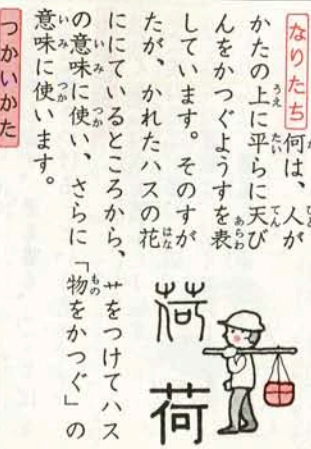
- あの船の積み荷はぜんぶサトウです。
- 旅行の荷物は少ないほうがよい。
- くだもの出荷がおくれている。
- ぼくは、どちらのがわにも荷担しない。

いみじゆく

①にもつ——出荷・入荷・荷造り・荷主

②かたにかつぐ——荷担・荷役・重荷

学習 「荷が重い」という言い方は、責任が大きいという意味にも使います。



荷 (3年・10画)

おんカ
くんに

菜 菜 菜 菜 菜 菜 菜 菜

なりのたち 菜は、草の若芽をゆびでつみとるようすを表す字でした。それと「くさ」を合わせて、「つみとったくさ」、さらに「やさい」の意味を表すようになりました。

つかいかた

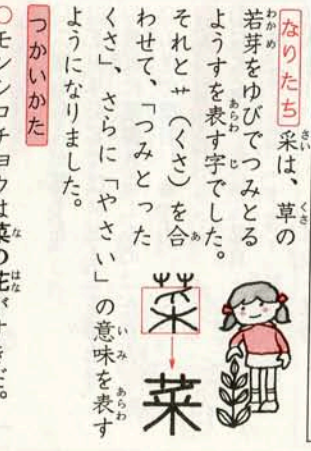
- モンシロチョウは菜の花がすきだ。
- アブラナの実は菜種といえます。
- 母は庭に野菜をつくっています。
- ハイキングに行つて山菜をとってきた。

いみじゆく

①やさい——菜園・菜食・山菜・白菜・野菜・青菜・水菜

②おかず——前菜・総菜

学習 「菜食」の対語は「肉食」です。「肉食」の対語には「草食」もあります。



菜 (4年・11画)

おんサイ
くんに

若 (6年・8画)

おんジャク・ニヤク
くんに わかい・もしくは

なりのたち もとは、かみの毛をくしでとかしっている、女の人のすがたを表しました。女の人のしなやかさということから、「からだがしなやか・からだがわかい」という意味になりました。

つかいかた

- としはとつても気の若い人。
- 若葉の季節。○若者のアイドル。

いみじゆく

①わかい——若年・若返る・若草・若手

②すこし——若干

学習 ニヤクという読みかたは、老若男女」ということばに使います。「もしくは」は「または」の意味で、「A若しくはB」のように使います。●特別な読みかたに「若人」があります。



若

茶 (2年・9画)

おんチャ・サ
くんに

なりのたち もとは茶と書き、サ(くさ)と余(ゆるんでのびる)とを合わせた字です。「きんちようをほぐす飲みものを使うくさ」の意味でした。

つかいかた

- 三時だからお茶にしようか。
- 紅茶にレモンを入れる。
- 茶の間に家族が集まってテレビを見る。
- 駅前の喫茶店待ち合わせる。

いみじゆく

①おちゃ——茶柱・茶わん・新茶・緑茶

②作法にしたがって、おちゃをのむこと

——茶道・茶会・茶室・茶席・茶の湯

③おちゃをにだした色——茶色・こげ茶

学習 今は「茶」と書きません。まちがえないように気をつけてください。



茶

草 (2年・9画)

おんソウ
くんに くさ

なりのたち もとは艸でしたが、音がおなじところから、クヌギやハノキを表す「草」を「くさ」の意味で使うようになりました。

つかいかた

- 庭の草をとる。○草花のたねをまく。
- 草色のセーター。○雑草のような強さ。

いみじゆく

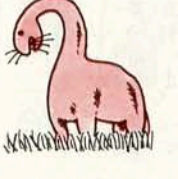
①くさ——草原はら・草食・海草・野草

②文章のしたがき——草案・草稿・起草

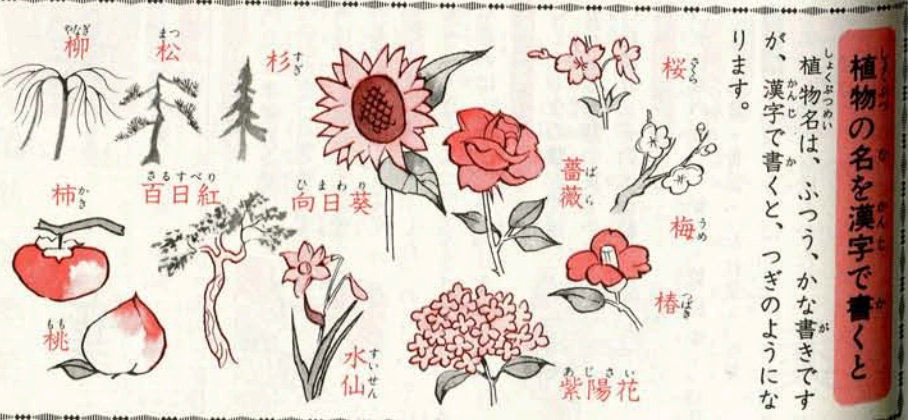
③ものごとのはじめり——草創

④くずして書いた字——草書

学習 「草書」に対して、きちんと書いた字を「かい書」、すこしくずして書いた字を「行書」といいます。●特別な読みかたに「草履」があります。



草



植物の名を漢字で書く
植物名は、ふつう、かな書きですが、漢字で書くと、つぎようになります。

蒸蒸蒸蒸蒸蒸蒸蒸

蒸 (25画) は「汽車」に使います。

① 蒸気機関車の「蒸気」を「蒸気」としないように気をつけましょう。

② ゴはんをよく蒸らす。○蒸し暑い夜。

③ 一度きめたことを蒸し返す。

④ 液体が蒸発して気体になる。

読み・ひらがな
① 気体になつてたちのぼる——蒸気・蒸発・蒸留

学習 「蒸気機関車」の「蒸気」を「蒸気」としないように気をつけましょう。



蒸 (6年・13画)

おん ジョウ

く むす・むれる・むらす

なりたち 蒸は(火)が上にのぼるようすで、熱い空気が上にたちのぼることを表しました。蒸は、植物を表す、べつ

蒸

蔵蔵蔵蔵蔵蔵蔵蔵

① しまいこむ——所蔵・貯蔵・冷蔵庫

② くら——酒蔵・土蔵・穴蔵

学習 「くら」と読む字には、「倉」(55画)があります。「そうこ」の意味では、ふつう「倉」のぼうが使われます。

●「蔵相」は、大蔵大臣のことです。



蔵 (6年・15画)

おん ソウ

く くら

なりたち 蔵(くさ)と音を表す蔵(ほそながい)とを合わせた字で、「ほし草をしまつておく、ほそながい建物」のことでした。それから「しまつ」という意味が生まれました。

蔵

薬薬薬薬薬薬薬薬

① ぐすり——薬学・薬草・薬用・薬局・医薬・劇薬・新薬・毒薬・良薬・薬屋

② ものをばくはつさせる物質——△爆薬

学習 目薬を使うときは、「目薬をさす」といいます。



薬 (3年・16画)

おん ヤク

く ぐすり

なりたち ラクからかわつたヤクという音を表す薬(ものをつぶす)とヤ(くさ)を合わせた字で、「病気をなおす草」という意味を表します。むかしは草を「くすり」にしました。

薬

著

(6年・11画)

著



著 (6年・11画)

おん チョ

く あらわす・いちじるしい

なりたち 著は、書と同じなかなかの字で、チヨという音は、「ものがある場所からくつついて動かない」という意味を表します。著も書も、「ことばをふでで書きつける」という意味です。

読み・ひらがな
① 本を書く。本。——著作・著述・共著・編著・名著

② めだっている——著名・△頭著

学習 「あらわす」には、「表す」(34画)と「現す」(26画)もあります。

落落落落落落落落

落

(3年・12画)

落



落 (3年・12画)

おん ラク

く おちる・おとす

なりたち 音を表す落(おちる)とヤ(くさ)とでできた字で、草や木のはが「おちる」の意味を表します。

読み・ひらがな
① おちる——落後・落日・落選・落第・落雷・落下・下落・△脱落・転落

② きまりがつく——落成・落着

③ 人の集まるどころ——集落・村落

学習 「落選」の反対は「当選」、「落第」の反対は「△及第」です。●「落ちる」を「落る」と書かないように。

葉葉葉葉葉葉葉葉

葉

(3年・12画)

葉



葉 (3年・12画)

おん ヨウ

く は

なりたち 葉という音は、「うすくひらべつたい」という意味です。葉は、木のこずえの先のところを表し、もともと「は」の意味でした。のちに、それにヤ(くさ)をつけるようになり、「木や草のは」を表します。

読み・ひらがな
① イチヨウの葉が歩道にふりつもる。

② 五月は若葉の美しい季節です。

③ 庭のカエデの木が紅葉している。

学習 「はがき」は「葉書」とも書きます。特別な読みかたに「紅葉」があります。

返返返返返返返

なりたち 反(二つにわかれる)の変化したヘンとエ(すすむ)を合わせた字です。わかれて、反対の方向に行く意味から、「もどる」意味に使います。

つかいかた

- 図書室に本を返す。○手紙を読み返す。
- 貸したお金が返る。○寝返りをうつ。
- だまっていなくて返事をしなさい。

いみじゆく

①もともにもどす 返還・返金・返却・返信・返送・返答・返品

②もともにもどる 宙返り・若返る

学習 「かえす・かえる」と読む字に、「帰」があります。「帰す・帰る」は、おもに人が行き来すること。「返す・返る」は、物のやりとりについて使います。



返

(3年・7画)

返

述述述述述述述

なりたち 禾は、モチアワのほに実がついたようすを表す字で、「列をつくって実がなる」という意味です。それにエ(すすむ)がついて、「すじ道にしたがついていく・じゆんを追ってのべる」という意味を表します。

つかいかた

- 意見を述べる。○父は著述業です。

いみじゆく

いみじゆく 述

学習 「述べる」は、ありのままに言うという意味があります。「話す(35ル)」は、「しゃべる」に近く、「語る(35ル)」は、「物語」のように、ほんとうでないことを言う意味もふくみます。



述

(5年・8画)

述

迷迷迷迷迷迷迷

なりたち 米(小さくて見えにくい、こめつぶ)の変化したメイとエ(すすむ)とを合わせた字で、すすむ道が見えなくて「まよう」ことを表します。

つかいかた

- どうしたらよいか迷う。
- 山おくで道に迷う。
- 人を迷わすようなことを言うな。
- 科学が進んでも迷信はなくなるらない。
- 迷路のようにわかりにくい道。
- 事件は未解決のまま迷宮入りした。

いみじゆく

まよう 迷宮・迷彩・迷信・迷路・迷惑・混迷・低迷

学習 特別な読みかたに「迷子まい」があります。



迷

(5年・9画)

迷



●部首の説明
しん しんにゆう・しんにゆう

なりたち もとの字は邊です。邊は、二つにわかれるという意味でした。それにエ(すすむ)をつけて、「まんなかから、あるいていったはじ」という意味や、二つに切ったものの「はし・へり・まわり」という意味に使います。

つかいかた

- この辺りの農家は野菜を作っている。
- 海辺の村。○この辺でひと休みだ。
- 駅の周辺には、店屋がふえてきた。

いみじゆく

①あたり。まわり。 近辺・周辺・身辺

②国ざかい 辺境・辺地

③多角形をかこむ直線 四辺形・底辺

学習 渡辺・田辺 など、人の名字にも使われます。

辺辺辺辺辺

辺

(4年・5画)

辺

近

(2年・7画)

近

近近近近近

なりたち 斤(石おのが物にふれそうなようす)とエ(すすむ)とを合わせた字で、「そばに、ちかよっていく」という意味を表しています。

つかいかた

- ぼくの家は、学校にとても近い。
- 駅に近づく列車はスピードを落とす。
- きのう、近所に火事があった。

いみじゆく

①きよりがちかい 近海・近眼・近辺・最近・接近・付近・近道

②日時がちかい 近日・近代・近年

③したしい 近親・側近・身近

学習 「近」の反対は「遠(179ル)」です。「近視」遠視 「近海」遠海 「近景」遠景 「近因」遠因 などとなります。



追

(3年・9画)



「なりたち」という音は、「みちすじにしたがう」という意味を表します。それと「(すすむ)を合わせて、「みちをたどって、おいかける」という意味になりました。

つかいかた ○ボールを追う選手。○先頭に追いつく。○犯人を国外に追放する。

①おいかける——追撃・追跡・急追
②つけくわえる——追加・追伸・追徴
③もう一度する——追試験・追体験
学習「なにかをもとめる」という意味の「つききゆう」には、つぎのような使い分けがあります。「責任を追及する」「利益を追求する」「真理を追究する」

退

(5年・9画)



「なりたち」良は日と下向きの足の形で、「日がしずむこと」を表し、それに「(すすむ)をつけて、「うしろにさがる」という意味になります。

つかいかた ○ひなを守る母鳥は一步も退かなかつた。○チャンピオンが、ちよう戦者を退ける。

①あとへさがる——退避・退院・後退
②そこらから、いなくなる——退院・退場
③おとろえる——退化・減退・衰退
学習「退」の反対は「進(177頁)です。「退歩」「退化」「退進」「後退」「退院」「退場」のようないくつかの例があります。●特別な読みかたに「立ち退く」があります。

送

(3年・9画)



「なりたち」送は両手でものをそろえることで、それに「(すすむ)をつけて、人や物をむこうにとどけることです。

つかいかた ○いなかのおじいさんを駅まで送る。○外国に行く兄を空港に見送りにいく。○商品の代金を送金する。○手紙が返送されてきた。○放送局に見学に行く。

①ものをほかにうつす——送球・送電・送付・送料・運送・発送・郵送・輸送
②見おくる——送迎・送別・歓送会
学習「おなじ読みでも、「送る」はむこうへはこぶ意味に、「贈る」は物をプレゼントする意味に、使い分けています。

逆

(5年・9画)



「なりたち」逆は、ひとがさかだちをした形からできた字で、それに「(すすむ)をつけて、「ぎやくにすすむ・さからう」という意味を表します。

つかいかた ○自動車がかからまっ逆さまに落ちた。○親のいいつけに逆らってはいけない。○この写真は左右が逆になっている。○どぶの水があふれて逆流してきた。

①さからう。そむく。——逆心・逆逆
②さかさま。はんたい。——逆効果・逆光線・逆算・逆襲・逆説・逆用・逆行
③めぐまれない——逆境
学習「逆」の反対は「順(387頁)です。例「逆風」「順風」「逆境」「順境」

通

(2年・10画)

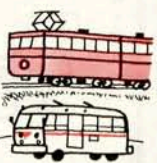


「なりたち」通は人が足で地面をトンとつく意味です。それに「(すすむ)がついて、足でふんでつきぬけるように、とちゆうでふさがらずに、どこまでもつきぬけている道という意味でした。それから、「ものがつきとおる・ものがゆききする」という意味になりました。

つかいかた ○わたしの村にも、まもなく鉄道が通る。○ぼくの学校はバス通りに面している。○お客さまを応接間に通す。○このへやはとても風通しがよい。○先のことまで見通して計画をたてる。○毎朝、自転車のつて学校に通う。○心の通い合った友人。○三回かけて、やっと電話が通じた。○うちの父はたいへんな野球通だ。○わたしにも年賀状が二十通きた。

①とおる。とおす。——通過・通風・通路・開通・貫通・直通・不通
②かよう。ゆききする。——通学・通勤・通信・通帳・交通・文通
③ひろくゆきわたる——通貨・通称・通説・通俗・通用・共通・普通・流通
④しらせる——通告・通達・通知・通報
⑤はじめからおわりまで——通算・通読
⑥よくしつている——通人・精通
⑦ものごとをしつている人——映画通
⑧手紙や書類をかぞえることば——(速達)(二通)(証明書)一通
学習「通」をふくむ字には、「つきぬける」という意味があります。痛IIつきぬけるようないたみ。△踵II足をとんとんと地面につきぬけるようにふんで、おどる。
●「通る・通す」をかなで書くとき、「とうる・とうす」としなように。(例そのとうり)●ツという読みは「通夜」ということばに使われます。

通



週週週週週週週週

なりたち 周(かこいのまわり)と之(すすむ)とを合わせた字で、「ぐるりとまわる・まわつてある」という意味を表しています。

つかいかた
 ○週の初めにテストがある。
 ○来週から楽しい夏休みだ。

いみじゆく
 ○日曜日から土曜日までの七日間——週間・週刊(誌)・週番・週報・週末・△隔週・今週・先週・毎週・来週

学習 まちがえやすい字に「周(97画)があります。「週」は一週間の意味にしか使いません。「週間」を「週間」としたり、「周期」を「週期」としないように注意しましょう。



週

(3年・11画)



進進進進進進進進

なりたち 進(とりのすすむ)を合わせた字です。とりが空をとぶように、はやくあるく意味を表します。

つかいかた
 ○時計が進む。○中学校に進学する。

いみじゆく
 ①すすむ。前にゆく。——進行・進出・進展・進路・行進・前進・突進・躍進
 ②よくなる。——進化・進歩・昇進
 ③さしあげる。——進上・進物・寄進

学習 「すすめる」には、ほかに「勧め(80画)」と「薦める」があります。ちがいに注意しましょう。↓付録430ページを進める⇨前へ動かす。
 勧めめる⇨あることをするように話す。薦める⇨役目や地位につかせる。



進

(3年・11画)



遊遊遊遊遊遊遊遊

なりたち 遊(あそぶ)という音は、ものがゆるゆると動くようすを表しました。それに之(すすむ)をつけて、あちこちとぶらぶら歩きまわる意味から「あそぶ」意味になりました。

つかいかた
 ○公園で遊ぶ子どもたち。
 ○波が高いので、きょうは遊泳禁止だ。

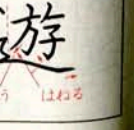
いみじゆく
 ①あそぶ。——遊園地・遊戯
 ②よその土地に行く。——遊学・外遊
 ③あちこちとうごく。——遊星・遊牧・回遊
 ④つきあう。——交遊

学習 ヲという読みは、「物見遊山(気ばらしに遠くへでかけること)」というこばに使われます。



遊

(3年・12画)



速速速速速速速速

なりたち 束(すきまなくたばねる)と之(すすむ)を合わせて時間やきよりがあかないように、はやくあるく意味を表します。

つかいかた
 ○走るのがいちばん速い動物は何かな。
 ○期限内にまにあうよう、しごとを速める。
 ○見学者は速やかにバスにもどりなさい。
 ○その手紙は速達で送ります。

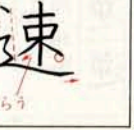
いみじゆく
 ①はやい。時間がかららない。——速度・速力・速記・速球・快速・高速・低速
 ②はやさ。——音速・時速・秒速・風速

学習 「はやい」には「早(217画)」もあります。「速い」は動くスピードがはやい。「早い」はきまった時刻よりも前。



速

(4年・10画)



造造造造造造造造

なりたち もとの字は船で、舟を寄せあつめて、かりの橋をつくる意味でした。のちに、造(いそいでなにかをする)の字をかりて、材料をあつめて、ものをつくる意味になりました。

つかいかた
 ○ドックで船を造る。○木造の住宅。

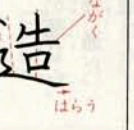
いみじゆく
 ○つくる。こしらえる。——造花・造船・改造・建造・構造・人造・製造・創造

学習 「造」は、機械や道具を使ってものをつくる、「作(49画)」は、手でつくる、というちがいがあります。
 ●「つくる」は、ふつう「作る」を使い、「造る」は船・庭などのかぎられたばあいにはか使いません。↓付録431ページ。



造

(5年・10画)



連連連連連連連連

なりたち 車(くるま)と之(すすむ)とを合わせた字です。いくつもの車がつづいてすすむことを表しています。

つかいかた
 ○高い山が連なる。○会員に名を連ねる。
 ○妹を連れて遊びに行く。
 ○この連続テレビドラマはおもしろい。

いみじゆく
 ①つながる。つなげる。——連結・連合・連山・連帯・連名・連絡・連立・関連
 ②つづける。——連休・連日・連載・連作・連日・連勝・連想・連打・連投・連動・連発
 ③いっしょにつれていく。——連行
 ④なかも。——連中(仲間)・常連

学習 「連」の「車」の部分で「東」としないように気をつけましょう。



連

(4年・10画)



運

(3年・12画)

なりたち 音のウンはグン(軍)の変化したもので、「まるい・とりまく」の意味です。それに「(すすむ)」がついて、「ものがまるくまわる・つきつぎとうつっていく」意味になりました。



①ものをはこぶ 運送・運賃・運輸
②うごく 運行・運動
③うごかす 運休・運転・運筆
④はたらかせる 運営・運用
⑤めぐりあわせ 運命・幸運・不運

○トラックで荷物を運ぶ。
○遠足で雨にふられるなんて運がわるい。

運運運運運運運運

道

(2年・12画)

なりたち 音のドウはシュ(首)の変化したもので、ほそながくのびることを表します。それに「(すすむ)」がついて、「人の歩く、ほそながい、どこまでもつづくみち」の意味になりました。それから、いろいろな意味ができました。



①この道はとなりの町につづいている。
②人の道にそむいた行い。
③学校からの帰り道でおじさんに会った。
④道草をしておかあさんにしかられる。
⑤駅までは、たいした道のりではない。
⑥東京までの片道きっぷ。
⑦知らない人に道案内をたのまれる。
⑧筋道のよくとまらない話。
⑨家の前に国道がとおっている。
⑩大工道具の手入れをする。
⑪北海道でとれた本場のニシン。

道道道道道道道道

道

(2年・13画)

なりたち 東(ゆったり)として(と)「(すすむ)」と合わせた字。まわりみちをしていくことから、「とおい」という意味を表します。

①みち 道路・街路・私道・車道・赤道・鉄道・歩道・林道・道順・道連れ・道端・あせ道・坂道・回り道・山道
②人が守らなければいけないこと 道義・道徳・正道・伝道
③ものごとのすじみち 道理
④学問や芸ごとの専門のしごと 道具・道場・華道・弓道・剣道・茶道・柔道・書道・武道
⑤つたえる 報道
⑥むかしの地方の区分け 北海道
⑦地方自治体の一つ 北海道 道庁・道立 都道府県



道道道道道道

過

(5年・12画)

なりたち ゆとりのあるようすを表す過(か)と「(すすむ)」と合わせた字です。「ものがすすむ」という意味に使われます。



①すぎる 過去・過程・経過・通過
②ていどをこえる 過大・過度・過労
③まちがいはやまち 過誤・過失

○汽車は町を過ぎて山の中に入った。
○毎日を元気で過ごす。
○火事の原因はこたつの過熱だった。
○過労のため、会社を休む。

過

達

(4年・12画)

なりたち 章は、ゆとりのあるようすの意味で、「(すすむ)」と合わせて、「ものがじやまをされずにすすむ」はやくゆきつく」ということを表します。



①いなかから速達(すみたく)の小包(こぶ)づみごとどいた。
②この地方は織物業(おりものぎ)が早くから発達した。
③海外(かいがい)への観光客(かんこうきゃく)が百万人に達した。
④あの人は空手(からて)の達人だ。

○とどく。とどける。ゆきつく。 達
○成(なり)・到達(とつたつ)・配達(はいたつ)

達

遠

(2年・13画)

なりたち 東(ゆったり)として(と)「(すすむ)」と合わせた字。まわりみちをしていくことから、「とおい」という意味を表します。



①ここから駅までは遠い。
②屋上(えんじょう)から望遠鏡(ぼうえんきよう)で遠くをながめる。
③秋(あき)の遠足(えんそく)が待ち遠しい。 遠浅(とほあさ)の海(うみ)。

○とおい。はなれている。はるか。 遠泳(えんえい)・遠近(えんちん)・遠方(えんぱう)・遠路(えんろ)・永遠(えいえん)・敬遠(けいえん)
○おくふかい 遠(とほ) 高遠(こうえん)・深遠(しんえん)
○「遠」の反対は「近(ちか)」です。 「どうい」と書かないようにしましょう。 ●オンという読みは「久遠」ということばに使われます。

遠

過過過過過過過過

達達達達達達達達

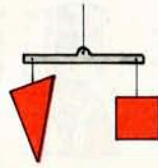
遠遠遠遠遠遠

適

(5年・14画)

適

適はなる



なりたち 適(まつすぐ)とえ(すすむ)を合わせた字。まつすぐにいく意味から、「まつすぐにむかいあう」ことを表します。

つかいかた
○本好きのきみは、図書係に適している。
○コーチが選手に適切な注意をあたえる。

いみじゆく
○ちよつどよい。びたりとあてはまる。
— 適応・適温・適格・適性・適度・適当・適任・適役・適用・適量・快適・好適・最適・自適・不適

学習 「商」をふくむ「敵」(212画)にも、「まつすぐにむかいあう」という意味があります。●「適中」(びたりとあたる)は「的中」が、もともとこの書きかたです。

適 適 適 適 適 適 適 適

部首の説明

β おおひん



かこいを表す「ロ」と、人がひざまずいているすがたを表す「巴」とを合わせたもので、「人があつまる」ところ。「むら」の意味を表します。

●「β」のつく字は、地名や、「人のあつまる場所」にかんけいのある意味をもっています。

この「β」(おおぎと)は漢字の右がわ(二つくり)ですが、左がわ(一へん)の「β」は「こぎとへん」といい、「おか」の意味ですから、はつきり区別しておぼえましょう。



選

(4年・15画)

選

選はえらぶ



なりたち 巽(せん)は、そろえるという意味で、もとは手(手)をつけて撰(せん)とも書きました。そろえるために、「いらぬものをよりわけること」から、「えらぶ」という意味が生まれました。

つかいかた
○クラス委員を選ぶ。○よい品を選ぶ。
○予選で勝ちのこる。○水泳の選手。

いみじゆく
○えらびだす。よいものをよりわける。
— 選球・選挙・選考・選出・選定・選抜・改選・再選・推選・精選・入選

学習 おもに「当選」は「人がえらばれること」、「入選」は「作品などがえられること」に使います。その反対は、「落ちる」です。

選 選 選 選 選 選 選 選

郡

(4年・10画)

郡

郡はだす



なりたち 音を表す君は「まわりをとりまく」という意味で、β(むら)と合わせて都市を中心として、「それをとりまく土地」の意味でした。中国では、州のした、県のうえの地域をさしました。日本では、県よりもせまい地域の意味に使います。

つかいかた
○県大会の予選を郡ごとに行う。
○郡部の人口密度は市部よりも低い。
○東京都西多摩郡五日市町。

いみじゆく
○都道府県をいくつかに分けた地域。町や村をふくむ。— 郡部

学習 読みと形の似た字に「群」(324画)があります。よく注意しましょう。

郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡

遺

(6年・15画)

遺

遺はなぐ



なりたち 貴(き)は、大きな荷物(もの)のことで、え(すすむ)と合わせて、物をのこして、いつてしまふという意味です。それから、「のこす」とく、「死んだあとにのこす」という意味に使われるようになりました。

つかいかた
○交通遺児をはげます。○事故の後遺症。
○祖父の遺品を分ける。
○石器時代の遺跡を発見する。

いみじゆく
○あとにのこす— 遺愛・遺業・遺作・遺失物・遺書・遺族・遺体・遺伝

学習 形の似た字に、「遺」があります。区別しましょう。●ユイという読みは「遺言」ということばに使います。

遺 遺 遺 遺 遺 遺 遺 遺

部

(3年・11画)

部

部はなぐ



なりたち 音を表す音(ホウ)と変化(へん)は、「二つにわける」という意味で、「β」(むら)をいくつかにわけた、人々のあつまり」ということでした。

つかいかた
○それは一部の人のたつたかんがえだ。
○野球部の部員。○百万部も売れた本。

いみじゆく
①全体をいくつかに分けたもの— 部
— 下部・部首・部署・部品・部分・部門・外部・局部・全部・内部・本部
②会社や大学などの区分け— 部長・学部・経理部・宣伝部・理学部
③クラブ— 音楽部・サッカー部
④ぶんりよう— 部数・大部

学習 特別な読みかたの部屋。

部 部 部 部 部 部 部 部



●部首の説明
㇇(こぞとへん)

●土をつみ上げたようすをえがいたもので、「もり上げた土・おか・山」の意味を表します。

●「㇇」のつく字は、おかや山の状態(険・障ど)を表したり、「かいだん」にかんけいする意味をもっています。

この「㇇」(こぞとへん)は漢字の左がわですが、そっくりな形で右がわにつく「㇇」(おおぞと)があります。注意して区別しましょう。

●陽隊階際障
●防限階際障
●降陸険
●火防
●消防



●部首の説明
㇇(こぞとへん)

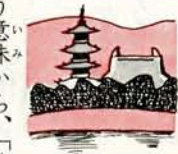
都 都 都 都 都 都 都 都 都 都

●京(みやこ)は、むかし都があつた町です。都心のビル街。○きょうは都合が悪い。

●みやこ。大きな町。——都会・都市・古都・首都

●地方自治体の一つ。東京都。——都営都知事・都庁・都バス・都立

●学習ツという読みは「都合・都度」ということばには使いません。



都 (3年・11画)

都 (はねる)

防 防 防 防 防 防 防 防

●「防」は「水が中にはいらないようにすること」、「水防」は「水害をふせぐこと」で、意味がちがいます。●「妨害」の「妨」とまちはがえないように。

●「防」は「水が中にはいらないようにすること」、「水防」は「水害をふせぐこと」で、意味がちがいます。●「妨害」の「妨」とまちはがえないように。

●「防」は「水が中にはいらないようにすること」、「水防」は「水害をふせぐこと」で、意味がちがいます。●「妨害」の「妨」とまちはがえないように。

防 (5年・7画)

防 (はねる)



郵 郵 郵 郵 郵 郵 郵 郵

●郵便ポストに手紙を入れる。○品物は代金が着きしだい郵送します。○しまった。郵便切手をはり忘れた。

●「郵便」は「郵政省」のこと。前は「逓信省」といいました。郵便のマークの〒は、「テイシン」のテを圖案化したものです。



郵 (6年・11画)

郵 (はねる)

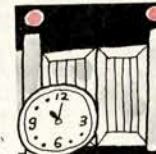
限 限 限 限 限 限 限 限

●「限」は、「じつ」と「まるとまる」という意味で、「㇇(つみあげた土)」と合わせて、「こまでとめて、そこから先へ行かせないばしよ」という意味を表します。

●「限」は、「じつ」と「まるとまる」という意味で、「㇇(つみあげた土)」と合わせて、「こまでとめて、そこから先へ行かせないばしよ」という意味を表します。

限 (5年・9画)

限 (はねる)



郷 郷 郷 郷 郷 郷 郷 郷

●郷(むら)は、まんなかにごちそうをおき、その両がわに人がひざまずいて向かいあっているようすを表していました。のちに人のかわりに「(むら)」をつけて、「向かいあつたむら」を表しました。

●郷(むら)は、まんなかにごちそうをおき、その両がわに人がひざまずいて向かいあっているようすを表していました。のちに人のかわりに「(むら)」をつけて、「向かいあつたむら」を表しました。



郷 (6年・11画)

郷 (はねる)

降 降 降 降 降 降 降 降

なりたち 降は、比(な)の足(あし)の形(かたち)です。それと「つみあげた土(つち)」を合わせて、坂道(さかみち)や、かいだん(階段)からおりるようす(ようす)を表(あらわ)しました。

つかいかた

- 屋上(やうじやう)から、なわばし(なわばし)こ(こ)を使(つか)って降(お)りる。
- あみだ(あみだ)なの上(うへ)の荷物(にもの)を降(お)ろす。
- 乗降客(じやうこうきゃく)の多(おほ)いターミナル(ターミナル)駅(えき)。

いみ・じゆく

- ①上(うへ)から下(した)にうつる — 降下(こうか)・昇降(しょうかう)
- ②空(そら)からおちる — 降雨(こうう)・降雪(こうせつ)
- ③まけてした(した)がう — 降参(かうさん)・降伏(かうふく)・投降(とうたう)
- ④ある時(とき)からあと — 以降(いこう)

学習 「下(した)」(33画)にも「おりる・おろす」の読み(よみ)があります。問屋(もんや)が小売店(せうばいてん)に商品(しょうひん)を売(う)る意味(いみ)では「お卸(おろ)す」と書(か)きます。



降

(6年・10画)

降

(6年・10画)

おん コウ
おん おりる・おろす・ふる

陸 陸 陸 陸 陸 陸 陸 陸

なりたち 音(おん)を表(あらわ)す(な)らぶ・つらなる(つ)と「つみあげた土(つち)」を合(あ)わせて、「こ(こ)だ(だ)かい丘(かみ)がどこ(どこ)までもつづいてる土地(ち)地(ぢ)」の意(い)味(み)を表(あらわ)しました。

つかいかた

- 水平線(すいへいせん)のむこうに陸(りく)が見(み)えてきた。
- 陸上(りくじやう)競技(けいぎ)。
- 飛行機(ひこうき)が着陸(ちやくりく)する。

いみ・じゆく

- 水(みづ)におおわれてい(い)ない広(ひろ)い土地(とち)地(ぢ)球(きゅう)上(じやう)の海(うみ)でな(な)い部(ぶ)分(ぶん)。
- 陸軍(りくぐん)・陸地(りくぢ)・陸路(りくろ)・陸橋(りくきやう)・上陸(じやうりく)・大陸(たいりく)・内陸(ないりく)・離陸(りりく)

学習 「陸(りく)」の反(はん)対(たい)は「海(うみ)」(258画)です。「陸上(りくじやう)⇄水上(すいじやう)⇄海上(かいじやう)」「陸路(りくろ)⇄空路(くうろ)⇄海路(かいろ)」のよう(よう)に、「水(みづ)」(251画)や「空(そら)」(303画)が対語(たいご)になるこ(こ)ともあ(あ)りま(ま)す。



陸

(4年・11画)

陸

(4年・11画)

おん リク
おん りく

陸

(6年・10画)

陸

(6年・10画)

おん ヘイ
おん へい



なりたち 皇(みかど)は、比(な)らぶ(らぶ)と土(つち)とでできた字(じ)で、「土(つち)の段(だん)がならん(ならん)でいるこ(こ)と」です。それ(それ)に「つみあげた土(つち)」をつ(つ)け、「高(たか)い所(ところ)へのぼる土(つち)の(の)かいだん(だん)」の意(い)味(み)から、そこ(そこ)に住(す)む身(み)分(ぶん)の高(たか)い人(ひと)を、う(う)やま(ま)う言(い)いかた(た)に使(つか)われるよ(よ)う(う)になり(な)りました。

つかいかた

- 天皇(てんかう)・皇后(こうご)の両(りやう)陛下(ていげ)が開会式(かいかいしき)にこ出席(しゅっせき)に(に)なる。

いみ・じゆく

- 天子(てんし)の住(す)む建(た)物の(の)かいだん(だん) — 陛下(ていげ)

学習 「陸下(りくか)」と「た(た)使(つか)いかた(た)のこ(こ)と」に「殿(だん)下(か)閣(か)下(か)」が(が)あ(あ)りま(ま)す。●形(かたち)の(の)に(に)て(て)いる(る)字(じ)に「階(かい)」(187画)が(が)あ(あ)りま(ま)す。ま(ま)ち(ち)が(が)え(え)ない(ない)よ(よ)う(う)に(に)し(し)ま(ま)し(し)よ(よ)う(う)。

陛 陛 陛 陛 陛 陛 陛 陛

院

(3年・10画)

院

(3年・10画)

おん イン
おん イン



なりたち 完(まる)く(ま)る(る)く(く)と(と)り(り)か(か)こ(こ)む(む)こ(こ)と(と)「つみあげた土(つち)」を合(あ)わ(わ)せた(た)字(じ)。ま(ま)わり(り)をか(か)き(き)ね(ね)て(て)か(か)こ(こ)ん(ん)だ(だ)中(ちゆう)庭(てい)の(の)こ(こ)と(と)から(ら)、そ(そ)の(の)あ(あ)る(る)、り(り)つ(つ)ば(ば)な(な)建(た)物(ぶつ)の(の)意(い)味(み)に(に)なり(な)り(り)ま(ま)し(し)た(た)。

つかいかた

- 事(じ)故(こ)にあ(あ)った(た)人(ひと)が(が)救(きゆう)急(きゆう)車(しゃ)で(で)入(い)院(いん)した(した)。
- 院(いん)長(ちやう)先(せん)生(せい)が(が)ば(ば)く(く)を(を)診(しん)察(さつ)し(し)て(て)く(く)れた(た)。

いみ・じゆく

- ①お(お)お(お)き(き)な(な)建(た)物(ぶつ) — 医(い)院(いん)・議(ぎ)院(いん)・産(さん)院(いん)・寺(てい)院(いん)・病(びやう)院(いん)
- ②お(お)お(お)や(や)け(け)の(の)仕(し)事(じ)を(を)す(す)る(る)こ(こ)と(と)ろ(ろ) — 芸(げ)術(じゆつ)院(いん)・少(せう)年(ねん)院(いん)・人(にん)事(じ)院(いん)・大(だい)学(がく)院(いん)

学習 国(こく)会(かい)に(に)は(は)「衆(しゆう)議(ぎ)院(いん)」と「参(さん)議(ぎ)院(いん)」が(が)あ(あ)り(り)ま(ま)す。外(がい)国(こく)で(で)は(は)、「上(じやう)院(いん)」「下(か)院(いん)」の(の)よ(よ)う(う)に(に)も(も)よ(よ)び(び)ま(ま)す。

院 院 院 院 院 院 院 院

除

(5年・10画)

除

(5年・10画)

おん ジョ・ジ
おん ジョ・ジ



なりたち 余(よ) (スコツ)ブ(ブ)で(で)たい(たい)ら(ら)に(に)お(お)し(し)の(の)ば(ば)す(す)と「つみあげた土(つち)」を合(あ)わ(わ)せた(た)字(じ)で(で)す(す)。「じ(じ)や(や)ま(ま)に(に)なる(る)土(つち)」を(を)お(お)し(し)の(の)ける(る)」と(と)い(い)う(う)意(い)味(み)で(で)した(た)。

つかいかた

- ろ(ろ)う(う)か(か)に(に)落(お)ち(ち)た(た)ゴ(ゴ)ミ(ミ)を(を)取(と)り(り)除(ぞ)く(く)。
- 母(はは)を(を)除(ぞ)くと、う(う)ち(ち)の(の)家(か)族(ぞく)は(は)男(おとこ)ば(ば)か(か)り(り)だ(だ)。
- 大(だい)雪(ゆき)の(の)た(た)め(め)、除(ぞ)雪(せつ)車(しゃ)が(が)活(か)やく(やく)す(す)る(る)。
- 今(いま)週(しゅう)は(は)階(かい)段(だん)の(の)掃(ほう)除(ぞ)当(たう)番(ばん)だ(だ)。

いみ・じゆく

- ①と(と)り(り)の(の)ぞ(ぞ)く(く) — は(は)ず(ず)す(す) — 除(ぞ)外(がい)・除(ぞ)去(きよ) — 除(ぞ)名(な)・解(かい)除(ぞ)・削(けつ)除(ぞ)・排(はい)除(ぞ)・免(めん)除(ぞ)
- ②わ(わ)り(り)算(ざん) — 除(ぞ)数(すう)・除(ぞ)法(ぽう)・加(か)減(げん)乗(じやう)除(ぞ)乗(じやう)法(ぽう)の(の)か(か)け(け)算(ざん)は(は)、「乗(じやう)数(すう)・乗(じやう)法(ぽう)」の(の)よ(よ)う(う)に(に)、「乗(じやう)」(37画)で(で)表(あら)わ(わ)し(し)ま(ま)す(す)。

除 除 除 除 除 除 除 除



階階階階階階階階

なりたち 皆(みな)とフ(つみあげた土)を合わせた字です。土をつみあげてつくった「かいだん」のことです。

つかいかた
 ○老人には駅の階段の上り下りがつらい。
 ○階上はホールになっています。
 ○音階に注意して歌う。
 ○上流階級の人たちの住む別荘地。

いみ・じゆく
 ① だん。だんだん。——階段・音階・段階
 ② 建物のかさなり。——階下・地階
 ③ 身分や地位のちがひ。——階層・職階

学習 形にのっている字に「階」(184頁)があります。書きまちがえないように気を付けましょう。



階

(3年・12画)

階

険

(5年・11画)

険

険険険険険険

なりたち 兎は「切り立ってとがる」という意味で、それとフ(つみあげた土)を合わせて、「切り立ったけわしい山」のことでした。それから、「あぶない」という意味になりました。

つかいかた
 ○岩のつきでた険しい山道。
 ○降りた車のすぐ前を横切るのは危険だ。

いみ・じゆく
 ① けわしい。——険路
 ② あぶない。——冒険・保険
 ③ とげとげしい。——険悪

学習 形と読みのにた字に、「検査」の「検」(238頁)や「実験」の「験」(394頁)、「検約」の「検」があります。まちがえないように気を付けましょう。



陽

(3年・12画)

陽

陽陽陽陽陽陽陽陽

なりたち 易(ひがたかくのぼる)と、フ(つみあげた土)を合わせて、「日あたりのよいおか」の意味でした。のちに、「日(たいよう)のことをさすようになりました」。

つかいかた
 ○太陽の熱を利用しておふろをわかす。
 ○だれにも好かれる陽気な人から。
 ○ツベルクリン反応が陽性になった。

いみ・じゆく
 ① たいよう。——陽光・陽春・落陽
 ② 二つの組みになるものうち、プラスの性質のもの。——陽画・陽極

学習 「陽」の反対は「陰」です。例「陽画⇄陰画」「陽気⇄陰気」「陽極⇄陰極」「陽性⇄陰性」「陽電気⇄陰電気」



隊

(4年・12画)

隊

隊隊隊隊隊隊隊隊

なりたち 隊(ずつしり)と重(れい)とフ(つみあげた土)を合わせた字です。「こんもりともりあがった土」のことから、「人のあつまり」の意味を表すようになりました。

つかいかた
 ○隊長が隊員から信らひされる。
 ○南極の観測隊が船で出発する。

いみ・じゆく
 ① きちんとならんだ、人や乗り物。——隊列・横隊・縦隊・編隊
 ② おおぜいの人の集まり。グループ。軍隊・探検隊・登山隊・部隊・連隊

学習 「兵隊」というのは、「兵士の集まり」という意味でしたが、ふつうは、ひとりひとりの兵士のことをいいます。



際際際際際際際際

なりたち 祭(まつり)とフ(つみあげた土)とを合わせた字です。かべとかべがこすれあうような、さかい目の場所の意味でした。

つかいかた
 ○いざというとき実際の役にたつ知識。
 ○すもうも国際的なスポーツになった。

いみ・じゆく
 ① はて。すみ。——際限・窓際・水際
 ② とき。おり。——實際
 ③ つきあう。——交際・国際

学習 「祭」のつく「観察」の「察」(135頁)や「摩擦」の「擦」は「こする」という意味とかんけいがあります。さういって、きれいにする。さういって、きれいにする。さういって、きれいにする。



際

(5年・14画)

際

障障障障障障障障

なりたち 音を表す章とフ(つみあげた土)とを合わせた字です。シヨウは「おしあて」ことで、せめてきた敵をふせぐ、とりでのことでした。それから「じやまになる」という意味が生まれました。

つかいかた
 ○気に障ることを言われて腹をたてる。
 ○運動会で障害物レースに出る。
 ○障子に人のかけがうつる。

いみ・じゆく
 ○さしつかえる。さまたげになる。——障害・故障・支障・保障

学習 「さわる」と読む字には、「ほかに「触」があります。「触る」は「手でふれる」意味に使います。



障

(6年・14画)

障

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

なりたち 音を表す士 (まっすぐに進む)と心(こころ)を合わせた字です。心でこうしようときめる意味を表します。

つかいかた

- 野口英世の伝記を読んで医師を志す。
- 苦勞をかさねてやっと志をとげる。
- 練習をなまけるのは意志が弱いからだ。
- 兄は志望していた高校に合格した。

いみじゆ ①心を、あることにむける——志願・志向・志望

学習 ②心の中でこうときめた考え——意志・遺志・初志・寸志・大志・有志・立志

学習 「志」を「志し」とおくらなように注意しましょう。



志 (5年・7画)

志 (なぐり、どめる)

心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

なりたち 部首の説明 心(こころ) (ナリッしんべん)

しんぞうの形をうつしとったもので、「こころ」の意味を表します。「心」のつく字は、「こころ」や精神の状態にかんけいする意味をもっています。

つかいかた

- 心をこめたもてなし。
- 人の心を打つ話。
- 先生が夏休みの心得について話す。
- 気心の知れた友だち。
- あすの遠足は雨になりそうで心配だ。
- 駅に主人を出むかえる感心な犬。
- 心機一転してピアノの練習にはげむ。

いみじゆ ①しんぞう——心室・心電図・強心剤

②こころ——心外・心境・心中・心理・安心・改心・関心・苦心・決心・内心・熱心・本心・用心・良心・親心

③まんなか——心棒・遠心力・中心

学習 ●「心氣一転」はまちがいです。特別な読みかたに「心地こころ」があります。



心 (2年・4画)

心 (はねる、どめる)

応 応 応 応 応 応 応 応 応 応

なりたち オウという音は、「うけとめる」という意味を表します。あいてのいうことを心でうけとめて、それにこたえた行動をするという意味でした。

つかいかた

- 呼びかけに応じて人が集まる。
- 応接間にお客さまをおす。
- パトカーから本部に応答する。

いみじゆ ①こたえる。態度でしめす。——応急・応戦・応募・応用・一応・呼応・対応

②つりあう——応分・相応・適応

学習 ●「順応・反応」を「じゅんおう・はんおう」と読まないように気をつけましょう。●「応対」を「おうたい」と書かないように注意してください。



応 (5年・7画)

応 (はねる、そらえる)

忘 忘 忘 忘 忘 忘 忘 忘 忘 忘

なりたち 音を表す亡(なくなる)と心(こころ)を合わせた字です。心の中にあつたものが、きえてなくなつてしまうことから、「わすれる」という意味になりました。

つかいかた

- 友だちの電話番号を忘れる。
- ドアにかぎをかけるのを忘れる。
- 忘れ物をして家まで取りにもどる。
- 度忘れてあの人の名が思いだせない。
- 父が忘年会でかくし芸をした。

いみじゆ ①わすれる——忘恩・忘却・健忘△症・備忘録・忘れ形見・度忘れ・物忘れ

学習 上の段の「志」と形がにています。書きまちがえないようにしてください。



忘 (6年・7画)

忘 (はねる、そらえる)

必 必 必 必 必 必 必 必 必 必

なりたち 棒をまつすぐにするために、両がわから木をあててぐるぐるまいたようすを表す字です。「どうして」も、そうなる」という意味を表します。

つかいかた

- 必ずやくそくを守る人。
- 安いものが必ずしも悪いとはいえない。
- ハイキングに必要なものをそろえる。
- 犬におわれて必死になってにげる。

いみじゆ ①かならず。きつと。——必殺・必至・必修・必勝・必然・必着・必中・必読

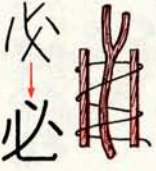
学習 ●筆順のむずかしい字です。しっかりと覚えてください。

●「必らず」と書くのはまちがいです。注意しましょう。



必 (4年・5画)

必 (はねる、どめる)



性 (うまれ)

なりたち 生(うまれ)と忄(こころ)を合わせた字です。うまれつきもっている心を表します。

つかいかた

- のびのびとした性格の子ども。
- 個性をいかした洋服のデザイン。
- 若い女性のための週刊誌。

いみ・よみ

① うまれつき 性分・性質・性情・気性・根性・習性・知性・人間性・理性

② ものにそなわっているせいしつ 性能・悪性・急性・酸性・中性・毒性

③ 男と女のちがいは 性別・異性・男性

④ 男と女のちがいは 性別・異性・男性

学習 「野性」(自然のままの性質)と「野生」(自然のなかで育つ)のちがいに気をつけて、使い分けましょう。



性 (5年・8画)

おんせい・シヨウ

性 (なま) 性 (なま)

急 (おい)

なりたち 急(おい)と心(こころ)を合わせた字です。早くおいっとうとして、心がせかせかすることから、「いそぐ」という意味になりました。

つかいかた

- 食事のしたくを急ぐ。
- 急な坂道。
- 急に雨が降りだす。
- 救急車を呼ぶ。

いみ・よみ


① いそぐ 急告・急用・早急・至急

② とつぜん 急死・急転・急病・急変

③ はやい 急性・急速・急流

④ かたむきが大きい 急カーブ

学習 「特急・準急」の「急」は「急行列車」のことです。「いそがしい」を「急がしい」と書くのはまちがいです。



急 (3年・9画)


おんキユウ

急 (いそ) 急 (いそ)

特急・急行列車の名まえ

国鉄の特急や急行には「ひかり」や「アルプス」のような名まえがあります。そのいくつかを、つぎにあげました。このほかに、どんな名まえを知っていますか。カッコの中は、その列車が走っている線名です。

おおぞら (函館本線)
ひばり (東北本線)
やまばと (奥羽本線)
ひたち (常磐線)
しおさい (総武本線)
さざなみ (内房線)
こだま (新幹線)
銀河 (東海道本線)
とき (上越線)
あさま (信越本線)
あずさ (中央本線)
しらさぎ (北陸本線)
だいせん (山陰本線)
やくも (伯備線)
うわじま (予讃本線)
有明 (鹿児島本線)
にちりん (日豊本線)



快 (えぐ)

なりたち 夫(えぐ)と忄(こころ)を合わせた字です。心の中のいやなことをえぐりとったような、さっぱりとした気持ちの意味です。

つかいかた

- 友だちのたのみを快くひきうける。
- 快晴の日にはここから富士山が見える。

いみ・よみ


① こころよい 気もちがよい。快活・快挙・快調・快適・軽快・痛快・不快

② はやい 快走・快足・快速

③ 病気がよくなる 快方・全快

学習 「かいそく」ということは、つぎのように使い分けます。

快足：快足を飛ばす・快足ランナー。
快速：快速電車に乗りかえる。



快 (5年・7画)

おんカイ

快 (えぐ) 快 (えぐ)

忠 (ちゅう)

なりたち チュウ(中)という音は「ななみがつまっている」という意味を表します。それに心(こころ)を合わせて、「ななみがつまっていたところのない心・まごころ」を表します。


つかいかた

- わがままな友だちに忠告をする。
- しごとに忠実にはげむ社員。
- 家来が主人に忠節をつくす。

いみ・よみ

① まごころ まごころをもつてつくす。忠義・忠勤・忠犬・忠言・忠孝・忠臣・忠誠・不忠

学習 「忠」という字をらんぼうに書くとき、「中心」のように見えます。ていねいに書くくせをつけましょう。



忠 (6年・8画)

おんチュウ

忠 (ちゅう) 忠 (ちゅう)

念 (ねん)

なりたち 音を表す今(なかにふくむ)と心(こころ)を合わせた字です。心の中でよく考えることを表します。

つかいかた

- 念のため、もう一度、作文を読み返す。
- 母が旅に出た子どもが無事を念じる。
- 優勝できなかったのが残念だ。
- 卒業記念の写真をとる。


いみ・よみ

① じっくり考える。ふかい考え。念願・念力・観念・信念・専念・無念

② 気をつける。入念・念入り

③ 口の中でのなえる。念仏

学習 「念には念を入れよ」というのは、「よほど気をつける」ということです。



念 (4年・8画)

おんネン

念 (ねん) 念 (ねん)

思

(2年・9画)

おんシ
くんおも

なりたち 田は、まだよくかたまらな、あかんぼうの頭の形を表します。それに心をつけて、あれこれと考え、まだ心がきまらないようすを表します。



思

なりたち 音を表す因(ものの上)の(る)と心(こころ)を合わせた字です。心の上に、ありがたく思う気持ちをのせることでした。それから、「人がらうけた、なさけ」の意味になりました。



恩

(5年・10画)

おんオン
くん

恩

つかいかた
○外国ではたらいっている父のことを思う。
○あしたからマラソンをしようと思う。
○長いあいだの思いが、やつとかなう。
○思いがけない人に、ばったり会う。

思
思
思
思
思
思
思
思
思
思

つかいかた
○あなたのご恩は決してわすれません。
○「ツルの恩返し」という本をよむ。
○あの人にはわたしの命の恩人です。
○小学校の恩師に年賀状を出す。

恩
恩
恩
恩
恩
恩
恩
恩
恩
恩

息

(3年・10画)

おんソク
くんいき

なりたち 自(はな)と心(しんぞう)を合わせた字です。しんぞうのうごきにつれて鼻からいきをするようすを表します。



息

つかいかた
○木のかげにかくれて息をこらす。
○マラソンをしたら息切れがした。
○外国に行った兄の消息がとどえる。

息
息
息
息
息
息
息
息
息
息

悪

(3年・11画)

おんアク・オ
くんわるい

なりたち 亜(う)からおさえつける(と)心(こころ)を合わせた字です。むねをおさえつけられて気持ちがわるいという意味から、ふゆかいな気持ちをこさせることの意味になりました。



悪

悪
悪
悪
悪
悪
悪
悪
悪
悪
悪

情

(5年・11画)

おんジョウ・セイ
くん なさけ

なりたち 青(すん)だ井戸の水(みづ)と(こころ)を合わせた字です。心のそこにあつて、人の心のはたらきのもことになるものという意味です。



情

情
情
情
情
情
情
情
情
情
情

悲

(3年・12画)

おんヒ
くん かなしい・かなしむ

なりたち 非(ひ)二つにわかれる(と)心(こころ)を合わせた字です。心が二つにわかれることから、むねが二つにはりさけそうな気持ちを表します。



悲

悲
悲
悲
悲
悲
悲
悲
悲
悲
悲

感 感 感 感 感 感 感 感

なりたち 相(もの)と心(こころ)を合わせた字です。あることに心をむけることから、心の中で考える意味になりました。

つかいかた

- 試合の勝敗を予想する。
- 本を読んで感想文を書く。
- 童話を読んで空想にふける。
- まだ会わない、いとこの顔を想像する。
- あの作品は着想がよい。

いみ・じゆん

- かんがえる。かんがえ。—— 想起・理想・回想・妄想・幻想・構想・思想・追想・夢想・理想・連想

学習 ソという読みは「愛想(あいせ)」ということばに使われます。



感

(3年・13画)

感

態 態 態 態 態 態 態 態

なりたち 能(はたらき)と心(こころ)を合わせて、心をはたらかせて、すがたをととのえる意味でした。それから「ようす」の意味になりました。

つかいかた

- 学習態度がrippだとはめられる。
- ゲームのできる状態ではない。
- チョウの生態を研究する。

いみ・じゆん

- ようす。ありさま。—— 態勢・態度・奇態・旧態・形態・姿態・醜態・生態・変態

学習 まちがえやすい字に「能力・才能」の「能(33画)」と「熊」があります。「熊」は人名にだけ使用してよいときめられた「人名用漢字」です。↓付録417



態

(5年・14画)

態

慣 慣 慣 慣 慣 慣 慣 慣

なりたち 音を表す貫(つらぬく)と忄(こころ)を合わせた字です。きまったやりかたで、長い間つらぬきとおすことになじむ気持ちから、「なれる・ならわし」という意味になりました。

つかいかた

- 辞書の引きかたに慣れる。
- 野生の動物を飼いに慣らす。

いみ・じゆん

- なれる。ならわし。—— 慣行・慣習・慣性・慣用・慣例・習慣・場慣れ

学習 「慣習」と「習慣」は同じ意味でも使いますが、つぎのような使い分けもあります。

慣習：長い間つづけてきたならわし。
習慣：いつも、しなれているやりかた。



慣

(5年・14画)

慣

想 想 想 想 想 想 想 想

なりたち 相(もの)と心(こころ)を合わせた字です。あることに心をむけることから、心の中で考える意味になりました。

つかいかた

- 試合の勝敗を予想する。
- 本を読んで感想文を書く。
- 童話を読んで空想にふける。
- まだ会わない、いとこの顔を想像する。
- あの作品は着想がよい。

いみ・じゆん

- かんがえる。かんがえ。—— 想起・理想・回想・妄想・幻想・構想・思想・追想・夢想・理想・連想

学習 ソという読みは「愛想(あいせ)」ということばに使われます。



想

(4年・13画)

想

意 意 意 意 意 意 意 意

なりたち 音(つ)と心(こころ)を合わせた字です。むねの中になにかがあつてつかえることから、心の中の思いの意味になりました。

つかいかた

- 意外に早く目的地に着いた。
- 意見のある人はどんどん発言しなさい。
- 一等になったので得意になる。
- 先生からふざけすぎると注意される。

いみ・じゆん

- ①おもい。かんがえ。きもち。意向・意志・意思・意識・意欲・悪意・決意・好意・合意・真意・誠意・同意・用意
- ②わけ—— 意義・意味・大意・文意

学習 人間の心の働きの中心となる三つものを「知・情・意」といいます。



意

(3年・13画)

意

愛 愛 愛 愛 愛 愛 愛 愛

なりたち 心(こころ)がいっぱいになって、夕(あし)が前に進まないようすを表す字でした。それから、「せつなく思う」の意味になりました。

つかいかた

- 母の愛にうえた子ども。
- 自然を愛する心をそだてる。
- 赤ちゃんと愛らしいえがお。
- 五月十日から愛鳥週間がはじまる。
- アキ子さんの愛称はアコちゃんです。

いみ・じゆん

- ①かわいがる—— 愛育・愛犬・愛情
- ②だいににする—— 愛護・愛国・自愛
- ③このむ—— 愛好・愛唱・愛読・愛用

学習 「愛(88画)」と形がにています。書きまちがえないようにしましょう。



愛

(4年・13画)

愛

憲

(6年・16画)



なりたち 音を表す声(かぶせるもの)と四(目)と心(こころ)を合わせた字です。目や心にかぶせて、かつてな行いをおさえるわく、のことから、「きまり」の意味になりました。

つかいかた
○五月三日は憲法記念日です。
○児童憲章は子どもの幸福を守るためのきまりです。

いみ・じゆく
○もとなるきまり——憲章・憲法・家憲・立憲

学習 「憲法」は国のものになる法律のことです。「合憲」は「憲法になつてゐる」、「違憲」は「憲法にたつてゐる、まがつてゐる」という意味です。

憲 憲 憲 憲 憲 憲 憲

成

(4年・6画)



なりたち もとの字は成です。音を表す丁(ま)とめる)と戊(道具)とを合わせて、道具を使つてしあげる意味から、「できあがる」意味になりました。

つかいかた
○事件の成り行きを注目する。

いみ・じゆく
①できあがる——成人・成立・完成・落成
②まどめあげる——形成・作成・達成
③そだつ——成育・成熟・成長

学習 ●ジョウという読みは「成就・成長」ということばに使います。●「成育・成長」に対して「生育・生長」は、植物がそだつ意味にかぎって使います。

成 成 成 成 成 成 成

我

(6年・7画)



なりたち もとは、刃(ほこ)のかたちをえがいた字でした。ガという音が同じなので、「自分」という意味に使うようになりました。

つかいかた
○地震だという声に、我を忘れて飛び出す。

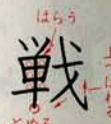
いみ・じゆく
①じぶん——自我・我が家・我勝ち
②じぶんかつて——我意・我流

学習 「われわれ」は、漢字では「我我」あるいは「我々」ですが、ふつうは「われわれ」と、かなで書きます。

我 我 我 我 我 我 我

戦

(4年・13画)



なりたち 音を表す單(ば)とた(た)とた(た)はた(た)と戈(ほこ)を合わせた字です。ほこで敵をたたき、ばはたとなぎたおすことを表します。

つかいかた
○最後まで全力をつくして戦う。

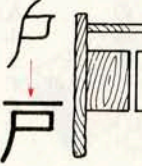
いみ・じゆく
○女や子どもまでが戦いに参加する。
○校庭で雲合戦をする。
○きょうは高校野球の決勝戦がある。

学習 ●「いくさ」という読みは「負け戦」などのことばに使います。●「たたく」と読む字には「闘」があります。「貧乏と闘う」のように使います。

戦 戦 戦 戦 戦 戦 戦

戸

(2年・4画)



なりたち 門のとびらの片がわをえがいたものです。コという音は「かたい」という意味で、かたいぼうで、入り口をふせぎとめるという意味ももっていました。

つかいかた
○だれかが戸をたたく。○雨戸をしめる。

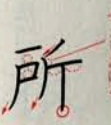
いみ・じゆく
①とびら。出入り口。戸口・網戸・木戸
②いえ——戸数・戸籍・戸別

学習 ●家を数えることばに、「戸」のほかに「軒」があります。「戸」とはつぎのようになちががあります。戸：家族をひとまとまりとした数。軒：建物の数。

戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸

所

(3年・8画)



なりたち 斤(おの)と戸(木のぼう)を合わせた字です。もとは木を切る音を表しましたが、同じ音の「ところ・もの」の意味にかりて使いました。

つかいかた
○前に住んでいた所の近くを通る。

いみ・じゆく
①ところ。ばしょ。近所・住所・名所
②仕事をするとところ。所長・研究所
③…すること。…するもの。所感・所持・所属・所定・所得・所有・所要

学習 ●「ところ」はかなで書きます。

所 所 所 所 所 所 所

●部首の説明
手て(才てへん)



●手の形をうつしとつたものです。
●「手」「扌」のつく字は、みな、「手をつかって何かをする」「手のはたらき」にかんけいする意味をもっています。

にた形の部首に「才(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。

●手(て)の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。



●部首の説明
手て(扌てへん)

(1年・4画)



●「手」「扌」のつく字は、みな、「手をつかって何かをする」「手のはたらき」にかんけいする意味をもっています。

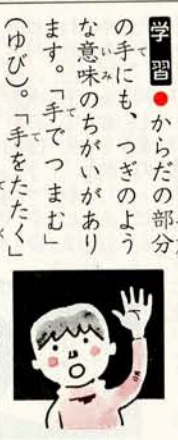
●「手」「扌」のつく字は、みな、「手をつかって何かをする」「手のはたらき」にかんけいする意味をもっています。



●よこれた手を洗う。
●弟の手を引いて歩く。
●母親は、子どものせわに手がかる。
●手におえない、いたずらつ子。
●ぼくの絵に先生が手を加える。
●父が商売の手を広げる。
●日曜日にグロープの手入れをする。
●手紙に切手をはる。
●手首に時計をはめる。
●わたしのセーターは母の手製です。
●手当たりしだいにおもちやを投げる。
●手取り足取りしてコピーする。
●答案を早く出したので手持ちぶさた。
●足の骨をおって手術をする。
●大型トラックの運転手になりたい。
●花子さんはわたしのテニスの好敵手だ。
●徒手体操の選手にえらばれる。

いみじゆく

①て 手芸・手中・手動・義手・挙手・拍手・手足・手編み・手鏡・手書き・手袋・片手・左手・右手・両手
②自分でする 手記・手製・手作り・手料理
③やりかた 手段・手法・手腕・手際・手口・手順・手続き・手早い
④しごとをする 着手・手数・手始め・手間・手分け
⑤しごとをしてもらう人 手薄・手助け・手不足
⑥人 歌手・交換手・助手・投手・名手・相手・売り手・借り手・話し手



手手手手

●「手」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。

●部首の説明
才(扌才)

(2年・3画)



●「才」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。



●「才」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。

●「才」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。

才 才 才

●部首の説明
打(扌丁)

(3年・5画)



●「打」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。



●「打」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。

●「打」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。

打 打 打 打 打

●部首の説明
技(扌支)

(5年・7画)



●「技」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。



●「技」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。

●「技」の部首に「扌(うしへん)」があります。これは「うし」の意味ですから、書きまちがえないようにしまししょう。
●「た」という読みは「手△繰る」「手△綱」などのことばに使われます。
●特別な読みかたに「手伝(てん)・上手(じょう)・下手(げう)」があります。

技 技 技 技 技

承承承承承承承承

なりたち 音を表す丞(もちあげる)の略した形と手を合わせた字です。受けとったものを両手でささげる意味から、「いうこと」にしたがう・みとめるという意味になりました。

つかいかた

- その話はよく承知しています。
- 米価の値上げが国会で承認される。
- 父の言いつけに不承不承したがう。
- 先生のご意見を承りたいと思います。

いみ・じゆく

①みとめる。ききいれる。——承△諾・承知・承認・承服・了承

②うけつぐ。承△継・△継承・伝承

学習 「承る」は「聞く」「受ける」のへりくだった言いかたです。



承

(5年・8画)

承

おん ショウ
くん うけたまわる

おん ハイ
くん おがむ

拜

(6年・8画)

拜

なりたち もとの字は拜です。神にそなえるささげものを両手でもっているようすを表しました。

つかいかた

- 神社で手を合わせて拜む。
- お寺の宝物を拝観する。

いみ・じゆく

①おがむ。あたまをさげる。——拜△礼・再拜・参拜・△崇拜・礼拜

②あいてをうやまうていうことば——拜見・拜借・拜聴・拜読

学習 「拜△啓」というのは、手紙の書き出しのことばです。「拜△啓」に対する、むすびのことばは「敬具」です。

●「拜」の右がわの「手」を「手」としないように気をつけましょう。



拜拜拜拜拜拜拜拜

なりたち 扌(手)と広(ひろい)を合わせた字です。手でおしひろげることばを表します。

つかいかた

- 草の葉をけんび鏡で拡大して見る。
- 駅ホームの拡張工事をする。
- 拡声器でまいごの案内をする。
- 辞典を改訂して内容を拡充する。

いみ・じゆく

①ひろげる。大きくする。——拡△散・拡△充・拡△声器・拡△大・拡△張

学習 「ひろげる・ひろがる」というときは、「拡」を使いません。「広(153画)」を使って、「広げる・広がる」のように書きます。音も、「カク↓コウ」とちがいますから、まちがえないようにしましょう。



拡

(6年・8画)

拡

おん カク
くん

拡拡拡拡拡拡拡拡

投

(3年・7画)

投

おん トウ
くん なげる



なりたち 扌(立てる)と才(手)とを合わせた字です。ものをなげて立たせる意味でしたが、のちに「なげる」の意味だけに使われるようになりました。

つかいかた

- 川のむこう岸めがけて石を投げる。
- すもうで弟を投げる。
- みんなで輪投げをして遊ぶ。
- ピッチャーの好投でゲームに勝つ。

いみ・じゆく

①なげる。ほうる。——投△下・投△棄・投△球・投△手・投△石・完投・暴投

②さしだす。おくりこむ。——投△資・投△書・投△入・投△票

学習 特別な読みかたに「投△綱み」があります。

折

(4年・7画)

折

おん セツ
くん おる・おり・おれる



なりたち 斤(おの)と才(草の切れたかたち)とを合わせた字です。はもんで草を切る意味から、「おる・おれる」という意味に変わりました。

つかいかた

- 木のえだを折る。
- かざの骨が折れる。
- 折りつめの弁当。
- ズボンの折り目。
- 折があったら、また会いましょう。

いみ・じゆく

①おる。おれる。——曲△折・屈△折・骨△折・折△返し・折△紙・折△りばこ・指△折り

②とき——折△折・時△折

学習 ●「とき」の意味の「折」を「折り」としないように注意しましょう。

●形のにている字に「分△折」の「△折」があります。気をつけてください。

批

(6年・7画)

批

おん ヒ
くん



なりたち 扌(手)と比(ならべる・くらべる)を合わせた字です。いくつものものをならべて、その中からよいものをとり出す意味でした。

つかいかた

- 作文に先生の批評が書いてあった。
- 友だちの行動を批判する。
- ものごとを批判的にかんがえる。

いみ・じゆく

①よい、わるいをきめる。——批△判・批△評

学習 「批判」は、おもに人の行動や考えかたなどについていい、「批判的」ということばは、わるいところを見つけて意味に使います。「批評」は、文章・絵などの作品のねうちを公平にきめる意味に使われます。

投投投投投投投投

折折折折折折折折

批批批批批批批批

招

(5年・8画)



なりたち 音を表す召(まがる)と扌(手)を合わせた字です。手をまげて、人を手まねきするようすを表しました。



つかいかた

- 誕生日に家に友だちを招く。
- だれかが、むこうで手招きしている。
- 運動会の招集係になる。

いみじゆく

○まねく。人をよびよせる。——招集・招請・招待・招致

学習 ●にた字に「召」があります。とは「口でよぶ」意味でした。●「招集」は、ふつうに人をよびあつめるときに使います。「召集」は、国会議員などをあつめるときに使われます。

招招招招招招招招招招

担

(6年・8画)



なりたち タン(旦)という音は「ひとつのところにちつく」という意味です。扌(手)で荷物をかつぎあげ、かたのところでおちつかせる意味でした。



つかいかた

- 新学期から担任の先生がかわった。
- 学芸会の係をみんなで分担する。
- 病人を担架にのせてはこぶ。

いみじゆく

①かつぐ。手にもつ。——担架
②ひきうける。——担当・担任・担保・加担・負担・分担

学習 ●「かつぐ・になう」という読みは「荷物を担ぐ」「責任を担う」のように使われます。●「担」の右がわの「旦」を「且」としないように注意しましょう。

担担担担担担担担担担

拾

(3年・9画)



なりたち 扌(手)と合(あつめる)とを合わせた字です。ちらばったものを、手であつめ、まとめる意味から、手でひろう意味に使うようになりました。



つかいかた

- ろうかに落ちていたゴミを拾う。
- 秋の遠足は、クリ拾いだ。
- あぶないところで、命拾いをした。
- 領収書に「金拾万円」と書いてあった。

いみじゆく

①ひろう。——拾集・拾得
②まとめる。——收拾

学習 ●「拾(205)」と形がなっています。まちがえないようにしてください。●金額などを書くときに、「十」のかわりにこの字を使うことがあります。

拾拾拾拾拾拾拾拾拾拾

持

(3年・9画)



なりたち 寺(じつとどまる)と扌(手)を合わせた字です。手にものをじつとどめておくことから、「もつ」の意味が生まれました。



つかいかた

- 両手にふるしきづつみを持つ。
- 家を出る前に持ち物をしらべる。
- かぜをひいたのか、気持ちがよくない。
- だれもぼくの意見を支持してくれない。

いみじゆく

①もつ。身につける。——持参・所持・持ち主・持ち場・金持ち・物持ち

②もちこたえる。もちつづける。——説・持続・持病・持論・△堅持・保持

学習 「待」(162)と形がなっています。まちがえないようにしましょう。

持持持持持持持持持持

指

(3年・9画)



なりたち 旨(まっすぐでみじかい)と扌(手)とを合わせた字です。ぼうのようで見いかい手の部分ということで、「ゆび」の意味になりました。



つかいかた

- じしゃくの針が北を指す。
- 夏休みのくるのを指折りかぞえて待つ。
- 上級生が下級生の指導をする。

いみじゆく

①ゆび。——指圧・指先・指輪・親指
②さししめす。さしずする。——指揮・指示・指針・指定・指標・指名・指令

学習 「さす」と読む字には「差(146)」と「刺」もあります。特に、「差す(刀を差す・かさを差す・指差す)」とまちがえないでください。

指指指指指指指指指指

「指」のつくいまわし

「指」という字をつかいたいいかたには、つぎのようなものがあります。

指をくわえる：①まったく手出しがでない。例「指をくわえてひっこむ」②ほしそうなそぶりをする。例「おなががすいて、指をくわえる」

指をさす：①指でさししめす。例「ほしいものを、指でさしなさい」②名ざしで悪口をいう。例「他人に指を差されるようなことはするな」指一本差させない

指おり：①指をおって数えること。例「指おり数えて待つ」②たくさんなのなかで、とくに目だつてすぐれているようす。例「町で指おりの大金持ち」



接接接接接接接

なりたち 音を表すま (くつ)とキ(手)を合わせた字です。ものをくつつけたり、ちがづけたりする意味でした。

つかいかた

- 家によらずに、直接、けいこに行く。
- 台風が日本列島に接近している。
- だれともおなじ態度で接する。

読み(じゆく)

- ① つなぐ・つける。接合・接続 接着
- ② ちかづく 接戦・接点・密接
- ③ 人とあう 接待・応接・面接

学習 ●「つぐ」という読みは「骨を接ぐ・接ぎ木をする」のように使われます。●「つぐ」と読む字には、ほかに「△継」と「次(243頁)」があります。



接 (5年・11画)

おんセツ
くんつく

推推推推推推推

なりたち 音を表す推(ず)しりとおもい(手)とキ(手)を合わせた字です。手で上からどんどんとたたく意味から、力を入れて、ものを横にどける意味になりました。

つかいかた

- 小さな親切運動を推進する。
- ぼくは推理小説がすきだ。

読み(じゆく)

- ① すずめる 推挙・推進・推し
- ② おしはかる 推計・推察・推測・推定・推量・推論・類推

学習 ●「おす」という読みは、「山田くんを学級委員に推す」のように使います。ふつうの「おす」の意味には、「押す」を使います。↓付録429頁。



推 (6年・11画)

おんスイ
くんおす

捨捨捨捨捨捨捨

なりたち 手(扌)と舍(ゆるめる)を合わせた字です。「手をゆるめて持っているものをはなす」ことから、「する」という意味に変わりました。

つかいかた

- 捨てネコをひろってそだてる。
- 名まえを呼び捨てにする。
- 四捨五入のしかたを勉強する。

読み(じゆく)

- ① する。手はなす。取捨・捨て

学習 ●「捨(202頁)」とは形がにています。が、意味は反対です。「ゴミを捨てる」が、「ゴミを拾う」のように使い分けられます。まぢがえないように、しっかりとおぼえてください。



捨 (6年・11画)

おんシヤ
くんすてる

拳拳拳拳拳拳拳

なりたち 音のキヨは「かみあわさる」という意味です。もとは、二人が手をそろえ、力を合わせて、ものをもちあげることでした。

つかいかた

- 鉄道の開通を町を挙げて祝う。
- 創立百周年の記念式典が挙行される。
- クラス委員をみんな選挙する。

読み(じゆく)

- ① あげる 挙手
- ② おこなう。くわだて。挙式・快挙
- ③ すずめる。おす。推挙・選挙
- ④ ならべあげる 枚挙・列挙

学習 ●「あげる・あがる」と読む字には、ほかに「上(32頁)」と「△揚」があります。使い分け↓付録428頁。



授授授授授授授

なりたち 受(しつか)りとかむ)とキ(手)を合わせた字です。手で、ものを、あいてにしっかりと手わたすという意味です。

つかいかた

- 午後の授業は音楽と国語だ。
- あの人は大学の教授だ。
- ノーベル賞の授賞式が行われた。
- かんとくが選手に作戦を授ける。

読み(じゆく)

- ① さづける。あたえる。授業・授賞・授乳・授与・教授・伝授

学習 ●「受(88頁)」と意味が反対なので、まちがえないように気をつけましょう。「授賞」は「賞をわたすこと」、「受賞」は「賞をもらうこと」です。



採採採採採採採

なりたち もとは採(さい)けて「つめで木の芽をつみとる」意味でした。あとで、キ(手)がつき、「手をつかつてとる」意味になりました。

つかいかた

- 海にもぐって貝を採る。
- こん虫採集をする。○テストの採点。

読み(じゆく)

- ① とる。とり入れる。採掘・採血・採決・採光・採鉱・採取・採炭
- ② えらぶ。とりあげる。採否・採用

学習 ●「とる」と読む字には、ほかに「取(88頁)」、「△執る」、「△捕る」、「△撮る」があります。「責任を取る」、「事務を執る」、「ボールを捕る」、「写真を撮る」のように使い分けられます。↓付録432頁。



授 (5年・11画)

おんジュ
くんさずける・さずかる

採 (5年・11画)

おんサイ
くんとる

損 損 損 損 損 損

なりたち 音を表す員(ちいさい)と扌(手)を合わせた字です。手でけずりよって小さくすることから、「ものうしなう」意味になりました。

つかいかた
 ○買ったばかりの本をなくして損をした。
 ○ボールを受け損じて顔にあてる。
 ○地しんによる損害は数億円にのぼる。

いみ・じゆく
 ①もうけをなくす。うしなう。— 損益・損失・欠損
 ②きずつける。こわす。— 損傷・破損

学習 ●「そこなう・そこねる」という読みは「健康を損なう・きげんを損ねる」というようなばあいに使われます。「損」の反対は「得(164頁)」です。



損

(5年・13画)

損

操 操 操 操 操 操

なりたち 巢(上をさつとかすめる)と扌(手)を合わせた字です。まゆの外がわからさつと糸をとるようすを表し、それから、「手にとる・手をうごかす」という意味になりました。

つかいかた
 ○兄は飛行機の操縦をならっている。
 ○操車場の見学に行く。
 ○体操選手の演技に見とれる。

いみ・じゆく
 ①うごかす。操業・操作
 ②心にきめたことをかたくまもる。— 情操・節操

学習 ●「あやつる」という読みかたは、「操り人形・うしろで操る」などというばあいに使われます。



操

(6年・16画)

操

支 支 支 支

なりたち シという音は「わかる」という意味で、十(一本ずつにわかれた竹)を又(手)でもつ形です。

つかいかた
 ○からだを支える。○一家を支える。
 ○銀行の支店。○予備費を支出する。

いみ・じゆく
 ①ささえる。— 支持・支柱・支店・支配
 ②わかる。— 支局・支社・支部・支流
 ③お金をはらう。— 支給・収支

学習 ●「支」をふくむ字には「こまかくわかる」という意味があります。「支」は「こまかなわざ(199頁)」、「岐」は「わかれみち」。特別な読みかたに「差し支つかえる」があります。



支

(5年・4画)

支

探 探 探 探 探 探

なりたち 音を表す果(ふかくはいりこむ)と扌(手)を合わせた字です。おくに手をつつこんで、さぐることを表しました。

つかいかた
 ○道でおとしたさいふを探す。
 ○父は探し物ばかりしている。
 ○アマゾンの奥地へ探検に行く。
 ○学校新聞の探訪記事を読む。

いみ・じゆく
 ○さがしもどめる。さぐりまわる。— 探求・探究・探索・探知

学習 ●「さぐる」という読みは「敵のようすを探る」というように使われます。「さがす」と読む字には、ほかに「△捜(人を捜す)があります。



探

(6年・11画)

探

提 提 提 提 提 提

なりたち 音を表す提(まつすぐ)と扌(手)を合わせた字です。手で物をまつすぐにひきあげるから、「手」でさげる・もつ」の意味になりました。

つかいかた
 ○作文を先生に提出する。
 ○学級会で係のきめかたを提案する。

いみ・じゆく
 ○もちだす。しめす。— 提案・提起・提供・提示・提出・提唱・前提

学習 ●「さげる」という読みは「手提げかばん」などというばあいに使われます。ふつうは「下げる(33頁)」を使います。「是」がテイという音を表す字には、「△堤防」の「△提」があります。形もにいていますので、気をつけましょう。



提

(5年・12画)

提

揮 揮 揮 揮 揮 揮

なりたち 音のキはグン(軍)の変化したもので、「まるくとりかこむ」という意味でした。それに扌(手)をつけて、「手をぐるぐる」とまわす」という意味を表しました。

つかいかた
 ○コーラスの指揮をする。
 ○試合で実力を十分に発揮する。
 ○揮発油でよこれをおとす。

いみ・じゆく
 ①ふりまわす。— 指揮
 ②うでをふるう。— 発揮
 ③とびちらす。— 揮発

学習 ●「軍」がキという音を表す字には、ほかに「光輝」などの「△輝」があります。



揮

(6年・12画)

揮

●部首の説明
女はくづくり・ほくにまう



改

(4年・7画)

おんカイ
あらためる・あらたまる



●手でぼうをにぎってポンとたたかうすをしめたものです。「ぼうでたく」「たたいて何かをさせる」意味をもち、動作を表すしとして使われます。

●「改」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「支(し)」「欠(けい)」「欠(くわくび)」があります。「支」は「わけける」「欠」は「口をひらく」という意味です。敬放数敵 改政敵 改政敵 改政敵



なりのたち 己(まが)ったものがおきあがるようす)と女(動作を表すし)を合わせた字です。たるんだものをびんどさせることから、「あらためる」という意味になりました。

●心を変えてしごとにはげむ。●もうすぐ年が改まる。●駅の改札口。●模型飛行機を改良する。●あたらしくする。なおしてよくする。改善・改良・改修・改心・改正・改選・改訂・改訂・改訂・改訂

●「改」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「支(し)」「欠(けい)」「欠(くわくび)」があります。「支」は「わけける」「欠」は「口をひらく」という意味です。敬放数敵 改政敵 改政敵 改政敵

放

(3年・8画)

おんホウ
はなす・はなつ・はなれる



●小鳥を放す。●かれ草に火を放つ。●矢がつるを放れる。●テレビの放送。●悪人を追放する。●放課後までのこる。

●自由にする。●放牧・解放・開放・釈放。●よく出す。●放射・放水・放電。●そのままにしておく。●放置・放任。

●「放」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「収(しゅう)」「収(しゅう)」「収(しゅう)」があります。「収」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。

故

(5年・9画)

おんコ
くんゆえ



●「故」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。

●「故」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。



●「故」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。

政

(5年・9画)

おんセイ・シヨウ
くんまつりごと



●「政」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。

●「政」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。

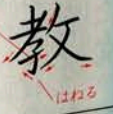


●「政」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。

教

(2年・11画)

おんキヨウ
くんおしえる・おそわる



●「教」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。

●「教」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。



●「教」のつく字は、動作にかんけいのある意味をもっています。かたちのなっている部首に「攴(はく)」「攴(はく)」があります。「攴」は「はなす」「はなれる」と読む字には、ほかに「離(り)」があります。●「ボールをほうる」の「ほうる」を「放る」と書くのはまちがいです。

救

(4年・11画)

おん キュウ
くん すくう

なりたち 求(ひきしめる)と文(動作を表すしるし)を合わせた字です。ぐいとひきとめて、あぶないところをたすける意味を表します。



わすれずに
救
はわる

つかいかた

- おぼれそうになった子どもを救う。
- 食べ物がなくってこまっている人を救う。
- 山でそうなんした人を救助する。
- 救急車で人が病院にはこぶ。

いみじゆく

○たすける—救△援・救護・救済・救出・救世主・救命

出・救世主・救命

学習 ●「水を手ですくう」のようなばあいは、「すくう」とかなで書きます。●「救急車」を「急救車」と書きまはがえないようにしましょう。

救救救救救救

敬

(6年・12画)

おん ケイ
くん やまう

なりたち 苟(からだ)がひきしめる)と文(動作を表すしるし)を合わせた字です。目上の人に対して、はつとからだひきしまつて、きんちようする意味でした。



敬
はわる

つかいかた

- 目上の人を敬う。
- 敬語のつかいかたになれる。
- みんなから尊敬される人になりたい。
- 敬老の日に、老人ホームをたずねる。

いみじゆく

○人をえらいものだとおもつて、れいぎを正しくする—敬愛・敬意・敬具・敬称・敬服・敬礼・失敬・不敬

学習 ●「敬う」を「敬まう」と、おくりすぎないように注意しましょう。

敬敬敬敬敬敬

敗

(4年・11画)

おん ハイ
くん やぶれる

なりたち 音を表す貝(二つにわける)と文(動作を表すしるし)を合わせた字です。二つにわけることから、こわれてだめになる意味になりました。



敗
だす

つかいかた

- おしくも決勝戦で敗れる。
- 理科の実験で失敗してしまった。

いみじゆく

①まける—敗戦・全敗・大敗・不敗

②しくじる。やりそこなう。—失敗

③いたむ。だめになる。—腐敗

敗敗敗敗敗敗

敬語のつかいかた

敬語には、大きくわけて三つの使いかたがあります。

- ①尊敬語：目上の相手や、話のなかでてくる人を、尊敬して話すいいかたです。
- * 食べる↓めしあがる
- * 言う↓話す↓おっしゃる(言われる・話される)
- * 来る↓おいでになる・いらつしやる(来られる)
- * 見る↓ご覧になる
- * する↓なさる
- ②けんじよう語：自分の動作をへりくだつて話すいいかたです。
- * 行く↓参る・うかがう
- * やる↓さしあげる



散

(4年・12画)

おん サン
くん ちる・ちらす・ちらかす・ちらかる

なりたち 昔(小さく)てばらばら)と文(動作を表すしるし)を合わせた字です。こまかくばらばらにわけてしまう意味でした。



散
ちらす

つかいかた

- 花びらが散る。○火花を散らす戦い。
- おもちゃを、へやいっぱい散らかす。
- 風で紙くずが校庭に散らかる。
- きょうの遠足はこれで解散します。

いみじゆく

①ばらばらになる—散会・散在・散布

②ばらばらにする—散策・散歩

③こなぐすり—散葉・胃散

散散散散散散

③ていねい語：相手に対して、ことばづかいをていねいにするいいかたです。

- * 言う↓申し上げる
- * わびる↓おわびする
- * 会う↓お会いする
- * ある↓あります・ございます
- * 寒い↓お寒うございます
- * 米↓お米 * 飯↓ご飯
- △ましがえやすい例▽
- * どうぞいたただいてください。
- * 「いたたく」はけんじよう語ですから、ましがいいです。「めしあがつて」が、正しいいいかたです。



私のお父さまがおっしゃいました。自分の家族のことをよその人にするときは、尊敬語を使ってはいけません。「私の父がいました」と、正しくいいます。

文 文 文 文

①もよう 文様・文繩・文式
 ②もじ 文字・文首・漢文・国文
 ③ことば 文法・文脈・悪文・作文
 ④書いた物 本文・文庫・文書・文通
 ⑤人の生み出したもの 文化・文明

【学習】「ふみ」という読みかたは、「文（手紙）を送る」のように使われます。



文

(1年・4画)

文

数 数 数 数 数 数

①かず かぞえる。数学・数字・数量
 回数・奇数・偶数・算数・小数・少数
 多数・点数・人数・半数・分数・無数

②いくつかの 数回・数日・数万

【学習】特別な読みかたに「数珠・数奇（△奇屋）」があります。

○出席者の数をしらべる。
 ○夜空の星を数える。
 ○数人の委員が、その案に反対だった。

【つかいかた】
 ○出席者の数をしらべる。
 ○夜空の星を数える。
 ○数人の委員が、その案に反対だった。

【なりたち】もとの字は数で、妻（女の人）がじゅうつなぎになつてい（まっすぐ）と父（動作を表すし）を合わせた字です。一列にならべて、かぞえることを表します。



数

(2年・13画)

数

料 料 料 料 料 料

①あれこれと切りもりする 料理
 ②もことになるもの 衣料・原料・食料・資料・塗料・燃料・肥料
 ③ほかからうける利益とひきかえにはらうお金 料金・送料・入場料・無料

【学習】「料」と書きまぢがえないように。



料

(4年・10画)

料

敵 敵 敵 敵 敵 敵

①あいて。かたき。敵意・敵軍・敵視・敵情・敵兵・敵国・大敵・無敵
 ②てむかう。はりあう。敵対・匹敵

【学習】「かたき」という読みかたは「敵役・敵をうつ」などという読みかたに使われます。

○敵のゴールめがけてシュートする。
 ○こんどの試合のあいては強敵だ。
 ○敵機と空中戦をおこなう。

【つかいかた】
 ○敵のゴールめがけてシュートする。
 ○こんどの試合のあいては強敵だ。
 ○敵機と空中戦をおこなう。

【なりたち】音を表す高（まっすぐ）と父（動作を表すし）とを合わせた字です。まっすぐに向かいあうあいて、「自分と力のつりあうあいて」という意味でした。



敵

(5年・15画)

敵

料・費・賃・代のつくことは

料 Ⅱ ほかからうける利益とひきかえに、しはらうお金（通行人料・入場料・入園料・入館料・授業料・手数料など）

費 Ⅱ きまった金額の中で、ある目的のために、わりあてるお金（給食費・交通費・生活費・交際費・通信費・医療費など）

賃 Ⅱ なにかをしてもらうために、はらうお金（電車賃・船賃・運賃・手間賃など）

代 Ⅱ 物などひきかえに、しはらうお金（電気代・牛乳代・新聞代・場所代・部屋代・タクシー代など）

整 整 整 整 整 整

○そろえる。そろう。整形・整然・整地・整備・整列・均整・修整・調整

【学習】「ととのえる・ととのう」と読む字は、ほかに「調」（354）があります。「料理の材料を調える・したくが調う」のように使います。「修整」は「手を入れたきちんとすること」、「修正」は「あやまりをなおすこと」です。

○からだの調子を整える。
 ○この文章はよく整っている。
 ○机の上をきちんと整理する。

【つかいかた】
 ○からだの調子を整える。
 ○この文章はよく整っている。
 ○机の上をきちんと整理する。

【なりたち】音を表す正（まっすぐ）と救（ひきしめる）を合わせた字です。ものをきちんとそろえる意味です。



整

(3年・16画)

整

旅旅旅旅旅

なりのたち ギ(はた)のうしろに、人がならんで歩いているようすをえがいた字です。兵士や商人などがグループをつくって、とおくへ行くことから「たび」の意味になりました。

つかいかた

- 旅のしたくをする。
- 旅先から手紙を出す。
- もうすぐ修学旅行だ。

読み(ふた)

○家をはなれて遠くに行くこと。たび。

○旅客(りやくかく)・旅館(りやくかん)・旅券(りよびけん)・旅情(りよびじやう)・旅費(りよびひ)・旅路(りよびぢ)・旅人(りよびにん)・初旅(はつたび)・船旅(ふねたび)

学習 「旅」をふくむことわざには「かわいい子には旅をさせよ」「旅は道づれ、世はなすけ」などがあります。



旅 (3年・10画)

旅

族族族族族

なりのたち ギ(はた)と矢(や)を合わせた字です。はたの下に矢を集めておいたようすを形にしたもので、「おなじものを集めてまとめる」ということから、のちに「血のつながるもの集まり」という意味になりました。

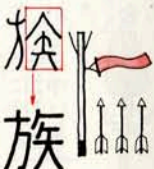
つかいかた

- 家族そろってハイキングに出かける。
- アパッチ族のインディアン。

読み(ふた)

- ①みうち 遺族(いぞく)・一族(いちぞく)・血族(けつぞく)・親族(しんぞく)
- ②人種の集まり 種族(しゆぞく)・部族(ぶぞく)・民族(みんぞく)
- ③グループ ヒッピー族(ひっぴーぞく)・暴走族(ぼうそうぞく)

学習 「民族」は「おなじ人種の集まり」のことを、「民俗」は「ひとびとのくらしのしかた」のことをいいます。



族 (3年・11画)

族

旗旗旗旗旗

なりのたち 音を表す其(四角い)とギ(はた)を合わせた字です。きちんとかどのあるぬのでつくられた、四角いはたの意味です。

つかいかた

- 旗をふって選手をおうえんする。
- 手旗信号の練習をする。
- どうも味方のチームの旗色が変わる。
- 校旗を先頭(せんとう)に行進(こうしん)する。
- 校庭に万国旗をかざりつける。

読み(ふた)

○はた 旗手(はたて)・国旗(こっし)・星条旗(せいじやうき)・日章旗(にちしやうき)・旗揚げ(はたあげ)・旗印(はたごし)・赤旗(しやくはた)・白旗(しろはた)

学習 「旗」をふくむ字には、「旗・旗」のほかに、「△施行」の「△施」や「△旋律」の「△旋」があります。



旗 (4年・14画)

旗

断断断断断断断

なりのたち もとの字は断で、糸と「くぎるしるし」と斤(おの)を合わせた字です。おので、ばつさり糸をたち切る意味でした。

つかいかた

- 映画にさそわれたが、断る。
- 父はお酒を断つことにしたらしい。
- どっちにするか、判断がむずかしい。

読み(ふた)

- ①たち切る。とだえる。断食(だんじき)・断水(だんすい)・断絶(だんぜつ)・断続(だんぞく)・断面(だんめん)・切断(せつだん)
- ②思いきってする 断行(だんかう)・断定(だんてい)・決断(けつだん)
- ③ゆるしをえる 独断(どくだん)・無断(むだん)

学習 「たつ」と読む字には、ほかに「絶(ぜつ 318画)」と「裁(さい 341画)」があります。使い分けに注意してください。↓付録431画。



断

新新新新新新新

なりのたち 辛(す)るどい(はもの)と木を合わせた字で、木を切ることで、それに斤(おの)をつけ、おので切った、切りたての生木のことでした。

つかいかた

- 新しい校舎が完成した。
- 心を新たにしてお勉強にはげむ。
- 新聞を読む。最新型の自動車。

読み(ふた)

- あたらしい 新刊(しんかん)・新人(しんじん)・新雪(しんせつ)・新築(しんちく)・新年(しんねん)・新品(しんひん)・新緑(しんりく)・革新(かっしん)・更新(こうしん)
- 「に」 という読みは「新(しん) 新妻(にいよめ)などに使われます。まちがえやすい字に「親切(しんせつ)の親(おや 345画)」があります。反対は「旧(きう)です。新型(しんごう)↓旧型(きうごう)」「新道(しんどう)↓旧道(きうどう)」などとなります。



新

方方方方方

なりのたち 両(りやう)がわにえがはり出たすきをえがいた字です。両がわ、さらに四方にはり出すことをあらわしました。

つかいかた

- 右の方へ進め。あの方が林さんです。
- 地方の都市。むずかしい方法。

読み(ふた)

- ①むき 方角(ほうかく)・方向(ほうかう)・方面(ほうめん)・先方(せんぽう)
- ②やりかた 方策(ほうさく)・方式(ほうしき)・方針(ほうし)・処方(しょぼう)
- ③しかく 方眼紙(ほうがんし)・正方形(せいじやうけい)・立方体(りやうたい)

学習 「方」をふくむ字は「はり出す」という意味にかんけいがあります。防(ぼう)⇄両(りやう)がわにはり出した土(↓183画)。防(ぼう)⇄四(し)方(ほう)にはり出てちらばる(↓208画)。故(こ)⇄四(し)方(ほう)にはり出て(↓349画)。●特別な読みかたに「行方(ぎやうほう)」があります。



方

●部首の説明
日 ひ・へん



●太陽のかたちをうつしとったもので、「日のひかり」「ひにち」の意味を表します。

●「日」のつく字は、日の光の状態(明・暗など)や時間(昨・昼など)、日数にかんけいする意味をもっています。

●日 昭 明 易 星 春 昨
暗 昼 映 時 景 晴 暑
者 ↓ 326 ペ。 量 ↓ 里 373 ペ。



日

(1年・4画)

●おん ニチ・ジツ
ひ・か

●なりたち 部首の説明
とおなじです。

●つかいかた

○日あたりのいい庭。

○日照りつづぎのため
にイネがかる。

○運動会の日取りをきめる。

○祝日に、日の丸の旗をかかげました。

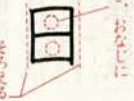
○ぼくの誕生日は、一月三日です。

○つぎの日曜日は、ハイキングに行く。

○朝は晴れ間がありますが、日中は雲が
広がってくるでしょう。

○父は毎晩、日本酒を一合のみます。

○太陽の出ている間、ひるま、ひにち、
ひ。 日限・日時・日常・日夜・日用



旧 旧 旧 旧 旧

旧

(5年・5画)

●おん キュウ
く

旧

あきちほい
どめる

●なりたち もとの字は
舊でした。年よりのよ
うに背中がまるくか
んだミミズクのことか
ら、「古い」という意
味を表します。

●つかいかた

○クラス会で旧友に会う。

○父は旧家の出だ。

○旧式の機械なので故障が多い。

●いみじゆい

①まえからある。古い。むかしの。過去の。
旧悪・旧恩・旧家・旧館・旧居・
旧交・旧習・旧制・旧姓・旧跡・
旧道・旧年・懐旧・復旧
②旧暦のこと。旧正月・旧盆
●学習 「旧」の反対の意味は「新」(214ペ)
です。



早

(1年・6画)

●おん ソウ・サツ
く

早

●なりたち クヌギやハ
シノキの実をえがいた
字です。この実は、ぬ
のを黒に染めるのに用
いたことから、「くろ
い」意味になり、のちに、「朝のまだく
らいどき」を表すようになりました。

●つかいかた

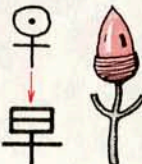
○集合時間にはまだ早い。

○開始が一時早まるそうだ。

○気分が悪いので早退する。

●いみじゆい

①はやい。ある時期よりまえ。早期・
早計・早春・早退・早朝・早足・早起
き・早口・早出・早番・足早
②急である。早急・早速・早早
●学習 特別な読みかたに、「早苗・早
乙女・早稲」があります。

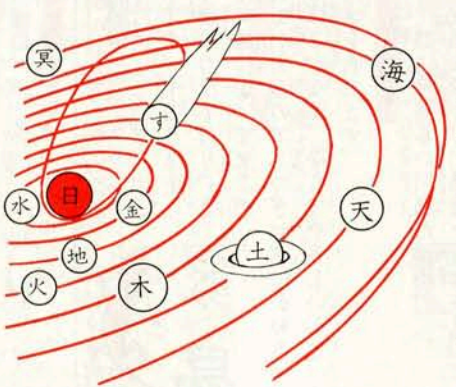


早 早 早 早 早

太陽系の星の名

太陽系には、九つの惑星と、いく
つかのすい星(ほうき星)がありま
す。つぎの図を見てください。

- (日) 太陽・水 水星・金 金星・
地 地球・火 火星・木 木星・
土 土星・天 天王星・海 海王
星・冥 冥王星・す すい星



惑星の名は、太陽にちかいほうか
ら、「水・金・地・火・木・土・天・
海・冥」と、おぼえましょう。

日 日 日 日



●特別な読みかたに「明日・昨日・今
日」・一日(いちにち)・二日(ふたにち)・二日(ふたにち)・日和
り(ひより)・小春日和(こはるびり)・
があります。「小春日
和り」とは、十一月ご
ろの、日がさして暖か
い天気のことです。

●ニッポン：日本一・日本国・日本人な
ど。

●ニホン：日本画・日本髪・日本海・日
本三景・日本酒・日本刀・日本間など

●日米野球・日中文化協定

●日銀(日本銀行)・日仏会館

⑤ 日本 日銀(日本銀行)・日仏会館

④ 日曜日 日月火・土日

③ 毎日。ひび。ひにひに。日進月歩

② 日中。日程。日当。隔日。元日。日
後。今日。祭日。昨日。時日。四十
九日。数日。平日。毎日。連日

●品。日課。日記。日給。日参。日誌。
日収。日中。日程。日当。隔日。元日。
昨日。今日。祭日。昨日。時日。四十
九日。数日。平日。毎日。連日

明

(2年・8画)

おんメイ・ミヨウ
 くん あかり・あかるい・あかるむ・あか
 らむ・あきらか・あける・あく・あ
 くる・あかさ

なりたち もとの字は
 まどと月とを合わせた
 もの。まどから月の光
 がさしこんで、ものが
 見えることを表しまし
 た。



つかいかた

- 手品のたねを明かしましょう。
- 月の明かりをたよりに海べを歩く。
- 明るい水色の洋服。
- この失敗は明らかにわたしのせいだ。
- 運動会の明くる日は休みにまります。
- 明けましておめでと。
- 富士山の頂上で夜明けをむかえる。
- 連休明けは、体がだるい。
- 品物にねだんを明示する。
- 電灯はエンジンが発明しました。
- 明朝七時に出発します。



●送りかんのつけか
 たに注意しましょう。

「あける・あかり」は
 「明ける・明かり」、「あ
 かるい・あきらか」は「明るい・明らか
 」と書きます。●特別な読みかたに、「明
 日」があります。●「あす」はふだん使
 うことば、「みよう」にち「あ、あらたま
 ったときに使うことばです。●中国のお
 かしこの國名の一つに、「明」というのが
 あります。

明明明明明明明

易

(5年・8画)

おんエキ・イ
 くん やさしい

なりたち ヤモリとシ
 (もよう)を合わせた
 字です。ヤモリは平ら
 で横にのびており、ま
 た光線によって皮ふの
 色をかえるので、「つきつきに変わる・で
 こぼこがなく、平らでやさしい」という
 意味を表します。



つかいかた

- 予想より易しい問題だった。
 - 安易な考え。○易者が手相を見る。
 - 易学
 - 安易な考え。○易者が手相を見る。
- いみじくは
 ①たやすい。手がらだ。安易・簡易・
 軽易・難易・平易・容易
 ②とりかえる。改易・交易・貿易
 ③うらなう。易学・易者・易断
- 「易」の右がわの「易」と「易」
 とは、形がにているので注意しましょう。

易易易易易易易易

星

(2年・9画)

おんセイ・ショウ
 くん ほし



なりたち もとの字は
 晶(きらきらかがやく
 三つのほし)と生(す
 がすがしい草の芽)を
 合わせた字でした。
 「すがすがしく光るほし」を表します。

つかいかた

- 星空をながめる。
 - 火星が地球に接近する。
- いみじくは
 ①ほし 星雲・星座・衛星・海王星・
 火星・金星・織女星・新星・水星・天
 王星・土星・北斗七星・木星・遊星・
 流星・惑星・星影・星空・星月夜
 ②時のながれ。としつき。△幾星△霜
 ③めあて。ねらい。○図星・目星
 ●学習 ショウという読みは「明星」と
 いうことばに使います。

春

(2年・9画)

おんジュン
 くん はる



なりたち 下の図に示
 したように、草と、芽
 が地面に出はじめたよ
 うすと、日(太陽)を
 合わせた字です。草木
 がはえ出ようとして、むずむずしている
 季節を表します。

つかいかた

- 春風がほおにあたって、気持ちがいい。
 - 春場所の番付が発表された。
 - 早春の日ざしがやわらかい。
- いみじくは
 ①四季の一つ。はる。○春夏秋冬・春
 季・春秋・春分・晩春・陽春・立春
 ②年の初め。賀春・迎春・初春・新春
 ③若くて元気なところ。青春
 ●学習 「春季」は春の季節を、「春期」は
 春のあいだの、ある期間を表します。

昨

(4年・9画)

おんサク
 くん きのう



なりたち 音を表す字
 と日とを合わせた字で
 す。

つかいかた
 ○昨年の秋、母をなく
 した。

いみじくは
 ○昨日はたいへんごちそうになりました。
 ○昨夜の地震は大きかった。

●学習 ●サクと読む字でにているものに
 「昨(作文・作品)」、「酢(酢酸)」、「炸
 (炸裂)」があります。●対語に「昨秋」
 「昨春」「昨冬」「昨晩」「昨朝」「昨年」
 「昨日」
 ●特別な読みかたに「昨日
 うき」があります。

昨

春春春春春春春春

昨昨昨昨昨昨昨

映 映 映 映 映 映

なりたち 音を表す。日と日とを合わせた字です。明るい・暗いのけじめが、はつきりうかがい出ることを表します。

つかいかた

- かみを顔に映す。
- 洋服にネクタイの色がよく映る。
- 映画を見に行く。

いみ(ごま)

- ①光をあててうつつす——映画・映写・映像・上映
- ②てりはえる。かがやく。——映発・反映

学習 「はえる」という読みは「夕日」に映える・夕映えなどに使います。
●「映す」は、光やかげで形をうつし出すこと。「写す」は、書きうつしたり、写真をとることなどに使います。

映

(6年・9画)

映



時 時 時 時 時 時 時 時

なりたち 日(太陽)と寺とを合わせた字です。太陽が、だんだんうごいていくことを表します。

つかいかた

- どんなになれていても時には失敗する。
- 時々わけのわからないことを言う。
- 出発の時刻がせまる。

いみ(ごま)

- ①とき——時下・時間・時期・時機・時節・時速・時刻・時差・時事・時日・戦時・同時・幼時・臨時
- ②そのころ。おり。機会。——時価・時局・時世・時勢・時代・時点・時分・時流・当時

学習 特別な読みかたは「時計・時雨」。

時

(2年・10画)

時



景 景 景 景 景 景 景 景

なりたち 音を表す。日(太陽)とを合わせた字です。日光が透らして、明るい・暗いのがきりめがはつきりとつくことから、「けしき・ようす」の意味に使われます。

つかいかた

- ことしは景気がわるかった。
- 大売り出しの景品にガムをもらった。
- ビルの屋上からの夜景はすばらしい。

いみ(ごま)

- ①けしき——景観・景勝・景物・遠景・近景・殺風景・情景・絶景・点景・背景・風景・夜景
- ②ありさま。ようす。——景気・光景

学習 特別な読みかたに「景色」があります。

景

(4年・12画)

景



昭 昭 昭 昭 昭 昭 昭 昭

なりたち 日(太陽)と召(手をぐるりとまわしてまねきよせる)とを合わせた字です。ひとまわり、ぐるりと光でてらしたように、すみずみまではっきりするようすを表します。

つかいかた

- 昭和五十二年。
- あかるくかがやく。はつきりとあらわす。——昭和・昭和基地・昭和時代

学習 「昭和」の年号は、世の中が明るく平和であるようにと願ってつけられたものです。明治・大正・昭和の三代をまとめて、「近代」とか「現代」といいます。●「昭」の下に心(火のもえるようす)をつけると「照(269画)」になります。

昭

(3年・9画)

昭



是 是 是 是 是 是 是 是

なりたち (え)のまっすくなきじ)と、足とを合わせた字で、まっすぐにすすむことを表します。

つかいかた

- わるい習慣を是正する。
- 建築計画を是認する。

いみ(ごま)

- 道理にかなって正している。正しい。よい。——是正・是非・是認・是非・国是

学習 「是非」ということばは、「よいことと悪いこと」の意味では「テレビの是非を論じる」のように漢字ですが、「どうしても、必ず」の意味のときは「ぜひお願いたします」と、かなで書きます。●「是」の反対の字は「非」ですが、「是認」の反対は、「否認」です。

是

(6年・9画)

是



昼 昼 昼 昼 昼 昼 昼 昼

なりたち もとの字は晝で、非(筆を手にもったようす)と日(太陽)のまわりを四角くくぎったかたちとを合わせた字です。日のある時間を、ここからここまでと、筆でくぐるようすを表します。

つかいかた

- 昼休みにドッジ・ボールをする。
- 昼夜の別なく、工事をすすめる。

いみ(ごま)

- ①日の出から日がしずむまで——昼間・昼夜・白昼・真昼
- ②ひるの十二時ころ。ひるごはん。——昼食・昼時・昼寝・昼飯・昼休み

学習 昼寝つづけて物ごとをすることを、「昼夜兼行」といいます。

昼

(2年・9画)

昼



暗暗暗暗暗暗暗暗暗暗

暗 (3年・13画)

① くらいい 暗雲・暗影・暗黒・暗室・暗然・暗中・暗転・暗幕・暗夜・明暗

② 表に見えない。人にしれない。合・暗号・暗殺・暗示・暗礁・暗躍

③ そらでおぼえる 暗記・暗算・暗唱

④ ちえがたりない。おろか。暗愚

【学習】「暗」の反対は「明(218画)」です。



暗

(3年・13画)

暗

晴晴晴晴晴晴晴晴

晴

(2年・12画)

晴



① はれる。はれ。晴雨・晴耕雨読・晴天・快晴・晴れ間・秋晴れ・日本晴れ

② はれがましい 晴れ着・晴れの舞台

【学習】「青」のつく字は、「すみきつている」という意味にかんけいがあります。「静」すみきつてじつと動かない。「清」すみきつた水。「情」すみきつた心。●特別な読みかたに「五月きつ晴れ」があります。

○きりが晴れる。○うらみを晴らす。○遠足は晴天にめぐまれた。

【つかいかた】

○きりが晴れる。○うらみを晴らす。○遠足は晴天にめぐまれた。

【なりのち】日(太陽)

と青(すみきつた)を合わせた字です。「すみきつた太陽」を表します。

晴

暑

(3年・12画)

暑



【なりのち】日と者(ころで火をもやすうす)を合わせた字です。太陽があたつて、あつことを表します。

【つかいかた】

○暑い日がつづく。○暑いに暑中見舞いを出す。

【いみじゆく】

○あつ。気温がたかい。暑気・暑中・炎暑・寒暑・酷暑・残暑・避暑

【学習】「暑い」は「日が照り、気温が高くなること」、「暑い」は「火や湯などがあつこと」、「暑い」は「本やきれなどがぶあつこと」です。使い分けに注意しましょう。●にている字に「署(警察署・署名)があります。書きまちがえないようにしましょう。

暑暑暑暑暑暑暑暑暑暑

暖

(6年・13画)

暖



【なりのち】爰は、二つの手の間にもがあるようすをえがいた字で、手と手の間にゆとりがあることを表します。それに日をつけて、日光がゆつたりとゆさわたり、あたたかいことを表します。

【つかいかた】

○毎日、暖かな日が続く。○ストーブでへやを暖める。○温暖な気候の土地。

【いみじゆく】

○あたたかい。暖国・暖色・暖冬・暖房・暖流・暖炉・温暖・寒暖・春暖

【学習】「温(262画)」は「心が温かい」体が温まる。料理を温める」のように使います。使い分けに注意しましょう。

暖暖暖暖暖暖暖暖

晚

(6年・12画)

晚



【なりのち】日(太陽)と免(やつとおる)を合わせた字です。日がおちて、ものが、やつとすかして見える時刻のことから、「ばん」を表します。

【つかいかた】

○晩秋の野山ははずかだ。○キャンプファイアは明晩にのびた。

【いみじゆく】

① 日のくれ。晩。今晩・昨晩・明晩

② 時期がおそい。おくれる。晩夏・晩学・晩秋・晩春・晩年・早晩・大器晩成。

【学習】「夜」と「晩」のちがいにについては、「夜(117画)」を見てください。●書きまちがえやすい字に「勉(78画)」があります。注意しましょう。

晚晚晚晚晚晚晚晚

暴

(5年・15画)

暴



【なりのち】むかしの字は、動物のほねを両手にもって日光にさらすようすを表しました。「むだだしにして見せ」という意味を表します。

【つかいかた】

○教室内で暴れてはいけません。○ピッチャーが二球めを暴投した。

【いみじゆく】

① あばれる。あらあらしい。暴圧・暴漢・暴挙・暴君・暴言・暴行・暴走・暴徒・暴動・暴風雨・暴力・暴論・横暴・凶暴・粗暴・乱暴

② とつぜん。にわかに。暴発・暴落

③ 度をすこす。暴飲・暴食・暴利

【学習】「バク」は「暴く露する」、「あばく」は「ひみつを暴く」のよう使います。

暴暴暴暴暴暴暴暴

最最最最最最

学習 特別な読みかたに「最寄り」(近所のこと)があります。

いちばん。もつとも。最愛・最悪・最近・最敬礼・最古・最後・最期・最高・最終・最初・最小・最少・最上・最新・最善・最多・最大・最短・最良・最低・最適・最年少・最良

食事の最中に電話がかかった。
最もくわしい辞典をさがす。
今までにない最強のチーム。

なりたち 日(おかす)と取(とる)を合わせた字です。むりやりにつまみどる意味でしたが、のちに「いちばんひどく」の意味になりました。



最 (4年・12画)
おんサイ
くんもつとも

332 脳↓肉 332 勝↓力 79 腸↓肉
333 腹↓肉 333 臓↓肉 333

胃↓肉 330 能↓肉 331 脈↓肉
330 青↓青 334 前↓刀 73
331 胸↓肉 332 骨↓骨 394

肥↓肉 329 育↓肉 330 背↓肉
330 月有服 朗望 朝期
おなじですが、意味がぜんぜんちがいますから、注意しましょう。

「からだの一部」の意味です。形は
また「月」には「にくづき」とい
うべつこの部首もあって、これは「肉」

欠けた月(みかづき)をえがいた
もので、「つき」「つきひ」の意味を
表します。
「月(つき・つきへん)のつく字
は、月の光の状態(朗・望)や時
間(朝・期)にかんけいする意味
をもっています。



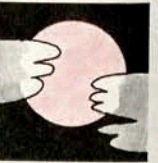
部首の説明
月 つき・つきへん

月月月月

学習 特別な読みかたに「五月晴まれ・五月雨だれ」があります。

① つき 月光・月食・月面・月齢・月観
月・残月・新月・半月・満月・明月・
名月・月影・月見・月夜・三日月
② 一年を十二にわけた単位 月額・月
間・月刊・月給・月産・月謝・月収・
月末・隔月・今月・歳月・日月・正
月・先月・年月・毎月・来月・月日
③ 月曜日 月水金

なりたち 部首の説明
とおなじです。
つかいかた
月明かりの道歩く。
月日のたつのは早い。
正月にはスキーに行く予定だ。
月謝をおさめる。



月 (1年・4画)
おんゲツ・ガツ
くんつき

曜曜曜曜曜曜

「曜」を「旺」と書く人がいますが、正しい字ではありません。

学習 についている字に「△躍」がありま
す。「高くとびあがる、はねあがる」と
いう意味で、「躍進・活躍」などを使
います。

つかいかた
○日曜日(にちようび)に運動会をする。
○妹のピアノのレッスンは木曜日だ。
○ようび 火曜・金曜・月曜・七曜表・
水曜・土曜・日曜・木曜

なりたち もとの字は
曜で、日と曜(キジが
尾羽を高く上げるこ
と)を合わせた字です。
光が、たかくかがやく
ことを表します。



曜 (2年・18画)
おんヨウ
くん

曲曲曲曲曲曲

学習 形をよくにた字がありますから、
注意しましょう。例「由(由来・理由・
自由)」、「申(申告・内申・申し訳)

① まっすぐでない。まがる。まげる。
曲折・曲線・曲直・曲解・△屈曲
② 変化のあるおもしろみ。音楽の、
曲技・曲芸・曲節・曲馬・音曲・
歌曲・△戯曲・△謡曲・△浪曲
③ 音楽上の作品。曲目・交響曲・行進
曲・作曲・新曲・俗曲・名曲

つかいかた
○交差点を右に曲がる。
○ペンチではりがねを曲げる。
○レコードの曲目をえらぶ。

なりたち かぎの形に
まがった物さしをえが
いた字です。



曲 (3年・6画)
おんキョク
くんまがる・まげる

書書書書書書

学習 「絵をかく」は、かな書きです。

① かきしるす 書記・書式・書写・書
体・書法・浄書・消書・代書
② もじ 書画書道・楷書・行書・草書
③ 書きつけ。てがみ。書信・書面・
書類・証書・投書・△封書・返書
④ ほん 書庫・書籍・書店・書物 辞
書・蔵書・著書・読書・図書

つかいかた
○作文を書く。○書き取りのテスト。
○図書室には、たくさん書物がある。

なりたち 聿(筆を手
にもつようす)と、音
を表し「くつつける」
とめておく」の意味の
者(もの)を合わせた字です。
筆で書きとめることを表します。



書 (2年・10画)
おんショ
くんかく

有

(3年・6画)

有

はわる

なりたち 月(肉)を合わせた字

です。手で肉をかかえこむようすから「わくの中にかかえて持つ」という意味を表します。



つかいかた

○家には本がたくさん有る。
○有り合わせのもので食事をする。
○試合を有利に進める。

いみじくも

①ある 有意義・有益・有害・有給・有形・有効・有志・有数・有毒・有能・有名・有料・有力・△含有・固有
②もつ 有権者・共有・国有・私有・所有・△占有・保有・民有・領有
学習 ウという読みは、「有無」ということばのときなどに使います。

有 有 有 有 有 有

服

(3年・8画)

服

はわる

なりたち 良(人)のせ

なかにびったり手をつけたようす)と月(ふね)とを合わせた字で、舟べりにびたりとつける板を表しました。のちに、体にびたりとつけるものをさすようになりまし



つかいかた

○命令に服する。○くすりを服用する。
○母は、和服がよくにあいます。

いみじくも

①ふく きもの。服地・服△装・衣服・△呉服・作業服・式服・私服・制服・平服・洋服・略服・礼服・和服
②つぎしたがう 服役・服従・服務・△屈服・降服・心服・△征服・不服
③葉・茶などをのむ 一服・内服
学習 「報復」とまちがえないように。

服 服 服 服 服 服

朗

(6年・10画)

朗

はわる

なりたち もとの字は朗で、良(清らかでくもりがない)と月とを合わせた字です。月が清らかにすんでいることを表します。

つかいかた

○詩の朗読をする。
○朗々とした声で開会を宣言する。
○となりの家族は朗らかな人はかりです。

いみじくも

①ほがらか。はればれとあかるい。朗報・朗朗・晴朗・明朗
②声がきよく、すみとおる 朗詠・朗吟・朗唱・朗読
学習 「朗(郎党・新郎・太郎)とは、形がにているうえに音も同じなので、書きまちがえないようにしましょう。

朗 朗 朗 朗 朗 朗



望

(4年・11画)

望

はわる

なりたち 大むかしの

字は、臣(下をむいている人の目)と王(人がまつすぐ立つ形)と月とを合わせた字で、のちに、臣が音を表す亡にかわりました。まだみえない月を、背のびして待ちのぞんでるようすを表します。



つかいかた

○屋上から富士山を望む。○有望な新人。
○遠くをみる 望遠・望郷・一望・展望
②のぞむ。ねがう。望外・願望・希望・失望・志望・切望・絶望・待望・熱望・野望・有望・要望・欲望
③人気 衆望・信望・人望・声望
学習 モウという読みは、「所望・大望・本望」などのことばに使います。

望 望 望 望 望 望

朝

(2年・12画)

朝

はわる

なりたち 左がわのぶ

ぶんは、「はたが上がるように日のがぼるようす」を表し、右のぶんは、シユウ・チヨウという音を表します。両方を合わせて、太陽が、地平線からぬけて出るようになることを表します。



つかいかた

○朝方のひえこみがきびしい。
○朝礼で校長先生が話をされる。
○早朝マラソンをかかしたことがない。

いみじくも

①あさ 朝刊・朝食・朝礼・早朝・翌朝・朝市・朝市・朝方・朝日・朝飯・毎朝
②天皇が政治をとるところ 朝廷
③天皇政治の時代区分 平安朝
学習 特別な読みかた 今朝

朝 朝 朝 朝 朝 朝

期

(3年・12画)

期

はわる

なりたち 其は、四角

いみ(穀物をふるいわける竹かこ)と四角い台をえがいた字で、「四角くきちんとした」という意味です。それに月をつけて、月が規則たたくみちかけて、七日ずつ回で、もとの形になることを表します。



つかいかた

○林間学校の期間は三日間だ。
○遠足が雨で延期された。

いみじくも

①きめられた日時 期限・期日・期末・学期・漁期・後期・最盛期・時期・初期・前期・短期・長期・定期・任期
②あてにする。待ち願う。期待・予期
学習 ゴという読みは、「最期・末期」などのことばに使います。

期 期 期 期 期 期

●部首の説明
木 き・きへん



●木がはえているすがたをえがいたもので、「はえている木」「木・ざいもく」の意味を表します。
●「木」のつく字は、木の状態(林・森)や木の部分(株・根)の性質、木でつくったもの(机・柱など)にかんけいする意味をもっています。

●木 未
木 未 来 東 末
木 未 染 校 板 末
木 未 榮 極 株 本
木 未 森 業 極 株 本
木 未 棒 模 標 染 株 本
木 未 横 橋 機 標 染 株 本
木 未 乗 橋 機 標 染 株 本
木 未 目 288 37 集
木 未 目 288 37 集
木 未 目 288 37 集



木

(1年・4画)

木

●部首の説明
木 き・きへん



●木がはえているすがたをえがいたもので、「はえている木」「木・ざいもく」の意味を表します。
●「木」のつく字は、木の状態(林・森)や木の部分(株・根)の性質、木でつくったもの(机・柱など)にかんけいする意味をもっています。

●木 未
木 未 来 東 末
木 未 染 校 板 末
木 未 榮 極 株 本
木 未 森 業 極 株 本
木 未 棒 模 標 染 株 本
木 未 横 橋 機 標 染 株 本
木 未 乗 橋 機 標 染 株 本
木 未 目 288 37 集
木 未 目 288 37 集
木 未 目 288 37 集

末

(4年・5画)

末

●部首の説明
木 き・きへん



●末おそろしい子ども。
●わたしの父は三人兄弟の末っ子です。
●週末に旅行をする予定だ。
①はし。すえ。末端・本末
②あとのほう。最後。末期・末子
末日・末世・末席・末代・末尾・末筆・末路・巻末・期末・月末・歳末・始末・週末・年末・幕末・場末
③たいせつでない。枝葉末節・粗末
④こな。粉末

●部首の説明
木 き・きへん

末末末末末

本

(1年・5画)

本

●部首の説明
木 き・きへん



●本の根もと。
●父が本屋で、弟の絵本を買ってきた。
●王選手は、一本足でホームランの世界新記録をつかった。
●これだけ練習したのだから、たどえ負けても本望だ。
●国家の本本は、青少年の教育にある。
①草木の根もと。物事のおおもと。本位・本末・本来・基本・根本
②利息をうむもと。元金。元本・資本
③もとづくところ。本拠・本國・本籍
④もとからある。もともとの。本意・本懐・本願・本義・本質・本心・本性
⑤おもな。中心の。本科・本業・本

●部首の説明
木 き・きへん

本本本本本

未

(5年・5画)

未

●部首の説明
木 き・きへん



●未だのびきらない、木のえだ先の部分をえがいた字で、「まだ・ない」の意味に使われます。
●出発の日は未定だ。
●アフリカにはまだ未開の土地がある。
●あすの未明に羽田を出発する。

●未だのびきらない、木のえだ先の部分をえがいた字で、「まだ・ない」の意味に使われます。
●出発の日は未定だ。
●アフリカにはまだ未開の土地がある。
●あすの未明に羽田を出発する。

●部首の説明
木 き・きへん

本本本本本

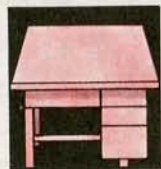
机

(6年・6画)

机

はねる まげる

【なりたち】 凡(た)は六(む)の形をした台(たい)です。それ(それ)に木(き)をつけて、木(き)でつくった「つくえ」を表(あらわ)します。



つかいかた

- 机(き)にむかつて宿題(しゅくだい)をする。
- 父(ちち)は、つねに机(き)上に本(ほん)を積(た)んでいる。

いみ・じゆく

○つくえ 机下(きか)・机上(きじょう)・経机(きょうき)・文机(ぶんき)・勉強机(べんきょうき)

【学習】 「机上(きじょう)の空論(くうろん)」という(いう)のは、頭(あたま)の中(なか)だけでくみたてた、実際(じっさい)には役(やく)だたない意見(いけん)や考(かん)えのこと(こと)です。

○「机下(きか)」は、手紙(てがみ)の最後(さいご)に、相手(あいて)の名(な)まえにそえて書(か)くことばです。「あなた(あなた)の机(き)の下(した)までさしだす」という意味(いみ)で、自分(おれ)のほうをけんそんする(けんそん)いいかた(かた)です。

材

(4年・7画)

材

はねる

【なりたち】 木(き)と才(さい)(水(みづ)のながれをたち切るせき)とを合(あ)わせた字(じ)で、「切(き)った木(き)・もくざい」のこ(こと)を表(あらわ)します。



つかいかた

- 外国(がいこく)から木材(もくざい)を輸(ゆ)入(にゅう)する。
- 工(こう)作(さく)の材(ざい)料(りょう)をあつめる。
- 建築(けんちく)資(し)材(ざい)がはこびこまれる。
- 校(こう)内(ない)放(はう)送(そう)のニ(ニ)ュ(ニ)ス(ス)を取(と)材(ざい)する。

いみ・じゆく

○ものをつくるものになる木(き)。また、ものをつくるものになるもの。材質(ざいしつ)・材木(ざいぼく)・材料(ざいりょう)・逸材(いっさい)・印材(いんさい)・角材(かくさい)・器材(きさい)・教材(きょうざい)・資材(しさい)・取材(とくさい)・人材(じんざい)・製材(せいざい)・石材(せきざい)・素材(そざい)・題材(たいざい)・木材(もくざい)・良材(りょうざい)

【学習】 形(かたち)の(の)に(に)て(に)る(る)字(じ)に「村(むら)」が(が)あ(あ)り(り)ま(ま)す。書(か)きま(ま)ち(ち)が(が)え(え)ない(ない)よ(よ)う(う)に(に)。

村

(1年・7画)

村

はねる

【なりたち】 音(ね)を表(あらわ)す才(さい)と木(き)とで(で)できた字(じ)で、林(はやし)の(の)か(か)げ(げ)に(に)人(ひと)々(々)が(が)こ(こ)し(し)を(を)す(す)て(て)住(す)ん(ん)で(で)い(い)る(る)所(ところ)を(を)表(あらわ)し(し)ま(ま)す。



つかいかた

- 村(むら)の歴史(れきし)を(を)し(し)ら(ら)べ(べ)て(て)歩(あ)く。
- 村(むら)長(ぢやう)の選(せん)挙(きやう)が(が)ち(ち)か(か)づ(づ)い(い)た。
- 農(のう)村(むら)の(の)人(ひと)々(々)の(の)生(せい)活(かつ)を(を)学(がく)習(じゆ)す(す)る。

いみ・じゆく

○むら。いな(いな)か(か)。また、地(ち)方(ほう)自(じ)治(ち)体(たい)と(と)し(して)い(い)ち(いち)ば(ば)ん(ばん)小(せう)さい(さい)い(い)もの(もの)。村(むら)議(ぎ)会(かい)・村(むら)長(ぢやう)・村(むら)道(だう)・村(むら)民(みん)・村(むら)有(ゆう)・村(むら)落(らく)・村(むら)立(た)立(り)・寒(かん)村(むら)・漁(りょ)村(むら)・山(さん)村(むら)・市(し)町(ちやう)村(むら)・全(ぜん)村(むら)・農(のう)村(むら)・難(なん)村(むら)・村(むら)境(きやう)・村(むら)里(り)・村(むら)役(やく)場(ばう)

【学習】 「材(ざい)」と(と)形(かたち)が(が)よ(よ)く(く)に(に)て(て)い(い)る(る)の(の)で(で)、書(か)きま(ま)ち(ち)が(が)え(え)ない(ない)よ(よ)う(う)に(に)、注(ちゅう)意(い)し(し)ま(ま)し(し)よ(よ)う(う)。

条

(5年・7画)

条

【なりたち】 もの(もの)の(の)字(じ)は(は)條(じょう)。仮(か)は、巾(いん)(人(ひと)の(の)せなか(なか)に(に)細(こ)く(く)な(な)が(が)く(く)水(みづ)を(を)か(か)ける(ける)よ(よ)う(う)す(す)に(に)、文(ぶん)(動作(どうさく)を表(あらわ)す印(いん))を(を)つ(つ)けた(けた)字(じ)です。それ(それ)に(に)木(き)を(を)つ(つ)けて(けて)、細(こ)な(な)が(が)い(い)木(き)の(の)え(え)だ(だ)を(を)表(あらわ)し(し)ま(ま)す。細(こ)く(く)わ(わ)か(か)れて(れて)い(い)る(る)こ(こと)から、す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)・か(か)じ(じ)よ(よ)う(う)書(が)き(き)などの意味(いみ)に使(つか)われ(れ)ま(ま)す。



つかいかた

- す(す)ぐ(ぐ)に(に)返(かえ)す(す)とい(い)う(う)条(じょう)件(けん)で(で)本(ほん)を(を)借(か)り(り)る。
- 要(よう)点(てん)を(を)箇(かん)条(じょう)書(しよ)き(き)に(に)し(し)て(て)ま(ま)と(と)め(め)る。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

いみ・じゆく

○す(す)じ(じ)・す(す)じ(じ)み(み)ち(ち)。

来

来

(2年・7画)

来

はねる

【なりたち】 もの(もの)の(の)字(じ)は(は)來(らい)。み(み)の(の)つ(つ)た(た)麦(むぎ)の(の)ほ(ほ)が(が)た(た)れ(れ)さ(さ)が(が)つ(つ)た(た)よ(よ)う(う)す(す)を(を)え(え)が(が)いた(いた)字(じ)で、「小(せう)麦(ばく)」の(の)意(い)で(で)した(した)。ぎ(ぎ)ゃ(ゃ)く(く)に(に)、妻(さい)とい(い)う(う)字(じ)は(は)「や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)」意(い)味(み)で(で)した(した)が(が)、の(の)ち(ち)に(に)と(と)り(り)ち(ち)が(が)え(え)て(て)、來(らい)が(が)「く(く)る(る)」とい(い)う(う)意(い)味(み)に(に)使(つか)われ(れ)る(る)よ(よ)う(う)に(に)な(な)り(り)ま(ま)した(した)。



つかいかた

- 春(はる)が(が)來(らい)る。
- 多(おほ)くの(の)父(ちち)兄(あに)が(が)來(らい)校(こう)した(した)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

いみ・じゆく

○く(く)る(る)・や(や)つ(つ)て(て)く(く)る(る)・近(ちか)づく(づく)。

東

東

(2年・8画)

東

はねる

【なりたち】 両(りやう)は(は)し(し)を(を)し(して)ば(ば)つ(つ)て、ま(ま)ん(ん)中(ちゆう)に(に)一(いっ)本(ぽん)の(の)棒(ぼう)を(を)お(お)し(して)た(た)ふ(ふ)く(く)ろ(ろ)を(を)え(え)が(が)いた(いた)字(じ)で、「つ(つ)き(き)ぬ(ぬ)ける(ける)」とい(い)う(う)意(い)味(み)が(が)あ(あ)る(る)こ(こと)ろ(ろ)から、地(ち)平(へい)線(せん)を(を)つ(つ)き(き)ぬ(ぬ)けて(けて)太(たい)陽(やう)が(が)で(で)て(て)く(く)る(る)方(ほう)角(かく)、ひ(ひ)が(が)し(し)を(を)表(あらわ)し(し)ま(ま)す。



つかいかた

- 東(とう)の(の)空(そら)が(が)、赤(あか)ら(ら)ん(ん)で(で)ま(ま)した(した)。
- 日(にっ)本(ぽん)は(は)東(とう)半(はん)球(きゆう)に(に)あ(あ)り(り)ま(ま)す。
- 東(とう)北(ほく)地(ち)方(ほう)に(に)は(は)六(む)つ(つ)の(の)県(けん)が(が)あ(あ)る(る)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

いみ・じゆく

○ひ(ひ)が(が)し(し)。

枚 枚 枚 枚 枚 枚 枚 枚

なりたち 木と父(動作を表すしるし)とを合わせた字で、手にとって使う棒を表します。一つ二つとかぞえることから、物をかぞえるときに使いました。

つかいがた

- 画用紙の枚数をしらべる。
- 一枚の紙もむだにしない。

いみ・じゆく

①紙や板など、ひらたい物をかぞえることば(紙)一枚(アルミ板)五枚

学習 ●たくさんありすぎて、かぞえきれないことを「枚挙にいとまがない」といいます。●たくさんのお金のことを「大枚」といい、「大枚を投じてようやく道路が完成した」のように使います。



おんマイ
枚
(6年・8画)

枚

査 査 査 査 査 査 査 査

なりたち 木と且(かさねる)を合わせた字です。もと、通行のじやまをする木のさくのことでしたが、のちに「しらべる」という意味になりました。

つかいがた

- 事故の原因を調査する。
- 税関で持ち物を検査する。

いみ・じゆく

○しらべる 査察・査証・査定・査問・監査・検査・考査・主査・巡査・審査・捜査・探査・調査・踏査

学習 ●「且」のつく字は、「かさねる」という意味にかんけいがあります。「助」力をかさねてプラスする。「祖」何代もかさねる先祖。「組」糸をかさねてくむ。「阻」石をかさねてじやまをする。



おんサ
査
(5年・9画)

査

柱 柱 柱 柱 柱 柱 柱 柱

なりたち 主(じつと立っている)と木とを合わせた字です。じつと一か所に立っている木のことから、「はしら」という意味を表します。

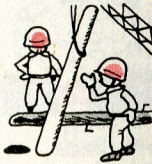
つかいがた

- 柱にぎずをつける。
- 古い電柱をたてかえる。

いみ・じゆく

○はしら。物のささえとなるもの。柱石・円柱・角柱・支柱・石柱・鉄柱・電柱・氷柱・門柱・霜柱・大黒柱・茶柱・床柱・火柱・水柱

学習 ●「柱」に「住」(住宅・住居)の注(注意・発注)があります。「主」のつく字は、「じつとして立っている」という意味にかんけいがあります。↓「主」(36画)。



おんチュウ
柱
(3年・9画)

柱

板 板 板 板 板 板 板 板

なりたち 反(そりかえらせる)と木とを合わせた字。そりかえってぴんとはった木のいたのこを表します。

つかいがた

- 板前さんにすしをにぎってもらう。
- かんなどで板をけずる。
- ペニヤ板ではこを作る。
- つよい風で看板がたおれる。

いみ・じゆく

①たいらで、うすいもの。いた。板金・甲板・合板・黒板・鉄板・銅板・天井板・戸板・羽目板・床板

②ひらたくて変化にとぼしい。平板

学習 ●「反」に「坂」(坂道・急坂)、「版」(出版・版画)があります。正しく書き分けましょう。



おんハン・バン
板
(3年・8画)

板

林 林 林 林 林 林 林 林

なりたち 木を二つならべた字です。木がたくさんつらなつた「はやし」を表します。

つかいがた

- 林を切りひらいて住宅地をつくる。
- 雑木林でドングリをひろう。
- 林間学校でキャンプファイアをする。
- 山の木を切ったあとに植林をする。

いみ・じゆく

○はやし 林間・林業・林産・林道・林野・林立・営林・原始林・国有林・山林・自然林・樹林・森林・竹林・防雪林・防風林・密林・松林

学習 ●「林間学校」と「臨海学校」(海そばでひらく学校)とは、音がよく似ていますから、まちがえないように注意しましょう。



おんリン
林
(1年・8画)

林

果 果 果 果 果 果 果 果

なりたち 木の上にある実がなっているよいうすをえがいた字です。

つかいがた

- やくそくを果たす。
- つらい仕事でつかれ果てる。
- 世界の果てを行く。
- テストの結果が気になる。

いみ・じゆく

①木の実。くだもの。果実・果樹・果肉

②ある原因によつてできたもの。むくい。因果・結果・効果・成果・戦果

③思いきりがよい。果敢・果斷

④思いどおりの結果になる。はたして。果然

学習 ●「菓」に「菓」(菓子・製菓)があります。●特別な読みかたに「果物」があります。



おんカ
果
(5年・8画)

果

株株株株株株株株

○木の切り株にこしをおろす。
○株主総会が開かれる。
いみじゆく
①きりかぶ。根のついた草木。株分け
②株式・株券——株価・株金・株主・子株・新株・成長株・持ち株
③ある地位・みぶん——頭株・親分株
学習 ●株主から集めた資本で事業をする会社を「株式会社」といいます。●数字の下につけて、根のついた植物や株券をかぞえることばとしても使います。



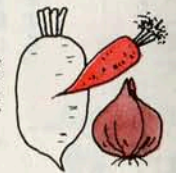
株

(6年・10画)

株

根根根根根根根根

○雑草を根元からぬきとる。
○あの男は根性がある。
いみじゆく
①草や木のね——根毛・球根・大根・根元
②物事のもとよりどころ。根幹・根拠・根柢・根源・根底・根本・病根・根城
③物事にたえる力——根気・根性・精根
学習 「長(とま)って動かない」をふくむ字には「眼(こま)」「限(かぎ)」「恨(むら)」などがあります。



根

(3年・10画)

根

格格格格格格格格

○きようは格別に寒(む)い日だ。
○競技会の予選で失格した。
いみじゆく
①きまり。きそく。格言・格式・規
格・厳格・合格・破格・別格・本格的
②地位・みぶん。ていど。格差・格調
③ほねぐみ——骨格・体格
学習 コウという読みは、「格子」ということばに使われます。



格

(5年・10画)

格

栄

(4年・9画)

栄

なりたち もとの字は榮で、榮(まわり全体)をとりまく光)と木とを合わせてできた字です。木のまわりを、いっぱいにとりまいて、さいた花を表します。
つかいかた
○この町はむかし、城下町として栄えた。
○お茶づけだけでは榮養が不足します。
いみじゆく
①さかえる。さかんになる。さかんにする。榮華・榮枯・盛衰・榮進・榮転・榮養・共存共栄・清栄・繁栄
②ほまれ。めいよ。榮冠・榮光・光榮
学習 ●「はえ」という読みは「栄えある勝利・出来栄え・見栄え」など使います。●「營」にているので、「營養・榮業」などと書きまちがえないように。



染

(6年・9画)

染

なりたち 染(木でつくったうつわ)と(水)とを合わせた字です。うつわの中に色のついた水を入れて、布などをじわじわとそめることを表します。
つかいかた
○わるい習慣に染まる。
○先生にほめられて、ほおを染める。
○インフルエンザに感染する。
いみじゆく
①そめる。そまる。染色・染料・汚染・染め物
②えいきようをうける。うつる。感染
学習 「しみ・しみる」という読みは、「インクの色み・染みぬき・染み付く・身に染みる」など使います。



校

(1年・10画)

校

なりたち 交(まじわる)と木を合わせた字で、Xの形にまじわった木のわくを表します。また、おしえること、ならうことがまじわって行われる所(学校)もさします。
つかいかた
○新しい校長先生が着任された。
○開校記念日で学校は休みだ。
いみじゆく
①物事をおしえ、ならうところ。校医・校歌・校旗・校舎・校章・校則・校庭・校風・校門・休校・下校・在校生・全校・転校・登校・分校・本校
②調べる。比べる。校閲・校正・校訂
学習 「交」のつく字には、「効(効果・効力)」「郊(郊外)」などがあります。



楽 楽 楽 楽 楽 楽 楽 楽

① 音楽 楽劇・楽章・楽隊・楽団・楽譜・楽器・楽曲・管弦楽・器楽・交響楽・吹奏楽・声乐・邦楽・洋楽

② たのしい 楽園・安楽・快樂・苦楽

③ たやすい 楽楽・楽観・気楽

学習 特別な読みかた 神楽

なりました 木の上に乗る。ゆをかけたようすをえがいた字です。もとはごろごろしたまるい実のなるクヌギの木のことでしたが、その音のガク・ラクから「ゴロゴロ、ガヤガヤと音をだす」という意味に使うようになりました。

つかいかた

○ きょうは、楽しい音楽会でした。

○ 予選で楽勝して、決勝に進出した。



楽 (2年・13画)

楽

おんガク・ラク

構 構 構 構 構 構 構 構

① くみだてる かまえる。成・構想・構造・構築・機構

② かまえ かこい。構外・構内

学習 「講」(講演・講習)や、「購」(購読・購入)と形がにているので、注意しましょう。

なりました 構(むこう)とこちらとおなじ形に木をくみ合わせたようすに木をつけて、木をうまくくみ合わせて、つりあいができるように作ることを表します。

つかいかた

○ いそがしいのでだれも構ってくれない。

○ 敵のくるのを待ち構える。

○ 作文の構想をたてる。



構 (5年・14画)

構

おんコウ

様 様 様 様 様 様 様 様

① かたち ありさま。様態・一樣・異様・多様・同様

② 図 図から。あや。模様・文様

③ きま しまったかたち。形式。様式・今様

④ 名まえ の下につけて、あいてをうやまう。奥様・殿様・宮様・山田様

学習 「花」のようなゆめのようすの「よう」は、かな書きにします。

なりました もとの字は様でした。叢(形のよいヒツジ)と木とを合わせて、形のよい木のすがたを表します。

つかいかた

○ 「はだかの王様」の本を読む。

○ 今にも雨のふりそうな様子だ。

○ 異様な身なりの男。



様 (3年・14画)

様

おんヨウ

検 検 検 検 検 検 検 検

① しらべ 検印・検疫・検問・検眼・検査・検札・検事・検証・検針・検診・検定・検討・検便・探検・点検

② とり しまる。しめくくる。検束・検問

学習 「検」や「験」と区別しましょう。

なりました もとの字は検、衾は△(あつめてまとめる印)と四(いくつもの物)と从(人ふたり)とを合わせた字で、おおくの人をひとまとめにあつめるさまを表します。それに木をつけて、おおくの木のふたをひと所にあつめてしらべることを表します。

つかいかた

○ 予防接種の前に検温する。

○ 消火器の点検をする。



検 (5年・12画)

検

棒 棒 棒 棒 棒 棒 棒 棒

① ぼう 金棒・警棒・鉄棒・平行棒

② まつ すぐな線。棒グラフ・縦棒・横棒

③ ぼう のように一直線であること。棒暗記・棒立ち・棒読み

学習 いままで努力がすっかりむだになることを「棒にふる」といい、「一生を棒にふる」のように使います。

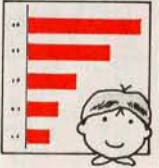
なりました 奉(両手で物をささげるようす)と木を合わせた字です。両手をそろえてささげもつ、木のぼうを表します。

つかいかた

○ クリの実を棒でたたきおとす。

○ 鉄棒でさかあがりの練習をする。

○ 調査の結果を棒グラフでしめす。



棒 (6年・12画)

棒

おんボウ

業 業 業 業 業 業 業 業

① しごと つとめ。業者・営業・開業・学業・企業・漁業・工業・作業・産業・事業・従業・授業・職業・卒業・農業・副業・分業・本業・林業

② しわざ。したしごと。業績・所業

学習 「ゴウ」は「愚業・因業」など。「わざ」は「仕業・早業」など使います。

なりました かねやたいこを、ぼうにつるしてかける台をえがいた字。上の部分のぎざぎざの形から「ひつかかってつかえる」という意味がうまれ、「やつかいな手仕事・努力しなければうまくいかない仕事」という意味になりました。

つかいかた

○ りっぱな業績。○ 商店の休業日。



業 (3年・13画)

業

おんギョウ・ゴウ

権 権 権 権 権 権 権

権 けん もとの字は権でした。音を表す權と木を合わせた字で、はかりの重さを表すことから、「つりあいをとる・力のバランス」という意味になりました。

ついかいかた
 ○だれでも、教育を受ける権利がある。
 ○満二十歳で参政権があたえられる。
 ○人を支配するから。じぶんを主張できる資格。ちから。いきおい。
 △威・権益・権限・権勢・権利・権力・△乗権・三権・実権・主権・所有権・人権・政権・選挙権・同権・特権
学習「権」という読みかたは、「権化・権現」などのことばに使われます。



権 (6年・15画)

権

横 横 横 横 横 横 横

横 よこ 横隊・横町・横腹・横道・横目・横文字・横顔・横野・横腹・横道・横目・横文字

ついかいかた
 ○小さな子どもが道路を横切る。
 ○ヨットで太平洋を横断する。

ついかいかた
 ①よこ 横隊・横断・横転・縦横たて・横顔・横町・横腹・横道・横目・横文字
 ②わがままな。かつてな。 横行・横暴・横領・専横・横車
学習「横」との対語は「縦」です。「横隊↓縦隊」「横断↓縦断」「横系↓縦系」「横穴↓縦穴」「横書き↓縦書き」。



横 (3年・15画)

横

橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋

橋 はし 橋脚・架橋・鉄橋・歩道橋・陸橋・石橋・土橋・二重橋・丸木橋

ついかいかた
 ○仲間おりの橋わたしをする。
 ○電車が鉄橋をわたる。
 ○待ちに待った歩道橋が完成した。

ついかいかた
 ○はし 橋脚・架橋・鉄橋・歩道橋・陸橋・石橋・土橋・二重橋・丸木橋
学習「△掛け橋」は材木やふじづるでつくり、山のがけなどにかける橋ですが、「両者の△掛け橋となる」のように、なかだちをする意味にも使われています。



橋 (3年・16画)

橋

模

(6年・14画)

模



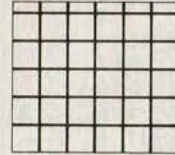
なりたち 莫は、草の間に太陽がかくれて見えなくなるから。「かくす・かくれたものを手でさぐる」という意味があります。それに木がついて、上からねんどをかぶせ、手でなでこすりながら土器を作る、木のわくを表します。

ついかいかた
 ○規模の大きな工事。 ○模型飛行機。
いみ・じゆく
 ①てほん。かた。 模範・規模
 ②かたどる。てほんにする。まねをする。 模倣・模写・模写・模造・模倣
 ③かたち。かざり。 模様

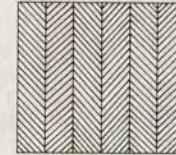
学習「莫」のつく字は、「見えなくなる・ない」という意味にかんけいがあります。「墓」(山び)、「暮」(150字)。



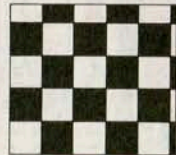
矢羽根



格子縞



杉綾



市松模様

いろいろな模様

元禄時代(今から三百年ほどまえ)にはやつたので、元禄模様ともいいます。杉の葉がならんだかたちの模様です。いまでもよく見られます。チェックともいいます。格子の太さによって、多くの種類があります。矢についている羽根のかたちをならべた模様です。

標

(4年・15画)

標



なりたち 票(こまかい火の粉がたたくまいあがること)と木を合わせた字です。たかく上にかかげた、木の目じるしを表します。

ついかいかた
 ○夏休みに貝の標本をつくる。
 ○学級の目標をさめる。

いみ・じゆく
 ○目じるし。めあて。しるし。しるす。
 標記・標語・標高・標札・標識・標準・標題・標的・標本・座標・指標・商標・道標・基標・目標・門標
学習「投票・伝票」の「票」(296字)と書きまちがえないようにしましょう。また、「漂流」(漂流・漂白)という字もありますから、注意しましょう。

標 標 標 標 標 標 標

欠 欠 欠 欠

なりたち 人が口をあけて体をかがめているようすをえがいた字です。おなかをすかせて体をくぼめていることから、「へこむ・くぼむ・たりない」という意味を表します。

つかいかた
○ 礼儀を欠く。土びんの口が欠ける。
○ かせのため、学校を欠席する。

いみ・じゆく
○ 一部分が欠ける。たりない。こわれる。欠員・欠陥・欠勤・欠航・欠如・欠場・欠席・欠損・欠点・欠番・欠乏・欠礼・出欠・病欠・不可欠・補欠

学習 もとは、ケンと読んで「あくび」の意味でしたが、いまは「▲欠る」のかわりに用いて、ケツと読みます。



欠 (4年・4画)



次 次 次 次 次

なりたち もとの字は次で、二(ならべる)と欠(人が体をかがめる)とを合わせた字です。もとは「旅にもつを下ろしてならべ、体をやすめる」という意味でしたが、のちに、「順序をつけてならべる」という意味になりました。

つかいかた
○ 大阪は東京に次ぐ大都市だ。
○ 次の電車。○ 学級文集の目次を書く。

いみ・じゆく
① つぎの。二ばんめの。次位・次回・次官・次女・次席・次代・次点・次男
② 順序をつける。次元・順次・次男
③ 回数単位。一次試験・二次募集

学習 シという読みかたは、「次第」ということばのときに使います。



次 (3年・6画)



欲 欲 欲 欲 欲

なりたち 谷(あながあいている)と欠(かけている)を合わせた字です。心の中にあながあいたように、ものたりなくて、それをうめたいと思う気持ちを表します。

つかいかた
○ あんまり欲張ると失敗する。
○ 意欲をだして勉強にとりくむ。

いみ・じゆく
① ほしがる。願ひ求める。欲望・欲求
② ほしがる心。よく。欲得・欲目・意欲・我欲・強欲・私欲・食欲・知識欲・物欲・無欲・利欲

学習 ほしい。「ほつする」という読みかたは、「宿題をおしえて欲しい」「孝ならんと欲する」のように使います。



欲 (6年・11画)



機

(4年・16画)



なりたち 幾(ごくわずか)と木とを合わせた字です。もとは、織機(はたおりのきかい)の間にはさまってしかけをうごかす、ごく小さな木のぼうを表しました。のちに、ひろく「きかい」の意味に使われ、また、「物事のはたらき」や「だいいじな時・だいいじな所」という意味にも使われるようになりました。



つかいかた
○ 機を見て、母から父に話してもらおう。
○ 機に乗じて、一気にゴールにせめこむ。
○ すばらしい機能をもった機械です。
○ 機首を東に向けて飛び立ちました。
○ パタン・パタンと機械織りの音がします。

いみ・じゆく
① こまかな部品をくみ合わせて作ったし

なりたち もとの字は機で、二(ならべる)と機(人が体をかがめる)とを合わせた字です。もとは「旅にもつを下ろしてならべ、体をやすめる」という意味でしたが、のちに、「順序をつけてならべる」という意味になりました。

つかいかた
○ 大阪は東京に次ぐ大都市だ。
○ 次の電車。○ 学級文集の目次を書く。

いみ・じゆく
① つぎの。二ばんめの。次位・次回・次官・次女・次席・次代・次点・次男
② 順序をつける。次元・順次・次男
③ 回数単位。一次試験・二次募集

学習 シという読みかたは、「次第」ということばのときに使います。



なりたち 討(た)はま(台)の上に立てたたいこ(こ)と寸(手)を合わせた字で「じつと立てる」という意味を表します。それに木をつけて、じつと立っている木を表します。

つかいかた
○ 日本新記録を樹立する。
○ 街路樹のえだを下ろしている。

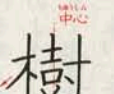
いみ・じゆく
① 立ち木。樹海・樹上・樹氷・樹木・樹齡・果樹・広葉樹・常緑樹・植樹・針葉樹・大樹・熱帯樹・落葉樹
② うちたてる。樹立

学習 木のはだからでてくる、ねっとりとした木のやにを「樹脂」といい、「合成樹脂」ということばもあります。



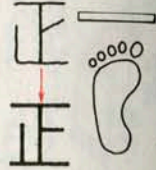
樹

(6年・16画)



正 正 正 正 正

① 正しい — 正気・正直・正体・正面
 正価・正解・正確・正義・正堂堂・
 正調・正道・正論・公正・中正
 ② ただす — 正誤・改正・修正・訂正
 ③ ちょうど — 正月・正午・正当・正反对
 ④ 本すじのもの。おもなもの。 — 正攻
 法・正式・正統・正副・正門
 学習 年賀状に書く「賀正」ということ
 ば、新年を祝うという意味です。



おんセイ・シヨウ
 くらん だししい・ただす・まさ
なりたち (目標) 一
 におかたつて、止(あし)が
 まつすすぐ進むようすを
 表した字です。
 つかいかた
 〇きみの考えは正しい。 〇誤りを正す。
 〇正に、あなたのおつしやるとおりです。
 〇正面げんかんから入る。

武 武 武 武 武 武 武

① 強くて勇ましい — 武威・武名・武勇
 ② いくさ。戦い。 — 武器・武具・武家・
 武芸・武士・武術・武将・武人・武装・
 武道・武門・武力・武者
 学習 試合などの前に心が勇みたつて、
 体かふるえることを「武者ぶるい」とい
 います。 ●「武田・武夫」など、人の名
 では「たけ」とも読みます。



おんブ・ム
 くらん
なりたち 弋(ほこ)と
 止(あし)を合わせ
 た字です。ほこを持っ
 て勇ましく進んでいく
 ようすを表します。
 つかいかた
 〇武器をすててにげだす。
 〇長い間つづいた武家政治がおわった。
 〇たんこの節句に武者人形をかざる。

步 步 步 步 步 步 步

① あるく。あゆむ。 — 歩行・歩数・歩
 測・歩調・歩道・歩幅・一歩・競歩・
 散歩・進歩・退歩・独歩・遊歩
 ② 土地の広さを表す単位。 — 一歩(一
 四方で約三・三平方呎。「坪」と同じ)
 ③ 利益のりつ。わりあい。 — 歩合・日歩
 学習 フという読みかたは、将棋のこ
 まの一つ、「歩」に使います。



おんホ・ブ・フ
 くらん あるく・あゆむ
なりたち もとの字は
 歩で、右足と左足を
 合わせた字です。足を
 たがいちがいになみ出
 すことを表します。
 つかいかた
 〇ろうかの右がわを歩く。
 〇目標におかたつて歩む。
 〇歩調をそろえて行進する。

歌

(2年・14画)

歌

はわなひ
はねる

なりたち 可(声をのど
 のところでおりまげ
 て出すこと) 二つと欠
 (体をかがめたようす)
 を合わせた字です。体
 をかがめ、のどで高くひくく、かどめを
 つけて声を出すことを表します。



おんカ
 くらん うた・うたう
なりたち 可(声をのど
 のところでおりまげ
 て出すこと) 二つと欠
 (体をかがめたようす)
 を合わせた字です。体
 をかがめ、のどで高くひくく、かどめを
 つけて声を出すことを表します。
 つかいかた
 〇替え歌をつくる。 〇大声で歌う。
 〇校歌の歌詞をおぼえる。
 いみ・ぶく
 ① うた — 歌詞・歌集・歌謡・接歌・
 校歌・国歌・賛歌・賛美歌・名歌・流
 行歌・歌声・鼻歌・船歌
 ② うたう — 歌曲・歌劇・歌手・唱歌
 ③ 短歌 — 歌人・歌道・和歌・歌心
 学習 江戸時代からつたわる日本の伝
 統的な演劇を「歌舞伎」といいます。

歓

(5年・15画)

歓

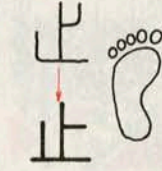


なりたち もとの字は
 歡です。口は口をそろ
 えていうこと。昔はも
 と鳥の名で、音を表し
 ます。それに欠(口を
 あけて、体をかがめているようす)がつ
 いて、声を合わせてガヤガヤいうことを
 表します。
 つかいかた
 〇食事をしながら歓談する。
 〇ファンの歓声にこたえるスター。
 いみ・ぶく
 〇よろこぶ。よろこび。 — 歓喜・歓迎・
 歓呼・歓心・歓声・歓送・歓待・歓談・
 歓楽・歓飲・交歓
 学習 「勧(か)む」(勧告・勧誘)や「観(か)ん」(観
 客・観光)と、音が同じで形もにている
 ので、注意しましょう。

止

(2年・4画)

止



なりたち 足の形をえ
 がいた字です。足がじ
 つと一か所にとまるこ
 とを示しています。
 つかいかた
 〇とけいが止まる。 〇水道が止まる。
 〇けんかを止める。 〇遠足は雨で中止。
 いみ・ぶく
 〇一か所についてうごかない。とまる。さ
 しどめる。やめる。 — 止血・休止・禁
 止・終止・制止・静止・中止・停止・
 廃止・防止
 学習 ●「止」のついた字は、「あるく・
 すすむ」という意味に、かんけいがあり
 ます。「正」目標におかたつてまっすぐ進
 む。「武」ほこをもつて勇ましく進む。
 「歩」あるく。「歴」順序よく次々と歩
 いて通る。●特別な読みかたは波止場。

段 段 段 段 段 段

なりたち 手 (上から下へ物をたらし形) と又 (動作を表すし) とを合わせた字です。トントンと上から下へおろす石だんを表します。

つかいかた
 ○ 仕事の段取りをきめる。
 ○ 神社の急な石段をのぼる。

いみじゆく
 ① だんだん。かいだん。段△丘・段段・石段・階段・下段・上段・中段
 ② くぎり。きれめ。段階・段落
 ③ てだて。やりかた。算段・手段
 ④ 武道・碁・将棋などのうでまえにあたえられる等級。初段・有段者

学習 「いざという段になると」のように、場合などを表すときにも使います。



段

(6年・9画)

段

おんたん

殺

(4年・10画)

殺

おんさつ・サイ・セツ

殺 殺 殺 殺 殺 殺

なりたち もとの字は殺。メ(かりとる)と朮(モチアワ)と又(動作を表す印)とを合わせた字で、モチアワのほをかりとり、皮をそいでとる意味です。

つかいかた
 ○ 声を殺して話す。
 ○ 会場は意見の対立で殺気立つ。

いみじゆく
 ① ころす。命をうばう。殺意・殺害・殺傷・殺人・殺虫剤・暗殺・虐殺・自殺・射殺・銃殺・他殺・必殺
 ② なくす。けす。殺風景・滅殺・相殺
 ③ 意味を強めるためにそえることば。殺到・悩殺・忙殺・黙殺

学習 サイ・セツという読みは、「相殺」「殺生」などのことばに使われます。



母 母 母 母 母

なりたち おねに二つちぶさのある、女の人をえがいた字です。

つかいかた
 ○ 母は外出中です。
 ○ 必要は発明の母だといわれます。
 ○ 母校でクラス会を開く。
 ○ 父母といっしょに旅行をする。

いみじゆく
 ① はは。おかあさん。母系・母子・性愛・母堂・母乳・義母・賢母・実母・生母・祖母・父母・保母・養母・老母・母親・母方

② ものを生みだすものになるもの。母音・母型・母港・母校・母国・母船・母体・酔母・字母

学習 特別な読みかたに「乳母(おほい)」「母屋(おほい)」があります。



母

(2年・5画)

母

おんぼ

歴

(4年・14画)

歴

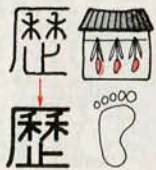
おんレキ

なりたち もとの字は歴です。麻は禾(イネ)を尸(やね)の下にならべたようすをしめす字で、「順序よくならべる」という意味があります。それに止(あし)をつけて、順序よくつぎつぎと歩いてとることを表します。

つかいかた
 ○ 日本の歴史を学習する。
 ○ 人間は学歴よりも実力が大切です。

いみじゆく
 ① すこす。すぎていったあと。歴史・歴代・学歴・経歴・職歴・履歴
 ② ひとつひとつ、順をおってゆく。歴任・歴訪・遍歴
 ③ はつきりしている。あきらか。歴然

学習 「△歴々」とまちがえないように。



死

(3年・6画)

死

おんシ

なりたち 歹(ほね)と匕(人)を合わせた字で、人が死んでばらの骨になってしまふことを表します。

つかいかた
 ○ かぜがもとで死ぬ。
 ○ おさないころ、母と死別した。

いみじゆく
 ① しぬ。活動力がない。死因・死角・死火山・死活・死期・死去・死刑・死後・死罪・死者・死傷・死相・死体・死人・死別・死亡・死滅・安楽死・急死・決死・検死・焼死・水死・生・即死・凍死・必死・病死・変死
 ② 命がけのきけん。死守・死地・死力

学習 野球で「一死・二死満塁」などと使う「死」は、アウトのことです。



残

(4年・10画)

残

おんザン

なりたち もとの字は残。彡(ほこ)を二つ合わせた字で、はもて切つて小さくするということ意味です。それに歹(ほね)をつけて、切りとって小さくなったのこりの骨を表します。

つかいかた
 ○ 給食のパンを残す。○ きずあとが残る。
 ○ 預金の残高をしらべる。

いみじゆく
 ① あまり。あまる。のこる。残額・残業・残金・残暑・残雪・残高・残念・残飯・残部・残務・残留・残壘・敗残
 ② むごい。残酷・残酷・残忍・無残

学習 特別な読みかたに「名残」があります。



毛毛毛毛

毛 (2年・4画)

毛 (はげ)



○なりたち ほそい毛をえがいた字です。

○つかいかた

○ヒツジの毛をかる。

○毛糸のマフラー。

○あやまる気は毛頭(ハ少しも)ない。

○オーストラリアから羊毛を輸入する。

①動物のけ。人のかみのけ。毛根・毛髪・毛筆・毛布・羽毛・紅毛・純毛・脱毛・羊毛・毛糸・毛織物・毛皮・毛筋・毛虫・綿毛

②ひじょうにほそくて小さいもの。毛細管・毛細血管・毛頭

③草 作物がはえる。二毛作・不毛

【学習】かたかなの「毛」は「毛」の一部から、ひらがなの「も」は「毛」をくずし書きしたものできました。

氏氏氏氏

氏 (4年・4画)

氏 (はたら)



○なりたち 先のするどいさじ、または、ぬいばりをえがいた字です。もとは「次々につたわる・つづる」という意味に使われたところから、「代々つたわる血すじ」を表すようになりました。

○つかいかた

○持ち物に氏名を書く。

○源氏と平氏のあらそい。

○氏神さまのお祭りが近づきました。

①みょうじ。△姓。氏名・△姓氏

②おなじ祖先の家すじ。氏族・徳川氏

③名まえの下につけて尊敬の気持ちを表すことば。彼氏・山田氏・両氏

【学習】下の段の「民」は「氏」と形がよくて、注意しましょう。

民民民民

民 (4年・5画)

民 (はたら)



○なりたち 下の図のように、目とほりを合わせた字です。ほりで目をつぶされたぐれいを表し、のち、「目のみえない人のように、何もわからなくて、支配される人々」という意味になりました。

○つかいかた

○民芸品の展示会を見に行く。

○公害問題について住民の意見を聞く。

①こくや社会をつくらっている、ふつうの人びと。民衆・民生・民俗・民族・民有・民話・民話・移民・国民・市民・住民・人民・村民・町民・都民・農民

○国や社会をつくらっている、ふつうの人びと。民衆・民生・民俗・民族・民有・民話・民話・移民・国民・市民・住民・人民・村民・町民・都民・農民

【学習】「たみ」という読みかたは、「民の声・民草」などのことばに使われます。

毎 (2年・6画)

毎 (はねる まじわる)



○なりたち もとの字は毎。あたまにかんざしをつけた母をえがいた字です。母親は、次々に子どもをうむことから、「ふえる」という意味を表し、ふえたもの一つ一つをさすようになりました。

○つかいかた

○毎週一回ピアノを習いに行く。

○毎日六時に起きてマラソンをする。

○そのたびに。一つ一つに。毎朝・毎回・毎月・毎時・毎週・毎度・毎日・毎年・毎晩・毎秒・毎夕

【学習】「毎」はその音が「くらい・くろい」という意味の字の音とにているのでその意味にも使われます。「海」は「色」がくろずんだらみ。「悔」は「心」がくろくなる。

毒 (4年・8画)

毒 (いちはん まじわる)



○なりたち もとの字は毒。虫(め)をだした草と母を合わせた字です。薬草をぐたぐたにつぶしてぼったもの意

味で、子どもをうむ女の人がのみましたのみすぎるにわるいことから、「どく」という意味になりました。

○つかいかた

○毒虫にさされたので薬をつける。

○下水の消毒。かれは毒舌家だ。

○健康や生命に害をあてるもの。どく

○毒殺・毒手・毒性・毒素・毒草・毒物・毒味・毒薬・害毒・解毒・鎮毒・消毒・中毒・無毒・猛毒・有毒

【学習】あくどい悪口や、皮肉をいうことを「毒舌をはく」といいます。

比 (5年・4画)

比 (はたら)



○なりたち 人がふたりならんだようすを表す字で、「ならべる・くらべる」という意味を表します。

○つかいかた

○友だちと身長を比べる。

○どくに算数に比重をかけて勉強する。

①くらべる。ならべる。比・比較・比肩・比類・対比・等比・無比

②わりあい。比重・比熱・比率・比例

【学習】ある物事を説明するのに、それとよく似たものをたとえに使うことを、「比喩」といいます。例「雪のように白いはだ」。かたかなの「ヒ」は「比」の一部から、ひらがなの「ひ」は「比」のくずし書きからきました。

氣

(1年・6画)



おんキ・ケ

【なりたち】もとの字は氣で、氣(息)がおれまがりながら出てくるよ(うす)と米とを合わせた字です。米をふかすときに出るじょうき(ゆげ)を表します。



つかいかた

- 氣の遠くなるような大むかしの話。
- みんなが発言できるように氣を配る。
- 夏休みの宿題をすませて氣楽になった。
- あしたの天氣が氣がかりです。
- 病氣がなあって、元氣になりました。
- 雪をいただいた富士山は、氣高いすがたをしています。
- なんとなく、春の氣配がただよいます。

いみ・くみ

- ①口からでいりするいき——氣管・氣絶・氣息・吸氣・呼氣
- ②ガス体・空氣・大氣・氣圧・氣温・氣味・氣味・氣味

氣 氣 氣 氣 氣

⑥あじ。ようす。きぶん。油氣・食い・塩氣・毒氣・はき氣・水氣・若氣

【學習】「氣」を使った言いまわしは、つぎのようにたくさんあります。

「氣が多い」→多くのことをやりたがる

「氣がきく」→注意がゆきとどく。「氣が氣でない」→心配がおちついていられない。「氣が散る」→心が一つのこと

に集中しない。「氣がとがめる」→心のなかで悪いと思う。「氣がもめる」→じれったくていらいらする。



水 水 水 水

①みず。みずのようなもの。水圧・水位・水域・水運・水泳・水温・水害・水牛・水銀・水源・水郷・水産・水死・水質・水車・水準・水晶・水上・水蒸

水質・水深・水勢・水洗・水素・水中・水田・水道・水分・水防・水面・水門・水陸・水量・水路・飲料水・温水・海水・行水・下水・進水式・地下水・排水・防水・水際・雨水・大水・氷水

【學習】特別な読みかた→清水しみ。



水

(1年・4画)



おんスイ

【なりたち】部首の説明とおなじです。

【つかいかた】

- 流行の水着を買う。
- 水泳大会を開く。
- 地下水をくみあげて飲料水に使う。

氷 氷 氷 氷

①みぞれ。みぞれのようしたもの。氷圧・氷位・氷域・氷運・氷泳・氷温・氷害・氷牛・氷銀・氷源・氷郷・氷産・氷死・氷質・氷車・氷準・氷晶・氷上・氷蒸

氷質・氷深・氷勢・氷洗・氷素・氷中・氷田・氷道・氷分・氷防・氷面・氷門・氷陸・氷量・氷路・飲料水・温水・氷水・行水・下水・進水式・地下水・排水・防水・氷際・雨水・大水・氷水

【學習】「ひ」という読みは「氷雨」ということばに使います。「氷」ということばに「氷」という読みかたは「氷雨」ということばに使います。「氷」ということばに「氷」という読みかたは「氷雨」ということばに使います。



氷

(3年・5画)



おんヒヨウ

【なりたち】もとの字は氷で、水と「冫」ということをしめす印を合わせた字です。水がこおってひびがはいる、ぴんと二つにわたれることを表します。

【つかいかた】

- 冷蔵庫で氷をつくる。
- 雪上車が氷原を進んでいく。
- 流水がおしよせる。

水

●部首の説明
水みず (ミ・さんすい 氷したみず)

●水のながれるようすをうつしとったもので、「みず」の意味です。ほかの字と組みあわさるときは、「シ」「氷」の形になります。

●「水」「シ」「氷」のつく字は、「みず」や「液体」にかんけいする意味をもつ



- 水がたまる。こおる。こおり。
 - 氷が解く。氷結。氷原。氷山。氷室。
 - 氷雪。氷柱。氷点。結氷。碎氷。樹氷。
 - 薄氷。流氷。氷砂糖。
- 酒 ↓ 酉 370°
- 源 温 消 泉 油 水
 漁 測 流 洋 治 水
 演 港 液 活 法 永
 潔 湖 深 派 波 池
 潮 湯 混 海 注 求
 満 清 浅 泳 決
 準 濟 洗 泣 汽
 漢 滅 浴 浴 河

永

(5年・5画)



なりたち 川の流(なが)れがほそくわかれて、どこまでも長くのびていくようにすえがいた字です。「ほそく、長くつづく」という意味を表します。



つかいかた

- 永いねむりにつく(「死ね」)。
- ブラジルに永住(えいじゅう)することになった。
- 父は永年(えいねん)勤続(きんじつ)で表彰(たしょう)された。

読みかた

時間がながい。いつまでも。永遠(えいゑん)・永久(えいこ)・永住(えいじゅう)・永世(えいせい)・永続(えいじつ)・永年(えいねん)・永眠(えいみん)という意味に「永」のついた字は「ながい」「ながく水(みづ)にうかぶ」「詠(えい)」「ことばをながくのばす」。「永い」「眠り」「永の別れ」以外のときは、「ふつう」「長い」を使います。

決

(3年・7画)



なりたち 夫(かみ)は、指(ゆび)をまげて「型(かた)にえぐる」とを表します。それに「水(みづ)」をつけて、ていぼうが大(おほ)水(みづ)によって「型(かた)にえぐられる」とを表します。



つかいかた

- 学級委員(がくきゅういん)が決(きま)まる。
- 計画(けいかく)を決(き)める。
- 海(うみ)に行く日(ひ)を決(き)定(てい)した。

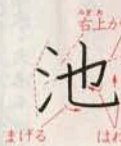
読みかた

①堤(つつみ)が切(き)れる。破(やぶ)れる。決(けつ)壊(かい)・決(けつ)裂(れつ)②勢(いき)がよいこと。決(けつ)起(き)・決(けつ)然(ぜん)③きめる。まどめる。決(けつ)意(い)・決(けつ)議(ぎ)・決(けつ)算(ざん)・決(けつ)死(し)・決(けつ)心(しん)・決(けつ)戦(せん)・決(けつ)選(せん)投(とう)・決(けつ)断(だん)・決(けつ)着(ちゃく)・決(けつ)定(てい)・決(けつ)解(かい)・決(けつ)可(か)決(けつ)・決(けつ)裁(さい)・決(けつ)採(さい)決(けつ)・自(じ)決(けつ)・対(たい)決(けつ)・判(はん)決(けつ)・議(ぎ)決(けつ)・裁(さい)決(けつ)・採(さい)決(けつ)・自(じ)決(けつ)・対(たい)決(けつ)・判(はん)決(けつ)・議(ぎ)決(けつ)「決(けつ)して……しません」のように、打ち消(く)しの使(つか)いかたがあります。

決 決 決 決 決 決 決 決

池

(2年・6画)



なりたち 也(や)は横(よこ)にのびたサソリ(さそり)をえがいた字で、「横(よこ)にのびる」という意味(いみ)があります。それに「水(みづ)」をつけ、横(よこ)に長く(ながく)のびた、ため池(ためいけ)を表(あらわ)します。



つかいかた

- にわに池(いけ)をほる。
- 日(ひ)でりて貯(たくわ)水池(すいぢ)の水(みづ)がかれそうだ。

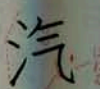
読みかた

水をためておくところ。いけ。池(いけ)・畔(ほとり)・貯(たくわ)水池(すいぢ)・電池(でんち)・用水池(ようすいぢ)・古池(ふるいけ)・学(がく)習(じゆ) 形(かたち)の「池」に「他(た)」「他(た)国(こく)」「他(た)人(にん)」と「地(ち)」「地面(じめん)」「地(ち)図(ず)」があります。まちがえないように注意(ちゆうい)しましょう。●電池(でんち)の「池」は、「電(でん)気(き)をためておく」という意味(いみ)です。「電池(でんち)」と書(か)かないようにしてください。

池 池 池 池 池 池 池 池

汽

(2年・7画)



なりたち 気(き) (下(した)のほうから、まがりながら出てくる息(いき)と「水(みづ)」とを合(あ)わせた字(じ)で、下のほうから、まがりながら出てくる「水蒸(すいじよう)気(き)」を表(あらわ)します。



つかいかた

- けむりをはく汽(き)車(しゃ)は、もう、ほとんど走(は)らなくなつた。
- 島(しま)々(々々)をまわる観(かん)光(こう)用(よう)の汽(き)船(せん)。
- 船(ふね)の汽(き)笛(ふえ)が港(みなと)になりひびいた。

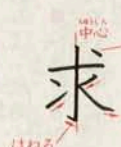
読みかた

○水蒸(すいじよう)気(き)。ゆげ。汽(き)車(しゃ)・汽(き)船(せん)・汽(き)笛(ふえ)・学(がく)習(じゆ) 「気(き)」と形(かたち)もにているので、注(ちゆう)意(い)しましょう。●「汽(き)車(しゃ)」を「氣(き)車(しゃ)・汽(き)車(しゃ)・機(き)車(しゃ)」などと、「機(き)関(かん)車(しゃ)」を「汽(き)関(かん)車(しゃ)」と書(か)きまちがえないようにしましょう。

汽 汽 汽 汽 汽 汽 汽 汽

求

(4年・7画)



なりたち 足(あし)のついた動物(どうぶつ)の毛(け)皮(かわ)をえがいた字(じ)です。毛(け)皮(かわ)は、ひきしめるようにして体(からだ)にまきつけること(こと)から、「はなれないように、手(て)もとにひきしめる」という意味(いみ)を表(あらわ)します。



つかいかた

- 買(か)い手(て)を求(もと)める。
- 助(すけ)けを求(もと)める。
- 新(しん)聞(ぶん)に求(もと)め人(にん)広(こう)告(こく)をだす。

読みかた

○自(じ)分(ぶん)のものにしようとする。もどめる。ほしがる。さがす。求(もと)刑(けい)・求(もと)婚(こん)・求(もと)職(しょく)・求(もと)人(にん)・求(もと)心(しん)力(りき)・求(もと)道(どう)・希(き)求(もと)・請(こう)求(もと)・探(たん)求(もと)・追(お)い求(もと)・欲(よく)求(もと)・学(がく)習(じゆ) 「求(もと)」のつく字(じ)には、「救(きう)す」「救(きう)急(きゅう)・救(きう)助(すけ)」「球(たま)」「球(たま)場(ば)・庭(てい)球(きゅう)」があります。

求 求 求 求 求 求 求 求

河

(5年・8画)



なりたち 大(おほ)むかしの字(じ)は、「水(みづ)の流(なが)れ」と「直(ちよく)角(かく)にまがる」とでできており、なんどもまがる中国(ちゆうごく)の黄(わう)河(か)の流(なが)れをえがいたものでした。のちに「水(みづ)」と可(か) (かぎ型(かた)にまがる)を合(あ)わせた形(かたち)になりました。



つかいかた

- 河(か)岸(がん)のヤナギのえだが風(かぜ)にゆれている。
- 河(か)口(こう)付(つ)近(きん)に工(こう)場(ば)がおおい。
- イタリヤのベニス(べニス)は運(うん)河(か)で有名(ゆうめい)です。

読みかた

○かわ 河(か)岸(がん)・河(か)口(こう)・河(か)川(せん)・河(か)畔(はん)・運(うん)河(か)・銀(ぎん)河(か)・山(さん)河(か)・大(たい)河(か)・氷(ひょう)河(か)・学(がく)習(じゆ) 小(こ)さいかわを「川(かわ)」、大(おほ)いかわを「河(か)」で表(あらわ)します。●特(とく)別(べつ)な読(よ)みかたに「河(か)岸(がん)」や「河(か)原(はら)」があります。

河 河 河 河 河 河 河 河

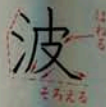
波 波 波 波 波 波

なりたち 皮(かわ)の着物をななめにひきよせてかぶること)とシ(水)とを合わせた字です。水面がななめにかたむいて、かぶさってくる「なみ」を表します。

つかいかた
○波打ちぎわで、さくら貝をひろった。
○アンテナが電波をとらえる。

いみじゆく
① なみ。なみだつ。波△浪・風波△余波△波頭△波風△波間△大波△津波
② なみのような動き。波長△音波△光波△短波△中波△電波

学習 特別な読みかたに「波止場ほど」があります。



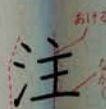
注 注 注 注 注 注

なりたち 主(じつ)と立つ)とシ(水)とを合わせた字です。柱のように水を上からじつと立ててそそぐことを表します。

つかいかた
○谷川の水は、やがて海に注ぐ。
○漢字の練習に力を注ごう。
○花を折って、注意された。
○電話で昼食を注文する。

いみじゆく
① そそぐ。注射△注水△注入△注油
② 一点にあつめる。注意△注視△注目
③ 書きしるす。注進△注文△受注
④ ときあかす。注解△注記△注釈

学習 「主」のつく字には、「柱△駐△住△往」などがあります。



泳 泳 泳 泳 泳 泳

なりたち 永(ながく)つづく)とシ(水)とを合わせた字です。長くつづけて水にうかぶこと、つまり「およぐ」ことを表します。

つかいかた
○夏になると海で泳ぐ。
○ぼくは平泳ぎがとくいだ。
○水泳大会で一位になった。

いみじゆく
○ およぐ。泳法△遠泳△競泳△水泳△背泳△遊泳△力泳△立ち泳ぎ

学習 「泳ぐ」の使いかたは水にかんけいすることがおもですが、「世の中をうまく泳ぎまわる」「つまずいて前に泳ぐ」というように、泳ぐときのようすにたとえて使うこともあります。



油

(3年・8画)



なりたち 由(口が細くくびれたつば)とシ(水)とを合わせた字です。水のような液体がつばからずる流れることだから、「あぶら」の意味を表すようになりまし。

つかいかた
○兄は油絵の制作中だ。○油断禁物!
○なたね油でてんぷらをあげる。
○外国から原油を運んでくる。
○寒くなると石油ストーブを使う。

いみじゆく
○ あぶら。油△煙△油脂△油性△油田△肝油△揮発油△軽油△鯨油△重油△製油△灯油△油紙△食用油

学習 「油」は液体状のあぶらですが、動物のあぶらは「脂」で表します。



治

(4年・8画)



なりたち 台(農具のすき)と口を合わせた字で、ことばや動作を調節することを表します。それにシ(水)をつけて、川の流れを調節して、こうずいなどをふせぐことを表します。

つかいかた
○国が治まる。○争いを治める。
○病気を治す。○けがが治る。
○学級の自治活動。○不治のやまい。

いみじゆく
① おさめる。乱れをなおす。治安△治下△治山△治水△治世△自治△政治
② 病気をなおす。治△療△全治△湯治

学習 「おさめる」と読む字には、ほかに「収める△修める△納める」があり、「なおす」には、「直す」があります。



法

(4年・8画)



なりたち むかし「法」を略して「法」ができました。鷹(頭がシカで足がウマに似た想像上の動物)を池の中の島におしこめたようすを表し、その外にはでられない「わく」を意味します。

つかいかた
○法律にそむくと、ばつせられます。
○植物の観察の方法を学習した。

いみじゆく
① おきて。法案△法規△法則△法廷△法律△法令△違法△憲法△司法△立法
② やりかた。法式△作法△手法△製法△戦法△筆法△便法△方法△用法△療法
③ 仏の道。法衣△法事△法要△仏法

学習 ハツ・ホツの読みは、「法度」「法主」ということばに使われます。



洋 洋 洋 洋 洋 洋 洋 洋 洋 洋

① 大きな海 洋上・遠洋・海洋・外洋・大西洋・太平洋・大洋・南氷洋・北氷洋
 ② 世界を東西にわけた部分 東洋・西洋
 ③ 西洋 洋菓子・洋行・洋紙・洋式・洋室・洋酒・洋書・洋風・洋服
 ④ 大きくて広い 前途洋行

学習 対語の例「洋楽」対「邦楽」「洋画」対「邦画」「洋裁」対「和裁」「洋食」対「和食」。

【なりのたち】音を表す洋(ひろい)とシ(水)とを合わせた字で、ひろびろとひろがる水、つまり「うなばら」を表します。

つかいかた
 ○洋上にうかがふ小島。○洋々たる海原。○フランスに洋画の勉強に行く。



おんヨウ 洋 (3年・9画)

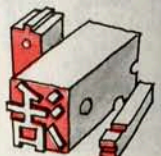
活 活 活 活 活 活 活 活 活 活

① 働く。いきる。いかす。活火山・活気・活況・活字・活動・活発・活用・活路・扶活・死活・自活・生活・復活

学習 「活を入れる」というのは、気をうしなつた人の急所をついて、気づかせることです。また、元気をなくした人を元気づけることにも使います。

【なりのたち】舌(まるくくびれる)とシ(水)とでできた字です。水が岸の間をぬけて、くびれるような形をして、いきおいよく流れることを表します。

つかいかた
 ○学級会で活発に発言する。
 ○楽しい学校生活をおくっています。
 ○消防自動車は活動を開始した。



おんカツ 活 (3年・9画)

派 派 派 派 派 派 派 派 派 派

① わかれ出たもの 分派・流派
 ② なかま。グループ。党派・宗派・主流派・党派・反対派
 ③ もとからわかれて出る 派生・派兵・特派出・派生・派兵・特派

学習 「派手」はなやかで人目をひくこと、は、ふつう、かな書きにします。

【なりのたち】派(川から細い流れがわかれ出ているようす)にシ(水)をつけて、「わかれ出た流れ」の意味をいっそうはつきりさせました。

つかいかた
 ○いろいろな問題が派生してきた。
 ○党派に属している政治家が多い。
 ○海外の特派員からのニュース。



おんハ 派 (6年・9画)

おんキユウ 泣 (6年・8画)

【なりのたち】立は両足をそろえてたつことですが、ここでは、なみだが両眼からそろって出ることを表します。それにシ(水)をつけて、せかせかと息をすいこんでなきじやくることを表します。

つかいかた
 ○かなしくて泣く。○もらい泣きをする。○赤ちゃんの泣き声が聞こえる。○テレビドラマを見て感泣していた。

【なみのじゆく】
 ○なみだを流してなげく。感泣・号泣
 学習 ●人が泣くようすを表すことばには、「泣き明かす・泣き崩れる・泣き叫ぶ・泣き伏す・泣く泣く」などがあります。●「泣く」は人がなくどきに、「鳴く」は動物が声をだすどきに使います。



おんエン 浴 (6年・8画)

【なりのたち】谷は八(水)がわかれて流れる)と口(あな・くぼみ)とでできた字で、水がひくいあなへ流れることを表します。それにシ(水)をつけて、水がくぼみにそって流れることを表します。

つかいかた
 ○川に沿って歩く。○街道沿いに松並木が立ちならぶ。○町の沿道に朝市がひらかれる。

【なみのじゆく】
 ○流れや道すじにそって流る。浴海・浴華・沿岸・沿線・沿道・川沿い・谷沿い
 学習 同じ読み方の字に「添う」があります。「添う」は、はなれずについていくこと、「添う」は、そばにびったりとついていくことです。↓付録41号。



おんセン 泉 (6年・9画)

【なりのたち】岩のまるいあなから、水がわき出るようすをえがいた字です。

つかいかた
 ○砂ばくの泉をオアシスという。○この温泉はイオウ泉だ。○鉱泉をわかつて、入浴する。

【なみのじゆく】
 ① 水がわき出る所。わき出る水。水・温泉・鉱泉・清泉・冷泉
 ② みなもと 源泉
 ③ 温泉 アルカリ泉・塩類泉
 学習 ●地中からわき出る温水のうち、セ氏二十五度以上の温度のものを「温泉」、それ以下のものを「冷泉」、または「鉱泉」といいます。●「温泉」を「温線」と書きまちはがえないように。



浴 浴 浴 浴 浴 浴

なりのたち 谷(くぼんだあな)とシ(水)とを合わせた字。くぼんだ所に体をいれて水をあびることを表します。

つかいかた

- あたまからシャワーを浴びる。
- みんなから苦情を浴びせかけられた。
- 砂浜で日光浴をたのしんだ。
- 優勝の栄光に浴する。

いみ・じゆく

○水や湯をかぶる。体をあらう。ふるに入る。浴室・浴場・浴槽・浴用石けん・海水浴・水浴・日光浴・入浴

学習 「欲」とは音が同じで、形もにています。まちがえやすいので、注意しましょう。●特別な読みかたに「浴衣(ゆかり)」があります。



浴 (4年・10画)

浴

消 消 消 消 消 消

なりのたち 音を表す肖(小さくけする)とシ(水)を合わせた字です。水が細くなることから「さえる・なくなる」ことを表します。

つかいかた

- たき火が消える。○火事を消す。
- 消化のよい食べ物。○傷口を消毒する。
- 優勝の望みが消えはてた。

いみ・じゆく

- ① さえる。なくなる。ほろびる。消失・消長・消滅・消耗・解消
- ② けす。使いつくす。消化・消火・消毒・消灯・消毒・消費・消極的
- ③ ひかえめである。消極的

学習 「消印」だけは、「し」を送りません。(↓消し炭・消しゴム・黒板消し)



消 (3年・10画)

消

流 流 流 流 流 流

なりのたち 流は、ながれていく意味です。それにシ(水)をつけて「ながれる」意味をさらにつよくさせました。

つかいかた

- あせを流して働く。○川の水が流れる。○ことしの流行に合わせて服をつくる。

いみ・じゆく

- ① ながれる。ながす。ながれ。流域・流血・流失・流出・流動・流水・流水・海流・逆流・急流・交流・濁流・暖流・潮流・電流・放流
- ② ひろまる。流感・流言・流行・流通
- ③ なかま。流儀・流派・自己流
- ④ 身分程度。一流会社・上流社会

学習 ルという読みは、「流転・流民・流浪・流布・流罪」などに使います。



流 (3年・10画)

流

おんカイ
くんうみ

海

(2年・9画)



海

なりのたち 音を表す毎(くらい)とシ(水)とを合わせた字で、くらしい色をした「うみ」を表します。

つかいかた

- ぼくは山より海がすきだ。
- しげが近づくとも海鳴りがする。
- 海岸に海藻をほしている。
- 船は航海の準備でいそがしい。

いみ・じゆく

- うみ。海外・海国・海上・海水・海底・海浜・海面・海洋・海陸・海流・外海・絶海・大海・内海・領海

学習 「絶海の孤島」というのは、陸地から遠くはなれた海の中にぼつんと一つだけある島のことです。●特別な読みかたに「海原(うみのはら)・海女(うみづめ)」があります。

おんセン
くんあさい

浅

(4年・9画)



浅

なりのたち もとの字は浅(ほこを二つならべた形。はもので切つて小さくすること)にシ(水)をつけて、「水が少なく・あさい」ことを表します。

つかいかた

- 浅い川をわたる。
- ピッチャーの経験が浅い。
- しお風で顔が浅黒くやけた。

いみ・じゆく

- ① あさい。浅海・深淺・浅瀬・遠淺
- ② 色がうすい。浅緑・浅黒
- ③ おくゆきがない。あさはか。浅学・浅見・浅薄・浅慮

学習 「浅」のつく字には、「残(のこ)・銭(ぜい)・踐(せん)」などがあります。特に、「残」と書きまちがえないようにしましょう。

おんセン
くんあらう

洗

(6年・9画)



洗

なりのたち 先(足のさき)とシ(水)とを合わせた字です。足の指のあいだに水を流してすすぐように、細かいすまのよこれあらうことを表します。

つかいかた

- 毎朝、顔を洗う。
- 犯人の身もを洗う。
- 目がわるいので洗眼する。
- キリスト教会で洗礼を受ける。

いみ・じゆく

- あらう。洗眼・洗顔・洗剤・洗浄・洗心・洗脳・洗髪・洗面・洗礼・洗練

学習 「身もを洗う」というのは、犯罪などで、かくれていること・わからないことをくわしく調べることをいいます。

清清清清清清

な読みかたに「清水(しみず)」があります。

① すみきつてゐる——清水・清濁・清流
② けがれがない。きよめる。——清潔・清純・清浄・清新・清遊・肅清
③ さつぱりした——清算・清書・清涼

【学習】「シヨウ」という読みは「六根清浄」ということばに使います。●特別



おんセイ・シヨウ
くんきよい・きよまる・きよめる

なりたち 青(きらい)にすぎとおつてゐる)とシ(水)とを合わせた字で、きれいにすぎとおつた水を表します。

つかいかた
○谷川の清らかな水をすくって飲む。
○清き一票を投じる。
○塩をまいてお清めをする。
○からだをいつも清潔にしておく。

濟濟濟濟濟濟

① すむ。すまず。——返済・弁済・未済
② すくう。たすける。——濟世・濟生・濟度・濟民・救濟・共濟・經濟

【学習】「經濟」は、「経世済民(世を治めて民の苦しみをすくう)」ということばからできました。



おんサイ
くんすむ・すまず

なりたち 物(もの)がでこぼこでなく、そろつたようす(水)をつけ、川の水量を、でこぼこなく、そろえることを表します。

つかいかた
○食事を済ます。○宿題は全部済んだ。
○借りたお金を返済する。
○災害の救済活動がはじまる。

減減減減減減

① へる。へらす。——減額・減刑・減産・減収・減少・減食・減水・減税・減退・減点・加減・軽減・削減・増減・半減

② ひき算——減算・減法・加減乗除

【学習】「減(へる)」と形がよくにているので、注意しましょう。



おんケン
くんへる・へらす

なりたち 減(へる)でおどかして話をさせないこと)にシ(水)をつけた字です。水の出かたをおさえて、水量をへらすことを表します。

つかいかた
○晴天続きなので川の水が減った。
○太りぎみなので食事を減らしている。
○欠席者が減少している。
○まちがいがあつたので減点された。

液

(5年・11画)

おんエキ

なりたち 夜(よ)に間に昼をはさんで両方にあるよる)とシ(水)とを合わせた字です。あいまをおいて、ポタンポタンとたれる「しる」を表します。

つかいかた
○液体の薬をもらった。
○血液が体じゅうをめぐる。
○消化液は食べ物ととかす。



いみ・じゆく
○水のようななじょうたいのもの。しる。——液化・液状・液体・胃液・血液・樹液・注射液・乳液・粘液・溶解

【学習】「液体」は「気体」や「固体」と組みになって使われることばです。●「液化」とは、気体や固体が液体になることをいいます。

深

(3年・11画)

おんシン

なりたち 果(は)は、穴(あな)と手と火とでできた字です。あなのおくまで手を入れて火をさぐるこゝから、「ふかい」意味を表します。それにシ(水)をつけて、水がおくふかくまであることを表します。

つかいかた
○深い海で泳ぐ。○深く考える。
○日一日と秋が深まる。
○深夜の町をパトロールする。



いみ・じゆく
① ふかい。おくぶかい。——深遠・深海・深呼吸・深刻・深淺・深度・水深
② 人目をはなれてゐる——深山・深窓
③ 時間がおそい——深更・深夜

【学習】「探(たん)」と形がにいて、まぢがえやすいので、注意しましょう。

混

(5年・11画)

おんコン

なりたち 昆(こん)は、日(ひ)と比(ひ)を合わせた字で、太陽の下にたくさん人があつまつていりまじるようすを表します。それにシ(水)をつけて、水がたぐさんあつまることから、「多くの物があつまつてまじりあう」という意味を表します。

つかいかた
○セメントと砂を混ぜる。○砂が混じる。
○混雑した通勤電車。○電話が混線する。



いみ・じゆく
○いつしよになる。まじる。まぜる。——混血・混交・混合・混雑・混成・混声・合唱・混線・混濁・混同・混迷・混乱

【学習】「まじる・まぜる」には、「交じる・交せる」もあります。注意しましょう。↓付録437。

湖湖湖湖湖湖湖湖湖湖

湖 おんこ みずうみ
 ○湖でモーターボートに乗った。
 ○ふん火口にできた湖を火口湖という。
 ○山の姿が湖面にうつっている。
 ○みずうみ 湖岸・湖沼・湖上・湖心・湖底・湖畔・湖面・人造湖
学習 湖は、池や沼よりも大きな水たまりのことで、自然の変化でできたものと、人工的につくられたもの(人造湖・ダム)とがあります。



湖

(3年・12画)

湖

(3年・12画)

湯

(3年・12画)

湯

(3年・12画)

なりたち 湖は、古(たれさがる)と月(肉)とを合わせた字で、口をおおうようにたれたほおの肉のことで、それに「水」をつけて、大地をおおう水、つまり「みずうみ」を表します。

なりたち 湯(太陽が勢いよくあがるように)と「水」を合わせた字です。勢いよくゆげが立っている「ゆ」を表します。

なりたち もとの字は満。音を表す満(動物の皮をしきつめる)と「水」を合わせた字で、水が器にいっぱい入っていることを表します。



湯湯湯湯湯湯湯湯湯湯

湯 おんこ 湯
 ○お湯で手足をあらう。
 ○新しい湯飲みでお茶を飲む。
 ○病気をなおすため湯治にでかける。
 ○熱湯がかかってやけどをした。
 ○水をわかしたもののゆ。
 湯・熱湯・葉湯・湯気・湯船・湯元
学習 「古本・湯桶」のように、漢字の熟語の上を訓、下を音で読む読みかたを湯桶読み、その反対の読みかたを重箱読みといいます。↓付録427頁。



満満満満満満満満満満

満 おんこ みちる・みたす
 ○洗面器に水を満たす。○月が満ちる。
 ○満員電車に乗る。○サクラが満開だ。
 ○いっぱいになる 満員・満期・満月・満座・満場・満身・満水・満潮・満腹・満満・満面・満了・満塁・満点
学習 「万場・万点」と書かないように。



温

(3年・12画)

温

(3年・12画)

おん オン
 なたたか・なたたかい・なたたまる・なたためる



なりたち もとの字は温。温は、大きなうけざらの中に小ざらをつぶせにして熱がにげないようにした形です。それに「水」をつけて、水気が中にもつておつとあたたかいことを表します。

つかいかた
 ○温かい温泉。○体をストーブで温める。
 ○温和な人がら。○朝夕、検温する。

読み ①あたたかい ②温度 ③おたやか ④たいせつにする

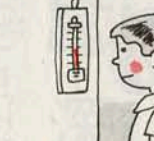
測

(5年・12画)

測

(5年・12画)

おん ソク
 はかる



なりたち 則(そばにくつつける)と「水」とを合わせた字です。物差しなどをそばにくつつけて、水の深さをはかることを表します。

つかいかた
 ○毎日の気温を測る。
 ○建設予定地を測量する。
 ○台風の進路を予測する。

読み ①深さ ②長さ ③側 ④おしはかる

港

(3年・12画)

港

(3年・12画)

おん コウ
 みなと



なりたち もとの字は港。港(むらの道)に「水」をつけて、水の上の通路を表します。のちに、「ふねの出入りするみなと」の意味になりました。

つかいかた
 ○港は船の行き来でにぎわっている。
 ○港町で外人の姿を見かける。
 ○白い大きな船が入港する。
 ○父は成田空港から出発した。

読み ○みなと ①寄港 ②入港 ③父は成田空港から出発した。

漁 漁 漁 漁 漁 漁 漁 漁

○さかなをとる——漁△獲・漁期・漁区・漁港・漁場・漁船・漁村・漁夫・漁民・漁師・禁漁・出漁・大漁・不漁

○「漁」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。

○さかなをとる——漁△獲・漁期・漁区・漁港・漁場・漁船・漁村・漁夫・漁民・漁師・禁漁・出漁・大漁・不漁

○「漁」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。



なりたち 音を表す魚 (さかな)とシ(水)を合わせた字です。水中でさかなをとる」という意味を表します。

つかいかた

○「漁」の別な形だった字に、

演 演 演 演 演 演 演 演

○「演」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。

○「演」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。

○「演」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。

○「演」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。



なりたち 黄(矢がま)とシ(水)をつけて、「水が長くのびて流れること」を表します。

つかいかた

○「演」の別な形だった字に、

潔 潔 潔 潔 潔 潔 潔 潔

○「潔」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。

○「潔」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。

○「潔」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。

○「潔」のほうに借りたもので、日本でつくった読みかたです。



なりたち 音を表す潔 (よぶん)な糸を切りとる)とシ(水)を合わせた字です。「水でよごれをとりさるること」を表します。

つかいかた

○「潔」の別な形だった字に、

なりたち 音を表す準 (水がずつしりとたまると)と十(そろえる)を合わせた字で、うつわに水を入れて水面を安定させ、物のかたむきぐあいをおさすことを表します。

なりたち 音を表す準 (水がずつしりとたまると)と十(そろえる)を合わせた字で、うつわに水を入れて水面を安定させ、物のかたむきぐあいをおさすことを表します。

つかいかた

○「準」の別な形だった字に、



なりたち 漢(皮を火にあぶったようにかわいた土)とシ(水)を合わせた字です。水の多い、かわいた川、つまり「天の川」のことでした。

なりたち 漢(皮を火にあぶったようにかわいた土)とシ(水)を合わせた字です。水の多い、かわいた川、つまり「天の川」のことでした。

つかいかた

○「漢」の別な形だった字に、



なりたち 音を表す源 (水が流れ出るもと)とシ(水)をつけて、「水のみなもと」という意味をいっそうはつきりさせました。

なりたち 音を表す源 (水が流れ出るもと)とシ(水)をつけて、「水のみなもと」という意味をいっそうはつきりさせました。

つかいかた

○「源」の別な形だった字に、



灰 灰 灰 灰 灰 灰

①はい。もえがら。――降灰・灰色・灰
 ざら・死の灰・わら灰
 ②はいのような色をしたもの―灰白色
 学習 ●「死の灰」というのは、原水・爆
 を△爆発させたとき、遠くまで飛び散る、
 放射能をふくんで人命に害のある灰のこ
 とをいいます。●「灰」は、「炭」ま
 まちがえやすいので、注意しましょう。

○灰色の絵の具をぬる。
 ○落ち葉を焼いた灰の中からも出す。
 ○石灰で運動場にラインをひいた。
 いみじゆく

なりたち もとの字は
 灰です。手でもえかす
 のはいをかき出して
 るようすを表していま
 す。



おんカイ
 かんはい
 灰 (6年・6画)

灯 灯 灯 灯 灯 灯

○山の上そ野に灯火がちらちら見える。
 ○石油ストーブに灯油をいれる。
 ○消灯時間は午後九時です。
 いみじゆく

なりたち 丁(くぎ)を
 直角にうったようす
 と火とを合わせた字で、
 まつづく立つともつ
 ている「ともしび」を
 表します。

直(ちよく)角(かく)に(に)う(う)った(う)た(う)よう(よう)す(す)
 と(と)火(ひ)と(と)を(を)合(あ)わ(わ)せ(せ)た(た)字(じ)で(で)、
 ま(ま)つ(つ)づ(づ)く(く)立(た)つ(つ)とも(とも)つ(つ)
 て(て)い(い)る(る)「(に)とも(とも)し(し)び(び)」を(を)
 表(あらわ)し(し)ま(ま)す(す)。

おんトウ
 かんひ
 灯 (4年・6画)
 燈
 灯



○火のもえるようすをえがいたもの
 で、「ひ」の意味です。
 ○「火」「灬」のつく字は、火の状態
 (灰・燃など)やはたらき(焼・熱など)
 のように、「火がもえていること」
 にかんけいのある意味をもっています。

○火の灰 炭 点 無 然
 ○焼 照 熱 熱 燃 然
 ○畑 田 281 魚 魚 395 黒 黒
 397 燬

部首の説明
 火(へん) (灬) (れん) (んが)



災 災 災 災 災 災

○自然におこる不幸なできごと。大火・
 大水・日でりなどのわざわい。
 △禍・災害・災難・火災・震災・人災・
 息災・天災・被災者・防災
 学習 「わざわい」という読みかたは、
 「口は災いのもと(うっかり話したことが
 災難をまねくもとなる)」のように使
 います。

なりたち (川の流
 れがせきとめられたよ
 うす)と火を合わせた
 字です。うまくいつて
 いた生活のながれをじ
 やましてとめる山火事を表します。

おんサイ
 わざわい
 災 (5年・7画)

おんサイ
 わざわい
 災 (5年・7画)



潮

(6年・15画)

潮



なりたち もとの字は
 渚で、草のあいだから
 日がのぼるようすを表
 しました。のちに、潮
 と書くようになり、朝、
 日がのぼるにつれて、しおが満ちてくる
 ことを表します。

つかいかた
 ○潮干がりで貝をたくさんとった。
 ○日本海流を黒潮という。
 ○潮流にのって外海にでる。
 ○顔がほんのりと紅潮している。

いみじゆく
 ①海の水―潮流・潮風・潮路・潮水
 ②海水のみちひき―干潮・満潮
 ③世の中のように―考えかたの動き。う
 つりかわり。―思潮・風潮・潮時

おんチヨウ
 かんシヨウ
 潮 (6年・15画)

火

(1年・4画)

火



なりたち 部首の説明
 とおなじです。

つかいかた
 ○火事にならないよう
 に火の用心。
 ○ガスは火力が強い。
 ○火曜日はおけいこに行く日。
 ○夏の夜、花火であそんだ。

いみじゆく
 ①火のほのお。―火炎・火気・火口・火
 山・火勢・火中・火葉・火力・点火・
 発火・噴火・火種・火柱・火花・花火
 ②あかり。ともしび。―灯火・火事・近
 ③物がもえる。やく。―火災・火事・火
 火・失火・出火・消火・大火・放火
 ④勢いがはげしい。―火急

学習 「火」は、「火曜日」のことに
 使います。例月火水・火木土

おんカ
 かんひ
 火 (1年・4画)

然 然 然 然 然 然 然 然

① そのとおり。そのまま。偶然・自然・天然・当然・必然・未然

② ことばの下について「:」のようすという意味を表す。依然・学者然・公然・断然・同然・平然・猛然・冷然

学習 ネンという読みかたは、「天然」以外には、あまり使われません。

つかいかた

○ 日本は自然の美しい国である。

○ 整然とならんで歩く。

○ 答えが全然わからない。

○ 天然の水で彫刻をする。



然 (4年・12画)

なりたち 犬と夕(肉)

と(火)とを合わせた字です。犬の肉のあぶらを火でもやすことを表します。

烧 烧 烧 烧 烧 烧 烧 烧

○ もやす。やく。やける。焼却・焼死

・焼失・延焼・全焼・燃焼・半焼

学習 「焼きを入れる」(手あらいきたえる・しゃんとさせる)、「焼け石に水」(少しばかりの手助けでは、なんのききめもない)などの使いかたがあります。

つかいかた

○ ねん土で焼きものを焼く。

○ 強い日光で、はだが焼けた。

○ 西の空が夕焼けでまっかた。

○ 火事でなにもかも焼け出された。

○ 学校は類焼をまぬがれた。



烧 (4年・12画)

なりたち もとの字は焼。音を表す堯(土を高くもりあげる)に火をつけて、高くもえあがる意味を表します。

照 照 照 照 照 照 照 照

① てりかがやく。てる。てらしだす。照度・照明・レントゲン照射

② 光をあてて見比べる。てらしあわせる

対照 照応・照会・照合・照準・参照

学習 下に灬をつけ忘れると、「昭和」の「昭」になります。注意しましょう。

つかいかた

○ 太陽がかんかん照っている。

○ ステージの照明が人物を照らし出す。

○ 先生にほめられて照れてしまった。

○ 屋根の照り返しでひどい暑さだ。



照 (4年・13画)

なりたち 音を表す昭(ぐるりと光でてらす)に灬(火)をつけて、もとの意味をはっきりさせました。

炭 (3年・9画)

なりたち 戸(山のがけ)と火とを合わせた字です。山のがけからほり出される石炭のことを表します。



つかいかた

○ 炭火で魚を焼く。

○ 消し炭を使って火をおこす。

○ ストープに石炭を入れる。

○ でんぶんや砂糖は、炭水化物という。

① 木をやいてつくった燃料。すみ。木炭・練炭・炭俵・炭焼き・消し炭

② 地中からとる燃料。炭鉱・炭田・石炭

③ 元素の一つ。炭素。炭化・炭酸

学習 習字で使う「すみ」は、「墨」という字を使います。燃料の「炭」とは区別して使いまししょう。

点 (2年・9画)

なりたち もとの字は点で、うらなつてきめたある場所に黒い印をつけることから、「しるし」を意味します。



つかいかた

○ 百点満点で九十点だ。

○ マッチで点火する。

○ 忘れ物の点検。

○ 電車の終点。

① 小さな印。点字・点線・点線・点線・点線・点線

② てんすう 合格点・採点・同点・得点

③ ばしよ 時点・出発点・地点・頂点

④ ことがら 欠点・重点・難点・要点

⑤ 物をかぞえることば 数点・点数

⑥ ひとつひとつ、しらべる 点検・点呼

⑦ 火をつける 点火・点灯・点滅

学習 文の終わりにつける「。」を句点、「、」を読点、両方を句読点といひます。

無 (5年・12画)

なりたち もとは、人が鳥の羽を持つてまうようすを表した字でした。神に「ないものねだり」をすることから、「ない」という意味になりました。



つかいかた

○ いくらさがしても針が無い。

○ 山から無事に帰る。

○ 無責任な人間。

○ 券を切りはなしたら無効になる。

① ない。存在しない。無愛想・無事・無礼・無医村・無一物・無意味・無期・無休・無言・無視・無上・無心・無数・無制限・無断・無二・無比・無名・無理・有無・皆無・絶無

学習 「無」の反対は「有」です。例「無益・有益」「無給・有給」「無料・有料」

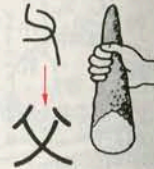
父父父父

父

(2年・4画)

父

【なりたち】 石おの手でもつようすをえがいた字で、「斧(おの)」を表します。その読みかたをかりて、「おとなの男」という意味から「ちち」を表します。



- つかいかた
 - うちの父親は、たいへん厳格だ。
 - 赤十字の父、アンリ・デュナン。
 - 父母ともに健康です。
 - 教会で神父さんの説教を聞く。

【おとうさん。ちちおや。】 父君。ちち。父兄。父子。父母。義父。義母。実父。実母。祖父。祖父。養父。老父。父親。

片片片片

片

(6年・4画)

片

【なりたち】 木をはんぶんについた形、つまり、かたほうの形をえがいた字で、木のきれはしという意味を表します。



- つかいかた
 - 片足でケンケンとびをする。
 - 母のことを片時もわすれなかった。
 - 社長の片うでとしてはたらいている。
 - 相手だけほめるとは片手落ちだ。
 - 作業のあと片付けをする。

【小さなきれはし。わずかな物事。】 一片。紙片。断片。破片。木片。片言。片語。かたいつぼう。片親。片道。片目。

版版版版版版

版

(5年・8画)

版

【なりたち】 音を表す反(表面を平らにのばす)と片とを合わせた字です。「平らな木の切れはし」を表します。



- つかいかた
 - 年賀状の版画をつくる。
 - 先生が郷土史の本を出版された。
 - 活版印刷の文集ができた。
 - パーティーの料理は豪華版だった。

【印刷するためにほった板。】 版木。活版。晒写版。銅版。凸版。木版。印刷して書物をつくる。版權。再版。写真版。出版。初版。絶版。

熱

(4年・15画)

熱



【なりたち】 音を表す熟(ねつ)とリとあせば(り)と(火)を合わせた字です。「火のいきおい」を表します。

- つかいかた
 - 父は熱いお茶が好きだ。
 - ぼくは熱しやすく、さめやすい人間だ。
 - 熱心に話を聞く。
 - 病気で高熱が続く。

【あつい。】 熱気。熱帯。熱湯。熱風。熱狂。熱情。熱戦。熱中。熱望。熱線。熱置。炎熱。加熱。地熱。余熱。体温の高さ。熱病。高熱。発熱。平熱。

熟

(6年・15画)

熟



【なりたち】 音を表す孰(じやく)と(火)とを合わせた字で、火で食物をよくにやまして、ぐたぐたにすることを表します。

- つかいかた
 - カキの実が熟する。
 - よく熟れた果物。
 - むずかしい文章を熟読する。
 - 未熟者ですが、どうぞよろしく。
 - 半熟のゆで卵を食べる。

【火にかけて熱をくわえる。】 半熟。成熱。早熟。早熱。熱達。熱練。円熟。習熟。熱うぶんに。熱考。熱視。熱睡。

燃

(5年・16画)

燃



【なりたち】 音を表す然(ねん)と(火)とを合わせた字で、もとの「もやす」の意味をはっきりさせました。

- つかいかた
 - 希望に燃えて入学する。
 - 落ち葉を燃やす。
 - 紙くずを燃やす。
 - 冬は燃料をたくさん使う。

【火がもえる。もやす。】 燃焼。燃料。可燃性。再燃。内燃機関。不燃物。

特 特 特 特 特 特

なりたち 寺(じつ)として(いる)とオ(牛)とを合わせた字です。多くの牛の中で、じつと立っている、とくに目だつ牛のことから、「すぐれた・とりわけ」という意味を表すようになりました。

つかいかた

- 安全には特に注意すること。
- 各地の特産物。○冬休み特集号。
- 特等席で映画をみる。

いみ・じゆく

- すぐれている。特異・特技・特産・特質・特殊・特賞・特色・特製・特選・特長・特徴・特典・特等・特派・特別・特約・特例・特価・特急・特許・特権・特効・奇特・独特

学習 特長・特徴の区別→付録437p。



特 (5年・10画)

おん トク

特 (はるる)

犬 犬 犬 犬

なりたち イヌの形をえがいた字です。ケンという音は、「ケンケン」というなき声をまねたものです。

つかいかた

- ま夜中に犬がほえた。
- 白い子犬をもらった。
- 門の所に、いつも番犬がいる。

いみ・じゆく

- いぬ 犬歯・愛犬・狂犬・警察犬・番犬・名犬・猛犬・野犬・獵犬・老犬

学習 犬やオ(けものへん)のついた漢字は、けものにかんけいがあります。○「犬猿の仲(仲がわるいこと)」、「犬も歩けば棒に当たる」(思わぬできごとに合う)、「犬死に」(むだに死ぬこと)などという、いいかたがあります。



犬 (1年・4画)

おん ケン

犬 (はるる)

犯 犯 犯 犯

なりたち 巳(かこい)をかぶせる)とオ(犬)とを合わせた字で、犬がかこいを破つてとび出すことを表します。

つかいかた

- 警官が犯人をつかまえる。
- 都会は犯罪が多い。
- 駅で防犯ベルを貸してくれる。

いみ・じゆく

- さまりを破る。つみをおかす。行・共犯・現行犯・主犯・知能犯

学習 「おかす」には、ほかに「△侵害」(他人の権利や領土などにむりに入りこむこと)、「△冒す」(じやまになるものをのりこえて物事をする)があります。使い分け→付録429p。○「犯」の右がわの「巳」を「己」と書くときまちはいず。



犯 (5年・5画)

おん ハン

犯 (はるる)

牛 (2年・4画)

おん ギユウ

牛 (はるる)

なりたち ウシのあたまたの形をえがいた字で、ウシを表します。

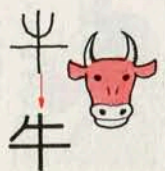
つかいかた

- かわいい子牛。
- 朝早く牛乳を配達する。
- 牛肉で焼き焼きをする。
- 牛馬のように人をこきつかう。

いみ・じゆく

- うし 牛革・牛舎・牛乳・牛歩・役牛・水牛・闘牛・乳牛・野牛

学習 牛・オ(うしへん)のつく漢字は、学習漢字では「牛・牧・物・特」の四字、常用漢字では「牲・犧」の二字で、牛の形や動きのようすからつくられていいます。○「牛」は、「正午・午前」の「午」や、「手」と形がよく似ていて、まちがえやすいので、注意しましょう。



牧 (4年・8画)

おん ボク

牧 (はるる)

なりたち 音を表す父(動作を示すしるし)とオ(牛)を合わせた字です。「牛をふやすこと」を表します。

つかいかた

- 広い牧場のあちこちに牛が見える。
- 北海道は牧畜がさかんだ。
- ヒツジを追って生活する遊牧民。

いみ・じゆく

- ①家畜をはなしがいにする——牧羊・牧場・牧草・牧童・放牧・遊牧
- ②みちびく——牧師

学習 「牧歌的」ということばは、牧場や農場での、そぼくでのどかなようすを表すのに使います。○牧歌的な絵・音楽

- オ(うしへん)は、ま(てへん)やオ(のぎへん)とまちがえやすいので、注意!



物 (3年・8画)

おん ブツ・モツ

物 (はるる)

なりたち 物は、いろいろな色の吹きながしのことです。とおくから見ると色がはつきりしないので、はつきりしない「もの」という意味を表します。

つかいかた

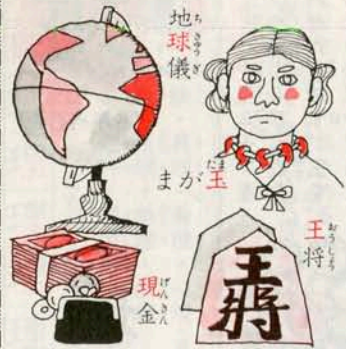
- 俳句を物する。○楽しい物語。
- 災害地に物資を送る。○植物の採集。
- 病人にはげしい運動は禁物だ。

いみ・じゆく

- ①もの——物価・物件・物産・物資・物体・物品・物量・貨物・鉱物・植物・食物・書物・人物・進物・生物・動物・荷物・万物・宝物・生物・本物
- ②ことば——禁物・事・物・文物

学習 特別な読みかたに「果物」があります。





●部首の説明
玉(王) (玉) (王)

○大理石でつくった王型のかざりを
えがいたもので、「かたい宝石」の
意味を表します。

○「玉(王)」のつく字は、たまの状
態や性質・形にかんけいのある意味
をもっています。

○玉 王 班 現 球 理
主↓、36画。全↓人46画。皇↓白
286画。望↓月27画。聖↓耳328画。

玉 王 玉

玉 玉 玉 玉 玉

○たま。ほうせき。玉砕・玉石混交。
玉杯・珠玉・宝玉

○りつばな。うつくしい。玉露・金
科玉条

○天子にかんする物事をさしていうとき、
上につける語。玉音・玉座・玉体

○「たま」には、ほかに「球」(球拾
い)と「弾」(ピストルの弾)がありま
す。使い分け↓付録431画。



玉 (2年・5画)

○あめ玉を口にいれる。
○水玉模様の洋服。
○先生のことをば金科玉条(いたいせ
つなもの)として守る。
○宝玉をちりばめたかんむり。

王 王 王 王

○一国の君主。王位・王国・王座・王
室・王者・女王・国王・大王・法王

○いちばん実力のある人。自動車王・
百獸の王・ホームラン王

○しよぎのこまの一つ。王将・王手

○勤王・親王・四天王」のように
ノウと読むこともあります。



王 (1年・4画)

○手足を大き
くひろげた人が、天地
のあいだに立っている
ようす、または、下が
大きくひらいた形をえ
がいた字で、「大きくてえらい」意味です。

状 (5年・7画)

○なりたちもとの字は
状。音を表す(ほ)ほそ
長い寝台の形をたてに
えがいた字)に犬をつ
けて「すらりとほそ長
い犬のすがた」から、のちに広く「物事の
ようす・ありさま」の意味になりました。

○つかいかた
○現状をありのままに報告する。
○天候の状態がよくない。
○音楽会の案内状。
○年賀状を書く。



○ありさま。ようす。状勢・状態・液
状・球状・現状・実状・白状・病状
②てがみ。書きつけ。状差し・案内状・
賀状・賞状・書状・免許状・礼状
○状況・状勢・実状」などは「情
況・情勢・実情」にも書きます。

独 (5年・9画)

○なりたちもとの字は
獨。蜀(クワの葉につ
いてじつとして目
の大きい虫)と犴(二
犬。じつとして門の
り口を見はる)とを合わせて、クワにつ
いた虫や犴のように、ひとりて一か所に
じつとしていることを表します。

○つかいかた
○ぶつぶつと独り言をいっている。
○学会会で独唱した。
○むずかしい問題を独力で解いた。



○ひとり。自分だけ。独演・独学・独
裁・独自・独身・独占・独奏・独走・
独断・独特・独白・独立・孤独・単独
○「独」は、「ドイッ(独逸)」の意味に
も使います。例独文学・日独文化協会

率 (5年・11画)

○なりたちもとの字は
率。玄(先がわずかに
見えるほい糸)と夨
(左右にはらいのける
し)と十(まとめる)
とを合わせた字です。よけいな糸くずを
はらいのけ、のこった糸を一本にひきし
めて「まとめる」ことを表します。

○先生に率いられて見学に行く。
○野球の打率。○軽率な行動をとるな。



○ひきいる。率先・引率・統率
②あわただしい。だしぬけ。軽率
③とりつくるわな。率直
④わりあい。円周率・確率・高率・
低率・能率・百分率・比率・利率
○「率」と書きまちがえないように。

班
(6年・10画)


なりたち 玉(玉)を二つと、リ(刀)とを合わせた字です。玉を二つにきって分けることを表します。

つかいかた
○ひと組を四つの班にわける。
○みんなで班長をきめる。
○調査班は市場を調べる。

いみ(じゆく)

○いくつかに組み分けしたもののなかま。
班員・班別・第一班・通信班

学習 ●「班田収授の法」というのは、大化二年(六四六年)にきまった土地の制度で、男女とも六歳になると、一定の広さの土地を分けあたえられました。「首班」というのは、内閣の責任ある人のことをいい、総理大臣のことです。



現
(5年・11画)


なりたち 王(玉)と見とを合わせた字です。外がわの土やくもりがとれて、きれいな玉のすがたが見えることを表しています。

つかいかた
○退院して元気がすかたを現す。
○薬の効果が現れる。
○現地に行つて調査する。

いみ(じゆく)

①すがたをあらわす。あらわれる。
出・現象・現像・実現・出現・表現
②じつさいにある。いまある。現況・現金・現今・現在・現実・現住所・現状・現職・現世・現存・現代・現物

学習 「あらわす」には、ほかに「表す・著す」があります。使い分け↓付録428頁。



球
(3年・11画)


なりたち 王(玉)と求(ひきしめる)を合わせた字。中心にむかつて、まるくひきしまつた「たま」を表します。

つかいかた
○ピンポンの球を買つてもらった。
○球場のスタンドは満員になった。
○秋にチューリップの球根を植える。

いみ(じゆく)

①たま 球形・球根・球状・球面・気球・血球・地球・天球・電球
②ボール 球技・好球・硬球・死球・水球・選球・送球・速球・打球・卓球・直球・庭球・投球・軟球・野球
③野球 球界・球場・球団

学習 「球・玉・弾」の使い分けにについては↓付録431頁。



理
(2年・11画)


なりたち 里(きちん)とすじめをつけた土地(と)と王(玉)とを合わせた字です。宝石のすじめを表します。

つかいかた
○理想に向かつて努力する。
○きりつとした理知的な顔だちだ。
○理科の実験。○机の中を整理する。

いみ(じゆく)

①とりさばく。おさめる。理事・理代埋・調理師・料理
②ものごとのすじめち。理性・理想・理由・理論・義理・条理・心理・真理・生理・地理・道徳・物理・論理
③自然科学 理科・理学部・理数科

学習 「埋(うめ)」とまちがえないように。



生
(1年・5画)


なりたち 草や木の芽が土の中からはえてきたようすを、えがいた字です。

つかいかた
○きのうとつた虫がまだ生きています。
○カメをバケツに入れて生かしておく。
○カーネーションを花びんに生ける。
○生まれたばかりの赤ちゃん。
○ニワトリが卵を生んだ。
○野口英世の生い立ちを調べる。
○校庭に雑草が生える。
○父はひげを生やしはじめた。
○デパートでスカートの生地を買う。
○生水を飲みすぎて、おなかをこわす。
○この世に生をうける。
○油断から生じた事故。
○きのうは、ぼくの誕生日だった。
○新学期から受け持ちの先生がかわつた。


いみ(じゆく)

①いきる。いのちをたもつ。生育・生死・生存・生長・生物・生命
②いのち。からだのはたらき。衛生・人生・殺生・養生
③うむ。生まれる。生地・生年月日・生来・出生
④くらす。生活・生業・生計
⑤つくりだす。生産・生成
⑥ことがおこる。発生
⑦植物がはえそだつ。群生・密生・野生
⑧勉強する人。生徒・学生・卒業生
⑨もとのまま。手をくわえない。糸・生地・生水・生物
⑩あたらしい。いきがよい。生氣・生彩・生鮮・生木・生傷・生煮え

学習 ●こどもや卵がうまれる場合にかぎつて、「生まれる(生む)」を「産まれる(産む)」と書くこともあります。
●「生物」には、「せいぶつ」「なまもの」という二つの読みかたがあります。



生
生生生生



理
(2年・11画)


なりたち 里(きちん)とすじめをつけた土地(と)と王(玉)とを合わせた字です。宝石のすじめを表します。

つかいかた
○理想に向かつて努力する。
○きりつとした理知的な顔だちだ。
○理科の実験。○机の中を整理する。

いみ(じゆく)

①とりさばく。おさめる。理事・理代埋・調理師・料理
②ものごとのすじめち。理性・理想・理由・理論・義理・条理・心理・真理・生理・地理・道徳・物理・論理
③自然科学 理科・理学部・理数科

学習 「埋(うめ)」とまちがえないように。



生
(1年・5画)


なりたち 草や木の芽が土の中からはえてきたようすを、えがいた字です。

つかいかた
○きのうとつた虫がまだ生きています。
○カメをバケツに入れて生かしておく。
○カーネーションを花びんに生ける。
○生まれたばかりの赤ちゃん。
○ニワトリが卵を生んだ。
○野口英世の生い立ちを調べる。
○校庭に雑草が生える。
○父はひげを生やしはじめた。
○デパートでスカートの生地を買う。
○生水を飲みすぎて、おなかをこわす。
○この世に生をうける。
○油断から生じた事故。
○きのうは、ぼくの誕生日だった。
○新学期から受け持ちの先生がかわつた。


いみ(じゆく)

①いきる。いのちをたもつ。生育・生死・生存・生長・生物・生命
②いのち。からだのはたらき。衛生・人生・殺生・養生
③うむ。生まれる。生地・生年月日・生来・出生
④くらす。生活・生業・生計
⑤つくりだす。生産・生成
⑥ことがおこる。発生
⑦植物がはえそだつ。群生・密生・野生
⑧勉強する人。生徒・学生・卒業生
⑨もとのまま。手をくわえない。糸・生地・生水・生物
⑩あたらしい。いきがよい。生氣・生彩・生鮮・生木・生傷・生煮え

学習 ●こどもや卵がうまれる場合にかぎつて、「生まれる(生む)」を「産まれる(産む)」と書くこともあります。
●「生物」には、「せいぶつ」「なまもの」という二つの読みかたがあります。



生
生生生生



田田田田田

田

(1年・5画)



おんデン
くんと

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた

- 田畑をたがやす。
- 六月ごろに田植えをする。

山田の中の本足のかかし。

○たんぼのことを水田という。

○のどかな田園風景がみられる。

いみじゆへい

①たんぼ。た。

新田・水田・田畑・青田・△稲田

②田や畑のように、土の中から産物のとれる広い土地——塩田・炭田・油田

学習 ●「田」のついた字には、田や畑

をくぎることにかんけいしたものがあります。例町・画・界。●特別な読みかたに「田舎い」があります。



由由由由由

由

(3年・5画)



おんユ・ユウ・ユイ
くんよし

なりたち 酒やいるなどをぬき出す、ほそい口のつばをえがいた字です。ほそい口から液体が出てくるころから、「...から出てくる・物事が生じてくるわけ」の意味を表すようになりました。

つかいかた

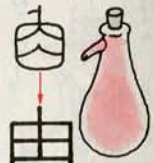
- 漢字の由来。○モスクワ經由パリ行き。
- 休み時間は自由にあそべる。
- 研究をはじめた理由を説明する。

①わけ。いわれ。——由来・經由・理由

②よる。したがう。——自由

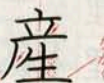
学習 「ユイ」という読みかたは「由緒」ということばに使います。「よし」は、「お元気の由(お元気がどうで)、何より

です」のように使います。



産

(4年・11画)



おんサン
くんと

なりたち もとの字は産。産は、文(もよう)と尸(かどだつ)を合わせたもので、「くつきりと切れめがある」意味です。それに生(うまれる)がついて、母親の体の一部がくつきりと切りはなれて「うまれる」ことを表します。

つかいかた

- 子犬が産まれる。○小鳥が卵を産む。
- ブドウの産地。○国産品を愛用する。

いみじゆへい

①うむ。うまれる。——産卵・安産・出産・助産婦・難産・産着・産声・産湯

②つくりだす。産業・産出・産地・水産・生産・畜産・農産物・物産

③生活のもとになるもの——財産・資産

学習 特別な読みかた「土産」。



用

(2年・5画)



おんヨウ
くんもちいる

なりたち もとは、長方形の板に棒をあなを

あけ、おしとおすこと

でした。のちに、カヤ

道具を、いろいろなこ

とにおしとおして使う意味になりました。

つかいかた

- 新しい方法を用いる。○火の用心。
- 用事で早退する。○新学期の学用品。

いみじゆへい

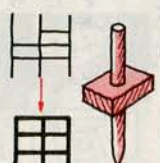
①つかう。用意・用心・用途・用法・用例・運用・応用・活用・採用・実用・使用・任用・服用・不用・利用

②はたらき。功用・有用

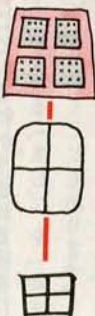
③しなければならぬこと。要件・用事・用談・用務・公用・私用・無用

④お金や品物。用材・用度・用品・費用

学習 「用」のつく字「通ず」(175頁)。



●部首の説明
田 た・たへん



●四角くくぎった田やはたけの形をえがいたもので、「田」のつく字は、「たんぼ」や「はたけ」をくぎることにかんけいのある意味をもっています。

なお、「畑」という字は、「水」のな

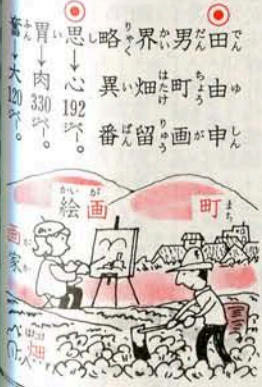
いたんぼ」という意味ですが、「た

んぼ(水田)」と区別するために、

水と反対の意味の「火」を「田」と

いっしょにした字で、日本てつく

れました。↓105頁。



申

(3年・5画)



おんシン
くんもうす

なりたち 「まつすぐの印」と両手とを合わせた字です。「手でまつすぐ」の「ばす」とから、長くひきのばして説明することを表します。

つかいかた

- わたしは、山川と申す者です。
- 心から感謝申し上げます。
- 税金の申告用紙をもらいに行く。

①申す。のべる。——申告・申請・上

申・答申・内申書・申し分・申し訳

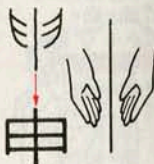
学習 「申す」は、自分、または自分の

がわの人をけんそんして言うことばです

から、「先生が申します」「あなたの申す

ようにします」などというのまぢが

いす。気をつけましょう。↓211頁。



疑 疑 疑 疑 疑 疑 疑 疑

なりたち 疑 (人)が後ろをふりかえるようす)と、**疑**(子どもと足)とを合わせた字です。わが子の子が心配で進むことができないようすを表します。

つかいかた

- 悪い病気ではないかと疑う。
- この調査には疑わしいところがある。
- 疑問があったら手をあげること。
- 犯罪の容疑をかけられて気の毒だ。

読み・ことば

- たしかでないと思う。うたがう。疑義・疑点・疑念・疑問・質疑・半信半疑

学習 ●疑う心がおこると、なんでもなにごとまでおそろしく感じられることを「疑心暗鬼を生ずる」といいます。●「疑心暗鬼(疑心の印)」といっています。



疑

(6年・14画)

ヒマ 疑 (6年・14画)

病 病 病 病 病 病 病 病

なりたち 丙(かたきびんと開いた足)と疒(病氣)を合わせた字です。病氣でからだがかたきつぱって自由になごかなくなることを表します。

つかいかた

- 胸の病にかかる。○病弱な母を助ける。
- 急病のため欠席する。

読み・ことば

- ①からだをわるくする一病因・病院・病害・病氣・病室・病弱・病床・病状・病身・病的・病人・看病・仮病・持病・重病・大病・伝染病・熱病
- ②わるいくせ。欠点。○病根・病癖

学習 「ヘイ」という読みは「疾病」に、「やむ」という読みは「病み上がり・病み付き」ということばに使われます。



病

(3年・10画)

ヒマ 病 (3年・10画)

痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛

なりたち 甬(足で地面をつきぬくようにつくこと)に疒(病氣)をつけて、つきとおすよくないたみを表します。

つかいかた

- 食べすぎておなか痛い。
- 夏に痛めたこしが、寒くなると痛む。
- 難問題が解けて、じつに痛快だ。
- どんな苦痛にも負けないぞ。

読み・ことば

- ①からだがかいたむ。いたい。○激痛・神経痛・頭痛・鎮痛剤・鈍痛・腹痛
- ②心がいたむ。かなしむ。○痛恨・心痛
- ③ひじょうに。ひどく。○痛飲・痛手・痛感・痛切・沈痛・悲痛・痛手

学習 「痛」のつく字は、「つきぬける」という意味にかんけいがあります。↓175頁。



痛

(6年・12画)

ヒマ 痛 (6年・12画)

おんリヤク

略

(5年・11画)

ヒマ 略 (5年・11画)

なりたち 音を表す各(つながる)と田を合わせた字です。田畑をよこぎってつながる小道をつくることから、「手かずをはふいて、かんたんに近道をとる」意味になりました。

つかいかた

- 計略は大成功。○家から駅までの略図。
- 国連は国際連合の略称です。

読み・ことば

- ①はかりごと。計略・攻略・策略・戦略・謀略
- ②はぶく。後略・省略・前略・中略
- ③かんたんにした。大体の。○略画・略語・略字・略式・略伝・略歴・簡略

学習 「略」には「うばい」とる・おかすの意味もあります。○略奪・侵略・侵略略



おんイ

異

(6年・11画)

ヒマ 異 (6年・11画)

なりたち もとの字は、大きなあたまを二本の手でささえるようすを表しました。一本の手のほかに、もう一本の手をそえるということから、「べつのちがった」という意味を表します。

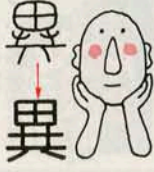
つかいかた

- 風俗が異なる地方。○異議なし。
- 健康診断の結果、異状はなかった。

読み・ことば

- ①ことなる。異常・異性・異同・変異
- ②ふつとちがった。異才・異彩・異色・異物・異変・異様・奇異・特異
- ③べつの。よその。○異議・異郷・異見・異国・異種・異人・異存・異論

学習 「まちがっている」という意味の「違」と区別しておぼえましょう。



おんバン

番

(2年・12画)

ヒマ 番 (2年・12画)

なりたち 采(四方にまきちらす)と田とを合わせた字です。にぎった手をさつと開いてたねを田にまきちらすことから、さつと開いてはじめる動作をかぞえることばになりました。

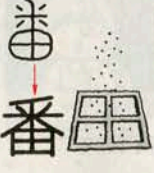
つかいかた

- 一列にならんで自分の番をまつ。
- テレビの番組表。○交番で道をきく。

読み・ことば

- ①順にいれかわる。交番・順番・当番
- ②やくめ。みはり。○番犬・番台・番頭・番人・週番・月番・門番
- ③順序を表すことば。○番外・番組・番号・番地・番茶・一番目・二番手

学習 勝負などが思いがけない結果になることを「番狂わせ」といいます。

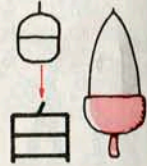


白白白白白

○なりたち ドングリの
ような形の実をえがいた
字です。中の実が白
いので「しろい」とい
う意味を表します。

○つかいかた
○白壁の建物。○ひな祭り
で白酒を飲む。
○白屋に銀行で強盗事
件がおきた。
○自分が潔白なことを認
めてくれた。

いみじくも
①しろ。しろい。白衣。白人。白髪。
・白墨。白骨。紅白。黑白。純白。
②明るい。白昼。白熱。白夜。
③はつきりしている。あきらか。
④けがれていない。正しい。潔白。
⑤なにもない。白紙。白票。空白。
⑥あかす。白状。告白。白白。
学習 特別な読みかたは白髪。



おんハク・ビヤク
くんしろ・しら・しろい
白 (1年・5画)

百百百百百

○なりたち 一と白を合
わせた字です。白には
「ひやく」の意味もあ
ったので、一をつけて、
ひとつの「ひやく」つ
まり数の「ひやく」を
表します。

○つかいかた
○危険なことは百も承知
で探検に行く。
○テストでいつも百点と
るのは難しい。
○正月に百人一首のカル
タをやる。
○百科事典はなんでも教
えてくれる。

いみじくも
①十の十倍。百人。百分
比。百分率。
②かすが非常におおいこ
と。たくさん。
・百害。百獣の王。百出。
・百人。百貨店。百発百中。
学習 特別な読みかたに
「八百屋やお・八百長」
があります。



おんヒヤク
くん
百 (1年・6画)

的的的的的

○なりたち 勺(一部分)
を特にとり出すと白
とを合わせた字です。
一部分だけをとりあげ
て、白はつきりと目
立たせることを表します。

○つかいかた
○矢が的にあたる。○的
外れの質問。
○ぼくの予想が的中した。
○先生が一方的に話を
する。

いみじくも
①まど。めあて。金の射
的。標的。目的。
②よくあたる。たしか。的
中。的確。
③(他の語の下について)ら
しい。科学的。
ような。…の性質をもつ。
科学的。公的。私的。宗
教的。知的。病的。積
極的。↓消極的。「精神
的」。↓物質的。「積
極的」。↓消極的。「精
神」。↓物質的。



おんテキ
くんまど
的 (4年・8画)

発

(3年・9画)



○なりたち もとの字は
發でした。發は、(左
足と右足とが逆の方向
に分かれたようす)に
又(動作を表すしるし)
をつけたもので、左右
にばつと開くことを
表します。それに弓を
つけて、弓でばつと
はじいて矢をはなつこ
とを表します。

○つかいかた
○十時発の新幹線が出
発します。
○この条例は四月一日
から効力を発する。
○低気圧が発達して、
台風になった。
○ピアノの発表会に出
ます。
○必要は発明の母とい
われます。
○ぜんそくの発作がお
きます。
○先発投手が打ちこま
れた。

いみじくも
①矢をはなつ。たまをう
つ。発射。発砲。
②始まる。発生。不発。
暴発。連発。



○あきらかになる。あば
く。ひらく。一発覚。
発揮。発掘。発見。発表。
発明。開発。啓発。告
発。摘発。④さかんに
なる。発育。発達。発
展。⑤はじめる。はじ
めて公表する。一発
刊。発行。発売。発
布。発令。⑥でかける。
おくりだす。発駅。発
車。発信。發送。発着。
始発。終発。出発。初
発。先発。東京発。⑦
たいほうや△銃のたま
なごをかぞえることば
。一発。五発。数発。
学習 ●土木工事など
で、岩石や山などを火
薬で△爆破することを
「発破」といいます。
「発破」をかけるは、
は、あらあらしくはげ
ますことにも使います。
●「登」とにているの
で注意しましょう。



○なりたち もとの字は
登りや登り隊が出發した
ことを表します。それ
から「のぼる」とい
う意味を表します。

○つかいかた
○山に登る。○木登り
をする。
○アルプス登山隊が出
発した。
○登校時刻は八時三
十分。
○役所に行つて住民登
録をする。

いみじくも
①高い所にあがる。高
い地位につく。のぼ
る。一登高。登壇。登
頂。登用。登山。登
壇。登壇。登壇。登壇。
②公の場所へいく。登
壇。登壇。登壇。登壇。
③書類に書きしるす。登
記。登載。登録。登
録。④「のぼる」は、
ほかに「上る」と「
昇る」があります。使
い分け↓426。



おんトウ・ト
くんのぼる
登 (3年・12画)

盟盟盟盟盟盟盟盟

なりたち 明(はつきり)と皿とを合わせた字です。ある事がらを神の前にはつきり立ちかうために、皿に血を入れて、みんながすすむことを表します。

つかいかた

- グループとかたい盟約をむすぶ。
- 盟友と行動をともにする。
- 国と国との平和のため、同盟をつくる。
- 日本は国連に加盟している。

いみじゆく

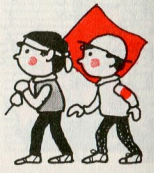

○やくそくして仲間になる。ちかう。ちかひ。盟主・盟約・盟友・加盟・連盟

学習 「同盟」は「国家・団体・個人などが共通の目的のために同じ行動をとるやくそくをすること」です。「連盟」は「連合して作る同盟」という意味です。

おんメイ

盟


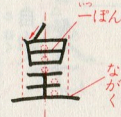
(6年・13画)

おんコウ・オウ

皇

(6年・9画)

なりたち 音を表す王と白(自)からかわったもの。自は鼻のもとの字で、体のいちばんまえ、つまり「はじめ」の意味)とを合わせた字です。いちばんはじめの王という意味を表します。

つかいかた

- 天皇陛下のおすまいを皇居という。
- 第一皇子が皇太子になれる。
- 皇族おそろいで園遊会に出られる。
- 皇室(一家)の写真が新聞に出る。

いみじゆく



- 天子。みかど。国王。皇位・皇居
- 皇后・皇室・皇女・皇族・皇太子・皇帝・上皇・天皇

学習 「天皇」のときは、発音がかわってテンノウと読みます。

おんヒ

皮

(3年・5画)

なりたち 頭のついたけもの皮と手とを合わせた字です。しなやかなけもの皮を手でひきよせて、からだにななめにかぶせるようすを表します。

つかいかた

- ミンクの毛皮は高価なものです。
- とらぬタヌキの皮算用。
- 皮肉をいう人はきらわれる。
- 皮膚をこすってきたえる。

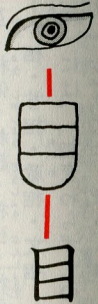
いみじゆく

- 動物や植物の外がわをおおうかわ
- 皮下・皮革・果皮・樹皮・表皮・毛皮

学習 「皮肉」は、それとなくいやがらせをいうこと、「皮算用」は、まだ自分ものにならないうちから、あてにしてあれこれ計画することです。

部首の説明

目め・めへん



なりたち 人の目のかたちをえがいたもので、「め」の意味を表します。

つかいかた

- 「目」のつく字は、「めのはたらき」(看・省など)、「見る」ということにかんけいのある意味をもっています。

いみじゆく

- 目直相省県看真眼
- 見↓見343。貝↓貝359。具↓具64。

千葉県 真珠

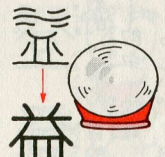

眼科 眼鏡

直角

おんエキ・ヤク

益

(5年・10画)

なりたち もとの字は益。水の字を横にした形と皿とを合わせた字です。皿に水がいつぱいになるようすから、「ふえる」意味を表します。

つかいかた

- あの人の仕事は町に益すること大だ。
- 有益なお話を聞くことができた。
- ツバメは害虫をとって食べる益鳥だ。
- 市民のための公益事業を優先する。

いみじゆく



- ①もうけ 収益・純益・増益・利益
- ②ためになる 役にたつ 益虫・益鳥・公益・国益・実益・無益・有益

学習 ヤクという読みは、「御利益」(神や仏が人間にあたえるおめぐみ)ということばに使われます。

おんモク・ボク

目

(1年・5画)

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた

- ぱつと目をさます。
- 温度計の目もり。
- ホームランの飛んだぎよりを目測する。
- 目次を見ると、おもしろそうなんだ。
- 項目ごとに分けて説明する。

いみじゆく

- ①め 目撃・目的・目標・目下した衆
- 目・注目・主旨・目頭・目葉・目鼻
- ②目でする。目つき。目測・目礼
- ③たいせつなところ 眼目・要目
- ④分類した小分け 科目・細目・種目
- ⑤みだし 目次・目録・題目・品目
- ⑥順序を表すことば 三人目・二番目

学習 「ボク」「ま」という読みは、「面目(めんもく)」「目深(めふか)」などに使われます。

県 県 県 県 県 県

○国をおさめるためにわけた土地のくぎり
 ○県下・県会・県外・県政・県知事・県庁・県道・県民・近県・全県
 ○学習 日本には、四十三の県と、一つの都、一つの道、二つの府があります。

なりたちもとの字は縣。県(首をさかさにした字)に系(ひもがぶらさがる)をつけて、「とちゆうにつりさげ」意味でした。中央政府と村との中間にぶらさがったような「県」を表します。



県 (3年・9画)

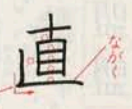
おんケン

なりたち

直

(3年・8画)

おん チョク・ジキ
 なただちに・なおす・なおる



なりたち 一(まっすぐの印)と目とし(ついででかくす印)とを合わせた字です。かくしたものに、まっすぐに目をむけることを表します。



つかいかた
 ○直ちに実行する。○悪いくせを直す。
 ○正直な人から。○直線コースを走る。
 ○校長先生に直接お会いした。

いみ(じゆく)

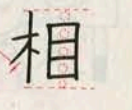
① まっすぐ 直射・直進・直線・直立
 直球・直系・直行・曲直・垂直
 ② すなお 一本気 直情・実直・素直
 ③ じかに すぐに 直伝・直筆・直後・直前・直屬・直面・直輸入・直観
 ④ 番にあたるつとめ 宿直・当直

学習 「直す・治す」の使い分け→432頁

相

(4年・9画)

おん ソウ・シヨウ
 あい



なりたち 木と目を合わせた字です。むこうにある木を見るように、物事のすがたを見たり、また、むかいあつたりすることを表します。



つかいかた
 ○兄にしようぎの相手をしてもらう。
 ○お祝いの相談。○事件の真相を調べる。

いみ(じゆく)

① すがた ありさま 相好・家相・実相・真相・手相・人相・面相・様相
 ② たがいに いっしょに 相違・相応・相互・相似・相談・相当・相手
 ③ 大臣 外相・首相・蔵相・文相

学習 「相」には、「相変わらず」のように、下のことばの意味を強める働きもあります。●特別な読みかた→相撲

省

(4年・9画)

おん セイ・シヨウ
 かえりみる・はぶく



なりたち 目と少(小さくほそくする)を合わせた字。目をほそめてよく見る意味です。



つかいかた
 ○むだな費用を省く。
 ○一日の行動を省みる。
 ○説明を省略する。○正月に帰省する。

いみ(じゆく)

① ふりかえって考える かえりみる。省察・自省・人事不省・内省・反省
 ② はぶく へらす 簡単にする。省略
 ③ たずねる 帰省
 ④ 中央官庁 外務省・各省・文部省

学習 「人事不省」とは、大病や大けがなどで、まったく意識がなくなることをいいます。●「かえりみる」には「回顧」もあります。使い分け→付録429頁。

都道府県名の漢字

左の図は、都道府県名を地方別にまとめたものです。都道府県名の漢字の県庁所在地です。

北海道 (札幌)

東北地方 (六県)

関東地方 (一都六県)

近畿地方 (二府五県)

中国地方 (五県)

四国地方 (四県)

九州地方 (七県)

中部地方 (九県)

愛知県 岐阜県 静岡県 長野県 山梨県 福井県 石川県 富山県 新潟県

青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県

茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県

水戸市 宇都宮市 前橋市 浦和市 千葉市 東京都 横浜市

三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県

津市 大津市 京都市 大阪市 神戸市 奈良市 和歌山市

徳島県 香川県 愛媛県 高知県

福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県

福岡市 佐賀市 長崎市 熊本市 大分市 宮崎市 鹿児島市

矢矢矢矢矢

なりたち 矢の形をえがいた字で、矢じりとはねを表しています。

つかいかた

- 敵の矢面に立つ。
- 道順の矢印にしたがって見学する。
- 武士は弓矢を持って馬に乗った。
- 矢つき早の質問を受ける。

学習 ●シという読みは、「一矢を報いる(しかえしをする)のときに使います。矢は速く飛ぶところから、「矢の催促(まだかまだかと、せきたてる)」、「矢もたてもたまらず(じっとしていられないで、すぐ)」、「矢つき早(つづけさま)などの使いかたがあります。



矢

(6年・5画)

矢

(6年・5画)

知知知知知

なりたち 矢と口を合わせた字です。矢のようにまっすぐに、ずばりと言ひあてることを表します。

つかいかた

- 先生の住所を知っている。
- 母の急病を知らせる。
- 知能テスト。
- 本を読んで知識をふかめる。
- 父母会の通知をもらう。
- 未知の世界。

学習 ●「平和」の「和」と形がよくにているので、書きまちがえないようにしましょう。



知

(2年・8画)

知

(2年・8画)

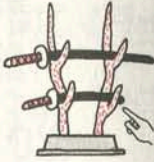
短短短短短

なりたち 矢と豆(足のついた豆)とを合わせた字です。まっすぐでわりあいに寸法がみじかい二つのものを合わせて、「みじかい」という意味を表すようになりました。

つかいかた

- あの人は、ひどく気が短い。
- 短歌は三十一音です。
- 人はだれにも、長所と短所がある。

学習 ●「短」の反対は「長」です。例「短く↑長期」「短波↓長波」「短命↑長命」



短

(3年・12画)

短

(3年・12画)

看

(6年・9画)

看

(6年・9画)



なりたち 手と目を合わせた字です。手を目の上にかざして、「よく見る」ことを表します。

つかいかた

- 大きくなったら看護婦になりたい。
- 相手の気持ちを看破する。
- 一日じゅう母の看病をする。
- 駅前にかくさんの看板が立っている。

学習 ●「看板」は、商店などで品物や店名を目立つように書いたものです。飲食店などで「お客さん、もう看板です」というのは、「店がおしまいになる」といいます。

真

(4年・10画)

真

(4年・10画)



なりたち もとの字は「眞」。ヒ(さじ)と眞(三本足の入れ物)を合わせた字で、さじて入れ物にいっぱいに入れること、つまり中がからっぽでないこと、から「ほんとう」という意味を表します。

つかいかた

- 真心のこもったおくりもの。
- 真夏の強い日ざし。
- 真価を發揮する。
- ゲレンデを真一文字にすべりおろす。
- いつまでも純真な気持ちでいたい。

学習 ●特別な読みかたに「眞つ赤・眞つ青」があります。

眼

(5年・11画)

眼

(5年・11画)



なりたち 良は、目とヒ(さじ)を合わせて、「さじてつきさすように、じっと見る」意味です。それに、さらに目をつけて、じっと見る目を表します。

つかいかた

- 眼科医院で検眼する。
- 先生の眼力にはかなわない。
- 父は老眼・近眼 両用の眼鏡を作った。

学習 ●「眼鏡」。「まなこ」という読みは、「大仏開眼」「どんぐり眼」などに使われます。特別な読みかた「眼鏡」。

●部首の説明
石 いし・いしへん



○「ア」はがけを表し、「ロ」は「いし」を表します。がけの下にころがつている「いし」をうつつしとつたもので、「いし」の意味を表します。
○「石」のつく字は、石や鉱物の種類(砂・磁など)や性質(確など)、「石」のようにかたいもの」という意味をもっています。
石 研 砂 破 磁 確



石

(1年・5画)

おんセキ・シヤク・コク
いし

なりたち 部首の説明
とおなじです。

つかいかた

- 小石をあつめる。
- 磁石の実験をする。
- 有名な石工のつくった石どうろう。
- 石炭にかわって石油の時代になった。

いみ(ごま)い

- ① いし——石材・石像・石板・石△碑・石仏・石器・化石・岩石・鉱石・宝石
- ② えきたい・こくもつ・ざいもく・船などの容積や、武士や大名の収入を表す、むかしの単位——千石船・百万石

学習 ●「石の上にも三年」というのは、「苦しくてもがまんしていれば、最後にはむくいられる」という意味です。
○コク・シヤクという読みは、「千石船」「磁石」などのことばに使われます。



石

研

(3年・9画)

おんケン
けん

なりたち もとの字は研。研(二つの物の表面をならして、高さをそろえること)と石を合わせた字です。石をみがき、でこぼこをなくして、たいらにそろえることを表します。

つかいかた

- むかし話について、研究発表をする。
- 兄が新入社員の研究会に参加する。
- レンズを研△磨する。

いみ(ごま)い
①とぐ。みがく。——研△削・研△磨
②物の本質を見きわめる——研究・研修
学習 ●「とぐ」という読みは、「刃物を研ぐ」のように使います。△刃物を研ぐことから、「とぎすまして物事の本質を見きわめる」という意味が出てきたのです。



砂

(6年・9画)

おんサ・シヤ
くんすな

なりたち 少(小さくけずる)と石とを合わせた字です。小さくけずられた石、つまり「すな」を表します。

つかいかた

- 砂場で砂遊びをする。
- 砂浜で潮干がりをす。
- なだらかな砂△丘が続く。
- 料理に砂糖をつかう。
- 海岸ぞいに砂防林が見える。

いみ(ごま)い

○すな。小さなつぶ。——砂△丘・砂△金・砂鉄・砂糖・砂△漠・砂防林・土砂・砂煙・砂地すな・砂時計

学習 ●シヤという読みは、「土砂」のように使います。●特別な読みかたに「砂利り」があります。



砂

破

(5年・10画)

おんハ
くんやぶる・やぶれる

なりたち 石と皮(引いたり押したりしてそらせる)とを合わせた字です。うすい石の板をむりに押ししてそらせ、ばんとわることを表します。

つかいかた

- 規則を破る。○カーテンが破れた。
- ガラスの破片でけがをした。
- 長いきよりを走破する。

いみ(ごま)い

①こわす。こわれる。やぶる。破△棄・破△損・破△滅・大破△難破
②だめになる——破局△破産△破談△破約
③敵をまかす——△撃破△打破△論破
④障害をつきぬける——看破△読破△突破
⑤道にはずれる——破△戒△破格

学習 ●「破れる・敗れる」の区別↓433p。



破

磁

(6年・14画)

おんジ
くん

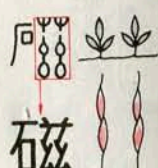
なりたち 茲は、糸と草の芽とを合わせた字で、「小型の物がたくさんふえる」という意味を表します。それに石(土)をつけて、ねん土でつくった、おなじ形のうつつわを表します。

つかいかた

- 方位磁石で方向をたしかめる。
- 磁針が北をさした。
- 陶磁器店で湯飲みを買う。

いみ(ごま)い

①じしやく——磁気・磁極・磁場・磁力
②やきもの——磁器・青磁・陶磁器
学習 ●磁石には、鉄をひきつける磁石と方位をしめす磁石があります。●「△慈愛」の「△慈」や「△滋養」の「△滋」と同じ音がなっています。注意しなすよう。



磁

砂 砂 砂 砂 砂 砂 砂

破 破 破 破 破 破 破

磁 磁 磁 磁 磁 磁 磁

礼 礼 礼 礼 礼

なりたち もとの字は「禮」(祭だん)と豊(神)にそなえる物をもつた台)とを合わせてできた字です。神にそなえ物をしておこなう祭礼を表します。

つかいかた
 ○おばに礼状を出す。○教会の礼拝堂。○どうも失礼いたしました。○朝礼で校長先生の話の聞く。

いみじゆく
 ①ぎしき。さほう。— 礼儀・礼節・礼装・礼服・儀礼・婚礼・祭礼・無礼
 ②おじぎ。— 礼拝・敬礼・答礼・目礼
 ③感謝のきもちを表す。また、そのための金品。— 礼金・礼状・謝礼・返礼

学習 ライという読みは、「礼賛」や仏教でいう「礼拝」などに使います。



礼 (3年・5画)

おんレイ・ライ

↑ではない

社 社 社 社 社

なりたち 土とネ(祭だん)を合わせた字。物をうみだす土を敬つてまつることから、「土地の神」、また、それをまつる「地元の人のあつまり」を表します。

つかいかた
 ○明るい社会。○新聞の社説。○父は会社の社長をしている。○神社に初もうでに行く。○社の森。

いみじゆく
 ①おみや。— 社殿・社頭・社務所・神社
 ②よのなか。せけん。— 社会・社交
 ③あつまり。— 社団・会社・結社・新聞社
 ④会社。社員・社用・公社・商社

学習 「本社」の反対は「支社」、「入社」の反対は「退社」です。



社 (2年・7画)

おんシャ

↑ではない

祖 祖 祖 祖 祖

なりたち 且(かさねる)とネ(祭だん)とを合わせた字です。何代もかさなるむかしの人たちが、神だにまつられる「せんぞ」のことを表します。

つかいかた
 ○おじは十年ぶりで祖国に帰って来た。○彼岸には祖先の墓まいりに行く。○祖父はいたって元氣だ。○宗教をひらいた人を開祖という。

いみじゆく
 ①おおもとの親。— 祖国・祖先・先祖
 ②父母の親。— 祖父・祖母
 ③物事をはじめた人。— 開祖・元祖・始祖

学習 「祖」と音が同じで、ましがえやすい字に「組くみ・粗あら・祖(税金のこと)」などがあります。



祖 (5年・9画)

おんソ

↑ではない

確

(5年・15画)

なりたち 音を表す確と石とを合わせた字です。かたい石のことをあらわします。



おんカク
 くんたしか・たしかめる

↑ではない

つかいかた
 ○返事は確かに出してある。○計算の答えを確かめる。○わがチームの勝利を確信する。○林間学校の日程が確定した。○水の量を正確にはかる。

いみじゆく
 ①かたい。しつかりして動かない。確信・確定・確保・確立・確固
 ②たしか。まちがいがいい。確実・確証・確答・確認・確約・的確・明確
学習 「確たる証拠をつかむ」「確たる態度で答弁する」のような使いかたもありません。「はつきりした」という意味です。

示 (5年・5画)

おんジ・シ
 くんしめす

↑ではない

部首の説明
 示しめす(ネしめすへん)

示

●神さまをまつる祭だんをえがいたもので、神の意味を表します。
 ●「示」「ネ」のつく字は、神さまのまえておこなう動作(礼・祭など)のように、神さまやお祭りにかんけいのある意味をもっています。
 ●形がともよくにている部首に、「ネ(ころもへん)」があります。これは「着物」の意味で、「ネ」とはちがいますから、書きまちがえないようにしましょう。
 ●示・礼・社・祖・祝・神・票・祭
 ●視↓見34画。



示 (5年・5画)

おんジ・シ
 くんしめす

↑ではない

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた
 ○実物を示す。
 ○見学の順序を示す。
 ○交通事故のあと始末を示談にする。
 ○町内のお知らせを△指示する。
 ○早く逃げるように指示する。
 ○作品の展示会をひらく。

いみじゆく
 ○わかるように見せる。しめす。— 示
 ○威・示・示・示・示・示・示・示・示・示
 ○示・示・示・示・示・示・示・示・示・示
学習 「示しがつかない」というのは、「手本になるはずの者が、よくないことをしては、ほかの者に注意することができない」という意味です。



祭 祭 祭 祭 祭 祭 祭 祭

なりたち ぶかしの字は、手で肉に酒や水をかけて清めているようすを表しましたが、のちに示(祭だん)をつけて、「祭だんやそなえ物を清めてまつる」という意味を表すようになりました。

つかいかた

- 戦死した人を祭る神社。
- 秋祭りを楽しみにまつ。
- 民族の祭典、オリンピックがはじまる。
- 中学校の文化祭を見に行く。

いみじゆく

- ①まつり——祭日・祭礼・大祭・例祭
- ②にぎやかなまよおし。おまつりさわぎ。

学習 芸術祭・謝肉祭・前夜祭・文化祭をまどめて、「冠婚葬祭」といいます。



祭 (3年・11画)

おんサイ
かんまつる・まつり



禁 禁 禁 禁 禁 禁 禁 禁

なりたち 林と示(祭だん)とを合わせた字です。神をまつった所のまわりに林をめぐらして、かつてに出入りできないようにすることを表します。

つかいかた

- しばふの中に入ることを禁じます。
- 劇場内は禁煙です。
- 食べすぎ飲みすぎは禁物だ。
- ガソリンスタンドにつき、火気厳禁。

いみじゆく

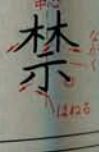
- さしとめる。やめさせる。おきて。
- 禁止・禁酒・禁制・禁足・禁欲・禁漁・禁令・解禁・監禁・発禁

学習 「禁酒・禁煙」に対して、「節酒・節煙」(ほどほどにする)という言い方もあります。



禁 (5年・13画)

おんキン



福 福 福 福 福 福 福 福

なりたち 畚(ふくらんどくり)とネ(祭だん)とを合わせた字。どくりにたつぷり酒が入っているように、神のめぐみがゆたかなことを表します。

つかいかた

- 福は内、△鬼は外。○幸福な人生。
- おじさんは福々しい顔をしている。

いみじゆく

- さいわい。しあわせ。

学習 「畚」のつく字は「たつぷり入っている」「びたりとそばにつく」という意味にかんけいがあります。「富」は家の中に物がたつぷりある。「副」はそばにいて助ける。「幅」はびたりとあてはるひざかけ。



福 (3年・13画)

おんフク



祝 (5年・9画)

おんシユク・シユウ
かんいわち

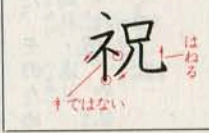
なりたち 示(祭だん)と兄(人がひざまずいているようす)とを合わせた字です。祭だんで、のりとを読みあげている神主のこと、また、のりとをとなえていることを表しました。

つかいかた

- 病気の全快を祝う。
- 誕生日のお祝い。○祝日はお休み。
- 祝賀会で祝辞をのべる。
- 合格おめでとうの祝電をうった。

いみじゆく

- ①いわう——祝宴・祝賀・祝辞・祝日・祝勝・祝典・祝杯・祝福・慶祝
- ②シユウという読みは、「祝儀・祝言」などのことばに使います。○特別な読みかたに「祝詞」があります。



神 (3年・9画)

おんシン・ジン
かんかみ・かん・こう

なりたち 申(いなずま)とネ(祭だん)を合わせた字。いなずまのようなふしぎな力をおそれ、祭ることから「ふしぎな力」を表すようになりました。

つかいかた

- 神に無事をいのる。○氏神様のお祭り。
- ギリシア神話。○神宮に参拝する。
- 細かいところまで神経をつかう。

いみじゆく

- ①かみさま——神学・神官・神社・神職・神体・神罰・神仏・神話・神代
- ②ふしぎな力——神聖・神秘・神妙
- ③心のはたらき——神経・精神

学習 「かん」「こう」という読みは、「神主」「神々しい」などに使われます。○特別な読みかたにお神酒・神楽。



票 (4年・11画)

おんヒョウ

なりたち 要(こしの細い女)をかんとにした形と示(火)とを合わせた字。こまかい火の粉がひらひらとびあがるようすから、「高くなる。ひらひらしたふだ」を表しました。

つかいかた

- 伝票を受けとる。○選挙の開票結果。
- 学級委員をみんなの投票で決める。

いみじゆく

- ①書きつけに使う紙——計算票・伝票
- ②選挙などに使うふだ——票決・票数・開票・投票・得票・浮動票・満票
- ③投票数をかぞえることば——一票

学習 「票」と同じ読みかたの「標本・標準」の「標」や、「要点・必要」の「要」とまちがえやすいので、注意しましょう。



科 科 科 科 科 科 科 科

なりたち 禾 (作物) と斗 (ます) とを合わせた字。作物をはかってしらべ、種類ごとに分けることを表します。

つかいかた

- 科学の進歩はめざましい。
- 家庭科の教科書をわすれる。
- 百科事典で草花をしらべる。
- けがをしたので外科医院に行く。

いみじゅく

① くわけした一つ一つ — 科学・科目・理科・学科・眼科・教科・外科・歯科・小児科・内科・文科・バラ科・理料科

② つみ。ばつ。 — 科料・罪科・前科

学習 「科」と「料金・料理」の「料」は形がよくにているので、まちがえないように注意しましょう。



科

(2年・9画)

科

どめる



① こくもつのほのだれてるようすをえがいたものです。

○ 「禾」のつく字は、こくもつや作物、または作物の性質にかんけいのある意味を表します。

にている意味の部首に「米」(こめへん)があつて、おなじように、「こくもつ」という意味を表しています。

○ 私秋科秒称秘移税

○ 利↓刀70%。和↓口98%。委↓女122%。季↓子125%。



● 部首の説明
禾のぎへん

秒 秒 秒 秒 秒 秒 秒 秒

なりたち 少 (すくな) と禾 (イネ) とを合わせた字です。イネのほについでいる、かすかな毛のことから、「こく小さいたい」を表します。

つかいかた

- ぼくの時計の秒針は一秒に一回「こく」音の秒速は約三百四十メートルだ。
- ロケットの発射は、いよいよ秒読みの段階に入った。
- 寸秒を争うレース。 — 一分は六十秒。

いみじゅく

○ じかん・かくど・経度・緯度をはかる

たいい 秒針・秒速・秒読み・一秒・寸秒・分秒

学習 「寸秒」というのは、「こくわずかな時間」という意味です。



秒

(3年・9画)

秒

どめる

① (公に對して) じぶんだけのこと。わたくし。私營・私學・私財・私情・私信・私心・私設・私邸・私腹・私物・私利・私用・私利私欲・私立・公平無私

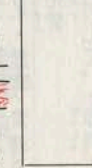
② ひそかに。ないしょ。 — 私語

学習 「私」は「わたし」とは読みません。

なりたち ム (うででかこいこむ) と禾 (作物) とを合わせた字です。作物をめぐりめぐり分けて自分のものとすることを表します。

つかいかた

- きようは、公務でなく私の用事です。
- 授業中の私語はつしもう。
- 私費でイギリスへ留学する。
- 公私の区別をつけるべきだ。



私

(6年・7画)

私

どめる

称 称 称 称 称 称 称 称

なりたち もとの字は稱。再は、左右がつり合うように手でもちあげているようすを表します。それに禾(作物)をつけて、作物を、左右つり合うようにぶらさげて、おもさをはかることです。

つかいかた

- 警察官だと稱して、人をだます。
- 父は医学博士の称号をとった。
- 小さな親切が稱賛のまよになった。

いみじゅく

① 名づける。よび名。 — 仮称・自称・総称・俗称・尊称・通称・名称・略称

② ほめあげる。 — 称賛・称美・称揚

③ つりあう。 — (左右) 対称

学習 「対称」を「対象・対照」と区別して使いましょう。↓付録437



称

(5年・10画)

称

どめる

① あき。 — 秋季・秋期・秋分・秋冷・春夏秋冬・初秋・中秋・晩秋・立秋季

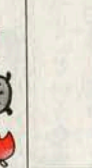
② としつき。 — 歳月。 — 春秋・千秋

学習 「秋期」は、秋のある期間、「秋季」は秋の季節を表し、「秋期講習会」「秋季運動会」などと使い分けします。

なりたち 大むかしは作物とカメと火とを合わせた字でした。カメを火でかわかすとちぢむように、作物をしぼってとりこみ、火や太陽でかわかしてせいまい所におさめること、つまり「とり入れのとき」を表しました。

つかいかた

- 秋晴れの秋分の日。 — 秋雨が降る。
- たき火のけむりに晩秋を感じる。



秋

(2年・9画)

秋

どめる

積

(4年・16画)

おんセキ
くんつむ・つもる



積
どめる

○なりたち 禾(作物)と貴(心にギザギザとささるように借金がかさなる)とを合わせた字。はしがギザギザとなるような形に作物をかさねる意味です。

つかいかた

- 弟が積み木を高く積む。
- 雪が二メートルも積もる。
- 仕事は山積して、いそがしい毎日だ。
- 面積の広いへやで遊ぶ。

いみじゆく

① つみかさなる。つみかさねる。積。雪・積年・積極的・蓄積・累積。

② ひろさ。かさ。体積・面積・容積。

○学習 ● かけ算の答えを「積」といいます。「種類」の「種」や「成績」の「績」とまらがえないように注意しましょう。

積積積積積積積積積積積積積積

空

(1年・8画)

空
あき



○なりたち 工は、上下の板にあなをあげ、それを棒でつきぬいた形を表します。その工と穴(あな)とを合わせた字です。つきぬけてあながあき、中になにもないことから、「から・あく」などの意味を表し、また「そら」の意味にも使われるようになりました。

つかいかた

- 雲ひとつない、まっさらな空です。
- 手が空いたら、おてつだいします。
- 空きかんをすてないでください。
- 電車の中で席を空けて老人にゆずる。
- はこの中は、空っぽでした。
- ここには空梅雨だそうです。
- 窓をあけて、へやの空気を入れかえる。
- 通りへ出て、空車をさがす。
- 空港からジェット機が飛び立った。
- 航空機の発達は目ざましい。

穴

(6年・5画)

おんケツ
くんあな



穴
あな

○なりたち 宀(やね)と八(分ける印)とを合わせた字。土をほって、入り口をあけたほらあなの家を表します。

つかいかた

- 穴をほって、ゴミをうめる。
- 穴をあくほど見つめる。
- 寒い地方では穴蔵に野菜を貯蔵する。
- 自分で墓穴をほるようなものだ。

いみじゆく

① あな。穴居(生活)・洞穴(ほら)・穴蔵。

② 不完全なところ。損失。穴埋め。

③ 勝負の番くるわせ。大穴。

○学習 ● 「穴」は底のあるあな、「孔(あな)」はつきぬけたあなのことです。「穴があつたら入りたい」というのは、たいへんはずかしいことのために使われます。

穴穴穴穴穴

いみじゆく

- ① じめんの上のほう。そら。空間・空中・高空・空虚空・上空・滞空時間・低空・空色・空模様・青空・大空・寒空・冬空・夕焼け空・夜空。
- ② なかみがなにもない。からっぽ。空位・空虚・空車・空席・空疎・空想・空地・空白・空腹・空砲・空欄・真空・空手形・空念仏。
- ③ くだなこと。空転・空費・空文・空論。
- ④ 航空機。空軍・空港・空襲・空母・空回り・空路・防空。



○学習 ● 「空」は、他のことばの上について、いろいろな意味に使われます。(1) はつきりしていない。空おそろしい。(2) してもききめがない。空だのみ。(3) うその。いつわりの。みせかけだけの。……空泣き・空寝・空耳。(4) 真実のかんけいがない。他人の空似。「あく」は、ほかに「聞く・明く」があります。使い分け↓付録428頁。

空空空空空空空空

究

(3年・7画)

おんキユウ
くんきわめる



究
はねる

○なりたち 穴(あな)と九(手がおくにとどいてまがつたようす)とを合わせた字。手があなのおくにつかえるまでさぐって、しらべることを表します。

つかいかた

- 科学の究極の目的は人類の幸福だ。
- 病気の原因を究明する。
- 日本の地しんの研究は世界一である。
- 学問の真理を探究する。
- 事件の真相を究める。

いみじゆく

○さいごまでしらべる。きわめる。

○究極・究明・学究・研究・考究・探究・追究・論究

○学習 ● 「きわめる」には、「窮める」も「極める」があります。使い分け↓付録430頁。

究究究究究究究究究究究究究究

窓

(6年・11画)

窓
まど



○なりたち 窓(まど)は、下の図に示したように、空気をぬき通すまどの形をえがいたものに、穴をつけたものでした。いまの字の窓の部分は、倫をかんとにしたもので、音を表しています。

つかいかた

- 窓ごしに話す。出窓に花をかざる。
- 役所の窓口で書類をもらう。
- 車窓からのながめはすばらしい。
- 同窓会の通知がどいた。

いみじゆく

① まど。窓外・車窓・窓・窓掛け・丸窓

② まどのあるへや。学窓・深窓・同窓

○学習 ● 「深窓」は、「家の中のおく深いへや」のことで、「深窓の育ち(家の中で大事に育てられること)」などと使われます。

窓窓窓窓窓窓窓窓窓窓

競競競競競競競競

○あらし。せりあう。競泳・競走・競合・競争・競売・競歩・競馬・競輪
「競走」は「きまいった長さを走ってあらし」というちがいがありません。

○マラソンは陸上競技の人気種目だ。
○パン食い競走なら、ぼくは負けない。
○四百メートル競走に出場する。
○父は競馬のテレビ放送が大好きだ。
○選びぬかれたチームが実力を競う。



競

(4年・20画)

競

おんキヨウ・ケイ
くんぎそら・せる

なりたち 音(言)のむかし(の形)二つとル(人の形)二つとを合わせた字です。ふたりがことばで言いあって勝ち負けをあらそうことでした。

つかいかた

罪罪罪罪罪罪罪罪

○社会のきまりにそむいた、わるいおこない。罪悪・罪科・罪状・罪人・功罪・死罪・犯罪・無罪・有罪・余罪
「罰」は、「罪をおかした人へのしおき」という意味です。「罪」とまぢがえやすいので、気をつけてください。

○子どものいたずらなんて罪がない。
○困った人をだますとは罪深いやつだ。
○犬を放しがいにするると軽犯罪になる。
○自分が悪いといって謝罪した。



罪

(5年・13画)

罪

おんザイ
くんつみ

なりたち 四(魚をとる竹のあみ)と非(よくないこと)とを合わせた字です。わるいことをして、法律のあみにかかった人を表しました。

つかいかた

置置置置置置置置

①おく。すえつける。安置・設置・装置・定置・配置・放置・留置
②とりあつかう。処置・措置
「置く」は、「ほうっておく」などの「おく」は、かなで書きます。●「置場・置物・物置」などは送りがないつけません。

○机の上にカバンを置く。
○置き手紙をして外出する。
○地図で現在の位置をたしかめる。
○むしばの処置をしてみよう。



置

(4年・13画)

置

おんチ
くんおく

なりたち 音を表す直(まっすぐ)と四(あみ)を合わせた字です。鳥をとるあみをまっすぐに立てることから、物をおく意味になりました。

つかいかた

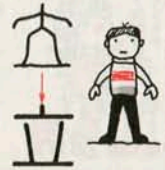
立

(1年・5画)

立

おんリツ・リュウ
くんたつ・たてる

なりたち 両足をじめんにつけて、人がたっているようすを表した字です。



つかいかた

○校庭に大きなケヤキが立っている。
○工事場に立ち入ることを禁じる。
○四つ角に道しるべを立てる。
○立て続けにしゃべりまくる。
○卒業式の計画を立案する。
○立春が過ぎてはまだ寒い。
○姉は私立の中学校へ行っている。

いみ・じゆく

①たつ。たてる。立食・起立・直立
②なりたつ。自立・成立・対立・中立
③つくる。立案・立法・国立・設立
学習リュウという読みかたは、「建立」ということばに使われます。

立立立立立立立立

章

(3年・11画)

章

おんショウ
くん

なりたち もとは、しいゆうや入れずみにつかう針のかたちで、それから、「はつきりとしてめだつ」という意味に使われました。



つかいかた

○長い文章を一章ずつくぎって読む。
○サクラとペンをくみあわせた校章。
○文化勲章を受章した学者。

いみ・じゆく

①しるし。もよう。印章・記章・肩章・帽章・紋章・腕章
②文や音楽のひとまとまり。章節・楽章・憲章・文章
学習 音楽のいちばんみじかいくぎりは「小節」です。文のまとまりの「章節」とまぢがえないようにしましょう。

章章章章章章章章

童

(3年・12画)

童

おんドウ
くんわらべ

なりたち おむかしの字は、「はもんで目をつきぬいてめくらにしたどれいの小男」を表しました。のちに「小さい人・子ども」を表すようになりました。



つかいかた

○グリムの童話を読む。
○学級児童会で話し合う。
○まだ童顔ののこっている青年。

いみ・じゆく

○こども。童画・童顔・童子・童心・童話・童話・学童・児童・神童・牧童
学習 小学校に入る前の子どもを「幼児」、小学生を「児童」、中学生・高校生を「生徒」のように使い分けことができます。●「わらべ」という読みかたは「童歌」などのことばに使われます。

童童童童童童童童

笑笑笑笑笑笑

なりたち 音を表す者 (あつめる)と「(あみ)とを合わせた字です。人をあつめて、それぞれのしごとをする場所におちつかせる意味でした。

つかいかた

- 交通整理に警察の署長さんも精を出す。
- 町内の人々が署名運動をしている。
- 消防署から消防自動車が出動する。
- いちはやく、それぞれの部署につく。

いみ・じゆく

- ① やくしよ 署長・官署・警察署・消防署・税務署・分署・本署
- ② しごとのわりあて。やくわり。
- ③ 書きつける 署名・自署・連署

学習 「署あ(22画)」と同じ読みで、形もにています。注意してください。

なりたち 竹(たけ)と天(かすか)とを合せて、もとは「細い竹」のことでした。それに口(くち)をつけて、小さな声でわらうことを表しましたが、のちに「口」がなくても、「わらう」という意味になりました。

つかいかた

- 妹はちよつとしたことでもよく笑う。
- となりの教室の笑い声が聞こえる。
- みんなから笑いにされる。
- 言いわけをしたら、父は苦笑した。

いみ・じゆく


- わらう 笑話・談笑・微笑・冷笑

学習 「えむ」という読みは「顔に笑みをうかべる」のように使います。●特別な読みかたに「笑顔」があります。

おんシヨウ
くん わらう・えむ

笑

(6年・10画)

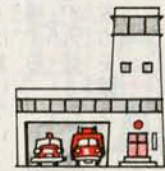


笑

おんシヨ
くん

署

(6年・13画)



署

なりたち 音を表す者 (あつめる)と「(あみ)とを合わせた字です。人をあつめて、それぞれのしごとをする場所におちつかせる意味でした。

つかいかた

- 交通整理に警察の署長さんも精を出す。
- 町内の人々が署名運動をしている。
- 消防署から消防自動車が出動する。
- いちはやく、それぞれの部署につく。

いみ・じゆく

- ① やくしよ 署長・官署・警察署・消防署・税務署・分署・本署
- ② しごとのわりあて。やくわり。
- ③ 書きつける 署名・自署・連署

学習 「署あ(22画)」と同じ読みで、形もにています。注意してください。

第第第第第第第第

なりたち 音を表す弟(弟)と竹(たけ)を合わせた字です。弟は「いちばんはし」という意味で、竹の板で作った書物のさいごの板のことでした。それから「順序」の意味になりました。

つかいかた

- 入学式の式次第が紙ではり出される。
- マスコミの第一線ではたらく記者。
- 第三者は口出しをするな。
- そろばんの検定試験に落第する。

いみ・じゆく

- ① じゆんじよ 第一・第二・次第
- ② しけん 及第・落第

学習 「弟うと(15画)」と形がにています。書きまちはえなないように、注意しましょう。

なりたち 音を表す弟(弟)と竹(たけ)を合わせた字です。弟は「いちばんはし」という意味で、竹の板で作った書物のさいごの板のことでした。それから「順序」の意味になりました。

つかいかた

- 入学式の式次第が紙ではり出される。
- マスコミの第一線ではたらく記者。
- 第三者は口出しをするな。
- そろばんの検定試験に落第する。

いみ・じゆく


- ① じゆんじよ 第一・第二・次第
- ② しけん 及第・落第

学習 「弟うと(15画)」と形がにています。書きまちはえなないように、注意しましょう。

おんダイ
くん

第

(3年・11画)



第

なりたち 音を表す竹(たけ)と竹(たけ)を合わせた字です。竹は「たけ」で、竹の性質(筋・節)にかんけいする意味をもっています。

つかいかた

- 中国ではむかし、紙が発明されるまえ、うすくわった竹きれに字を書いて、紙のかわりにつかいました。
- 竹笑第筆等 答策筋節算管築簡

いみ・じゆく

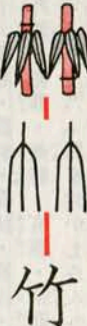
- たけ 竹林・爆竹・竹馬・竹ざお・竹筒・さお竹・真竹

学習 特別な読みかたに「竹刀い」があります。

おんシヨ
くん

竹

(2年・6画)



竹

●部首の説明
竹 たけ・たけかんむり

筆筆筆筆筆筆筆筆

なりたち 筆は手でふでをもった形を表します。それに竹(たけ)をつけて、竹のじくをつけた、「ふで」という意味を表します。

つかいかた

- 筆に、たつぷりとすみをふくませる。
- 筆入れを学校に置きわすれた。
- 筆無精な父がめずらしく手紙を書いた。

いみ・じゆく

- ① ふで ものを書くどうぐ。鉛筆・硬筆・万年筆・毛筆・筆ばこ・絵筆
- ② ものを書く。書いたもの。筆記・筆者・筆順・筆跡・悪筆・達筆・肉筆

学習 「筆」をふくむことばの反対語に「暗算」「自筆代筆」「筆無精筆まめ」

なりたち 筆は手でふでをもった形を表します。それに竹(たけ)をつけて、竹のじくをつけた、「ふで」という意味を表します。

つかいかた

- 筆に、たつぷりとすみをふくませる。
- 筆入れを学校に置きわすれた。
- 筆無精な父がめずらしく手紙を書いた。

いみ・じゆく


- ① ふで ものを書くどうぐ。鉛筆・硬筆・万年筆・毛筆・筆ばこ・絵筆
- ② ものを書く。書いたもの。筆記・筆者・筆順・筆跡・悪筆・達筆・肉筆

学習 「筆」をふくむことばの反対語に「暗算」「自筆代筆」「筆無精筆まめ」

おんヒツ
くん ふで

筆

(4年・12画)



筆

なりたち 部首の説明
竹 たけ

つかいかた

- 竹ざおに旗をむすぶつける。
- 竹を割ったようにさっぱりした人がら。
- 青竹を切って水でつぼうをつくる。
- 竹やぶでタケノコをほる。
- 松竹梅の図がらのびようぶ。
- おさな友だちを竹馬の友という。
- 破竹のいきおいで勝ち進む。

いみ・じゆく


- たけ 竹林・爆竹・竹馬・竹ざお・竹筒・さお竹・真竹

学習 特別な読みかたに「竹刀い」があります。

おんチク
くん たけ

竹

(2年・6画)



竹

筋筋筋筋筋筋筋筋

筋 (6年・12画)

○ **なりたち** 竹(たけ)と肋(すじ)はつたあばらばね)を合わせた字です。力をいれるとすじばつてみえる、からだの肉の意味です。

○ **つかいかた** ころんで足の筋をちがえてしまった。きのう読んだ本の筋を弟に話す。それは筋のおらないやりかただ。かたの筋肉のりあがった力士。鉄筋コンクリートづくりの校舎。

○ **いみじゆく** ①きんにく—筋骨・腹筋・背筋 ②ものごとのすじみち—筋合い・筋道・筋目・△荒筋・血筋・本筋・道筋

○ **学習** 「筋」の「々」を「サ」と書きまぢがえないように気をつけましょう。



筋

筋 (6年・12画)

節節節節節節節節

節 (4年・13画)

○ **なりたち** 音を表す即(たち切る)と竹(たけ)とを合わせた字です。竹のみきがとちゅうでくぎれていることから「ふし」を表します。さらに、「ものごとのくぎり」という意味に広く使われるようになりました。

○ **つかいかた** 竹の節に穴をあけて水でつぼうを作る。父の歌は、声はよいが節があやしい。へいの節穴から中をのぞく。かつお節でだしをとる。おじいさんは、ソーラン節が得意だ。その節は、おせわになりました。秋はスポーツの季節だ。三月三日は、モモの節句です。親善使節としてアメリカに行く。へやの温度を調節する。こづかいを節約してグローブを買う。



節

節 (4年・13画)

策策策策策策策策

策 (6年・12画)

○ **なりたち** 音を表す束(とがる)と竹(たけ)を合わせた字です。とがった竹のむちや、形のそろわない竹のふだのことでした。竹のふだに命令などを書くことから、「はかりごと」の意味になりました。

○ **つかいかた** コーチが選手に策をさずける。あいつの失策で二点をひろった。交通事故をなくす対策をかんがえる。大臣が政策について説明する。

○ **いみじゆく** ①はかりごと。かんがえ。—策動・策略・画策・国策・得策・秘策・方策

○ **学習** 「作戦」を「策戦」と書きまぢがえないように、注意しましょう。

①からだの骨のつぎめ—関節
②おんがく・ぶんしょう・ことばなどのくぎり—音節・小節・章節・序節・文節
③きこうのかわりめ。とき。おり。—節句・節分・季節・苦節・時節・当節
④ものけじめをまもるころ—節度・礼節
⑤ほどよくする。むだをなくす。—節減・節食・節水・節制・節電・節約・調節
⑥ころをかえないこと—節操・忠節・変節
⑦うたのちようし。メロディー。—曲節
⑧とくちようのあるメロディーをもつたうた—大漁節・炭坑節・なにわ節

○ **学習** ●むかしは、「天皇誕生日」や「建国記念の日」などの祝日を「天長節」「紀元節」のようによびました。●セチという読みかたは「お節料理」ということばに使われます。



策

策 (6年・12画)

等

等

(3年・12画)

○ **なりたち** 音を表す寺(じつと手に持つ)と竹(たけ)を合わせた字です。なん枚かの竹の板を、そろえて手に持つことから、「おなじ大きさにそろう」という意味になりました。

○ **つかいかた** ①ひとしい。おなじ。—等質・等分・等量・均等・対等・平等 ②順位。段階。—等級・上等・優等

○ **学習** なにかを学ぶのに、しだいにむずかしい段階に進むとき、「初等→中等→高等」のようにわけることがあります。

○ **いみじゆく** ①ひとしい。おなじ。—等質・等分・等量・均等・対等・平等 ②順位。段階。—等級・上等・優等

○ **学習** なにかを学ぶのに、しだいにむずかしい段階に進むとき、「初等→中等→高等」のようにわけることがあります。



等 (3年・12画)

答

答

(2年・12画)

○ **なりたち** 竹(たけ)と合(あわせる)とを合わせた字です。上と下とを合わせる竹のべんとうばこのことでした。のちに、「質問にびたりと合わせてこたえる」という意味になりました。

○ **つかいかた** ①正しい答えをノートに書く。②名まえをよばれたら、ハイと答える。③答案用紙が配られる。④議会で首相が答弁する。

○ **いみじゆく** ①こたえる。こたえ。—答辞・答申・応答・回答・解答・返答・名答・問答

○ **学習** 「答」の反対は「問」と(100%)です。「問」答」「自問自答」のような熟語があります。



答 (2年・12画)

策

策

(6年・12画)

○ **なりたち** 音を表す束(とがる)と竹(たけ)を合わせた字です。とがった竹のむちや、形のそろわない竹のふだのことでした。竹のふだに命令などを書くことから、「はかりごと」の意味になりました。

○ **つかいかた** コーチが選手に策をさずける。あいつの失策で二点をひろった。交通事故をなくす対策をかんがえる。大臣が政策について説明する。

○ **いみじゆく** ①はかりごと。かんがえ。—策動・策略・画策・国策・得策・秘策・方策

○ **学習** 「作戦」を「策戦」と書きまぢがえないように、注意しましょう。



策 (6年・12画)

簡簡簡簡簡簡簡簡簡簡

簡 (6年・18画)

○母にかわって買物の金額を計算する。
○台風は本土に上陸する公算が大きい。

①かぞえる — 算出・算術・算数・算定・暗算・検算・精算・通算・筆算

②くふう。かんがえ。みとおし。算段・採算・勝算・成算・打算・予算

学習 「1・2・3……」のような数字を算用数字(アラビア数字)といいます。「一・二・三……」は漢数字とよびます。

①てがる。むだがない。簡便・簡明・簡約・簡略

②てがみ。手簡・書簡

学習 「簡単」の反対語は「複雑」です。

○このパズルは簡単にとける。
○理由を簡潔に説明します。
○父は作家の書簡集を読むのが好きだ。
○奈良時代の遺跡から木簡が発見された。



なりたち 音を表す間(あいだ)と竹(たけ)を合わせた字です。一まいづつ、すきまをあけてとじた、竹のふだのことで、竹のふだや木のふだを使いました。

つかいかた

○米を作る農家が少なくなっている。
○政府がここの米価を発表した。
○白米に麦を混ぜてごはんをたく。
○父はしごとで来月中に渡米する。

米米米米米米米米

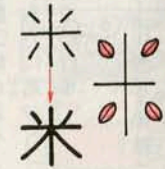
米 (2年・6画)

①こめ — 米食・新米・精米・米倉

②アメリカ — 米国・欧米・南米

学習 「アメリカ」をむかしは「垂米利加」と書きました。

○八十八歳を「米・寿」というのは、「米」の字を分解して、上から「八十八」としたいいかたです。



なりたち 「十」のしるしのまわりに、てんと穀物のつぶがちらばっているようすをえがいた字です。

つかいかた

○たてものをつくる — 築城・築造・築港・改築・建築・構築・修築

学習 人名や地名では「築島・築地」のような読みかたもあります。特別な読みかたに「築山」があります。

粉粉粉粉粉粉粉粉

粉 (4年・10画)

①こな — こまかくくだいたもの。

②粉乳・粉末・魚粉・金粉・製粉・粉炭・粉みじん・かたくり粉・小麦粉

学習 まちがえやすい字に、「粉(紛)紛(粉争)」があります。

○フライはパン粉でころもをつける。
○粉をねって、うどんをつくる。
○音もなく粉雪が降る。
○粉薬を水でのむ。
○花粉が風ではこばれる。



なりたち 音を表す分(ばらばら)にわけると米(こめ)とを合わせた字です。こめをすってばらばらにして、こまかくした、「こな」のことで、

算

(2年・14画)

算



なりたち 音を表す官(まるい)と竹(たけ)を合わせた字です。まをい切り口をした、竹のふえのことから、中がからつぼの細長いもの、の意味になりました。

つかいかた

○竹の管をつかって山から水をひく。
○寒さのため、水道管が破れつした。
○フルートは、管楽器です。
○アパートの管理人。

①くだ。つつ。鉛管・血管・ゴム管・鉄管・土管

②とりしまる — 管制・所管・保管

学習 人名・地名に使われる「管(菅野・菅原)」と書きまちがえないように。



管

(4年・14画)

管

築

(5年・16画)

築



なりたち 音を表す筑(たいらにならず)と木(き)を合わせた字です。木のぼうで土をどんとどかためて、工事の地ならしをすることです。

つかいかた

○大阪城は豊臣秀吉が築いた。
○しあわせな家庭を築く。
○法隆寺は世界最古の木造建築物だ。
○校舎の新築工事が始まった。
○家がせまいので二階を増築する。

①たてものをつくる — 築城・築造・築港・改築・建築・構築・修築

学習 人名や地名では「築島・築地」のような読みかたもあります。特別な読みかたに「築山」があります。

納 納 納 納 納 納 納 納

なりたち 音を表す内(中)にいれる)と糸(いと)とを合わせた字です。しあがった糸やぬのを、やくしよにさし出し、くらの中にいれる意味でした。

つかいかた

- 料金を納める。○本がカバンに納まる。
- 税金を納入する。○会費が未納だ。
- 話を聞いて納得する。○銀行の出納係。

読み ①さしだす 納税・納付・収納・奉納 ②しまう 納骨・格納・収納

学習 ●ナ・ナンという読みは、「納屋」「納戸」ということばに使われます。「おさめる」と読む字(納・収・治・修)の使い分け↓付録429頁。

納

(6年・10画)

納



純 純 純 純 純 純 純 純

なりたち 音を表す屯(ずっしり)と糸(いと)とを合わせた字です。あつでの織物の両はしにたれた、ずっしりとおもい糸のことから、どっしりとしてかざりけがない意味になりました。

つかいかた

- 純白のドレスを着た花よめさん。
- このセーターは純毛だ。
- その考えかたはすこし単純すぎる。

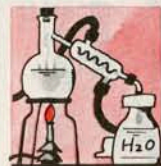
読み ①まじりけがない。そのものだけ。純益・純金・純粋・純正・純綿・純潔・純情・純真・清纯

学習 「純真」を「純心」と書きまちがえないように気をつけてください。

純

(6年・10画)

純



紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙

なりたち 音を表す氏(うすい)と糸(いと)とを合わせた字です。糸のようにほそい木のせんいをすいて、うすくのばした「かみ」のことです。

つかいかた

- 風で紙くすがとばされる。
- 教科書にある物語を紙しばいにする。
- 厚紙で飛行機のもけいを作る。
- 画用紙をいっばいにつかて絵をかく。
- 地方紙にわたしの学校の記事がのった。

読み ①かみ 紙幣・半紙・表紙・洋紙・和紙・色紙・折り紙・ちり紙・手紙

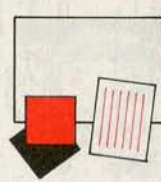
学習 ●紙上・スポーツ紙・日刊紙

学習 「機関紙」は「新聞」、「機関誌」は「雑誌」です。気をつけましょう。

紙

(2年・10画)

紙



約 約 約 約 約 約 約 約

なりたち ヤクという音は「ひきしめる」という意味を表します。糸(いと)と夕(ゆ)めだたせる)を合わせて、糸をしばって、めだつように、むすび目をつくることでした。

つかいかた

- だいなところだけを要約して話す。
- 駅できつぷの予約をする。
- うちから駅までは約一キロある。

読み ①ちぢめる 約分・節約・集約・節約 ②とりきめる 約束・規約・条約

学習 ●約分は、分母と分子を同じ数でわって、かんたんにすること、「通分」は、分母を同じ数にすることです。

約

(4年・9画)

約



級 級 級 級 級 級 級 級

なりたち 音を表す及(おいつく)と糸(いと)とを合わせた字です。布をおるときに、つぎつぎとおいけるように、糸をおくることから、「じゅんじよ」という意味になりました。

つかいかた

- この店は高級な品を売っている。
- 下級生にしんせつにする。
- そろばんの検定で三級に合格した。

読み ①じゅんじよ。だんかい。階級・等級 ②くみ。クラス。級友・学級・同級

学習 ●学習などのだんかいがしだいにすすむばあいに、「初級→中級→上級」のようにいうことがあります。「等」(308頁)とくらべてください。

級

(3年・9画)

級



紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅

なりたち 音を表す工(どっしりした)と糸(いと)を合わせた字です。ふかみのある、こい赤い糸のことから、赤い色をさすようになりました。

つかいかた

- 大学生の姉は口紅をつけはじめた。
- おやつは紅茶とケーキだ。
- 寒い地方では十月ごろから紅葉する。
- 私はわが校の野球部の紅一点です。
- 深紅の優勝旗に手をのする。
- 西の空が紅にそまる。

読み ①あかい 紅潮・紅梅・紅白・真紅

学習 ●「紅一点」の「紅」は、女の人

のことです。●特別な読みかたに「紅葉」があります。

紅

(6年・9画)

紅



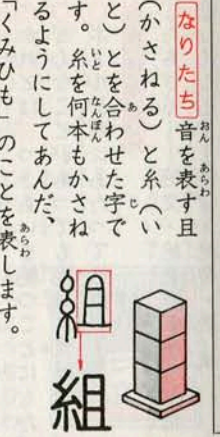
組 組 組 組 組

なりたち 「垂」のものと形の土（たれる）と糸（いと）を合わせた字です。まゆからとりだしたままの糸が、たれているようすを表しました。

つかいかた

- ①ありのまま。かざりけがない。——素
- ②ふだんのまま——素行・素養・平素
- ③ものなるもの——素材・元素・要素

学習 ● スという読みは「素顔・素直」などのことばに使われます。● 特別な読みかたに「素人（しらひ）」があります。



組 (2年・11画)

おんソ
く ん く む く み

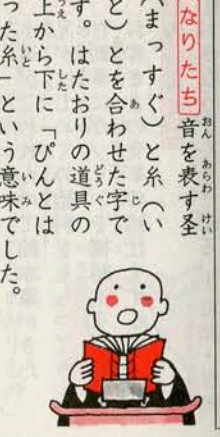
経 経 経 経 経

なりたち 音を表す且（かさねる）と糸（いと）を合わせた字です。糸を何本もかさねるようになってあんだ、「くみひも」のことを表します。

つかいかた

- ①ハワイを経てアメリカにむかう。
- ②不景気で店の経営がうまくいかない。
- ③初めて経験した、ふしぎなできごと。
- ④ちきゅうの南北の方向——経線・経度
- ⑤その場所をとる——經由・経路
- ⑥そのことをとる——経験・経歴
- ⑦おさめる。ととのえる。——経営・経済

学習 ● キョウという読みは「お経・経文」などに使われます。● 「徑（162画）」とまちがえないようにしましょう。



経 (5年・11画)

おんケイ・キョウ
く ん へ る

結 結 結 結 結

なりたち 音を表す吉（かたくしまる）と糸（いと）を合わせた字です。糸やひもを、きゅつとかたくしめることを表しました。

つかいかた

- ①ゆかたを着て、おびを結ぶ。
- ②リボンを花結びにする。
- ③がんばって走ったが結果は四等だった。
- ④ふたりはどうとう結婚した。
- ⑤子ども会が結成された。

学習 ● 「ゆう」という読みは「髪を結う」などのように使います。



結 (4年・12画)

おんケツ
く ん む す ぶ ゆ う ゆ わ へ る

素 素 素 素 素

素 (5年・10画)

おんソ・ス
く ん

なりたち 「垂」のものと形の土（たれる）と糸（いと）を合わせた字です。まゆからとりだしたままの糸が、たれているようすを表しました。

つかいかた

- ①ありのまま。かざりけがない。——素
- ②ふだんのまま——素行・素養・平素
- ③ものなるもの——素材・元素・要素

学習 ● スという読みは「素顔・素直」などのことばに使われます。● 特別な読みかたに「素人（しらひ）」があります。



細 細 細 細 細

細 (3年・11画)

おんサイ
く ん ほ そ い ほ そ る こ ま か こ ま か い

なりたち 音を表す田（こまかくわかる）と糸（いと）を合わせた字です。ほそい糸のことでした。

つかいかた

- ①きょうの月は、とても細い。
- ②病気でからだがやせ細る。
- ③細かいところまで気がつく人。
- ④キャベツを細かにきざむ。
- ⑤この土地の人は、人情が細やかだ。
- ⑥これがかかったお金の明細書です。

学習 ● 「こまかい」を「細い」と書かないこと。必ず「か」から送りましょう。



終 終 終 終 終

終 (3年・11画)

おんシユウ
く ん お わ る お へ る

なりたち 音を表す冬（たくわえる）と糸（いと）を合わせた字です。糸まきいっぱいに糸をまいた、そのはしということから、「おわり」という意味になりました。

つかいかた

- ①あすは午前中で授業が終わる。
- ②しごとを終えて家にかえる人々。
- ③終点の駅で電車をおりる。

学習 ● 「終」のように書くこともあります。



絶

(5年・12画)

おんゼツ
たえる・たやす・たつ

なりたち もとの字は絶でした。巴(きる)が音を表し、刀で糸をぶつくりときることを表しました。

つかいかた

- 登山隊からの連らくが絶える。
- いつもえがおを絶やすことのない人。
- かれとは、つきあいを絶つことにした。
- どんなことがあっても絶対に負けない。
- ボールが頭にあたって気絶する。

いみ・じゆく

- ①たちきる — 絶交・絶食・断絶・中絶
 - ②なくなる — 絶望・絶命・絶滅
 - ③かけはなれる — 絶景・絶大・絶品
- 学習「たつ」と読む字は、ほかに「断(24画)」と「裁(34画)」があります。使分け↓付録431頁。



絶

給

(4年・12画)

おんキユウ

なりたち 音を表す合(ふさぐ)と糸(いと)を合わせた字です。ほころびたところを糸でふさぐことから、「おぎなう」という意味になりました。

つかいかた

- きょうは給食の当番だ。
- 水道がこわれたので給水車がきた。
- 兄がはじめての給料をもらってきた。
- 自動車にガソリンを補給する。
- お客さまの食事の給仕をする。

いみ・じゆく

- ①おぎなう。たりさせる。— 自給・保給
 - ②あたえる。くばる。— 給付・支給・配給
 - ③あて。— 月給・高給・週給・昇給
- 学習「級(34画)」と読みがおなじです。まちがえないようにしましょう。



給

統

(5年・12画)

おんトウ
すべる

なりたち 音を表す充(ほそながくのびる)と糸(いと)とを合わせた字です。ほそ長い糸のことから「つづく」意味になりました。また、糸をよりあわせて「まとめる」意味も生まれました。

つかいかた

- 血統書つきの犬を買う。
- 郷土の伝統芸能をたいせつにする。
- アメリカの大統領の選挙がある。

いみ・じゆく

- ①ひとつづく。つながり。 — 系統・血統・正統・伝統
 - ②ひとつにまとめる。 — 統一・統計・統合・統制・統率・統治
- 学習 音読みはトウです。ジユウとまちがえないようにしましょう。



統

絵

(2年・12画)

おんカイ・エ

なりたち 音を表す会(あわせる)と糸(いと)とを合わせた字です。色のついた糸をよせ合わせて、もようをしいゆうすることから、色もようを合わせた「え」を表すようになりました。

つかいかた

- 図画の時間にリングの絵をかく。
- 父が弟に絵本を買ってきた。
- 外国からきれいな絵はがきがといた。
- 西洋の絵画をあつめた美術館。

いみ・じゆく

- え — 絵図・絵日記・油絵・ぬり絵
- 学習 カイという読みかたは「絵画」ということばにしか使いません。
- 「画(28画)」も「え」という意味ですが、「え」とは読みません。



絵

絹

(5年・13画)

おんケン
きぬ

なりたち 音を表す肩(まるいむし)と糸(いと)を合わせた字です。からだをまるくしているカイコからとる糸のこと、それからつくった「おりもの」の意味にも使うようになりました。

つかいかた

- まゆから絹糸をとる。
- 絹ごしのとうふを買う。
- 絹織物の輸出がへる。
- 絹地に日本画をかく。
- すみきった秋空に絹雲が美しい。

いみ・じゆく

- きぬ — 絹雲・絹糸・絹布・純絹・人絹・本絹
- 学習 「絹」の「肩」を「員」と書かないように気をつけましょう。



絹

続

(4年・13画)

おんゾク
つづく・つづける

なりたち 音を表す売(じつとどまる)と糸(いと)を合わせた字です。糸と糸をしつかりとむすびあわせて、つなげる意味です。

つかいかた

- きょうで一週間も晴天が続く。
- 毎朝やすまずにマラソンを続ける。
- アジアとヨーロッパは陸続きだ。
- 国鉄と私鉄が接続している駅。

いみ・じゆく

- ①つづく。つながる。 — 続出・続発・続・△継続・持続・存続・断続・連続
 - ②つづきのもの — 続編・続巻
- 学習 「つづく・つづける」をかなで書くときに、「つづく・つづける」と書かないように気をつけましょう。



続

絵 絵 絵 絵 絵 絵 絵 絵

絹 絹 絹 絹 絹 絹 絹 絹

続 続 続 続 続 続 続 続

緑 緑 緑 緑 緑 緑

なりたち 音を表す象は、木の、むいた皮がちらばるようすをえがいた字です。(糸(いと)と合わせて、皮をむいた青竹のような色にそめた糸を表します。)

つかいかた

- うす緑色の小さな芽が出た。
- おばあちゃんや緑茶が好きだ。
- 市では緑化に力を入れている。
- 緑陰で読書にふける。
- 新緑の下を散歩する。

学び ●「緑青」ということばに使われます。●形のにている字に「△縁(えん)」があります。書きまちがえやすいので注意してください。

緑 (3年・14画)

緑



線 線 線 線 線 線

なりたち 音を表す泉(こまかい)と糸(いと)とを合わせた字です。ほそい糸のことです。

つかいかた

- じょうぎを使って線を引く。
- 線路にそって道がつづいている。
- 新幹線が東京から北にのびる。
- サングラスで光線から目をまもる。
- 夕日が地平線のむこうにしずむ。

学び ●「線」は「点」のあつまりをいいます。また、「線」でかこまれた図形を「面」といいます。

線 (3年・15画)

線



編 編 編 編 編 編

なりたち 音を表す扁(たいら)と糸(いと)を合わせた字です。文字を書く、うすくて、たいらな竹のふだを糸でとじる意味でした。

つかいかた

- 毛糸でセーターを編む。
- 校歌をマーチに編曲する。
- 学級新聞をみんなで編集する。
- 夏休みに長編の物語を読む。

学び ●「編」は「編物・手編み」

- ①あむ
- ②くみあわせる
- ③本をつくる
- ④文章のひとつまとまり

「△偏(へん)」があります。

編 (5年・15画)

編



綿 綿 綿 綿 綿 綿

なりたち 音を表す綿(わた)は、綿(わた)と糸(いと)を合わせた字です。綿(わた)と糸(いと)を合わせた字で、長くつながった糸のことでした。のちに、木のせいかからとった「わた」の意味に使うようになり、字の形もかわりました。

つかいかた

- 母がふとんに綿を入れるのを手つたう。
- 夏空に綿雲がうかぶ。
- 綿織物の下着はよくあせをすう。
- 綿糸は綿花からつくりまします。

学び ●特別な読みかたに「木綿(もめん)」があります。

綿 (5年・14画)

綿



総 総 総 総 総 総

なりたち 音を表す総(あつめる)と糸(いと)を合わせた字です。なん本もの糸をたばねた、ふさのことでした。それから、「まとめる、ぜんぶ」という意味になりました。

つかいかた

- きょうは、生徒総会がある。
- ホームランで観客が総立ちになる。
- 一家総出でイネの取り入れをする。
- ことしは衆議院議員の総選挙がある。

学び ●「総」は「総合・総数・総動員・総務・総理・総力・総論」

かし千葉県が「安房・上総・下総」の三つの国からできていたためです。

総 (5年・14画)

総



練 練 練 練 練 練

なりたち 音を表す東(もと)は東(もと)と糸(いと)を合わせた字です。まゆからとったばかりの糸をよくにて、よくつながるようになる意味でした。

つかいかた

- うどんをつくるために粉を練る。
- 計画をじつくりと練り上げる。
- 放課後すぐにサッカーの練習がある。

学び ●「練」は「練達・訓練・習練・熟練・試練・洗練・老練」

- ①きたえる
- ②こねる

練りようかん・練りわさび

「△錬(れん)」(金属をきたえる)があります。

練 (4年・14画)

練



織 織 織 織 織

織

(5年・18画)

織

(5年・18画)

おん ショク・シキ
くん おる

なりたち 音を表す織

(しるしをつける)と糸(いと)を合わせた字です。糸をむすんで目じるしにすることから、糸をむすびあわせて「布をおる」意味になりました。



つかいかた

- ①ぬのをおる——織機・染織・紡織
- ②くみたてる——組織

【学習】「織」をふくむ字に、「知識」の「識」(356画)、「職業」の「職」(228画)があります。はっきり区別しましょう。

羊 羊 羊 羊 羊

羊

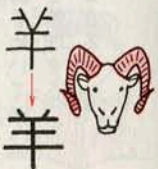
(6年・6画)

羊

(6年・6画)

おん ヨウ
くん ひつじ

なりたち つのあるヒツジのあたまの形をえがいた字です。



羊 羊

つかいかた

- ①羊の肉を焼く。
- ②羊飼いの少年が羊を追う。
- ③羊毛から毛織物をつくる。
- ④オーストラリアでは牧羊がさかんだ。
- ⑤綿羊の毛をバリカンでかりとる。

【学習】「養」(392画)などがあります。

美 美 美 美 美

美

(3年・9画)

美

(3年・9画)

おん ビ
くん うつくしい

なりたち 羊(ヒツジ)と大(おおきい)を合わせた字です。形のよい、りっぱなヒツジのことでした。



つかいかた

- ①うつくしい——美化・美人・美容
- ②すぐれている——美談・美点・美風
- ③おいしい——美食・美味

【学習】「美」をふくむ熟語の対語には、つぎのようなものがあります。「美声」↓「悪声」、「美食」↓「粗食」、「美点」↓「欠点」、「美しい」を「美しくい」などと書かないように注意しましょう。

縦

(6年・16画)

縦

績

(5年・17画)

績

縮

(6年・17画)

縮

(6年・17画)

おん ジュウ
くん たて

なりたち 音を表す徒(そろえる)と糸(いと)とを合わせた字です。もつれた糸をひっぱってまっすぐにすようすから、たてに長くつづく意味になりました。



つかいかた

- ①ふつうのカニは縦には歩かない。
- ②兄はアルプス連峰を縦走したそうだ。
- ③パイロットが操縦席にのりこむ。

【学習】「縦」の反対は「横」(24画)です。【例】縦断↓横断 「縦書き」↓「横書き」

おん セキ
くん ー

なりたち 音を表す責(ぎざぎざにつむ)と糸(いと)とを合わせた字です。たて糸とよこ糸をくみあわせて、はしがぎざぎざになるように布をおることでした。それから、しごとをしあげる意味にもなりました。



つかいかた

- ①糸をつむぐ——紡績
- ②しごと。てがら。業績・功績・実績

【学習】「面積」の「積」(302画)と、てもよくにています。書きまちがえやすい字なので、特に気をつけてください。

おん シュク
くん ちぢむ・ちぢまる・ちぢめる・ちぢれる・ちぢらす

なりたち 音を表す宿(ちぢむ)と糸(いと)とを合わせた字です。糸やひもをぎゅつとひきしめることです。



つかいかた

- ①身の縮むような、おそろしいめにあう。
- ②寒いので、足を縮めてる。
- ③かみの毛の縮れた人。
- ④この地図は縮尺が五万分の一だ。
- ⑤あしたから短縮授業になります。

【学習】「ちぢむ」をかなで書くときに、「ちじむ」と書かないようにしましょう。

羽羽羽羽羽

①鳥や虫のはね 羽毛・羽衣・白羽
 ②鳥やウサギの数をかぞえることば
 一羽・三羽・六羽

学習 「羽」と「羽根」の使い分けに注意しましょう。「羽根」は、「羽根つきをして遊ぶ」・「扇風機の羽根」のようならば、あいに使われます。

○赤い羽根の募金運動がはじまる。
 ○お年玉に羽子板を買ってもらう。
 ○羽をいためた鳥。○ミツバチの羽音。
 ○年玉に羽子板を買ってもらう。

なりたち 二枚の鳥のつばさをえがいた字です。ウという音は「上からおおう」という意味を表し、鳥のからだをすっぽりおおうはねという意味でした。



おんウ
 羽 (6年・6画)
 はねる

習習習習習

①くりかえして、身につける 習熟・習性・習得・学習・自習・予習・練習
 ②ならわし。しきたり。慣習・風習

学習 「習う」を「習らう」のように書かないよう、注意しましょう。

○この村にはめずらしい習わしがある。
 ○母はペン習字の勉強をしている。
 ○ねるまえに日記をつける習慣がつく。

なりたち 羽(はね)と白(しろ)の動作を表す(し)を合わせた字です。二枚の羽をかさね合わせることから、おなじことをくりかえす意味でした。



おんシウウ
 習 (3年・11画)
 はねる

翌翌翌翌翌

○つぎの。もう一つ先の。翌朝
 翌月・翌年・翌晩

学習 つぎのつぎという意味で「翌々日」「翌々月」「翌々年」のようにも使われます。「翌日」の反対は「前日」で、「明日」の反対は「昨日」です。

なりたち 日(ひ)と立(たつ)を合わせた「翌」という字がありました。「日」が立ちのぼる、きょうとはべつの、もう一つの日」という意味でした。のちに「つばさ」という意味の「翌」をかわりに使うようになりました。



おんヨク
 翌 (6年・11画)
 はねる

着着着着着

①きる。みにつける。着衣・着用
 ②とどく。着地・着陸・到着・不時着
 ③くつつく。着色・接着・附着・密着
 ④おちつく。着実・結着・定着

学習 「つく・つける」と読む字には、ほかに「付(43画)」、「就(140画)」があります。使い分けに付録39を。

○シャツを着る。○汽車がホームに着く。
 ○母が着物をぬう。○心を落ち着ける。
 ○一着でゴールイン。○先生が着任する。

なりたち チャクといふ音は「くつつく」という意味を表します。もと、着は着(170画)とおなじ字でしたが、今は、別の意味を表すようになりました。

おんチャク・シヤク
 着 (3年・12画)
 はなぐ



群群群群群

○あつまり。まとまり。群像・群鳥・群落・魚群・羊群

学習 形と読みのにた字に「郡(181画)」があります。注意しましょう。

○事故の現場に人が群がる。
 ○ハトの群れが公園にすみつく。
 ○ぼくの野球チームは群をぬいて強い。
 ○おまわりさんが群衆を整理する。
 ○アリの大群が道をよこぎる。
 ○高山植物の群生地。

なりたち 音を表す君(まるい)と羊(ヒツジ)を合わせた字です。たくさんさんのヒツジが、まるくあつまっているようすを表しました。

おんケン
 群 (5年・13画)
 はなぐ



義義義義義

①ただしいみち。おおやけのためにつくす気持ち。義勇・主義・信義・道義
 ②わけ。いみ。講義・語義・同義
 ③ほんらいのものでない。義手・義母

学習 「義」をふくむ字は、「かどばつている」という意味とかんけいがあります。例「議論」の「議(357画)」、「礼儀」の「儀」、「犠牲」の「儀」。

○正義のみかた。○義理の兄弟。
 ○義務をはたす。○意義のあるしごと。

なりたち 音を表す我(かどばつっている)と羊(ヒツジ)を合わせた字です。神にささげるヒツジが、きちんと形がととのっているようすを表しました。

おんギ
 義 (5年・13画)
 はねる



耕 耕 耕 耕 耕 耕 耕 耕

耕 (5年・10画)

なりたち 音を表す井(かどばったわく)と耒(すき)を合わせた字です。たんぼやはたけの土をすきでほりおこして、となりのたんぼとのさかいをくぎる、四角いわくの形をつけることでした。

つかいかた

○種まきをするために、畑の土を耕す。

○この地方は山が多いので耕地が少ない。

○日本の農耕文化は南方からつたわった。

いみ・じゆく

○たがやす 耕うん機・耕具・耕作

学習 ●「耕す」を「耕やす」のように書かないよう、気をつけましょう。

●形のなっている字に、「消△耗」の「△耗」があります。



耕 (5年・10画)

おん コウ

く ん たがやす

耳 耳 耳 耳 耳 耳 耳 耳

耳 (1年・6画)

なりたち ジという音は、やわらかいという意味を表します。やわらかいみみたぶの形をえがいた字です。

つかいかた

○ウサギの耳はなぜ長いのだろう。

○プールで耳に水がはいった。

○耳をすまして虫の声をきく。

○となりのへやの話に聞き耳をたてる。

○耳鼻科のお医者さんにかよう。

いみ・じゆく

○みみ。みみできく。——耳打ち・耳ざわり・耳鳴り・耳寄り・空耳・早耳

学習 ●「聞」「聴」など、「耳」をふくむ字は、「きく」という意味とかんけいがあります。●筆順がむずかしいので、しっかりとおぼえてください。



耳 (1年・6画)

おん ジ

く ん みみ

「者」のつくことは

漢字二字的の下に、「者」がついて人を表すことばを、集めてみました。

役人 役者 作家 運転者 運転手(士) 研究者 研究員 旅行家 旅行者 支配人 支配者

発見者 責任者 出演者 司会者 権力者 経営者 関係者 愛読者 読者 科学者 発明者 代表者 保護者

労働者 歩行者 発見者 責任者 出演者 司会者 権力者 経営者 関係者 愛読者 読者 科学者 発明者 代表者 保護者

「者」以外にも、「人・家・員・手・士」などを付けて人を表すことがあります。上の字がおなじでも、下につく字によって意味がちがってくる場合があります。気をつけましょう。

役人 役者 作家 運転者 運転手(士) 研究者 研究員 旅行家 旅行者 支配人 支配者

発見者 責任者 出演者 司会者 権力者 経営者 関係者 愛読者 読者 科学者 発明者 代表者 保護者

労働者 歩行者 発見者 責任者 出演者 司会者 権力者 経営者 関係者 愛読者 読者 科学者 発明者 代表者 保護者

「者」のつくことは

漢字二字的の下に、「者」がついて人を表すことばを、集めてみました。

役人 役者 作家 運転者 運転手(士) 研究者 研究員 旅行家 旅行者 支配人 支配者

発見者 責任者 出演者 司会者 権力者 経営者 関係者 愛読者 読者 科学者 発明者 代表者 保護者

労働者 歩行者 発見者 責任者 出演者 司会者 権力者 経営者 関係者 愛読者 読者 科学者 発明者 代表者 保護者

「者」以外にも、「人・家・員・手・士」などを付けて人を表すことがあります。上の字がおなじでも、下につく字によって意味がちがってくる場合があります。気をつけましょう。



老 (4年・6画)

なりたち かみの毛が長くてこしのまがったとしよりが、つえをついているようすをえがいたものです。

つかいかた

○母はすっかり老いてしまった。

○父は年よりも老けて見える。

○バスの中で老人に席をゆずった。

○九月十五日は敬老の日です。

○老眼鏡で見ると字が大きく見える。

いみ・じゆく

①年をとる。年をとった人。——老化・老後・老年・老母・古老・長老・養老

②よくなれていゝ。老巧・老練

学習 ●下の段の「考」を「老」と書きまちはがえないように注意しましょう。

●「老」の反対は「若(わか)い(若(若)い(若)い)」です。



老 (4年・6画)

おん ロウ

く ん おおいる・ふける

考 (2年・6画)

なりたち 音を表す考(まがる)と耂(としより)を合わせた字です。もとは、としよりのことでしたが、音のことに「究」(まがりくねるよう)に、ふかかんがえる)とおなじ意味に使われるようになりましした。

つかいかた

○なぜ母にしかられたかを考える。

○そのことなら、ばくによい考えがある。

○兄の参考書をかりて宿題をしらべる。

いみ・じゆく

①かんがえる。心のなかでおもふ。——考察・考案・再考・思考・熟考・備考

②しらべる。——考古学・考査・考証

学習 ●「孝行」の「孝」(125画)と書きまちはがえないように注意しましょう。



考 (2年・6画)

おん コウ

く ん かんがえる

者 (3年・8画)

なりたち もとは、ころの上で、たき木が火の粉をとばしてもえているようすをえがいた字です。のちに、「これ・それ」という意味の「諸」とおなじように、「ひと」や「もの」をさすことばになりました。

つかいかた

○幼い者をかわいがる。○働きの者アリ。

○クラスの人気者。○まんがの作者。

○しんせつな医者。○世界的な科学者。

いみ・じゆく

○ひと。もの。——学者・記者・業者・前者・打者・読者・両者・若者・悪者

学習 ●「物語・着物」の「物」(272画)とまちはがえやすいため、注意しましょう。

●「物」には「ひと」の意味はありません。



者 (3年・8画)

おん シヤ

く ん もの

肺 肺 肺 肺 肺 肺

○なりたち 音を表す市(二つにわかれる)と月(にく)を合わせた字です。むねの中で二つにわかれて「はい」を表します。

○つかいかた
○タバコをすう人は肺がんになりやすい。かぜをこじらせて肺炎になる。
○身体検査で肺活量の測定をする。
○一個のエンジンだけで片肺飛行をする。

いみじゆく
○はい。人のからだで、空気をすいこんだり、はいたりするところ。肺臓
○学習音はハイです。シとまちがえないようにしましょう。「肺」の「市」と「市街」の「市」とは、もとは、まったく別の字でした。



肺 (6年・9画)

肺

育 (3年・8画)

育

おんイク
くんそだつ・そだてる



なりたち 女は「子」をさかさにした形で、生まれたばかりの赤んぼうのことです。イクは「のびる」という意味を表し、赤んぼうに月(にく)がついて、背がのびることから、「そだつ」という意味になりました。

つかいかた

○夏(なつ)のつよい日(ひ)をうけてイネ(いね)が育(そだ)つ。
○卵(たまご)からかえったヒナ(ひな)を育(そだ)てる。
○体育(たいいく)の時間(じかん)に、とびばこの練習(れんしゅう)をした。

いみじゆく

○そだつ。そだてる。育児(いくじ)・育成(いくせい)・教育(きょういく)・成育(せいいく)・生育(せいよく)・発育(はついく)・保育(ほいく)・養育(よういく)・学習(がくしゅう)「木(き)をふくむ」「充実(じゅうじつ)の「充(つ)」にも、「のびる」・おおきくなる」という意味があります。

育 育 育 育 育 育

能 能 能 能 能 能

なりたち 月(にく)と匕(とう)のつづき、それに音を表すム(手)をくわえる(む)を合わせた字です。ものに人手をくわえて、「なにかをなしとげるはたらき」の意味を表します。

つかいかた
○すぐれた性能(せいせう)をもった機械(きがい)。
○郷土芸能(きょうどげいゆん)を、おとしよりから習(なら)う。
○いつか火星(かせいせい)への旅行(りょこう)が可能(か)になる。

いみじゆく
①しごとをする力(ちから)。はたらき。能力(のうりょく)・機能(きかんとく)・技能(ぎかんとく)・才能(さいのう)・知能(ちのう)・放射能(ほうしゃのう)・本能(ほんのう)
②できる。可能(かのう)・万能(ばんのう)・不能(ふのう)
③ききめ。効能(きこう)・能書き(のうがき)

学習(がくしゅう)「能(のう)をふくむ字には、「態度(たいど)の「態(たい)」「熊(くま)や「熊(くま)があります。



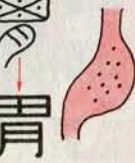
能 (5年・10画)

能

胃 (4年・9画)

胃

おんイ
くん



なりたち 月(にく)と田(た)のなかもつがふくろ(なか)の中でちらばつて(ちら)る形(かたち)とを合わせた字(じ)です。イは「まるい」という意味(いみ)で、食べたもの(たべたもの)がはいる(は)い、からだ(からだ)の中のまるい(まるい)ふくろ(ふくろ)、という意味(いみ)です。

つかいかた

○食べ(たべ)すぎて、胃(い)が苦(くる)しい。
○胃(い)カメラ(カメラ)をのんで検査(けんさ)をする。
○父(ちち)が胃(い)が痛い(いた)いよう(よう)で入院(にゅういん)した。

いみじゆく

○食べたもの(たべたもの)をこなす(こな)すところ(ところ)。い。胃液(いえき)・胃酸(いさん)・胃弱(いじやく)・胃腸(いちょう)・胃ぶくろ(いぶくろ)
○学習(がくしゅう)イ(い)という音(ね)が「まるい」という意味(いみ)をもつ字(じ)には、「周囲(しゅうい)の「囲(い)」「103」(103)があります。

胃 胃 胃 胃 胃 胃

背 (6年・9画)

背

おんハイ
くんせ・せい・そむく・そむける



なりたち 二つ(ふた)にわかれる(わか)れる)と月(にく)とを合(あ)わせた字(じ)です。北(きた)は、人(ひと)がは(は)んたい(たい)の方向(ほうこう)をむいて、せなか(なか)あわせ(あ)せに立(た)つこと(こと)を表(あら)わしました。それから、せなか(なか)・せなか(なか)をむける(む)ける」という意味(いみ)になりました。

つかいかた

○一年(いちねん)で五(ご)センチ(センチ)も背(せ)たけ(たけ)がのび(の)ぶる。
○兄(あに)と背(せ)くらべ(ら)べをする。
○背(せ)中(ちゆう)がかゆ(か)い。
○ランドセル(ランドセル)を背(せ)負(お)う。
○命(いのち)令(れい)に背(せ)く。

いみじゆく

①せなか。うしろ。背泳(はいえい)・背後(はいご)・背面(はいめん)
②しんちよう。背(せ)くらべ(ら)べ・背(せ)たけ(たけ)・上背(じやうはい)
③そむく。背信(はいしん)・背徳(はいとく)・背任(はいにん)
○学習(がくしゅう)「背負(せお)う」とおなじ意味(いみ)の「しよ」(しよ)は、かなで書(か)きます。

背 背 背 背 背 背

脈 脈 脈 脈 脈 脈

なりたち 音(ね)を表(あら)わす市(し) (こまかくわ(わ)かれる)と月(にく)とを合(あ)わせた字(じ)です。からだ(からだ)の中(ちゆう)を、ほそくわ(わ)かれてな(な)がれる血管(けっかん)のこと(こと)です。

つかいかた
○手首(てぐし)をおさ(お)えて脈(みやく)をはか(か)る。
○アルプス山脈(アルプス山脈)の雄(お)大な(大な)な(な)がめ。

いみじゆく
①血管(けっかん)。血管(けっかん)をつた(た)わる心臓(しんぞう)のひび(ひ)びき。脈動(みやくどう)・脈(みやく)はく(はく)・血脈(けつみやく)・静脈(じやうみやく)・動脈(どうみやく)
②ほそくわ(わ)く、ひと(ひと)つづ(づ)きにつな(つな)が(が)つて(て)いるもの。鉸脈(じやうみやく)・水脈(すいみやく)・文脈(ぶんみやく)・葉脈(えみやく)
○学習(がくしゅう)「脈(みやく)は水(みづ)が(が)いく(いく)す(す)じ(じ)に(に)も(も)わ(わ)か(か)れ(れ)て(て)流(なが)れる(れる)よう(よう)す(す)を(を)え(え)が(が)い(い)た(た)形(かたち)です(す)。「脈(みやく)」を(を)ふ(ふ)く(く)む(む)字(じ)には、流(なが)流(なが)派(はい)の「派(はい)」(257) (257)があります。



脈 (4年・10画)

脈

胸

(6年・10画)

おんキヨウ
く ん ね ね ね ね

胸

はねる はねる



【なりたち】音を表す凶(あな)と冫(かこむ)、それに月(にく)を合わせた字です。からだの中のほねでかこまれた、がらんとしたあなのような部分、つまり、むねのことです。

つかいかた

- けんかで胸をおされてよろめく。
- 胸いっぱい空気ですいこむ。
- 優勝への期待に胸をはずませる。
- かなしいしらせを聞いて胸がふさがる。

読み・じゆく

- ①むね 胸囲・胸像・胸部
- ②こころ 胸中・度胸
- 【学習】「むね」という読みは、「胸板・胸苦しい・胸さわぎ・胸元」などのことばに使われます。

胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸

脳

(6年・11画)

おんノウ
く ん

脳

はねる



【なりたち】凶(頭)に毛のはえたようす)と月(にく)を合わせた字です。ノウという音は「やわらかくまがる」という意味で、あたまの中の、まがったしわのある、やわらかい部分ということでした。

つかいかた

- 脳のできものを取り出す大手術。
- 脳天をなぐられてたおれる。
- おじいさんは脳出血でなくなつた。

読み・じゆく

- ①のう 脳炎・脳波・小脳・大脳
- ②こころのはたらき 脳裏・頭脳
- ③中心となる人 首脳
- 【学習】「△脳みそ」と書きまぢがえやすいので、注意しましょう。

脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳

腸

(4年・13画)

おんチヨウ
く ん

腸

はねる はねる



【なりたち】音を表す易(ながい)と月(にく)とを合わせた字です。「ながくのびたはらわた」の意味です。

つかいかた

- 腸にガスがたまつて苦しい。
- 腸チフスの予防注射をする。
- 父はいつも胃腸薬をのんでいる。
- ソーセージのことを腸つめともいう。

読み・じゆく

- ちよう。食べたものから栄養をからだのなかにとりいれるところ。胃腸・十二指腸・小腸・大腸・脱腸・直腸・△盲腸
- 【学習】「腸」をふくむ字に、「太陽」の「陽」(186画)があります。「腸」と「陽」をまぢがえないようにしましょう。

腸 腸 腸 腸 腸 腸 腸 腸

腹

(6年・13画)

おんフク
く ん はら

腹

はねる



【なりたち】音を表す復(まるくふくらむ)と月(にく)とを合わせた字です。からだのまんなかのふくらんだ部分という意味です。

つかいかた

- 食べすぎて腹がいたい。
- つまらないことで腹をたてるな。
- ねびえしないように腹巻きをする。
- 満腹で、これ以上は食べられない。

読み・じゆく

- ①おなか 腹痛・腹部・空腹
- ②まんなか 山腹・船腹・中腹
- ③こころ 腹案・腹心・腹黒い
- 【学習】「復」がフクという音を表す字には、「復雑」の「復」(342画)と「往復」の「復」(164画)があります。

臓

(6年・19画)

おんソウ
く ん

臓

はねる



【なりたち】音を表す蔵(しまいこむ)と月(にく)を合わせた字です。からだの中で、栄養分などをしまつておく、ばしよのことです。

つかいかた

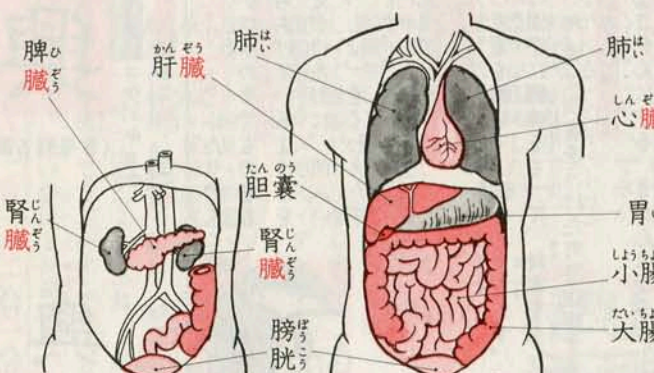
- 父は内臓の検査のために入院した。
- 急に走つたので心臓がどきどきする。
- からだの中でいろいろなはたらきをするところ 臓器・臓物

読み・じゆく

- 【学習】書くときに「月」をわすれないようにしましょう。「月」をつけないと「冷蔵庫」の「蔵」(17画)になります。
- むかしは、「心臓・肺臓・肝臓・腎臓・脾臓」の五つの内臓を「五臓」とよんで、たいせつなところと考えました。

人間の内臓

人間の内臓には、「臓」の字のつくものが多いのですが、なかには、そうでないものもあります。左の図を見てください。



舌舌舌舌舌舌

舌 (5年・6画)

なりたち 干(ぼう)と口(くち)を合わせた字です。くちからでたりはいったりする、ぼうのような形をしたものということから、この字ができました。

つかいかた

- みそしるがあつくて舌にやけどをした。
- まだ、よく舌のまわらない小さな子。
- 母のじまんの料理に舌つづみをつつ。

学び ①した 舌打ち・舌先・巻き舌
②ことば 舌戦・毒舌・筆舌・弁舌

学習 「生活」の「活」(257頁)や「一△括」の「△括」にふくまれる「舌」は、もと「舌」とは別の字でした。音のちがいに注意しましょう。



舌

舌

航航航航航航

航 (4年・10画)

なりたち 音を表す亢(まつすぐ)と舟(ふね)とを合わせた字です。ふねがまつすぐにすむことを表します。

つかいかた

- 世界一周の航海にたびだつ。
- 航空機が山の中についらくした。
- 海があれでいて、連絡船が欠航する。

学び ①船や飛行機で、水の上や空をすすむ
②航行・航続・航跡・航程・航路・回航・帰航・寄航欠航・就航・潜航・渡航・密航

学習 「航」の「舟」は、小さなふねの形を表したもので、「舟」のつく字は、「ふね」や「ふねのうきき」にかんけいがあります。



航

航

船船船船船船

船 (2年・11画)

なりたち 音を表す合(くぼみにそって水がながれる)と舟(ふね)とを合わせた字です。水のながれにしたがつてすすむ「ふね」のことです。

つかいかた

- 外国の観光客をのせた船が港にはいる。
- 船乗りシンドバッドの大冒険。
- しけで漁船がそうなんする。
- 造船所でマンモス・タンカーをつくる。

学び ①ふね 船員・船室・船体・船団・船長・汽船・貨物船・客船・下船・乗船・船底・船旅・船賃・船出・船主

学習 「△舟」は手でこぐふね、「船」はエンジンを使つてうごかすふねに、もちいられます。使い分け↓付録433頁。



船

船

自自自自自自

至至至至至至

興興興興興興

自 (2年・6画)

なりたち 「はな」の形をえがいた字です。じぶんのはなをさして、「わたし」ということがあるの、「わたし」じぶん」という意味になりました。

つかいかた

- 自らすすんでそうじ当番をひきうける。
- 美しい自然を守る。
- 自由の女神。
- 自然にふるまう。
- 自分の考えを話す。

学び ①じぶん 自己・自身・自他・各自
②じぶんから。ひとりで。自衛・自殺・自主・自習・自信・自生・自治・自転・自覚・自動・自発

学習 シンという音は「自然」ということばにしが使いません。「自然」の対語には「人工」と「不自然」があります。



自

自

至 (6年・6画)

なりたち 矢が目標の線にびたりとどくようすをえがいた字です。

つかいかた

- 「これより左一キロで山頂に至る」と道標に書いてある。
- 生徒は、至急、校庭に集まりなさい。
- 夏至の対語は冬至です。

学び ①ゆきつく。そうなる。――必ず
②このうえなく――至近・至上・至難

学習 「至」のつく字は、「どく」という意味にかんけいがあります。室Ⅱいちばんおくのへや。↓131頁。屋Ⅱはしまですつかりおや。↓141頁。倒Ⅱ頭が地面につく。例 倒立
△致Ⅱ目標の場所にとどける。例 一致
△到Ⅱまがってとどく。例 到着



至

至

興 (5年・16画)

なりたち ふたりの人が四本の手でものをもちあげているようすをえがいた形に、同(いっしょ)をくわえた字です。「いっしょに何かをする」という意味でした。

つかいかた

- 産業を興して、国をたてなおす。
- 漢字に興味をもって、辞書をしらべる。
- 地震で災害をうけた町を復興する。

学び ①さかんにする。さかんになる。――興奮・再興・復興・復興
②おもしろい――興味・復興・余興

学習 「おこる・おこす」と読む字には、ほかに、「起」(366頁)があります。使い分け↓付録429頁。



興

興

蚕蚕蚕蚕蚕蚕蚕蚕

○かいこ 蚕業・蚕糸・蚕室・養蚕

学習 ●日本語の「かいこ」は、家の中で飼うこ(小さなもの)という意味から生まれたものです。●蚕のまゆをにで作った糸(生糸)で織った布が絹です。

なりたち もとの字は蚕です。蚕(かんざし)は、かんざしがかみの毛のあいだにはいるように、「もぐりこむ」という意味を表しました。クワの葉のあいだにもぐりこんで葉をたべる虫、ということから、カイコを表すようになりま



蚕 (5年・10画)

血血血血血血血血

なりたち 血(さら)の中に、ちのかたまりを入れたようすをえがいた字です。むかしの中国では、だいいなとりきめのときに、神の前で、さらに入れたちをすすする習慣がありました。

つかいかた

- 鼻から血が出る。○血を分けた兄弟。
- 血のじむような努力。○血走った目。
- 輸血をするために血液型をしらべる。

いみ・じゆく

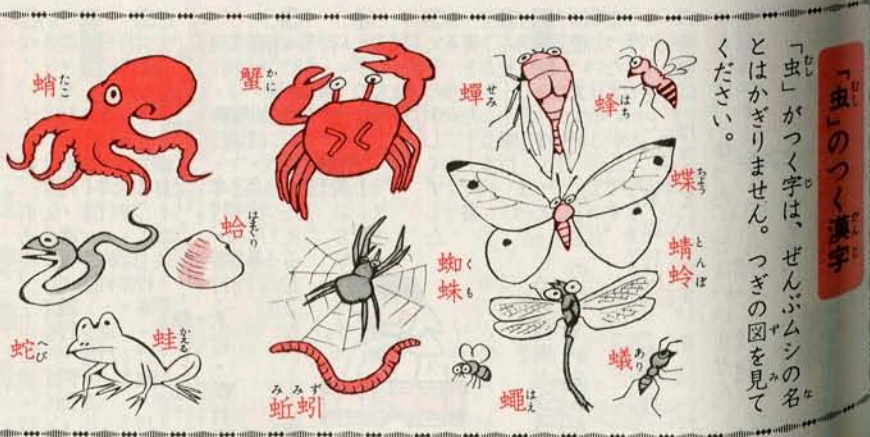
①ち。ちしお。血圧・血液・血管・血相・出血・貧血・血潮・血筋・血眼

②ちのつながり。血族・血統・混血

学習 「鼻血」をかなで書くときに、「はなじ」としないように気をつけましよう。



血 (3年・6画)



良 (4年・7画)

なりたち めかやよこれをとって、すきとおるようにつくしい、イネやムギのつぶのよすです。それから、「おいしい・よい」の意味になりました。



つかいかた

- きようはとでも天気が良い。
- 朝の散歩は健康に良い。
- 良心にはじない行動をする。
- リンゴの品質を改良する。

いみ・じゆく

○よい。すぐれている。良好・良港・良識・良質・最良・善良・不良・優良

学習 ●「良」の反対は「悪い」(193画)です。例 良妻↓悪妻「良質↓悪質」「良書↓悪書」●「善」(101画)も「よい」と読みます。使い分け↓付録433頁。

良良良良良良良良

色 (2年・6画)

なりたち ふたりの人がよりそっているすがたをえがいた字でした。それから、女の人のうつくしさや、「いろ」という意味に変わりました。



つかいかた

- 画用紙に色をぬる。○色白のはだ。
- 水色のスカーフ。○五色のテープ。
- 着色した食品。○窓の外の景色を見る。

いみ・じゆく

①いろ。色・彩・色素・色調・血色・原色・配色・変色・色合い・顔色

②ようす。異色・景色・特色・難色

学習 「色紙」を「いろがみ」と読むと、いろいろな色の紙という意味、「しきし」と読めば、絵や歌、人におくることばなどをかく厚紙のことになります。

色色色色色色色色

虫 (1年・6画)

なりたち チユウという音は、「ほそながくのびる」という意味を表します。へびのようからだをくねらせた、むしのすがたをえがいた字です。



つかいかた

- 野鳥が虫をたべる。○虫の声をきく。
- 父の虫の居所が悪くて、しかられた。
- 虫歯がいたむ。○弟は泣き虫でこまる。
- 殺虫剤をまく。○ゴキブリは害虫だ。

いみ・じゆく

①むし。ごんちゆう。虫害・寄生虫・幼虫・虫干し・虫眼鏡・毛虫・羽虫

②人をばかにしていることば。蚕(337画)のほか、「蚊」、「野蚕」の「蚕」、「金融」の「融」などがあります。

虫虫虫虫虫虫虫虫

術 術 術 術 術 術

①むかしからのやりかたにしたがったしごと——**学術**・**芸術**

②きまつたやりかた。わざ。——**医術**・**奇術**・**剣術**・**算術**・**手術**・**戦術**・**話術**

学習 「術」をふくむ字には、「著述」の「述」(173画)があります。

なりたち 音を表すボ
(きまりにしたがう)
と行(おこなう)とを
合わせた字です。きめ
られたりかたにした
がって、ものごとをする意味でした。

つかいかた
○新しい技術が**つぎつぎ**と**開発**される。
○インドから来た**大魔術団**。
○**馬術**競技は**オリンピック**の**花だ**。
○父のかくし芸は**腹話術だ**。



おんジュツ
くん

術 (5年・11画)

術 (はねる)

街 街 街 街 街 街

○大どおり。にぎやかなところ。——**街頭**・**街灯**・**市街**・**住宅街**・**繁華街**

学習 「まち」と読む字に「町」(280画)があります。 「町」は、家がたくさん集まっているところ。「街」は、にぎやかな通りです。使い分け↓付録433画。

なりたち 音を表すま
(まわりをくぐる)と
行(みち)とを合わせ
た字です。まちの中を
さちんとくぎっている
道のことでした。

つかいかた
○東京の**新宿**は、若者の**街だ**。
○**街路樹**が**すずしい**木かげをつくる。
○**駅前**の**商店街**で**買い物**をする。
○むかしの**街道**に**そって**できた**町**。



おんガイ・ガイ
くん まち

街 (6年・12画)

街 (はねる)

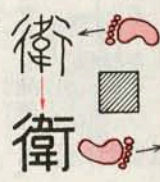
衛 衛 衛 衛 衛 衛

○まもる——**衛視**・**衛兵**・**警衛**・**護衛**・**自衛**・**守衛**・**防衛**・**門衛**

学習 「衛」を「征」と書くことがありますが、正しい書きかたではありません。

なりたち 行(ゆく)
と韋を合わせた字です。
韋は口じるしのまわり
を足がまわっている形
を表した字で、まわり
をぐるぐるまわって、**中**のものを「ま
もる」意味です。

つかいかた
○チャンピオンが**タイトル**を**防衛**する。
○スパイクを**前衛**に**ブロック**される。
○月は地球の**衛星**だ。
○歯の**衛生**に**気をつける**週間。
○首相を**護衛**する**警察官**。



おんエイ
くん

衛 (5年・16画)

衛 (はねる)

衆 衆 衆 衆 衆 衆

○おおせい。たくさんの人。——**衆人**・**衆知**・**衆目**・**聴衆**・**民衆**

学習 シュという読みは「衆生」ということばに使われます。「象」(358画)と形がにています。注意しましょう。

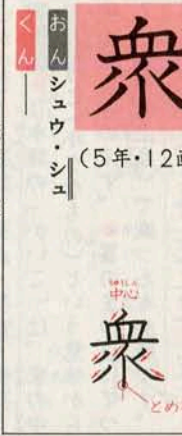
なりたち 太陽の下で
まっくろになって働い
ている、どれいたちの
すがたを表した字です。
それから、「おおせい
の人」という意味がうまれました。

つかいかた
○スタンドをうずめた**五万人**の**観衆**。
○**公衆電話**の**順番**を待つ。
○**大衆**に**支持**される**政治家**。
○おまわりさんが**群衆**を**整理**する。
○**衆議院議員**の**選挙**がある。

おんシュウ・シュ
くん

衆 (5年・12画)

衆 (はねる)



行 行 行 行 行 行

○畑の中の**近道**に行く。
○母と**デパート**に**買い物**に行く。
○正しいと思うことを**行う**。
○行いがわるいと**先生**から**注意**される。
○この道は**車の行き来**が**はげしい**。
○行く先を**母**につけて**から出かける**。
○運動会の**行進**の**練習**をする。
○父はしごとでよく**旅行**をする。
○いわれたことを**すぐに実行**する。
○宝くじを**買う人**が**行列**をつくる。
○その**番号**は**三べいじ**の**二行目**にある。

なりたち 十字路の形
をえがいた字です。コ
ウという音は「まっす
ぐ」という意味をもち、
「まっすくなみちまっ
すぐにすすむ」という意味を表します。
また、「すすむ」から、「すすんで
おこなう」という意味も生まれました。

つかいかた
①ゆく。すすむ。あるく。——**行進**・**行衆**・**急行**・**航行**・**直行**・**通行**・**同行**・**飛行**・**歩行**・**洋行**・**旅行**・**連行**

②おこなう。する。——**行事**・**行政**・**行**

△為。行動。悪行。刊行。強行。決行。現行。興行。孝行。善行。素行。断行。發行。非行。品行。暴行

③心やからだをきたえるおこない——**苦行**・**修行**・**難行**

④文字のならび——**行間**・**改行**

⑤文字の少しくずした書きかた——**行書**

⑥みせ——**銀行**

学習 「ゆく」と「いく」は同じように使いますが、「ゆく」のほうがあらたまった言いかたです。

●列車などの「**東京行**」や「**京都行**」の場合は「**ゆき**」といえます。また、「**行った**」は、「**ゆった**」とはいいません。

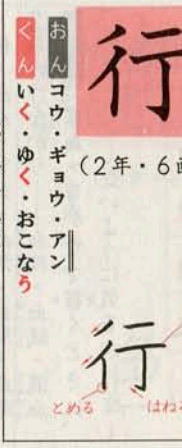
●アンという読みは、「**行火**・**行脚**」などのことばに使われます。

●特別な読みかたに「**行方**」があります。

おんコウ・ギョウ・アン
くん いく・ゆく・おこなう

行 (2年・6画)

行 (はねる)



行 行 行 行 行 行

①ゆく。すすむ。あるく。——**行進**・**行衆**・**急行**・**航行**・**直行**・**通行**・**同行**・**飛行**・**歩行**・**洋行**・**旅行**・**連行**

②おこなう。する。——**行事**・**行政**・**行**

△為。行動。悪行。刊行。強行。決行。現行。興行。孝行。善行。素行。断行。發行。非行。品行。暴行

③心やからだをきたえるおこない——**苦行**・**修行**・**難行**

④文字のならび——**行間**・**改行**

⑤文字の少しくずした書きかた——**行書**

⑥みせ——**銀行**

学習 「ゆく」と「いく」は同じように使いますが、「ゆく」のほうがあらたまった言いかたです。

●列車などの「**東京行**」や「**京都行**」の場合は「**ゆき**」といえます。また、「**行った**」は、「**ゆった**」とはいいません。

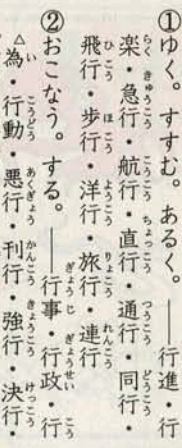
●アンという読みは、「**行火**・**行脚**」などのことばに使われます。

●特別な読みかたに「**行方**」があります。

おんコウ・ギョウ・アン
くん いく・ゆく・おこなう

行 (2年・6画)

行 (はねる)



裁 裁 裁 裁 裁 裁

裁

(6年・12画)

裁

おんサイ

なりたち 音を表す。裁(たち)と衣(ころも)とを合わせた字です。布をたちきつて、きものをつくることでした。それから、「ものごとをとりさばく」意味がうまれました。



- ① たちきる — 裁断・裁縫・断裁
 - ② さいほう — 洋裁・和裁
 - ③ とりさばく — 裁定・裁量・決裁
- 【学習】「裁」をふくむ字には、「裁培」の「裁」、「掲載」の「載」があり、ましがえないようにしましょう。

補 補 補 補 補 補

補

(6年・12画)

補

おんホ

なりたち 音を表す。補(びたり)とつく(ころも)を合わせた字です。きものやぶれたところに布をびたりとあてて、つくろうことです。



- ① 病気で休んだぶんを自習で補う。
 - ② 補欠の選手がレギュラーをめざす。
 - ③ いま話したことにちよつと補足します。
 - ④ 国の補助を受けてつくった道路。
- 【学習】「補」を「補手」と読みと形かっています。ましがえないようにしましょう。

裏 裏 裏 裏 裏 裏

裏

(6年・13画)

裏

おんリ

なりたち 衣(ころも)のあいだに、音を表す「里(すじ)」がはいった字です。むかし、たてよこのすじのある布地を、きものうらじにしたことから、「うら」の意味になりました。



- ① 切手の裏にのりをつける。
 - ② シャツを裏返しに着る。
 - ③ 事件の裏話を聞かせてもらう。
- 【学習】「裏」という読みかたは、「裏面・脳裏・表裏」などのことばに使われます。

部首の説明
衣(ころも) (衤(ころもへん))



きものえりをえがいたもので、「きもの」の意味を表します。「衣」「衤」のつく字は、「きもの」や「ぬの」にかんけいのある、いろいろの意味をもっています。おなじように「ぬの」の意味をもつ部首は「巾(はばへん)」です。形のにているものには「衤(しめすへん)」がありますが、これは「神」「祭り」の意味で、ぜんぜんちがいます。「衤」と「衤」とは、ひじょうに書きましがえやすいので、よく注意しましょう。

また、「表」「裏」の字は、それぞれ「巾(毛)」と「里」を、「衣」の字の「上」と「衣」とのあいだに入れた形の字です。

衣

(4年・6画)

衣

おんイ

なりたち 部首の説明とおなじです。



- ① 春になったので、冬物の衣服を美しいにしよう。
 - ② 衣料品のバーゲンセール。
 - ③ 白衣をきたお医者さん。
 - ④ バレーの衣装をつける。
 - ⑤ 更衣室で運動着にきかえる。
 - ⑥ 衣食住のどれも人間にはたいせつだ。
- 【学習】「衣」は「衣類・僧衣・脱衣・着衣」などということばに使われます。特別な読みかたに「浴衣」があります。

表

(3年・8画)

表

おんヒョウ

なりたち 衣(きもの)と巾(毛)を合わせた字です。けがわの外がわにきる、うわぎのことから、「おもて・あらわす」という意味になりました。



- ① おもて。そとがわ。表紙・表面
 - ② ひょう。時刻表・図表・年表
 - ③ かんがえや気もちをあらわす。表示・表彰・表明・公表
- 【学習】「あらわす」と読む字には「現」(276)もあります。「現す」はかくれていたものがすかたをみせることです。

要 要 要 要 要 要 要 要

なりたち 女(おんな)と西(こし)を両手でしめる形(かたち)を合わせた字です。女の人のくびれたこしのことから、「だいじなどころ・しめつける」という意味がうまれました。

つかいかた

- この工事にはたくさん費用が要る。
- 歩道橋をつくるように市に要望する。
- 旅行に必要な品をカバンにつめる。

いみじゆく

- ①たいせつな 要素・要点・重要
- ②もとめる いる 要求・要請・要望・強要・需要・所要・必要・不要

学習 「要件・要談」の「要(たいせつな)」と「要件・用談」の「用(しごと)のちがいに注意しましょう。」

おんヨウ
くん いる

要

(4年・9画)

要女

製 製 製 製 製 製 製 製

なりたち 音を表す制(きり)と衣(ころも)を合わせた字です。布地をきりそろえて、きものをしたてる意味でした。

つかいかた

- パルプから紙を製造する。
- 製鉄所は港の近くにつくられる。
- 新製品を宣伝する広告。
- 外国製の時計。○自家製のケーキ。

いみじゆく

- ①つくる。ととのえる。製材・製図・製糖・製氷・製本・私製・手製・特製

学習 「せいざく」という熟語には、つぎのような使い分けがあります。

製作(せいざく) 品物・機械・器具などをつくる。
制作(せいざく) 芸術作品などをつくる。

おんセイ
くん

製

(5年・14画)

製

複 複 複 複 複 複 複 複

なりたち 音を表す復(かさねる)と衣(ころも)を合わせた字です。なんまいも、着物をかさねることから、「かさねる・いくつもの」という意味になりました。

つかいかた

- この問題はときかたが複雑だ。
- だいたいな書類をコピーで複写する。
- モナ・リザの絵の複製をかざる。

いみじゆく

- ①かさなる 複合・複雑・重複
- ②二ついじよう 複眼・複式・複利

学習 「複」の反対は「単(165画)です。「複数(ふくすう)」「複線(ふくせん)」「単線(たんせん)」などになります。●「往復(おうふく)」「復(164画)と書きまちがえやすいので、注意しましょう。」

おんフク
くん

複

(5年・14画)

複

●観望の説明
見 見

なりたち 目(ひと)と人(ひと)を合わせたもので、「人(ひと)がみる」という意味を表します。

見 のつく字は、「目(ひと)はたらき」「みる」という意味にかんけいがあります。

おなじように、「目」「見る」という意味をもつ部首に、「目(めへん)」があります。

見 規 視 覚 親 覧 観

現↓玉276画。

観覧車

西 西 西 西 西 西 西 西

なりたち ぎるやかごをえがいた字でした。ぎるに入れた水がさあつとながれてなくなつてしまふように、太陽がしずむと、光やあたたかさがなくなつてしまふ方向、という意味です。

つかいかた

- 西の空が夕焼けで美しい。
- 西日があたるので、夏は暑いへや。
- 関西地方には、古い寺がおおい。
- アメリカの西部劇をテレビで見。
- おじいさんは西洋料理がきらいだ。

いみじゆく

- にし 西国・西域・西欧・西経
- 西方(せいほう) 西暦・以西・東西

学習 「西暦(せいれき)」はキリストの生まれた年を元年とする、西洋のこよみです。

おんセイ・サイ
くんにし

西

(2年・6画)

西

おんケン
くん みる・みえる・みせる

見

(1年・7画)

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた

- 屋上から遠くを見る。
- 冬の夜空は星がよく見える。

見 だ い じ に し て い る 本 を 友 だ ち に 見 せ る 。
見 覚 え の あ る 人 。 ○ あ た り を 見 回 す 。
外 か ら ま る 見 え だ 。 ○ 九 回 裏 の 見 せ 場 。
工 場 を 見 学 す る 。 ○ 意 見 を の べ る 。

いみじゆく

- ①みる 見物・見聞・一見・拝見・見通し・見習い・見本・形見・花見
- ②みえる あらわれる 発見・露見
- ③かんがえ 見解・見識・私見・政見

学習 「みる」と読む字には、ほかに「診察」の「診」があります。「見る」と「診る」の使い分け↓付録433画。

見

親 親 親 親 親 親

親 おんシン
おや・したしい・したしむ

なりたち 音を表す
(はもの)と見(みる)を合わせた字です。はものではだを切るように、みぢかにかんじることのできる人という意味です。

つかいかた
○親と子が手をつないで歩く。
○あの子は兄弟のように親しい。
○心から親しみの感じられる人。
○きょうは学校の父親参観日だ。
○こまっている人に親切にする。

いみ・じゆく
①みうち 親族・親類・近親・肉親
②おや 両親・親心・片親・母親
③したしい 親愛・親善・親密・親友

学習 「新しい(214画)」と形も読みもにしています。まちがえないでください。



親 (2年・16画)

親

覧 覧 覧 覧 覧 覧

覧 おんラン
らん

なりたち 音を表す
(監のかんたんな形)と見(みる)を合わせた字です。ランという音は「あつめる」という意味を表し、あつめたものを上からみまわすという意味でした。

つかいかた
○遊覧船にのって湖を一周する。
○ライトの観覧席にとびこむホームラン。
○万国博覧会は四年おきにひらかれる。

いみ・じゆく
①みる みまわす。 一覧・△閲覧室・回覧・縦覧・展覧会
②内容をかんたんにまとめた、うすい本 便覧・要覧

学習 「監△普」の「△監」と形がにっています。まちがえないようにしましょう。



覧 (6年・17画)

覧

観 観 観 観 観 観

観 おんカン
かん

なりたち 音を表す
(そろえる)と見(みる)を合わせた字です。「きちんとそろえたものをみる・ぜんたいをながめる」という意味です。

つかいかた
○観光バスにのる。 熱帯魚を觀賞する。
○火山を観測する。 観客が△拍手する。
○すばらしい景観。 情勢を樂觀する。

いみ・じゆく
①みる ながめる。 観察・観衆・観戦
②ようす ながめ。 偉観・美観
③かんがえ かんがえる。 念・客観・主観・人生観・悲観

学習 「飲△迎」の「△飲」(244画)、「勸告」の「勸」(80画)と読みも形もにしています。注意しましょう。



観 (4年・18画)

観

規 規 規 規 規 規

規 おんキ
き

なりたち 夫(もと)は矢(や)は、ながさをはかる道具で、それと見(みる)を合わせた字です。測量につかうコンパスのことでした。それから、「ものごとをするのに必要なきまり」という意味がうまれました。

つかいかた
○交通規則を守って運転する。
○生徒会の規約を相談してきめる。
○規模の大きな計画をたてる。

いみ・じゆく
①ものさし 定規
②きまり 規制・規程・規律・法規

学習 「現在」の「規(276画)」と形がにっています。書きまちがえないようにしましょう。



規 (5年・11画)

規

視 視 視 視 視 視

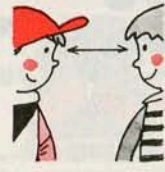
視 おんシ
し

なりたち もとの字は視です。音を表す示(まつすぐ)と見(みる)を合わせて、まつすぐに見つとみる意味を表しました。

つかいかた
○授業中、先生と視線があう。
○文部大臣が学校を視察にくる。
○ひとのいうことを無視して行動する。
○近視の反対は遠視です。

いみ・じゆく
①みる みつめる。みまもる。 視界・視角・視野・△監視・熟視・注視・直視
②おもう。みなす。 軽視・重視・敵視
③目的はたらしき 視力・近視・乱視

学習 「視」の反対は「△聴」です。例「視覚△聴覚」「視力△聴力」



視 (6年・11画)

視

覚 覚 覚 覚 覚 覚

覚 おんカク
かく

なりたち 音を表す(まじわる)と見(みる)を合わせた字です。みたり、かんじたりしたことが心の中に入りまじり、はつと気がつくことです。

つかいかた
○電話番号を覚える。 ゆめから覚める。
○すっかり慣れてはと自覚する。
○寒さで指の感覚がなくなる。

いみ・じゆく
①さとる。しる。 覚悟・自覚・不覚
②かんじる 感覚・視覚・知覚・味覚
③おぼえる 覚え書き・うる覚え

学習 「△」(まじわる)が音を表す字には「学△」(126画)があります。「榮△」(234画)や「嘗△」(165画)の「△」は、もとはちがう字でした。



覚 (4年・12画)

覚

角

(3年・7画)



おんカク
くんとく・とがす・とける

【なりたち】 どうぶつのつの形をえがいた字です。カクという音は、「かたいから」という意味を表します。「穀物」の「穀」などおなじなかまの字です。



つかいかた

- シカの角でつくったパイプ。
- あの四つ角を右へいくと駅に出ます。
- 角砂糖を紅茶にいれる。
- 火事は北の方角らしい。

いみじゆく

- ①つの—— 触角・頭角・角笛
 - ②かど。すみ。—— 角度・三角・対角線
 - ③しかくい—— 角材・角柱・角帽
- 【学習】 おすもうさんの社会を「角界」というのは、「すもう」を「角力」と書くことから、うまれたことばだからです。

角角角角角角角角

解

(5年・13画)



おんカイ・ゲ
くんとく・とがす・とける

【なりたち】 牛(うし)の角(つの)を刀(かたな)で切りはなす意味の字です。「ものをばらばらにする・かたまりをほぐす」という意味を表します。



つかいかた

- 算数の問題を解く。○なぞが解ける。
- チームが解散する。○時計を分解する。
- ニュースの解説。○弁解はゆるさない。

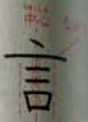
いみじゆく

- ①ばらばらにする—— 解体・解剖
 - ②とく。なくす。—— 解禁・解決・解除・解消・解任・解放・解約・和解
 - ③わからせる。わかる。—— 図解・理解
- 【学習】 ゲという読みは「解毒・解熱」などのことばに使われます。「△溶ける」との使い分け↓付録437。

解解解解解解解解

言

(3年・7画)



おんゲン・ゴン
くんとく・とがす・とける

【なりたち】 部首の説明とおなじです。



つかいかた

- 父の言うことをきく。
- ひとり言をいう。
- 泣き言をいうな。
- 弟の言い分をきく。
- 友人と言い争う。
- ふるい言い伝え。
- 言い訳を考える。
- 方言と標準語。
- 駅伝言板をみる。

いみじゆく

①はなす。口にだす。—— 言行・言明・証言・宣言・他言・断言・発言・予言
②ことば—— 言語・一言・格言・苦言・助言・片言・名言・遺言・流言
【学習】 「ことば」を「言葉」と書くのは、もともとはあて字でした。「木」という字のような「いう」は、かなで書きます。

言言言言言言言言

計

(2年・9画)



おんケイ
くんとく・とがす・とける

【なりたち】 言(ことば)と十(あつめる)とを合わせた字です。たくさんのもをひとつにあつめてつなぎあわせ、かんがえることを表します。



つかいかた

- 家から学校までの時間を計る。
- 友だちのためになるように計らう。
- 買い物のおつりを計算する。

いみじゆく

①かぞえる—— 計量・合計・集計・統計
②くわだてる—— 計画・計略・設計
③はかる器具—— 寒暖計・体温計
【学習】 「はかる」には、ほかに「測る・量る・図る・謀る・諮る」などがあります。使い分け↓付録432。●特別な読みかたに「時計」があります。

計計計計計計計計

討

(6年・10画)



おんトウ
くんとく・とがす・とける

【なりたち】 音を表す(すみまでゆきわたる)と言(ことば)を合わせた字です。どこまでもおいかけたリ、よくしらべたりする意味です。



つかいかた

- かたきを討つ。○返り討ちにあう。
- 交通安全の対策について討論する。
- 原案をみんなで検討する。

いみじゆく

①うちとる—— 討伐・征討・追討
②しらべる—— 討議・討論・検討
【学習】 「うた」と読む字には、ほかに「打球」の「打(199)」、「攻撃」の「撃」があります。打つ：くぎを打つ・ボールを打つ 撃つ：ピストルを撃つ・鳥を撃つ

討討討討討討討討

●部首の説明
言(ことば)



- 護=談話語=訪言
 - 論=認証=計
 - 諸=誤評=討
 - 講=説詞=訓
 - 謝=読試=記
 - 識=誌詩=設
 - 警=課話=許
 - 議=調誠=訳
- するどいものはものを表すしと口を合わせたもので、はものできざむように、「口」を出して、ひとつひとつはつきりいう意味を表します。「言」のつく字は、「口」のはたらきや「ことば」にかんけいする意味をもっています。



許許許許許許許許

○ゆるす。みとめる。許諾・許容。裁許・特許・認許

○ゆるす。みとめる。許諾・許容。裁許・特許・認許

なりたち 音を表す字 (きねを上下につく) と言(ことば)を合わせた字です。ことばをやりとりしているうちに、あいてのいうことをみとめる意味を表します。



許 (5年・11画) 許 (5年・11画)

訓

訓

(5年・10画)

なりたち 音を表す川(つらぬく)と言(ことば)を合わせた字です。むずかしいことがらを、ことばでくわいて、わかりやすくすることです。



訓 (5年・10画)

訳訳訳訳訳訳訳訳

あることばを、ほかのことばになおす。訳詩・訳者・訳文・直訳・△翻訳

あることばを、ほかのことばになおす。訳詩・訳者・訳文・直訳・△翻訳

なりたち 音を表す尺(ひとつひとつつなぐ)と言(ことば)を合わせた字です。語をえらんで、ひとつひとつなぎながら、あることばを別のことばになおしていくことです。



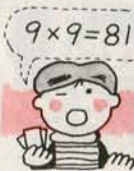
訳 (6年・11画) 訳 (6年・11画)

記

記

(2年・10画)

なりたち 音を表す己(まがったものがのびる)と言(ことば)を合わせた字です。もつれたことがらを、ことばできちんと整理することです。



記 (2年・10画)

訪訪訪訪訪訪訪訪

人のところへ行く。さがしながら行く。探訪・来訪・歴訪

人のところへ行く。さがしながら行く。探訪・来訪・歴訪

なりたち 音を表す方(左右にひろがる)と言(ことば)を合わせた字です。あちらこちらと、ものを聞いてまわることでした。のちに、「さがしまわら」という意味だけになりました。



訪 (6年・11画) 訪 (6年・11画)

設

設

(5年・11画)

なりたち もとの字はのみと及(動作を表すし)を合わせた字でした。のみをつかって、ものをこしらえる意味でした。のちに、まがえて言(ことば)がつけました。



設 (5年・11画)

証

(5年・12画)



なりたち もとの字は證しんでした。音を表す登と(あがる)と言ことば(ことば)を合わせて、目上の人にもうしあげる意味でした。それから、「うらづけのあることをいう」意味になりました。

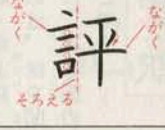
つかいかた

- 関係者の証言しんごんを信用する。
- レストランで領収証りやうしゆうしやうをもらう。

いみ・じゆく
①たしかならづけによって、はっきりさせる——証人・証明・実証・論証
②あとのしようことなる書きつけ——會員証・許可証・登録証・保険証
学習 いろはがるたの「論より証△契」は、「ことばでいうより、事実をしめしたほうがききめがある」という意味です。

評

(5年・12画)



なりたち 音を表す平へい(たいら)にならぶと言ことば(ことば)を合わせた字です。みんながあつまつたところで、いろいろな意見が出そろうことを表しました。

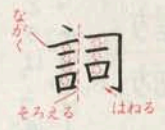
つかいかた

- 近所でも評判へいはんの働き者。
- わたしたちの劇は学会会で好評こうひやうだった。
- よい品しなを売るので定評ていへうのある店。
- 毒舌どくぜつで有名な評論家へんろんか。

いみ・じゆく
①そうだんしそうだんしにきめる——評議・評決
②ものごとのよしあしをきめる——評価・評定・評点・合評・時評・書評・総評・批評・品評会
学習 「好評」の反対語には、「不評・悪評・△酷評」などがあります。

詞

(6年・12画)



なりたち 音を表す司し(ちいさい)と言ことば(ことば)を合わせた字です。文をつくっている、ひとつひとつのことばのことです。

つかいかた

- ふしはやさしいが歌詞かしのむずかしい歌。
- 卒業式そつぎょうしきで市長しやうじやうが祝詞いのちをのべる。
- もの名なを表すことばを名詞なごしという。
- 神主かみさんが落成式らつちやうしきで祝詞いのちをあげる。

いみ・じゆく
①ことば——詞章・歌詞・作詞・祝詞
②文法で、ことばを意味や働きによって分類したもの——数詞・動詞・品詞
学習 特別な読みかたに「祝詞の」があります。「祝詞の」と「祝詞(祝うことば)」は、まったく意味がちがいます。

試

(4年・13画)



なりたち 音を表す式しき(道具をつかう)と言ことば(ことば)を合わせた字です。人をつかってみて、ことばやたいどから、どのような人物かのためす意味でした。

つかいかた

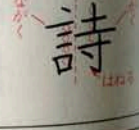
- 新品しんぴんのピアノを試みにならしてみる。
- 薬くすりのききめを試す。
- あすの試合しあひは十時からだ。
- 中学ちゅうがくの入学試験にゅうがくしけんの問題をどいてみた。

いみ・じゆく

①ためす。ほんとうにやってみる。——試験・試運転・試作・試写・試食・試練
②しけん——試問・追試・入試
学習 「試みる」を「試ろみる」「試る」と書かないようにしましょう。

詩

(3年・13画)



なりたち 音を表す寺てら(まつすぐにすすむ)と言ことば(ことば)を合わせた字です。心がなかにむかつてうごいていきもちを表したことばです。

つかいかた

- 国語の時間に詩を読んだ。
- クラスで詩集ししゅうをつくることになった。
- 詩情しじやうにとんだピアノ曲。

いみ・じゆく

○心にかんじたことを、あるちようしをもった、ことばのまとまりとして表したものを——詩作・詩人・詩文・自由詩・定型詩
学習 ●「作詩」は「詩を作ること」、「作詞」は、「歌の文句をつくること」です。「詩歌」は「しいか」とも読みます。

話

(2年・13画)



なりたち 音を表す舌した(あわせる)と言ことば(ことば)を合わせた字です。ほかの人とことばをかかわして、はなしあう意味でした。

つかいかた

- 話のうまい人。
- 母にわけを話す。
- 電話で友だちと長話ながわたりをする。
- 英会話えいごわいばをならう。
- 童話どうわを読む。

いみ・じゆく

①はなし。はなし。——話芸・話術・話題・話法・訓話・講話・対話・談話・通話
②ものがたり——神話・説話・民話
学習 「話す」という動作の意味がつよいことばでは、「はなし」の「し」を送ります。つぎのようなことばがそうです。「話し合い・話し方・話し手」。

誠

(6年・13画)

おんせい
くんまこと

なりたち 音を表す成

(まどめる)と言(ことば)を合わせた字です。「きちん」とまどまっていて、みだれたところのない、ことばやおこないのことでした。



つかいかた

- 誠実な人がらにうたれる。
- 誠意がたりないとしかられた。
- けらいが主人に忠誠をつくす。
- ことばに誠の感じられる人。

いみじゆく

○まごころ。こころやおこないにうそのないこと。誠意・誠実・誠心・忠誠。書きまぢがえないように注意しましょう。

誠誠誠誠誠誠誠誠

語

(2年・14画)

おんご
くんかたる・かたらう

なりたち 音を表す舌

(かみあう)と言(ことば)を合わせた字です。人とことばをかわしあうことでした。



つかいかた

- 楽しかった思い出を語る。
- 家族で楽しい語らいのときをもつ。
- チルチルとミチルの物語。
- 国語の教科書。○パンは外来語だ。

いみじゆく

①はなす——語気・語調・私語
②ことば——語学・語感・語源・語尾・語法・英語・外国語・敬語・言語・口語・古語・主語・述語・新語・単語・標語・文語・用語・流行語
学習 「話す」(31画)と形がにています。まぢがえないようにしましょう。

語語語語語語語語

認

(6年・14画)

おんにん
くんみとめる

なりたち 音を表す忍

(ねばりづよい)と言(ことば)を合わせた字です。人のことばを、ねばりづよく、しっかりと心にとめることです。



つかいかた

- じぶんがわるかったと認める。
- 友だちと海に行くのを父が認める。
- うわさがほんとうかどうか確認する。

いみじゆく

①はつきり知る——認識・認知・誤認
②みとめる。ゆるす。認定・公認・自認・否認・黙認
学習 「認否」は、「みとめる」と「認め」は「みとめない」という意味です。「否認」は「みとめない」という意味です。ちがいに注意しましょう。

認認認認認認認認

誤

(6年・14画)

おんご
くんあやまる

なりたち 音を表す呉

(たがいに)と言(ことば)を合わせた字です。かわしあうことばが、ゆきちがうことから、「いいまぢがう・まぢがう」というように意味がかわりました。



つかいかた

- 漢字の使いかたを誤る。
- 誤って、ハンドルを切りそこねる。
- それは、きみの誤解だ。

いみじゆく

○まぢがう。まぢがい。誤差・誤算・誤字・誤植・誤診・誤読・誤認・誤報・誤訳・誤用・正誤
学習 「あやまる」と読む字には、ほか「謝る」(35画)があります。「謝る」は「わびる」の意味です。↓付録428頁。

誤誤誤誤誤誤誤誤

説

(4年・14画)

おんせつ・せい
くんとく

なりたち 音を表す兑

(ほぐす)と言(ことば)を合わせた字です。むずかしいことがらを、ことばでときほぐして、わからせることです。



つかいかた

- 交通事故のおそろしさを説く。
- ガンの正体はビールスだという説。
- グラフで説明する。○新聞の社説。

いみじゆく

①わかりやすくはなす——説教・説得・説話・演説・解説
②いけん。考え。学説・通説・論説
③ものがたり。小説・伝説
学習 ●「建設」の「設け」(34画)とまぢがえないように。●「せい」という読みは、「遊説」ということばに使われます。

説説説説説説説説

読

(2年・14画)

おんどく・とく・とむ
くんよむ

なりたち 音を表す売

(じつととまる)と言(ことば)を合わせた字です。意味を考えながら、文章をたたくくぎって、間をおきながらよむ、ということでした。



つかいかた

- 手紙を読む。○温度計の目もりを読む。
- 新聞を拾い読みする。○詩を朗読する。
- 秋は読書の季節。○愛読している雑誌。

いみじゆく

○よむ。読者・読解・熟読・代読・通読・乱読・読み手・読み物・下読み
学習 ●読点は「、」、句点は「。」です。●トクという読みは「読本」ということばに使われます。●「詠む」は短歌や俳句をつくることに使います。

読読読読読読読読

談 談 談 談 談 談

なりたち 音を表す炭 (うすつべらな) と言 (ことば) を合わせた字です。ひらいた舌をよくうごかして、べらべらとはなすことでした。

つかいかた

- ① 運動会のプログラムを相談する。
- ② 日本の首相が外国の大統領と会談する。
- 先生が授業中ときどき雑談をする。
- テレビの座談会を見る。

いみじゆく

- ① はなす。かたる。談笑・談判・談論・談話・懇談・相談・筆談・面談・用談
- ② はなし。談話・縁談・美談・余談

学習 「対談」は、ふたりではなすことです。「座談」は、ふつう、三人以上の人がはなしかうことに使われます。



おんダン

談 (4年・15画)

なかく 読み ほん

論 論 論 論 論 論

なりたち 音を表す論 (きちんとならぶ) と言 (ことば) を合わせた字です。きちんとすじみちをたててはなすことを表します。

つかいかた

- ① なかなか結論の出ない問題。
- 議論に熱がはいる。
- 議論と行動がくいちがう。

いみじゆく

- ① すじみちをたててのべる。論究・論証・論争・論文・口論・討論・弁論
- ② 考え。いけん。異論・持論・世論

学習 「論議」議論。「論議」議論。「論議」議論。「論議」議論。「論議」議論。

「論議」議論。意味のちがいをしらべてみましょう。



おんロン

論 (6年・15画)

なかく 読み ほん

諸 諸 諸 諸 諸 諸

なりたち 音を表す者 (あつまる) と言 (ことば) を合わせた字です。ことばがおおいということから、「おおい」という意味になりました。

つかいかた

- ① 心から諸君のかつやくを期待します。
- 首相がヨーロッパ諸国を訪問する。
- その事故の原因には、諸説がある。
- ハワイ諸島は、火山島だ。
- 問題解決には諸条件の検討が必要だ。

いみじゆく

- ① たくさんの。いろいろな。諸家・諸兄・諸氏・諸事・諸派

学習 読みと形のた字に、「一△緒」の「緒」があります。書きまちがえないように注意しましょう。



おんショ

諸 (6年・15画)

なかく 読み ほん

誌 誌 誌 誌 誌 誌

なりたち 音を表す志 (しるしをつける) と言 (ことば) を合わせた字です。できごとや心におもうことを、ことばで書きとめる意味でした。

つかいかた

- ① この雑誌は、付録がすばらしい。
- ② 当番がクラス日誌をつける。
- ③ 電車の中で週刊誌を読む。
- ④ けん賞の当選者は誌上で発表します。

いみじゆく

- ① 書きしるしたものを。雑誌・日誌
- ② ざつし。機関誌・月刊誌・大衆誌

学習 「誌」(雑誌) とにた使いかたの字に「紙」(新聞紙) があります。おなじ音なので注意しましょう。例「誌上」紙上。「誌面」紙面。「機関誌」機関紙。



おんシ

誌 (6年・14画)

なかく 読み ほん

課 課 課 課 課 課

なりたち 音を表す果 (まるい木の実) と言 (ことば) を合わせた字です。はながやがて実になるように、しごとをいいつけて、そのけつかがどうなるかをみる意味を表しました。

つかいかた

- ① わりあてる。課税・課題・学課
- ② やくしよや会社のしごとの内容によるわけ。会計課・人事課・総務課
- ③ 「課目」は、学校でならうことの意味にしか使いません。「科目」は、いっくつかにわけたものの一つ一つという意味で、いろいろなばあいに使います。

いみじゆく

- ① いろいろな課目。散歩を日課にする。
- ② 放課後に校庭で遊ぶ。課長と係長。



おんカ

課 (4年・15画)

なかく 読み ほん

調 調 調 調 調 調

なりたち 音を表す周 (ゆきわたる) と言 (ことば) を合わせた字です。ことばやものごとのつりあいがとれることを表しました。

つかいかた

- ① ぐあいよくする。調整・調節・調停
- ② しらべる。たずねる。調査・調書
- ③ ものをつくる。調製・調理
- ④ ようす。快調・格調・単調・歩調

学習 「どのう・どのえる」と読む字には、ほかに「整理」の「整」(21画) があります。使い分けに付録431頁。

いみじゆく

- ① 電話番号を調べる。準備が調う。
- ② 調和のとれた人から。人口の調査。
- ③ 新調の洋服。からだの調子がよい。



おんチヨウ

調 (3年・15画)

なかく 読み ほん

警 警 警 警 警 警 警 警

なりたち 音を表す敬 (からだをひきしめる) と言(ことば)を合わせた字です。ことばで注意して、はつとからだをひきしめて、用心させることでした。

つかいかた

- 警官が交通整理をする。
- 警察が市民に協力をよびかける。
- 暴風雨警報が出た。

いみ・じゆく

- ① 気をつけさせる— 警告・警笛
- ② まもる— 警戒・警護・警備・自警・夜警
- ③ けいさつ。けいかん。— 果警・婦警

学習 「驚異」の「驚」の形がにいます。書きまちがえないように、注意してください。



おんケイ

警 (6年・19画)

敬言

議 議 議 議 議 議 議 議

なりたち 音を表す義 (かどばつてい)と言(ことば)を合わせた字です。ことばとして、はつと心を整理するために、はなしあいをするので

つかいかた

- クラス費の使いかたを議論する。
- 児童会の議長をえらぶ。
- 会議室のそうじ当番になる。
- 市会議員の選挙がある。

いみ・じゆく

- はなしあう。そうだんする。— 議案・議会・議決・議題・協議・決議・審議・争議・討議・評議・論議

学習 「講義」を「講議」と書きまちがえやすいので気をつけましょう。



おんギ

議 (4年・20画)

議

護 護 護 護 護 護 護 護

なりたち 音を表す護 (わくでかこむ)と言(ことば)を合わせた字です。わくでかこんで、外からの敵をふせぐように、ことばで人をまもる意味でした。

つかいかた

- 台風がそなえて護岸工事をする。
- 動物愛護週間が始まる。
- 看護婦さんが注射をする。

いみ・じゆく

- ① まもる— 護衛・護身・護送・警護
- ② たすける。せわをする。— 援護・看護・救護・保護

学習 「まもる」ということばは、「守る」のように、「守(127画)」を使って書きます。



おんゴ

護 (5年・20画)

護

おんコウ

講 (5年・17画)

講

なりたち 音を表す講 (つりあう)と言(ことば)を合わせた字です。じぶんのわかっていることがあいてにもわかるように、つりあいをとつてはなすことです。

つかいかた

- 入学式は講堂で行われる。
- 児童文学の作家の講演がある。
- 母は料理の講習会にでかけた。

いみ・じゆく

- おおせいの人にはなす。わかるようにはなす。— 講義・講座・講師・講談・講評・講話・受講・聴講

学習 「構造」の「構(239画)」と読みと形がにいます。書きまちがえないように注意しましょう。



おんシヤ

謝 (5年・17画)

謝

なりたち 音を表す射 (ゆるんでのびる)と言(ことば)を合わせた字です。矢をいれば弓のつるがゆるむように、ことばであやまって、はりつめたきもちがらくになることです。

つかいかた

- 二度としません、と泣いて謝る。
- 卒業生が謝恩会をひらく。
- お世話になった人に感謝する。

いみ・じゆく

- ① お礼をする— 謝意・謝礼・感謝
- ② あやまる— 謝罪・陳謝
- ③ ことわる。ことわり。— 謝絶

学習 「あやまる」と読む字には、「運転を誤る」の「誤(353画)」があります。使い分け↓付録428頁。



おんシキ

識 (5年・19画)

識

なりたち 音を表す識 (しるしをつける)と言(ことば)を合わせた字です。にているものを、ことばではっきりと区別することから、「しるし・みわける」という意味がうまれました。

つかいかた

- 町の歴史について、知識をたかめる。
- 常識では考えられないできこと。
- ボールが頭にあたって意識をうしなう。

いみ・じゆく

- しる。みわける。ものしり。— 識者・識別・学識・見識・認識・良識

学習 「識」のつく字は、「しるし・みわける」という意味とかんけいがあります。織(11糸)をむすんで目じるしにする。織(11)ものをみわける力のいるしこと。



おんケイ

警 (6年・19画)

敬言

谷

(2年・7画)



なりたち 二つのハ(わかれるるしるし)と口(くぼんだあな)を合わせた字です。あなから水がわき出て、わかれて流れていくようすを表します。



つかいかた

○つり橋の下は、ふかい谷になっている。
○谷川のせせらぎ。○ビルの谷間。

いみ・じゆく

○山と山とのあいだのひくく、くぼんだところ——峡谷・渓谷・谷底

谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷

豊

(5年・13画)



なりたち もとの字は豊です。二つの丰(とがったかたち)と山(やま)と豆(あしのあるうつわ)を合わせた字です。食器にものをやまもりにしたようすを表します。



つかいかた

○豊かにみのったイネの△穂。
○豊富な地下資源にめぐまれた国。
○ことしも米が豊作らしい。

いみ・じゆく

① たつぷりとあるようす——豊富・豊満
② のがよくとれるようす——豊年
学習 反対のことにばに、つぎのようなものがあります。「豊作」不作・凶作「豊漁」不漁。人名や地名では、「豊臣・豊橋」のように「とよ」とも読みます。

豊 豊 豊 豊 豊 豊 豊 豊

象

(4年・12画)



なりたち ゾウをえがいた字です。大きなすがたをしているものが代表になるどうぶつなので、「すがた」という意味に使われます。



つかいかた

○象の曲芸。○エジプトの象形文字。
○気象衛星を打ち上げる。

いみ・じゆく

① ゾウ——象・牙・巨象
② すがた。かたち。——印象・現象・対象
③ 目にみえないものをほかのものの形で表す。かたどる。——象形・象徴
学習 「象」をふくむ字に、「映像・想像」の「像(59画)」があります。「現象」と写真の「現像」などをまちがえないようにしましょう。

象 象 象 象 象 象 象 象

●部首の説明
貝 かい・かいへん



○二つにわかれた二枚貝をえがいたものです。むかしは貝をおかねとしてつかっていたので、「おかね」の意味を表します。
○「貝」のつく字は、「おかね」「ざいさん」「ねうちのあるたから」にかんけいのある意味をもっています。

「貝(おおい)」は形はにています。が、これは「あたま」「かお」の意味です。から注意しましょう。

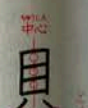
○貝 貝 貝 貝 貝 貝 貝 貝
○貝のつく字は、「おかね」「ざいさん」「ねうちのあるたから」にかんけいのある意味をもっています。
○「貝」のつく字は、「おかね」「ざいさん」「ねうちのあるたから」にかんけいのある意味をもっています。
○「貝」のつく字は、「おかね」「ざいさん」「ねうちのあるたから」にかんけいのある意味をもっています。



貝 貝 貝 貝 貝 貝 貝 貝

貝

(2年・7画)



なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた

○貝のつくだに。
○貝がら細工をおみやげにもらう。
○貝つかを見学に行く。
○ほたて貝のフライをたべる。
○ハマグリは二枚貝です。
○はまべでさくら貝をひろった。
○アワビは巻き貝のなかまだ。



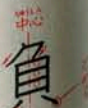
いみ・じゆく
○かい 貝細工・貝柱・貝類・赤貝・真珠貝・鳥貝

学習 「見(43画)」と形がにています。きちんと書くようにしましょう。
○「かい」の意味をもつ字には、ほかに「魚介」の「介」があります。

貝 貝 貝 貝 貝 貝 貝 貝

負

(3年・9画)



なりたち 貝(ざいさん)とク(かがんだ人)を合わせた字です。人がせなかにたくさんものをのせるようすから、「あいてにせなかをむけてにげる・まける」という意味になりました。

つかいかた

○すもうで負ける。○子どもを背負う。
○長いゲームにやっど勝負がつく。
○会費はめいめいが負担する。



いみ・じゆく
① まける——勝負・負け戦・根負け
② おう。うける。——負傷・負担・抱負

学習 「まける」という意味をもつ字には、ほかに「敗(210画)」があります。
○「負ける」を「負る」と書かないように気をつけましょう。

財

(5年・10画)

財

はわる

おんサイ・サイ

なりたち 音を表す才 (たちきる)と貝(おかね)を合わせた字です。木をどちゅうで切った材木から家ができるように、人のくらしをゆたかにするものという意味です。



つかいかた
 ○親の財産をうけつぐ。△巨額の財宝。
 ○国の財政をたてなおす。
 ○貴重な文化財を火事からまもる。
 ○財布の中には百円しかない。

いみじゆく
 ○おかねや品物など、ねうちがあり役にたつもの。財貨・財界・家財・私財。
 学習 読みと意味のた字に「材料・素材」の「材」(302画)があります。まちがえないようにしましょう。

財財財財財財財財

貧

(5年・11画)

貧

はわる

おんビン・ビン

なりたち 音を表す分 (ふたつにわかれる)と貝(おかね)を合わせた字です。おかねやざいさんが、ちりちりにわかれて、すくなくなることを表します。



つかいかた
 ○食べ物も買えないほど貧しい暮らし。
 ○貧しい経験から判断する。
 ○貧乏ぐらしもなれば平気だ。
 ○人々の貧富の差のはげしい国。
 ○朝礼のときに貧血でたおれる。

いみじゆく
 ①おかねがない。貧苦・貧困・貧民・清貧・赤貧。
 ②みすばらしい。貧弱・貧相。
 学習 「貧」の反対の意味の字は、「富」(134画)です。

貧貧貧貧貧貧貧貧

貨

(4年・11画)

貨

どめる

おんカ

なりたち 音を表す化 (すがたをかえる)と貝(かい)を合わせた字です。いろいろな品物どりかえることのできる、おかねのことです。



つかいかた
 ○十円玉は銅貨だ。
 ○輸出がさかんなので外貨がふえる。
 ○列車に貨物をつみこむ。
 ○百貨店から品物がとどく。

いみじゆく
 ①おかね。貨幣・良貨・悪貨・金貨・銀貨・硬貨・通貨。
 ②しなもの。財貨・雑貨。
 学習 「貨家」の「貨」(362画)と形がにっています。書きまちがえないように注意しましょう。

貨貨貨貨貨貨貨貨

責

(5年・11画)

責

どめる

おんセキ

なりたち 音を表す止 (ギザギザにとがる)と貝(おかね)を合わせた字です。おかねをかえさない人にとげとげしくあたることから、「せめる」意味になりました。



つかいかた
 ○なぜエラーをしたのか、と責める。
 ○悪いことをしたと自責の念にかられる。
 ○自分の責任をきちんとはたす。

いみじゆく
 ①せめる。とがめる。—— 自責・問責。
 ②しなればならぬ、とせむ。せきごん。責務・引責・重責・職責・文責。
 学習 「責」が読みを表す字に、「面積」の「積」(302画)と「成績」の「績」(322画)があります。

責責責責責責責責

貯

(4年・12画)

貯

どめる

おんチヨ

なりたち 音を表す予 (なかにおしこめる)と貝(おかね)を合わせた字です。おかねや品物を、くらのなかにたくさんつめこむことでした。



つかいかた
 ○毎月、決まったおかねを貯金する。
 ○災害にそなえて食料を貯蔵する。
 ○ひでりで貯水池の底がみえてきた。

いみじゆく
 ○ためる。たくわえる。—— 貯金・貯水池・貯蔵・貯蓄・貯木場。
 学習 に意味の熟語に「貯金」と「預金」があります。ふつう、銀行にあずけるのを「預金」といい、郵便局にあずけるのを「貯金」といいますが、「貯金」は、ただお金をためる意味でも、ひろく使われます。

貯貯貯貯貯貯貯貯

貴

(6年・12画)

貴

どめる

おんキ

なりたち 音を表す止 (とりかこむ)と貝(ざいさん)を合わせた字です。ふるしきで荷物をつつむように、たくさんのねうちのある物をあつめて、もっているようすを表します。



つかいかた
 ○こんどのは、貴い体験になるだろう。
 ○貴重品をあずける。○貴族の家から。

いみじゆく
 ①ねうちがある。貴金属・貴重。
 ②みぶんがたかい。貴公子・貴婦人。
 ③あいてをうやまうことは。貴国。
 学習 「たつ」とい「尊」(137画)があります。使い分け↓付録432。

貴貴貴貴貴貴貴貴

買

(2年・12画)



なりたち 貝(おかね)と四(あみ)を合わせた字です。あみでものをすくい取るように、おかねをはらって、それとひきかえに品物をじぶんのものにすることを表します。



つかいかた

- おかしやさんでケーキを買う。
- かんづめを買いだめしておく。
- 売りに出たとなりの土地を買い取る。
- 学校の建設用地を買収する。

いみ・じゆく

○かう——**購買**・**売買**・**買**い置き・**買**いこば・**買**い値・**買**い物

学習 「買」の反対は「売」(44画)です。つぎのような反対語があります。「**買**値・**売**値」「**買**い手・**売**り手」。

買 買 買 買 買 買 買 買

買

(5年・12画)



おんボウ

なりたち 音を表す(むりにもとめる)と貝(おかね)を合わせた字です。きけんをおかしても、もうけをえようとすることから、遠くへ行って、ものとものをとりかえること、の意味にたうようになりまし。



つかいかた

- 外国との貿易をさかんにする。
- 横浜は日本の代表的な貿易港だ。
- 貿易収支が大はばな赤字になる。

いみ・じゆく

○物と物をとりかえて、もうけをえる

貿易・貿易商・貿易風・密貿易

学習 「留」(281画)と形がにています。書きまちがえないように、注意してください。

買 買 買 買 買 買 買 買

貸

(5年・12画)



なりたち 音を表す代(かわる)と貝(おかね)を合わせた字です。おかねを人にかすと、しばらくのあいだ持ち主がかかわることから、ひろく「ものをかす」意味になりました。



つかいかた

- 友だちに本を貸す。
- お金の貸し借りはきちんとしよう。
- 貸し切りバスで遠足に行く。
- 兄弟夫婦は貸家をさがしている。

いみ・じゆく

○返してもらう約束で、少しのあいだ人に物を使わせる——**貸借**・**貸**与・**貸**貸

学習 「貸す」の反対は「借る」(56画)です。「**貸**す」を「**借**す」、「**借**りる」を「**貸**りる」と書かないようにしましょう。

貸 貸 貸 貸 貸 貸 貸 貸

賀

(5年・12画)



おんガ

なりたち 音を表す加(うえにのせる)と貝(おかね)を合わせた字です。おくりものを山のように積みあげて、人のところへおいおいに行くという意味でした。



つかいかた

- 先生から年賀状をいただいた。
- 優勝・祝賀パレードが行われた。
- 正月に皇居へ参賀に出かける。

いみ・じゆく

○よろこび、いわう 賀春・賀正・賀状・慶賀・参賀・祝賀・年賀

学習 年賀状に書くことには、つぎのようなものがあります。「賀正・賀春・迎春・新春・謹賀新年・あけましておめでとうございませう」。

賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀

費

(4年・12画)



なりたち 音を表す弗(はらいのける)と貝(おかね)を合わせた字です。ものをはらいのけるように、おかねをばっぱと使いへらすことです。



つかいかた

- 新空港の完成に長い時間を費やす。
- 費用は参加者に負担してもらおう。
- 今月はいつもより出費がおおい。

いみ・じゆく

①使つてへらす——**空費**・**消費**・**浪費**

②あることのために使われるおかね

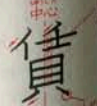
会費・学費・経費・工費・実費・食費・入費・予備費・旅費

学習 いた意味の字に「電車賃」の「賃」「バス代」の「代」、「入場料」の「料」などがあります。使い分け→213頁。

費 費 費 費 費 費 費 費

賃

(6年・13画)



おんチン

なりたち 音を表す任(かかえこむ)と貝(おかね)を合わせた字です。人にしごとをうけおわせて、おかねをしたらう意味でした。



つかいかた

- 経営がくるしくて賃金がはらえない。
- 今月分の家賃をはらう。
- 電車賃はたてかえておいてください。

いみ・じゆく

○人や品物をつかったことに対して支払うおかね 賃借・賃貸・運賃・工賃・手間賃・船賃・賃上げ・借り賃

学習 「賃金」を「賃銀」と書くこともありま。●にた意味の字に「代」(43画)、「料」(213画)、「費」(362画)があります。使い分け→213頁。

賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃

賛 賛 賛 賛 賛 賛 賛

なりたち もとの字は賛です。先(つまさき)を二つならべた形の統(そろえる)と貝(しなもの)を合わせて、人にあるとき、物をさしたことでした。それから、「たすけになるもの」という意味がうまれました。

つかいかた
 ○賛成の人は手をあげてください。
 ○賞賛の拍手がなりやまない。

いみじゆく
 ① たすける — 賛助・協賛
 ② おなじ考えをもつ — 賛意・賛同・賛否
 ③ ほめる — 賛美歌・賞賛・絶賛

学習 自分で自分をほめることを「自画自賛」といいます。「自我自賛」と書くのはあやまりです。



賛

(5年・15画)



赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤

なりたち 大(おおきい)と火(ひ)を合わせた形からできた字です。大きくもえあがつた火のいろを表します。

つかいかた
 ○赤と白の旗。○夕日が赤い。
 ○顔を赤らめる。○赤ちゃんのえがお。
 ○赤電話から電話をかける。
 ○誕生日に赤飯をたく。

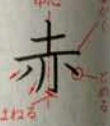
いみじゆく
 ① あか。あかい。赤外線・赤十字・赤道・赤面・赤血球・赤字・赤潮・赤信号・赤ら顔
 ② なにもない — 赤心・赤誠・赤貧

学習 シャクという読みは「赤銅色」ということばに使われます。●特別な読みかたに「真つ赤か」があります。



赤

(1年・7画)



走 走 走 走 走 走 走

なりたち 大(人のすがた)と止(あし)を合わせた字です。ソウという音は、「ちぢめる」という意味を表し、人が足をうごかして、せかせかとあるくようすから、「はしる」という意味になりました。

つかいかた
 ○ダチヨウは鳥だが、とても速く走る。
 ○走者がホーム・ベースにすべりこむ。
 ○百メートル競走で一着になる。

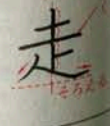
いみじゆく
 ① はしる。かける。 — 走行・走力・走路・快走・滑走・独走・暴走・力走
 ② にげる — 脱走・逃走・敗走

学習 特別な読みかたに「師走(しは)」があります。



走

(2年・7画)



資

(5年・13画)



なりたち 音を表す次(ならべる)と貝(おかね)を合わせた字です。身のまわりをそろえて、つぎつぎと役にたてる、おかねや品物のことから、「もとで」の意味になりました。

つかいかた
 ○地球上の自然資源にはかぎりがある。
 ○研究発表に必要な資料をあつめる。
 ○ぼくにはキャプテンになる資格がない。

いみじゆく
 ① もと。もとで。 — 資金・資材・資産・資本・資力・学資・出資・投資・物資
 ② うまれつき — 資格・資質

学習 音を表す「次」は、「次第」と読むときのシとおなじです。ジと読みまちがえないようにしましょう。



資 資 資 資 資 資 資

賞

(4年・15画)



なりたち 音を表す尚(びたりとあてる)と貝(おかね)を合わせた字です。てがらにびたりとあてはまるだけのおかねや品物をあたえることでした。

つかいかた
 ○このクイズ番組の賞金は百万円だ。
 ○観賞用の熱帯魚。
 ○みんなに参加賞がくばられる。

いみじゆく
 ① ほめる — 賞賛・賞状・激賞
 ② ほうび — 賞杯・賞品・啓動賞・懸賞・精動賞・入賞
 ③ ふかくあじわう — 賞味・鑑賞

学習 「受賞」は「賞をもらうこと」、「授賞」は「賞をあたえること」です。使い分けに気をつけましょう。



賞 賞 賞 賞 賞 賞 賞

質

(5年・15画)



なりたち 貝(おかね)と所(おもさがひとしい)を合わせた字です。おかねをかりるのに、それに見あうだけの物をあずけることから、「物のなかみ」という意味がうまれました。

つかいかた
 ○量より質だ。○すなおな性質。
 ○質素な生活。○質問にこたえる。

いみじゆく
 ① なかみ。もと。 — 実質・品質・物質
 ② うまれつき。もとからあるせいしつ。 — 氣質・素質・体質・特質・本質
 ③ かざりげがない — 質実・質素
 ④ 聞いてたずねる — 質疑・質問

学習 シチ・チという読みは「質屋・人質」「言質」ということばに使われます。



質 質 質 質 質 質 質

身身身身身身身身

なりたち おなかに子どもおなかに子どものいる女の人のすがたをえがいた字です。のちに、ただ、「からだ」の意味だけに使われるようになりました。

つかいかた

- 身の軽い人。○身近な人に相談する。
- さかなの切り身。○とうとい身分。
- 身長をはかる。○父は九州の出身だ。

いみじゆく

①からだ—身しん心しん身体しんたい全身ぜんしん長身ちやうしん変身へんしん満身まんしん身軽みがる中身ちゆうしん

②じぶん—身辺しんぺん自身みづかみ独身どくしん立身りっしん

学習 「身上」を「しんしょう」と読むと「さいさん」の意味になります。●「み」と読む字に「実み」(129頁)があります。



身
(3年・7画)



起

(3年・10画)

なりたち 音を表す己おん(まがったものがのびる)と走あし(あし)を合わせた字です。足をのばして、まっすぐにおさあがることを表します。



つかいかた

- 六時に起きる。○たおれた木を起こす。
- 校舎を新築する話が起こる。
- 起立の声でたちあがる。

いみじゆく

①おさる。たつ。もちあがる。起重きじゆう機き・起床きじゆう・起伏きふく・突起とつき・隆起りゆうき

②おこる。はじまる。起困きこん・起源きげん・起点きてん

③はじめる—起案きあん・起工きこう・発起人はつしきじん

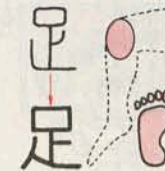
学習 「おこす」と読む字には「興」(334頁)もあります。「起こす」と「興す」の使い分け↓付録287。

起起起起起起起起

足

(1年・7画)

なりたち 人のひざからさきの部分をえがいた字です。



つかいかた

- 足をよくあらう。
- 雪に犬の足あとがつく。
- 七足す八は十五です。
- これだけお金があればなんとか足りる。
- 楽しい遠足の思い出。

いみじゆく

①あし—義足ぎそく・土足どそく・足場あしば・足元あしもと・手足あしとて

②あるく—遠足えんそく・足音あしおと・足どり・出足いしで

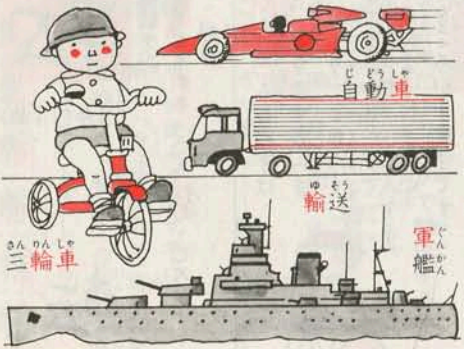
③じゆうぶんである—不足ふそく・満足まんぞく

④くわえる。たす。補足ほそく・足し算あしざん

⑤はきものを数えることば—三足さんそく

学習 「あし」と読む字には「脚」(脚)もあります。使い分け↓付録287。●特別な読みかたに「足袋」があります。

足足足足足足足足



●部首の説明
車くるまくるまへん

車

(1年・7画)

車車車車車車車車

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた

- 車のついたいす。
- 大雪のため車はとおれない。
- 時計を分解したら歯車はぐるまがでてきた。
- うっかりしてひとの口車くちぐるまにのせられる。
- 自動車を車庫くるまぐらにしまう。
- 自転車じてんしゃにのって、おつかいに行く。
- 自動車と電車が競争きさうするように走る。

いみじゆく

①くるま—車輪くるまわ・水車みづぐるま・風車かぜぐるま

②くるまのついたりもの—車窓くるまど・車道くるまどう・車両くるまどう・貨車かごぐるま・機関車きかんしゃ・客車きやくしゃ・下車げしや・乗車のりぐるま・戦車せんしや・発車はつしや・空車からぐるま・荷車にぐるま

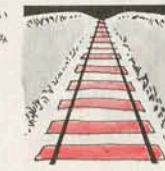
学習 特別な読みかたに「山車さんしや」があります。



路

(3年・13画)

なりたち 音を表す各おん(二つのものをつなげる)と足あし(あし)を合わせた字です。二つのばしよをつなぎ、足で



つかいかた

- 道路でボール投げをするのはあぶない。
- 線路せんろに石いしをおいてはいけない。
- 兄は進路しんろの決定けつぎにまよっている。
- 夕方、家路いえぢをいそぐサラリーマン。

いみじゆく

○みち—路上ろじやう・路線ろせん・路面ろめん・遠路えんろ・海路かいろ・街路がいじ・帰路きじ・空路くうろ・航路かうろ・水路すいじ・通路つうじ・旅路りょじ・波路はじ・山路さんじ


学習 「各」(つなげる)が読みを表す字には「省路」の「略」(282頁)や「連絡」の「絡」があります。

路路路路路路路路

輪 輪 輪 輪 輪 輪 輪 輪

なりたち 車(くるま)と
 ①わ。まわり。 — 輪△郭・年輪△首輪
 ②わかるがわる — 輪唱・輪読・輪番
 ③花をかぞえることは — 輪ざし
学習 「輸送」の「輸(下の段)や「議論」の「論(355ク)」と書きまちがえないように
 にしましょう。

輪 (4年・15画)
 おんリン
 輪 (はなぐるま) 音を表す
 (きちんとならぶ)と
 車(くるま)を合わせた
 字です。中心から外が
 わにむかって、きちん
 と、ぼうがならんだ、車
 の外がわの「わ」
 のことです。



輸 輸 輸 輸 輸 輸 輸 輸


なりたち 音を表す
 (くりぬく)と車(くる
 ま)を合わせた字です。
 あるばしょから品物を
 そっくりぬきだして、
 車でよそへはこぶ意味
 です。

つかいかた
 ○魚を各地にトラックで輸送する。
 ○牛肉を外国から輸入する。
 ○暴力団がピストルを密輸する。
 ○大きな手術には輸血が必要だ。

いみ・じゆく
 ○はこぶ。うつす。 — 輸出・運輸・空
 輸・陸輸

学習 「輸」が読みを表す字には、「輸快」の「輸」、「教諭」の「諭」があり
 ます。●「車輪」の「輪(上の段)」と書き
 まちがえないようにしましょう。

輸 (5年・16画)
 おんユ
 輸 (はなぐるま) 音を表す
 (くりぬく)と車(くる
 ま)を合わせた字です。
 あるばしょから品物を
 そっくりぬきだして、
 車でよそへはこぶ意味
 です。




辞 辞 辞 辞 辞 辞 辞 辞

なりたち 音を表す舌
 (みだれをととのえる)
 と辛(はもの)を合わ
 せた字です。はもので
 物をたちきるように、
 はつきりしたことばの
 ことです。

つかいかた
 ○父は来年、会社を辞める。
 ○入学祝いに国語辞典をもらう。
 ○総理大臣が辞職する。

いみ・じゆく
 ①ことば — 辞書・訓辞・祝辞・答辞
 ②やめる。ことわる。 — 辞退・辞任
学習 「じてん」には、つぎの三種類が
 あります。使い分けを覚えましょう。
 辞典Ⅱことばを説明したもの。
 辞典Ⅲ漢字を説明したもの。
 事典Ⅳ事ごらを説明したもの。

辞 (4年・13画)
 おんジ
 辞 (みだれをととのえる)
 と辛(はもの)を合わ
 せた字です。はもので
 物をたちきるように、
 はつきりしたことばの
 ことです。




軍 軍 軍 軍 軍 軍 軍 軍

なりたち 車(くるま)
 と「(かこむしるし)」
 を合わせた字です。戦
 争につかう兵車で、ぐ
 るりとまわりをとりか
 こんだ「じんち」のこ
 とでした。

つかいかた
 ○アリの大軍。○祖父はもと軍医だった。
 ○世界最強の軍隊。○軍備を縮小する。
 ○ぐんたい — 軍歌・軍人・海軍・進軍
 ②せんそう。いくざ。 — 軍事・従軍
 ③チーム — 巨人軍・女性軍

学習 「軍」をふくむ字は「とりまく・ま
 るい」という意味とかんけいがあります。
 運転Ⅱまるく回転する(→178ク)。
 揮Ⅱ手をぐるぐるまわす(→206ク)。
 輝Ⅱ中心のまわりにかがやく光。

軍 (4年・9画)
 おんケン
 軍 (はなぐるま) 音を表す
 と「(かこむしるし)」
 を合わせた字です。戦
 争につかう兵車で、ぐ
 るりとまわりをとりか
 こんだ「じんち」のこ
 とでした。



転 転 転 転 転 転 転 転


なりたち もとの字は
 轉で、音を表す専(ま
 るいおもり)と車(く
 るま)を合わせた字で
 す。車のようにまるい
 ものをころがす意味
 です。

つかいかた
 ○ボールが転がる。○丸太を転がす。
 ○石につまずいて転ぶ。
 ○父が転動する。○逆転のホームラン。

いみ・じゆく
 ①ころがる — 転△倒・転落・横転
 ②まわる — 転回・回転・空転・自転
 ③うつる。かわる。 — 転校・移転・急転

学習 地球が太陽のまわりをまわるのを
 「公転」、こまのように二十四時間でひ
 とまわりするのを「自転」といいます。

転 (3年・11画)
 おんテン
 転 (はなぐるま) もとの字は
 轉で、音を表す専(ま
 るいおもり)と車(く
 るま)を合わせた字で
 す。車のようにまるい
 ものをころがす意味
 です。



軽 軽 軽 軽 軽 軽 軽 軽


なりたち 音を表す舌
 (まっすぐ)と車(くる
 ま)を合わせた字で
 す。まっすぐに走る小
 がたの戦車のことから、
 「身がかるい」という
 意味に使われるよ
 うになりました。

つかいかた
 ○軽い荷物。○責任を軽くかんがえる。
 ○軽やかな足どり。○身軽な服装。
 ○軽快なリズム。○忠告を軽視する。

いみ・じゆく
 ①めかたがすくない — 軽金属・軽量
 ②ていどがちいさい — 軽傷・軽犯罪
 ③てがる。かんたん。 — 軽食・軽便
 ④かるはずみ — 軽率・軽薄

学習 「軽」の反対は「重」です。反
 対語は三七二ページを見てください。

軽 (3年・12画)
 おんケイ
 軽 (まっすぐ)と車(くる
 ま)を合わせた字で
 す。まっすぐに走る小
 がたの戦車のことから、
 「身がかるい」という
 意味に使われるよ
 うになりました。



農

(3年・13画)

農



なりたち 音を表す曲 (やわらかい)と辰(かがら)を合わせた字です。貝がらで土をやわらかくたがやして、作物をつくる意味です。

つかいかた

- 農業をおもな産業とする国。
- 農村がしだいに市街地にかわる。
- 新しい機具を採用した近代的な農場。
- 農産物の輸入。
- 農協の建物。

読み・じゆく

田畑をたがやして作物をつくること。また、それをしごとにする人。農園・農家・農芸・農耕・農作物・農地・農牧・農民・農業・農林・富農・酪農

農 農 農 農 農 農 農 農

配

(3年・10画)

配



なりたち 酉(さけ)をいれるつば)と己(ひと)がひざまずいているすがた)とを合わせた字です。人が酒つばのそばについていることから、ついたものを「わける」意味にかわりました。

つかいかた

- テストの答案用紙をみんなに配る。
- 毎朝、新聞配達をする。
- 交通事故にあわなにかと心配だ。

読み・じゆく

①くばる。わりあてる。配給・配練・配属・配置・配分・配役・集配・分配

配 配 配 配 配 配 配 配

酒

(3年・10画)

酒



なりたち 酉(さけ)をいれるつば)とシ(みず)とを合わせた字です。つばにたまったしるをしばってとった、「さけ」を表します。

つかいかた

- おじいさんは毎晩すこしお酒をのむ。
- ひなまつりで白酒をいただく。
- 酒屋さんで、おみそを買う。
- 酒気をおびて車を運転してはいけない。
- 父は日本酒より洋酒のほうがすきだ。

読み・じゆく

酒 酒 酒 酒 酒 酒 酒 酒

酸

(5年・14画)

酸



なりたち 音を表す(すらつとして)と酉(さけ)をいれるつば)を合わせた字です。物をやわらかくしたり、人のからだをすらりとさせたりする、「す」のすつばい味のことです。

つかいかた

- このうめぼしはとても酸っぱい。
- さびは金属が酸化したものだ。
- 酸味のつよいミカン。
- 炭酸ソーダのはいった清涼飲料水。

読み・じゆく

すつばい。すつばい味のする液体。酸性・酸素・胃酸・塩酸・硫酸

酸 酸 酸 酸 酸 酸 酸 酸

釈

(6年・11画)

釈



なりたち 音を表す尺(つなぐ)と采(コメ)やアワのたねをばらまく)を合わせた字です。もつれたものごとをばらばらにして、きちんとならべなおすことです。

つかいかた

- 問題の意味がよく解釈できない。
- 敵につかまった兵士が釈放される。
- 学校にみえたお客さまに会釈をする。

読み・じゆく

①ことばでよくわからせる。釈然・釈明・講釈・注釈・評釈

釈 釈 釈 釈 釈 釈 釈 釈

里

(2年・7画)

里



なりたち 田(た)と土(つち)を合わせた字です。リという音は「すじめをつける」という意味を表し、土地にきちんとすじめをつけて整理した、田畑や人の住むところを表しました。

つかいかた

- 夏休みにはいつも父の郷里に行く。
- およめにいった姉が里帰りした。
- 母をたずねて三千里。

読み・じゆく

①人の住むところ。入里・村里・山里

里 里 里 里 里 里 里 里

重

(3年・9画)



おんジュウ・チヨウ
くんえ・おもい・かさねる・かさなる

なりたち 音を表す東(つきぬける)と人(ひと)と土(つち)を合わせた字です。人が地面を足でとんとんとふむようすを表しました。からだのおもみが地面にかかることから、「おもい」という意味がうまれました。



つかいかた

- せなかのリュックサックが重い。
- 先生にしかられて気が重い。
- 校長先生が重々しい口調で話される。
- やくそくをかみならず重んじる人。
- そのしごとはぼくには重荷だ。
- 毛布にかけぶとんを重ねる。
- 寒いので重ね着をする。
- 最近うれしいことが重なる。
- 姉もわたしも二重まぶただ。
- この一年で体重が五キロもふえた。
- 個人の希望を尊重する。

量

(4年・12画)



おんリヨウ
くんはかる

なりたち 日(ひ)と重(おも)を合(あ)わせた字です。こくもつのおもさを、はかりではかることを表しました。



つかいかた

- 体重を量る。○重量あげの選手。
- 校庭を測量する。○器量のよい人。
- ①かさ。おおよさの程度。○量感・量産。雨量・計量・質量・少量・数量・水量・声量・大量・多量・適量・分量
- ②おしはかる。裁量・推量
- ③うでまえ。技量・力量

量量量量量量量量量量
「計」(347画)、「測」(262画)、「図」(104画)などがあります。使い分け↓付録432頁。

野

(2年・11画)



おんヤ

なりたち 音を表す子(のびる)と里(たんば)はたけを合わせた字です。ひろびろとよこにのびひろがった「田畑」や「のはら」のことです。



つかいかた

- 新緑にもえる野山。○野放しのウマ。
- テントで野宿する。○一面の焼け野原。
- 野球の選手。○野生のイチゴをたべる。
- ①のはら。野営・原野・山野・平野
- ②かざられた場所。視野・分野
- ③しぜんのまま。野獣・野草・野鳥
- ④政府と対立する立場。野党・在野
- 「野生」(しぜんの中でそだつ)を使い分けましょう。

野野野野野野野野野野

臨

(6年・18画)



おんリン
くんのぞむ

なりたち 臣(した)をむいた目(め)と一(ひと)と品(しなもの)を合(あ)わせた字です。人が高いところから下にあるものを見おろすことでした。



つかいかた

- ぼくの家は海に臨む高台にある。
- きょうは店は臨時休業する。
- 天皇が開会式に臨席される。
- チャンピオンとして君臨する。
- ①みおろす。したがえる。君臨
- ②その場所にたちあう。臨床・臨席
- ③そのときになる。臨時・臨終

臨臨臨臨臨臨臨臨臨臨
「臨機応変」(その場にふさわしい手段をとる)の「臨機」を、「臨期」と書くのはあやまりです。

臣臣臣臣臣臣臣臣臣臣

麦

(2年・7画)



おんバク
くんむぎ

なりたち もとの字は「あし」とを合わせた字でした。来は来のふりかたで、ムギの形をえがいた字です。ほんとうは、来が「ムギ」、麥が「くる」という意味を表す字でしたが、のちに、意味が入れかわって使われるようになりました。

つかいかた

○イネをかりとつたあとに麦をまく。

○すいとうに麦茶を入れる。

○麦飯は健康のためによい。

○麦芽はビールや水あめの原料になる。

いみ・じゆく

○むぎ 麦畑・麦踏み・大麦・小麦

学習 五月から六月ごろの麦のとり入れどきのことを、「麦秋」といいます。

麦 麦 麦 麦 麦 麦

金

「金料玉条」(たいせつにまもるきまり)、「金城鉄壁」(とてもしっかりしていること)、「一刻千金」(たくさんのおかねにもかえられない、すばらしいひととき)。「賃金」は「賃銀」とも書きますが、「賃金」のほうがふつうです。



針

①はり 針葉樹・運針・検針・短針
②すすむべきみち 指針・方針
学習 針路(船や飛行機のすすむ方向)と「進路」(人のすすんでいくみち)の使い分けに注意しましょう。ただし、「針路」は、「進路」の意味でも使います。

鉄

①てつ 鉄橋・鉄鋼・鉄棒・製鉄
②てつのようにつよい 鉄則・鉄壁
③てつどう 国鉄・私鉄・電鉄・民鉄
学習 町の看板などでは「鉄」を「金」を失うことになるとしてきらい、わざと「鉄」と書くことがあります。

針

(6年・10画)



おんシン
くんはり

なりたち 音を表す十(かさねあわせる)と金(きんぞく)を合わせた字です。布をかざねてぬいあわせる、金属のはりのことです。



つかいかた

○針のあなに糸をとおす。

○針金をペンチで切る。

○これからの方針をかんがえる。

いみ・じゆく

○はり 針葉樹・運針・検針・短針

○すすむべきみち 指針・方針

学習 針路(船や飛行機のすすむ方向)と「進路」(人のすすんでいくみち)の使い分けに注意しましょう。ただし、「針路」は、「進路」の意味でも使います。

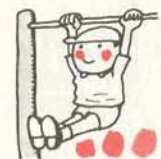
鉄

(3年・13画)



おんテツ
くん

なりたち もとの字は鉄で、音を表す戔と金(きんぞく)を合わせた字です。戔は、「まつすぐにつきとおる」という意味も表し、よく切れて、ものをつきとおす金属のことです。



つかいかた

○鉄はさびやすい。○鉄製のはいざら。

○鉄筋の建物。○鉄道が開通する。

○あいてより先に点をとるのが鉄則だ。

いみ・じゆく

①てつ 鉄橋・鉄鋼・鉄棒・製鉄

②てつのようにつよい 鉄則・鉄壁

③てつどう 国鉄・私鉄・電鉄・民鉄

学習 町の看板などでは「鉄」を「金」を失うことになるとしてきらい、わざと「鉄」と書くことがあります。

金

(1年・8画)



おんキン・コン
くんかね・かな

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた

○金の、のべぼう。

○道でお金をひろう。

○金使いのあらい人。

○「ベニスの商人」は金貨しの話だ。

○金目のものをどろぼうにとられる。

○金物屋でのこぎりを買う。

○ハンドバッグの金具がこわれる。

○金あみのやぶれから犬がではいりする。

○ドアにかけ金をとりつける。

○カバンの留め金をつけかえる。

○金色のコイが池に泳いでいる。

○金属製の食器。

○テレビを現金で買う。

○金星にむけてロケットを打ち上げる。

○金曜日(祝日)なので飛び石連休だ。

○法隆寺の金堂を見学する。

○黄金をうめたという伝説のある山。

鉦

(5年・13画)

鉦

とめる



なりたち 音を表す広と金(きんぞく)を合わせた字です。広はもとは廣と書き、きいろい光という意味をふくみます。光をはなつ金属をふくんだ石という意味でした。

つかいかた

- 日本は鉦物資源にめぐまれていない。
- ウランの鉦脈が発見された。
- すっかりさびれてしまった炭鉦の町。

読みかた

○しぜんのままの手をくわえていない金属
属 鉦業・鉦産物・鉦石・鉦泉・鉦毒・鉦鉦・鉦鉦・採鉦・選鉦・鉄鉦石
学習 「炭鉦」(石炭をふくんだ地層のあるところ)と「炭坑」(石炭をほりだすためのあな)を区別しましょう。

鉦 鉦 鉦 鉦 鉦 鉦 鉦 鉦

銀

(3年・14画)

銀

おる



なりたち 音を表す良(じつととまる)と金(きんぞく)を合わせた字です。いつまでもさびないで、もとの色をとどめている金属の意味です。

つかいかた

- 銀のおぼん。○銀色にかがやく機体。
- 見わたすかぎり一面の銀世界だ。
- 銀行にお金をあずける。

読みかた

①ぎん。ぎんいろ。銀河・銀髪・水銀
②おかね 銀行・貨銀
学習 「銀座」という地名は、江戸時代に「銀貨をつくる役所」のあったことからできました。「銀座」は東京でいちばんにぎやかだったところなので、「○○銀座」というところが各地にできました。

銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀

銅

(5年・14画)

銅

とめる



なりたち 音を表す同(つきとおる)と金(きんぞく)を合わせた字です。やわらかくて、あなをあけるのにべんりな金属のことです。

つかいかた

- 三位の選手が銅メダルをもらう。
- 公園に銅像が立っている。
- 青銅の花びんを記念におくられる。
- 古墳から銅剣がでた。

読みかた

○どう 銅貨・銅器・銅鉦・銅山・銅線・銅版・黄銅・金銅・赤銅色
学習 「銅」は赤い色をしているので、むかしは「あかがね」ともいいました。おなじようないいかたに、「しろがね」(銀)、「くろがね」(鉄)などがあります。

銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅

銭

(5年・14画)

銭

とめる



なりたち 音を表す戔(ちいさい)と金(きんぞく)を合わせた字です。金属でできた、土をけずりとるちいさなへらのことから、へらの形をした、ちいさな銅貨の意味になりました。

つかいかた

- 金銭のあつかいをしんちょうにする。
- ふろやのことを銭湯ともいう。
- 店員がつり銭をまちがえる。
- 小銭を用意してパスにのる。

読みかた

①おかね 悪銭・古銭・さい銭・身銭
②おかねのたんい。一円の百分の一。一銭銅貨
学習 「戔」が読みを表す字には、ほか「浅」(258画)があります。

銭 銭 銭 銭 銭 銭 銭 銭

録

(4年・16画)

録

はねる



なりたち 音を表す录(けずりとる)と金(きんぞく)を合わせた字です。銅でつくったものの表面をけずって、文字をほりつけることです。

つかいかた

- 気温の変化を学級日誌に記録する。
- 学校放送の番組を録画する。
- さまざまな本が付録についていた。
- 出版社の目録からほしい本をさがす。

読みかた

①かきしるす。おさめて、あとにのこす
録音・録画・採録・収録・登録・住所録・△抄録・要録 議事録・語録・学習 「新録」の「録」(321画)とていいます。注意してください。

録 録 録 録 録 録 録 録

鋼

(6年・16画)

鋼

とめる



なりたち 音を表す岡(かたい)と金(きんぞく)を合わせた字です。かたくてじょうぶな金属の意味を表します。

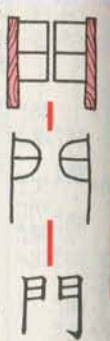
つかいかた

- 鉄鋼は日本の重要な輸出品だ。
- ルビーやサファイアなどの鋼玉。
- 鋼のように、強くて、しなやかな筋肉。
- なんども火にとおして、かたくきたえあげた鉄。はがね。鋼管・鋼材・鋼板・製鋼・特殊鋼・△軟鋼
- 学習 「岡」(かたい・つよい)が音を表す字には、つぎの字があります。
鋼網……綱引き・横綱
鋼……綱力・強剛。




読みかた

鋼 鋼 鋼 鋼 鋼 鋼 鋼 鋼

部首の説明
門 もんがまえ




左右二まいのとびらのついた門をえがいたものです。
 ●「門」のつく字は、門の種類(関など)や状態(閉・開など)にかんけいのある意味をもっています。
 ●門 閉 開 閉 開 閉 開 閉 開
 ●問 ↓ 口 100 穴

なりたち 部首の説明とおなじです。
つかいかた
 ●門のところどで列れる。
 ●校門から生徒が出てくる。
 ●テレビでテニスの入門講座をみる。
 ●事故の原因を専門家が調査する。
 ●卒業生の門出を祝う。


いみじゆく
 ①でいりぐち 門番・正門・門口
 ②いえがら 一門・名門
 ③おなじ先生のおしえをうけたなかま 門下・門人・門弟・同門・破門
 ④くわけ 専門・部門
 ●学習 同じ音の「問」とまちがえなないようにしましょう。とくに「専門」「専門」としないように注意しましょう。



なりたち 門(もん)とオ(せきとめる)を合わせた字です。ヘイという音は「びたりとくつつく」という意味で、門をびたりとしめることです。

つかいかた
 ●窓を閉める。 ●電車のドアが閉まる。
 ●目を閉じる。 ●かたく口を閉ざす。
 ●閉会のことは。 ●暑さに閉口する。


いみじゆく
 ①しめる。ふさぐ。閉門・閉閉・閉閉・閉閉・閉閉・閉閉・閉閉・閉閉
 ②やめる。おわりとする。閉校・閉校・閉校・閉校・閉校・閉校・閉校・閉校
 ●学習 ●「閉」の反対は「開(380頁)」です。例「閉会」→「開会」「閉店」→「開店」。「締める」と読む字には「引き締める」の「締」があります。使い分け↓付録430頁。



なりたち 音を表す鏡(はつきりとくぎる)と金(きんぞく)を合わせた字です。ものの形をはつきりとうつしだす、「銅のかがみ」のことでした。


つかいかた
 ●鏡の前で、おけししようをする。
 ●鏡のようにしずかな湖面。
 ●この間に鏡もちをかざる。
 ●おじいさんは虫眼鏡で新聞を読む。
 ●入学祝いに天体望遠鏡を買ってもらう。
 ●顕微鏡でチョウの羽を観察する。

いみじゆく
 ①かがみ 鏡台・三面鏡・手鏡
 ②レンズ 拡大鏡・双眼鏡
 ●学習 特別な読みかたに「眼鏡」があります。




なりたち ながいかみの毛をした老人がたっているすがたをえがいた字です。それから、「としうえ・かしら・すぐれる」などの意味がうまれました。

つかいかた
 ●日本でいちばん長いトンネル。
 ●長い間あわなかつたおじが上京した。
 ●うちのおじいさんは気が長い。
 ●ひもを、てきとうな長さに切る。
 ●長らくお待たせしました。
 ●長たらしい話にあきあきする。
 ●ストの解決が長引く。
 ●このおかしは長持ちします。
 ●細長い顔の人。
 ●時計の長針と短針がかさなる。
 ●ぼくはクラスでいちばん身長が高い。
 ●わたしは三人姉妹の長女です。
 ●子犬がすくすくと成長する。



いみじゆく
 ①ながい 長期・長時間・長身・長短・長編・長方形・長命・長雨・長生き・長い・長ぐつ・長そで・長年・長話・気長・手長ザル
 ②のびる。のばす。延長・助長・生長
 ③すぐれている 長所・特長
 ④としうえ 長男・長老・年長
 ⑤かしら 上にたつ人 長官・委員長・院長・駅長・園長・会長・議長・市長・社長・船長・団長・編集長

学習 ●「長」をぶくむ字は、「手帳」の「帳(149頁)」、「主張」の「張(160頁)」など、「ながい・のびる」という意味とかんけいがあります。
 ●「長い」の反対は「短い」です。
 ●「長期」→「短期」「長時」→「短時間」「長所」→「短所」「長編」→「短編」「長命」→「短命」。
 ●「ながい」を「永い」と書くことがあります。「永い別れ」のように、時がかりなく続く、というばあいに限ります。



閣閣閣閣閣閣閣

なりたち 音を表す各(かたい)と門(もん)を合わせた字です。とびらをおさえておく、かたいの意、味でした。それから、大きな門のある、「りつばな建物」の意味になりました。

つかいかた
 ○修学旅行で京都の金閣寺に行く。
 ○内閣を代表して総理大臣が演説する。
 ○閣議できまったことを発表する。

いみじゆく
 ①りつばな建物——天守閣・仏閣・楼閣
 ②大臣のいる役所。大臣のあつまり。
 閣僚・組閣・倒閣・入閣

学習 「閣下」は、りつばな建物にすんでいる、身分のたかい人をうやまういいかたです。



閣 (6年・14画)

おんカク

集集集集集集集

なりたち 准(とり)と木(き)を合わせた字です。木の上にたくさんのとりがあつまるとうです。

つかいかた
 ○人が集まる。○代金を集める。
 ○きょうの夕方、映画の集いがある。
 ○駅前八時に集合してください。
 ○思い出にのこる卒業文集をつくる。

いみじゆく
 ①あつめる。あつまる。——集会・集金
 集計・集結・集団・集中・集配・群集・結集・採集・特集・募集
 ②あつめたもの——歌集・詩集・全集

学習 「准」はずんぐりした、とりのすがたをえがいた字です。「准」をふくむ字は、「とり」という意味にかんけいがあります。



集 (3年・12画)

おんシュウ

雑雑雑雑雑雑雑

なりたち もとの字は裸でした。ネ(ころも)と集(あつめる)を合わせて、いろいろの色をとりませた布という意味でした。

つかいかた
 ○デパートは買い物客で混雑した。
 ○ラジオに雑音がある。
 ○この雑誌はマンガがおもしろい。
 ○元日に雑煮をたべる。

いみじゆく
 ①いりまじる——雑種・雑然・複雑
 ②いろいろの。こまごまとした。
 貨・雑記帳・雑件・雑費・雑務・雑用
 ③たいせつでない——雑草・雑木林

学習 特別な読みかたに「雑魚」があります。



雑 (5年・14画)

おんザツ・ゾウ

開開開開開開開

なりたち 門(もん)と开(そろう)を合わせた字です。左右のとびらがそろってひらくことを表します。

つかいかた
 ○花のつぼみが開く。○ドアが開く。
 ○富士山の山開き。○カーテンを開ける。
 ○団地ができて町が開ける。
 ○鉄道が開通する。○ゲームを開始する。

いみじゆく
 ①ひらく——開放・公開・打開・満開
 ②はじめる——開演・開会・開業・開店・開幕・再開
 ③ひらける——開運・文明開化
 ④きりひらく——開墾・開拓・開発

学習 「明く・空く・開く」の使い分けは、四二八ページにあります。



開 (3年・12画)

おんカイ

間間間間間間間

なりたち むかしの字は間です。門のとびらのあいだから、月ののぞいて見えるようすをえがいた字です。ものとの「あいだ」という意味です。

つかいかた
 ○ドアの間に指をはさむ。
 ○やつのことで電車に間に合った。
 ○あすの時間をそろえる。
 ○それは世間の人に笑われる。

いみじゆく
 ①あいだ——間隔・間食・間接・期間・空間・月間・週間・中間・人間・年間・夜間・間引き・谷間・晴れ間
 ②へや——間取り・貸間・客間・茶の間

学習 「関係」を「間係」と書きまちはがえないように注意しましょう。



間 (2年・12画)

おんカン・ケン

関関関関関関関

なりたち 音を表す关(つらぬく)と門(もん)を合わせた字です。かんぬきをとおして門をしめ、通行する人をしらべるところの意味です。

つかいかた
 ○ぼくはその事件となんの関係もない。
 ○入学試験の難関を突破する。
 ○玄関にだれかが来たらしい。
 ○大関が平幕力士にまける。

いみじゆく
 ①人ではいりをしらべるところ——関税・関門・税関・関所
 ②たいせつなところ——関節・機関
 ③かかわる——関係・関心・関知・関連

学習 「関東・関西」という地名は、むかしの関所からみた言いかたです。



関 (4年・14画)

おんカン

雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪

おんセツ
くみ ゆき

なりたち ヨは替(ほうき)をかんとんにした形です。雨(あめ)と合わせて、空からふつてきて、地上をほうきではききよめたように、きれいにするもの、という意味を表しました。

つかいかた
○夜にはいつて雨が雪にかわった。
○校庭で雪合戦をする。
○ことは初雪の降るのがおそい。
○大雪のため、除雪車を走らせる。

いみ・じゆく
①ゆき—雪害・雪原・新雪・積雪・雪国・雪景色・雪だるま・粉雪・小雪
②そそぐ。ぬぐう。—雪辱

学習 特別な読みかたに「雪△崩れた・△吹雪△」があります。



雪

(2年・11画)



雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

おんウン
くみ くも

なりたち 音を表す云(もやもやとこもる)と雨(あめ)を合わせた字です。もやもやとたちこめて、あめをふらせる「くも」を表します。

つかいかた
○まっくらな雲が空をおおう。
○雨になりそうな雲行きだ。
○水平線に入道雲がうかぶ。
○雲海のむこうに富士山が顔を出す。

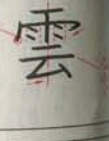
いみ・じゆく
○くも—雲量・星雲・積乱雲・風雲・雷雲・雲隠れ・雨雲・流れ雲・綿雲

学習 「くもる・くもり」を漢字で書くときは、「曇天」の「曇」を使って「曇る・曇り」のように書きます。「曇る・曇り」と書かないようにしましょう。



雲

(2年・12画)



電 電 電 電 電 電 電 電

おんデン
くみ でん

なりたち 音を表す電(いなびかり)と雨(あめ)を合わせた字です。あめがふるときに、かみなりといっしょにひかる「いなずま」のことです。

つかいかた
○電気でうごく機械。○電話をかける。
○電車ごっこで遊ぶ。○電報を打つ。
○懐中電灯の電池をいれかえる。

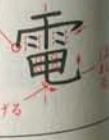
いみ・じゆく
①いなびかり—電光・△雷電
②でんき—電圧・電気・電球・電子・電信・電波・電流・電力・感電・発電
③でんしゃ—国電・市電・都電
④でんぼう—外電・公電・祝電・打電

学習 「雷雨」の「雷なり」と形にしています。まちがえないようにしましょう。



電

(2年・13画)



難 難 難 難 難 難 難 難

おんナン
くみ かい・むずかしい

なりたち 佳(とり)と莫(もえる)を合わせた字です。火のような色をしたとりのことでしたが、火事のように、ふつてわいたくるしみ、という意味に使うようになりました。

つかいかた
○難しいことを辞書でしらべる。
○交通事故にあうなんて、とんだ災難だ。
○難問の解決に頭をなやます。

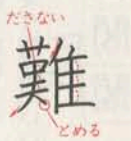
いみ・じゆく
①わざわい。くるしみ。—苦難・困難
②むずかしい—難航・難題・難病

学習 「かたい」という読みは「理解し難い人物」のように使われますが、ふつうはかな書きです。「難しい」を「難かしい」と書かないように。



難

(6年・18画)



雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨

おんウ
くみ あめ・あま

なりたち 部首の説明とおなじです。

つかいかた
○夕方から雨になる。
○雨降りつづきで、いやになる。
○雨具を用意してかける。
○小雨ならば運動会は行うことにします。
○瀬戸内海地方は雨量が少ない。
○台風の間近で風雨がたまる。

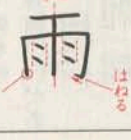
いみ・じゆく
○あめ—雨期・雨天・豪雨・晴雨・梅雨・雷雨・雨足・雨音・雨雲・雨戸・雨水・雨宿り・雨風・大雨・長雨

学習 「小雨・春雨」のように、「さめ」という読みかたをすることばに注意しましょう。特別な読みかたに「五月雨・時雨・梅雨」があります。



雨

(1年・8画)



非非非非非非非非

つかいかた
 ○少年の非行をふせぐ。○非常識な考え。
 ○きょうは非常に暑い。○非公式の発表。
いみ・ごまへん
 ① 正しくない。非難・非礼・是非
 ② ほかにことばの上について、うちけす意味を表す。非人情・非能率・非力
学習 「非合理」と「不合理」、「非情」と「無情」のように、「不(44音)」や「無(268音)」とも、意味がにている。ちがいをくらべてみましょう。

なりたち とりのはねが右と左にわかれて反対のほうをむいているようすをえがいた字です。それから、「そむく・そうでない」という意味がうまれました。

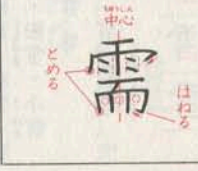


非 (5年・8画)
非
非

需

(6年・14画)

おんジュ



なりたち 雨(あめ)と而(ねばる)を合わせて、ものがぬれてねっとりすることを表しました。それから、心のなかであれこれとなやみ、決心がつかないで、だれかのさしずすを「まちのぞむ」意味になりました。



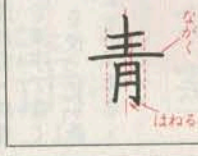
つかいかた
 ○レジヤ用品の需要がふえる。
 ○台風の災害地へ生活必需品を送る。
いみ・ごまへん
 ○ほしいとおもう。いりようだ。需給・軍需・特需・民需
学習 「需要(じょうよう)」の反対は「供給(あたえる)」です。「需給」はその二つを合わせて、必要なものを買うこと、それをつくって売ることを表します。

需需需需需需需需

青

(1年・8画)

おんセイ・シヨウ



なりたち もとの字は青で、音を表す円(いど)と生(せい)を合わせた字です。いどの中のすみきつた水のようにあおい、草の芽のいろです。



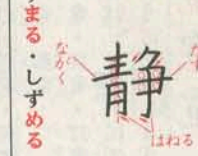
つかいかた
 ○青い空に白い雲。○信号が青にかわる。
 ○青葉をわたる風。○ほがらかな青年。
いみ・ごまへん
 ① あおい。青果・青写真・青竹・青物
 ② としがわかい。青春・青年
学習 「清潔」の「清(せい)」(261音)、「晴天」の「晴(はれ)」(222音)など「青」をふくむ字は「すみきつた」という意味とかんけいがあります。●シヨウという読みは「緑青」などということばに使われます。●特別な読みかたに「真つ青」があります。

青青青青青青青青

静

(4年・14画)

おんセイ・ジヨウ



なりたち 音を表す争と青(あお)を合わせた字です。いどの中のおおく、すんだ水のように、じつと動かないことを表します。



つかいかた
 ○先生の話を静かに聞く。
 ○はげしかった風が夜になって静まる。
 ○たかぶつた気もちを静める。
 ○温泉で静養する。○静脈に注射を打つ。
いみ・ごまへん
 ○しずか。うごかない。おちついてる。
 静観・静座・静止・静粛・静物・安静・鎮静・平静・冷静
学習 「しずめる」と読む字には、「沈没」の「沈」と「鎮痛」の「鎮」があります。使い分け→付録430。

静静静静静静静静

面 (3年・9画)
面
面

なりたち 人のかおのそとがわを線でぐるりとかこんだようすを、えがいた字です。「わぐでかこんだ平たい部分・かおをある方向にむける」という意味に使われるようになりました。



面面面面面面面面

つかいかた
 ○おにの面をかぶってママをまく。
 ○かれは意外にやさしい面がある。
 ○ぼくの家は国道に面している。
 ○入院中のおじいさんに面会に行く。
 ○正面からとった写真。
 ○ホームドラマには食事の場面が多い。
 ○かれの言うことも一面では正しい。
 ○校庭にはバレーコートが二面ある。
 ○父にいて、わたしも面長な顔だちだ。
 ○悲痛な面持ちの負けたチームの選手。
 ○よろこびが面にあらわれる。
 ○矢面にたつて非難をうける。

学習 「おもて」と読む字には、ほかに、「表(340音)」があります。「紙の表と裏」のように、「外がわ」の意味にひろく使います。

① かお。面前・面目・赤面・洗面・覆面・面影・面立ち・細面
 ② かおをあわせる。あう。面識・面接・面談・対面・直面
 ③ もののそとがわ。面積・海面・外面・画面・月面・地面・水面・断面・表面・平面・裏面・路面
 ④ むぎ。ほうこう。正面・全面・側面・他面・方面
 ⑤ ひらたくて、うすいもの。紙面・書面・図面・文面
 ⑥ ひらたいものをかぞえることば。三면記事・三面鏡
 ⑦ かおにつけるおめん。仮面・能面・防毒面

学習 「おもて」と読む字には、ほかに、「表(340音)」があります。「紙の表と裏」のように、「外がわ」の意味にひろく使います。



面面面面面面面面

頂 頂 頂 頂 頂 頂 頂

「なりたち」音を表す予
(まっすぐにあたる)
と頁(あたま)を合わせ
た字です。からだの線
とまっすぐにまじわる、
あたまの上のぶぶんのことです。

① 頂上からの展望がじつにすばらしい。
○富士山の頂が雲のあいだからのぞく。
○一年じゅう雪を頂くヒマラヤの山々。
○おとなりからお赤飯を頂く。

② あたまにのせる。おし頂く

③ 「飲む」のていねいな、または、へりく
だつた言いかたを表します。例 頂き物。
お茶を頂きます



おんチヨウ
くんいたたく・いただき

頂 (6年・11画)

頂

順 順 順 順 順 順 順

「なりたち」頁(あたま)
と川(かわ)を合わせ
た字です。川のみずが
ひくいほうにながれる
ように、「すなおにお
あたまをさげる」意味でした。

① すなおにしたがう。順応。温順。
② つごうよくすすむ。順境。順風。
③ じゅんばん。順位。順延。順次。順
序。順路。五十音順。筆順。道順

④ 「巡回」の「巡る」と読みと意
味がにっています。まちがえないように注
意しましょう。



おんジュン
くん

順 (4年・12画)

順

預 預 預 預 預 預 預

「なりたち」音を表す予
(のばす)と頁(あ
たま)とを合わせ
た字です。人がすぐに
ものごとをしまつしな
いで、さきへのばして、おあずけにして
おくことです。

① 子どもを保育園に預ける。
○ たのまれた品物を一時預かる。
○ 毎月、銀行に預金する。

② あずける。預金。預託

③ 「あずける」を「預ける」、「いただく」
を「預く」などとしないうちに注意しま
しょう。○ 「預金」と「貯金」のちがひ
↓貯(361頁)。



おんヨ
くんあずける・あずかる

預 (5年・13画)

預

革

(6年・9画)

革

「なりたち」動物のかわ
をはがして、びんとは
つてかわかしているよ
うすをえがいた字です。
なまのかわに手をくわ
えることから、「ものごとをあたらしく
する」意味がうまれました。

① なめしたかわ。皮革・革ぐつ
② かえる。あらためる。革命・変革

③ 革新政党が選挙で勢力をのばす。
○ 牛革のグローブを買ってもらう。



おんカク
くんかわ

革 (6年・9画)

革

音

(1年・9画)

音

「なりたち」言(げん)
の口のぶぶんが甘(ふ
くむ)になった形から
できた字です。言(は
つきりした発音)にた
いして、口の中でもごもごいってまだ外
に出ない、のどから出るおとのことです。

① おと。音響。音色。音速。音読。
音波。音量。雑音。防音
② こえ。音声。子音。表音。母音
③ 漢字の中国での発音が日本にはいつて
へんかした読みかた。音読み・字音
読み

④ 「音読み」の反対は「訓読み」で
す。「訓(348頁)」も見てください。



おんオン・イン
くんおと・ね

音 (1年・9画)

音

部首の説明
頁 おおがひ



● 人のあたまを、つよめてえがいた
もので、「あたま」「かお」の意味を表
します。
● 「頁」のつく字には、あたまや首
すじの動作にかんけいのあるものが
多くあります。
● ほかに「月(にくづき)」も、体の
器官・部分にかんけいのある意味を
もっています。
● 「貝(かいへん)」は形がにています
が、これは「おかね」の意味です。
● 書きまちがえないようにしましょう。
類 頂 順 預 頭 題 額 顔

頂上 頂上
預金 預金
額 額

領

(5年・14画)

領

なりたち 音を表す令(すつきりする)と頁(あたま)を合わせた字です。あたまのぶぶん、すつきりと目だつ、くびすじのことです。



つかいかた
 ○日本は人口に比べて領土がせまい。
 ○領収書をだいにしにしまつておく。
 ○なにをするにも要領のわるい人。

いみ・じゆく

- ①おさめる―領海・領地・領有・△占領
 - ②うけとる―領収・受領
 - ③中心になる人―首領・大統領・頭領
 - ④たいせつなことがら―△綱領・要領
- 学習** 音を表す「令」は「冷たい」「△鈴すし」などに使われますが、リョウと読むのは「領」だけなので注意しましょう。

領領領領領領領領

頭

(2年・16画)

頭

なりたち 音を表す豆(じつと立つ)と頁(あたま)を合わせた字です。からだの上でじつとまつすぐに立っている、「あたま」のぶぶんの意味です。



つかいかた

○頭をなぐられる。○頭のいい人。
 ○頭痛がする。○小学校の教頭さん。
 ○ブラウスのもので頭文字をぬいとる。
 ○公園には数百頭のシカがいる。

いみ・じゆく

- ①あたま―頭上・頭脳・頭部・石頭
 - ②上に立つ人―頭取・船頭・番頭
 - ③もののはじめ―先頭・年頭・△冒頭
 - ④大きな動物をかぞえることば―頭数
- 学習** トという読みかたは「音頭」ということばに使われます。

頭頭頭頭頭頭頭頭

題

(3年・18画)

題

なりたち 音を表す是(まつすぐ)と頁(あたま)とを合わせた字です。「まつすぐなひたい」の意味から、「いちばんまえにかかげる見だし」という意味になりました。



つかいかた

○作文の題名を考える。
 ○友だちといっしょに宿題をやる。
 ○この問題は、わりあいかんたんだ。
 ○学校で遠足のことが話題になった。

いみ・じゆく

- ①みだし―題字・題名・題目・表題
 - ②もんだい―課題・出題・難題・例題
 - ③ことがら―議題・主題・本題・話題
- 学習** 「問題は三題あった」のように問題の数を表すばあいにも使います。

題題題題題題題題

額

(5年・18画)

額

なりたち 音を表す客(かたい)と頁(あたま)を合わせた字です。かたくひらたいほねのある、「ひたい」のぶぶんを表します。



つかいかた

○熱があるので額をぬれタオルでひやす。
 ○ネコの額ほどのせまい底。
 ○応接間の額の絵をとりかえる。
 ○使った金額を計算する。○多額の税金。

いみ・じゆく

- ①ひたい―富士額
 - ②がく―額縁・△掲額
 - ③お金や品物の分量―高額・差額・産額・少額・税額・全額・総額・半額
- 学習** おおぜいの人が集まって相談することを「額をあつめる」といいます。

額額額額額額額額

顔

(2年・18画)

顔

なりたち 音を表す彦(かどばって)と頁(あたま)を合わせた字です。くつきりとかどばったひたいのことから、「かお」の意味を表します。



つかいかた

○△井戸水で顔を洗う。
 ○学校に行く道でいつも顔を合わせる人。
 ○はずかしくて顔向けができない。
 ○父は胃が弱いせいか顔色がよくない。
 ○顔面にボールがあたる。

いみ・じゆく

- かお―顔色・紅顔・洗顔・童顔・顔たち・顔つき・顔ぶれ・顔負け・顔役・新顔・素顔・泣き顔・似顔絵・真顔
- 学習** 特別な読みかたに「笑顔」があります。

顔顔顔顔顔顔顔顔

類

(4年・18画)

類

なりたち もとの字は類です。音を表す類(おなじものがかさなる)と犬(イヌ)を合わせた字です。犬にはた



つかいかた

○親類の家へ遊びに行く。
 ○あの店は品物の種類がたくさんある。
 ○日本とイギリスは類似点が多い。

いみ・じゆく

- ①なにかま―類別・衣類・貝類・魚類・書類・人類・鳥類・同類・分類
 - ②にている―類型・類人猿・類推
- 学習** 「類似」の反対の意味のことは「相違」です。

類類類類類類類類

願

(4年・19画)



おんガ
んねがう

なりたち 音を表す原(まるい)と頁(あたま)を合わせた字です。まるいあたまでことでした。が、きまじめに考えた意味に変わり、それから「ものごとをねがう」意味になりました。

つかいかた

- 試合に勝てるように心で願う。
- ことしもしよろしくお願いします。
- ひつこしのため、転校願を出す。
- 入学試験の願書を出す。

願 願 願 願 願 願 願 願

いみじゆく
①ねがう。のぞむ。たのむ。願望・志願・宿願・出願・請願・念願・悲願
②神や仏にいのる。願力・祈願
学習のぞんでいたとおりになることを願ったりかなったりといっています。

飛

(4年・9画)



おんヒ
くとぶ・とはす

なりたち ヒという音は「二つにわかれる」という意味を表します。鳥が左右につばさをひろげてとぶすがたをえがいた字です。



つかいかた

- 都会の空をハトが飛ぶ。
- 紙で飛行機をおって飛ばす。
- 子どもが急に道路に飛び出す。
- 自動車の輸出が飛躍的にのびる。

いみじゆく

とぶ 飛脚・飛球・飛散・雄飛・飛び石・飛び入り・飛び箱・飛び火
学習 ●筆順のむずかしい字です。しつかりおぼえましょう。●とびはねるの意味の字に「跳躍」の「跳」があります。「とぶ」の使い分け↓付録431頁。

飛 飛 飛 飛 飛 飛 飛 飛

風

(2年・9画)



おんフウ・フ
んかせ・かぎ

なりたち 音を表す凡(ふるえる)と虫(むし)を合わせた字です。むかしの中国人は、空気がぶるぶるとふるえるとかげがおきる、とおもっていました。春になってあたたかいかげがふくと、地面から虫がはいだしてそだつことから、この字ができました。

つかいかた

- きょうは朝から風が強くふいている。
- このへやは風通しがよい。
- 火事のときは風上におわかってにげる。
- はげしい雨風になやまされる。
- 追い風を受けてヨットがよくはしる。
- 風景画をいれた額がかかっている。
- 若者の風俗はどんどんかわる。
- ことは台風がまだこない。
- 日本は季節風の変化の強い地域にある。
- 犯人は季節風の男ということだ。

食

(2年・9画)



おんシヨク・ジキ
んくう・くらう・たべる

なりたち へ(あつめるし)と、う(つわにもった)はんと、ヒ(さじ)を合わせた字です。ものをたべるところを表します。



つかいかた

- ネコが魚を食う。○大目玉を食らう。
- 弁当を食べる。○イヌに食いつかれる。
- 軽い食事をとる。○食後に薬をのむ。

いみじゆく

①たべる 食堂・食品・食欲・食料・給食・試食・主食・朝食・副食
②太陽や月がかけること 月食・日食
学習 ●「食」をふくむ字は、たべることやたべものにかんけいがあります。●ジキという読みは「断食」ということばなどに使われます。

食 食 食 食 食 食 食 食

いみじゆく

- ①かせ 風雨・風車・風雪・風船・風速・風力・寒風・強風・春風・突風・暴風・風下・風見・風当たり・川風・北風・潮風・そよ風・夜風
 - ②ならわし やりかた 風習・風俗・家風・古風・作風・書風・美風
 - ③しぜん 風景・風光・風土・風物
 - ④おもむき 風雅・風流・風情
 - ⑤ようす 風格・風紀・風潮
 - ⑥うわさ 風説・風評・風聞
 - ⑦とおまわしにいう 風刺
 - ⑧らししい 現代風・洋風・和風
- 学習 ●ひとのいうことを心にためずに聞きながし、ききめのないことを「馬耳東風」といいます。また、おなじ意味の言いかたに「馬の耳に念仏」があります。
- フという読みかたは「風情」ということばなどに使われます。
- 特別な読みかたに「風邪」があります。

風 風 風 風 風 風 風 風

飲

(3年・12画)



おんイン
んのむ

なりたち 欠(人が口をあけているようす)と食(たべる)とを合わせた字です。おなかをすかせた人が、口をあけて、ものをのみこむようすを表します。



つかいかた

- のどがかわいたので水を飲む。
- なにかつめたい飲み物がほしい。
- この川の水は飲料水にはむかない。
- 暴飲暴食をしないように気をつけよう。

いみじゆく

○のむ 飲酒・飲食・飲用・飲み薬・飲み水・立ち飲み
学習 ●「あいての条件をのむ」「あいてをのんでかかる」のような「のむ」は、かなで書くのがふつうです。

飲 飲 飲 飲 飲 飲 飲 飲

駿

(4年・18画)

おんケン・ゲン

なりたち 音を表す食(あつめる)と馬(ウマ)を合わせた字です。

もとは、ウマのなまえでしたが、「検」(あつめてしらべる)とおなじ意味に使われるようになりました。



【つかいかた】
○理科の時間に、ふりこの実験をする。
○兄は自動車運転の实地試験をうけた。
○先生が戦争の体験を話してくれた。
【おんギョ】
○ためす。しらべる。 験算・経験・試験・実験・受験・体験
【学習】
○「検査・探検」の「検」(238画)と書きまちがえやすいので、注意しよう。
○ゲンという読みかたは「霊験」ということばに使われます。

魚

(2年・11画)

おんギョ

なりたち さかなのなたちをえがいた字です。

【つかいかた】
○魚をつりに行く。
○魚を焼いて食べる。
○魚屋さんで、おさしみをかう。
○朝早くから魚市場に仕入れに行く。
○熱帯魚を水そうでかう。



【おんギョ】
○さかな 魚群・魚肉・魚類・深海魚・人魚・養魚場・川魚・小魚・白魚

【学習】
○「魚」のつく字は、さかなのなまえを表しますが、「鯨」だけはちがいます。おかしな人はクジラをさかなだとおもっていました。
○「漁業・漁船」などの「漁」(265画)を「魚業・魚船」と書きまちがえないようにしましょう。
○「お酒のさかな」はかなで書きます。

骨

(6年・10画)

おんコツ

なりたち 骨(かんせつ)と月(からだ)を合わせた字です。

「ほね」の意味になりました。



【つかいかた】
○鉄棒から落ちて、うでの骨を折る。
○新校舎の骨組みができた。
○骨おしみしないで働く。
○筋肉たくましいレスリングの選手。
【おんチヨウ】
○庭に鳥が来る。
○小鳥が林の中でさえずっている。
○シャツをぬいだら鳥はだがつた。
○コウモリは鳥類ではない。

鳥

(2年・11画)

おんチヨウ

なりたち おのながい鳥のかたちをえがいた字です。

【つかいかた】
○庭に鳥が来る。
○小鳥が林の中でさえずっている。
○シャツをぬいだら鳥はだがつた。
○コウモリは鳥類ではない。



【おんチヨウ】
○どり 益鳥・害鳥・保護鳥・野鳥・鳥目・海鳥・水鳥・渡り鳥

【学習】
○「鳥」のつく字は、とりの名やとりの性質を表します。「どり」を表す字には、ほかに「隹」(ふるどり)があります。「集」(381画)の「学習」をみてください。
○「どりのからあげ」のように、にわたりの肉を表すときは、かなで書きます。

高

(2年・10画)

おんコウ

なりたち たかみはらしのよい、たかいたてものをえがいた字です。

【つかいかた】
○高い山にのぼる。
○高い熱が出る。
○反対の音が高まる。
○教養を高める。
○背の高さをくらべる。
○高めのボールを打つ。
○高らかに歌う。
○高台にある家。
○高速で車を運転する。
○最高のできばえ。
○姉は高校生だ。



【おんコウ】
① たかい 高音・高価・高官・高原・高山・高地・高度・高率・高潮・声高
② ていごうえ 高位・高級・高等
③ すぐれる けだかい 高貴・高潔
④ おかねや物のおおき 売上高・残高
【学習】
○「高」の反対は「低」(48画)です。例「高速」対「低速」「高気圧」対「低気圧」



魚と鳥の名を漢字で書くと
魚や鳥の名は、ふつう、かな書きですが、漢字で書くと、つぎのようになります。

黒黒黒黒黒黒黒黒黒黒

なりたち もとの字は黒です。下で火をもやして、えんとつにすすがついたようすをえがいた字です。すすの色から、「くろい」という意味を表します。

つかいかた

- 黒と白のぶちの犬。
- 入学式に黒いスーツを着た母親たち。
- 真っ黒に日やけた子ども。
- 事故の現場は、黒山の人だかりだ。
- 黒板にらくがきをしてしかられる。

読み・じゆん

- くろい 黒人・黒点・黒白・暗黒・黒潮・黒土・黒星・黒幕・黒目

学習 入るお金が、出るお金よりもおおいことを「黒字」といいます。その反対は「赤字」です。

おんコク
くろくろくろくろい

黒 (2年・11画)

歯歯歯歯歯歯歯歯歯歯

なりたち もとの字は歯です。まえばのならんだかたちと音を表す止(とまる)を合わせて、食べ物をかんでとめる「は」の意味を表します。

つかいかた

- 食事のあとに歯をみがく。
- 歯医者にかよって虫歯をなおす。
- 歯切れのいい話しかた。
- 永久歯がぜんぶはえそろう。

読み・じゆん

- は 歯科・歯石・乳歯・歯ぐき・歯車・歯ならび・入れ歯・奥歯・金歯

学習 「歯が立たない(あいてが強すぎてかなわない)」という言いかたがあります。「刃が立たない」と書くのはまちがいです。

おんシ
くんは

歯 (3年・12画)

鼻鼻鼻鼻鼻鼻鼻鼻鼻鼻

なりたち 音を表す昇(くつつく)と自(はなのかたち)を合わせた字です。せまいくつついた穴から、いきをとおす「はな」の意味です。

つかいかた

- ゾウが鼻で材木をはこぶ。
- ゴルフで優勝したので父は鼻が高い。
- かぜをひいて鼻水がとまらない。
- 耳鼻科の病院にかよう。

読み・じゆん

- はな 鼻息・鼻歌・鼻紙・鼻声・鼻先・鼻筋・鼻血・小鼻・目鼻

学習 もとは「自」だけで「はな」の意味を表しましたが、「自」が「じぶん」の意味に使われるようになってから、この字ができました。

おんピ
くんはな

鼻 (3年・14画)

鳴鳴鳴鳴鳴鳴鳴鳴鳴鳴

なりたち 鳥(とり)と口(くち)を合わせた字です。とりがくちで「なく」ことを表します。

つかいかた

- カナリアがきれいな声で鳴く。
- サイレンが鳴る。○口ぶえを鳴らす。
- 耳鳴りがする。○悲鳴がきこえる。

読み・じゆん

- ①なく 悲鳴・鳴き声
- ②なる 音がする。鳴動・共鳴・雷鳴・鳴り物・鳴子・海鳴り・地鳴り

学習 「なく」には「鳴く」のほかに「泣(256)」を使った「泣く」があります。「鳴く」は、とり・けもの・虫がなぐこと。「泣く」は、人がなみだをながして、声をあげたりすることです。

おんメイ
くなく・なる・ならす

鳴 (2年・14画)



黄黄黄黄黄黄黄黄黄黄

なりたち 光(ひかり)と矢(や)を合わせたかたちからできた字です。さきに火をつけてとばす矢(火矢)のことでした。その火の色から、きいろい色を表すようになりました。

つかいかた

- 赤・青・黄を三原色という。
- たまごには黄身と白身がある。
- あせて白いシャツが黄ばむ。
- 日本人や中国人は黄色人種だ。

読み・じゆん

- きいろ 黄金・黄土色・黄銅・卵黄・黄緑

学習 秋に木の葉が色づくことを、色によって「黄葉」または「紅葉」のように使分けします。

おんコウ・オウ
くんき・こ

黄 (2年・11画)



犬の鳴き声——擬音語

特別な読みのことば

ここにあげたことばは、常用漢字表の付表にあるものです。一字一字には、その読みはありませんが、一まとまりのことばになると、このように読むことができます。
△のついた字は学習漢字外の常用漢字。赤でしめたことばは小学校で教えることばです。

- 明日(あす)
小△豆(あずき)
海女(あま)
△硫黄(いおう)
意気地(いくじ)
一言居士(いちげんこじ)
田舎(いなか)
息△吹(いぶき)
海原(うなばら)
乳母(うば)
△浮気(うわき)
△浮つく(うわつく)
笑顔(えがお)
お母さん(おかあさん)
△叔父・△伯父(おじ)
お父さん(おとうさん)
△乙女(おとめ)
- △叔母・△伯母(おば)
お巡りさん(おまわりさん)
りさん)
お神酒(おみき)
母屋・母家(おもや)
神楽(かぐら)
河岸(かし)
風△邪(かせ)
仮名(かな)
△蚊帳(かや)
△為△替(かわせ)
河原・川原(かわら)
昨日(きのう)
今日(きょう)
果物(くだもの)
△玄人(くろうと)
今朝(けさ)
景色(けしき)

- 心地(こころ)
今年(ことし)
早△乙女(さおとめ)
雑魚(ざこ)
△棧△敷(さじき)
差し支える(さしつかえる)
五月晴れ(さつきばれ)
早△苗(さなえ)
五月雨(さみだれ)
時雨(しぐれ)
竹刀(しなひ)
△芝生(しばふ)
清水(しみず)
三味線(しゃみせん)
砂利(じやり)
数△珠(じゆず)
上手(じょうず)
白△髪(しらがり)
素人(しろうと)
師走(しわす・しはす)
数寄屋・数△奇屋(すきや)
相△撲(すもう)
草△履(ぞうり)
山車(だし)
太刀(たち)

- 立ち退く(たちのおく)
七夕(たなばた)
足△袋(たび)
△稚児(ちご)
一日(ついでち)
築山(つきやま)
△梅雨(つゆ)
△凸△凹(でこぼこ)
手△伝(てつだう)
伝馬船(てんません)
投△網(とあみ)
十重二十重(とえはたえ)
読経(どきょう)
時計(とけい)
友達(ともだち)
仲人(なこうと)
名残(なごり)
雪△崩(なだれ)
兄△さん(にいさん)
姉△さん(ねえさん)
野良(のら)
祝詞(のりと)
博士(はかせ)
二十・二十△歳(はたち)
二十日(はつか)
波止場(はとば)
一人(ひとり)

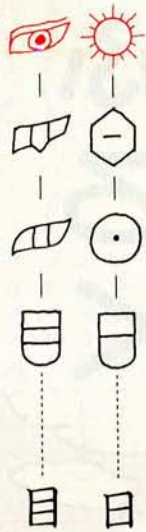
- 日和(ひより)
二人(ふたり)
二日(ふつか)
△吹雪(ふぶき)
下手(へた)
部屋(へや)
迷子(まいご)
真△赤(まっか)
真△青(まっさお)
土産(みやげ)
息子(むすこ)
眼鏡(めがね)
△猛者(もさ)
紅葉(もみじ)
木綿(もめん)
最寄り(もより)
八百長(やおちよう)
八百屋(やおや)
大和(やまと)
大和絵(やまとえ)
大和△魂(やまとだまし)
浴衣(ゆかた)
行方(ゆくえ)
寄席(よせ)
若人(わこうと)



- 漢字のなりたち……………420
漢字のくみたち……………422
漢字の筆順……………424
音読みと訓読み……………426
同訓異字……………428
熟語のできかた……………434
同音異義の熟語……………436
反対語・対義語……………438
あて字のいろいろ……………440
まちがえやすいかなづかい……………441
まちがえやすい送りかな……………442
漢字の特別な音訓……………444

漢字のなりたち

① **むかしの漢字といまの漢字**
漢字は、いまから三千年以上もまえ、中国で作られました。はじめは、じぶんの目に見えるものを、かんたんな絵にかきとりました。そのような絵文字が、むかしの漢字でした。それが、しだいに変わっていった、さいごに、いまのような文字になったのです。



② 漢字のできた

漢字ができたはじめたころは、人々の生活もかんたんでしたから、漢字もわずかな数でまにあいました。

しかし、時代がうつって、人々の生活がだんだん複雑になり、ことばの数も多くなると、絵ではかきあらわせないうことがたくさん出てきました。そこで、いろいろな工夫がされて、新しい漢字が作られていったのです。

このような漢字の作りかたをしらべてみますと、四つの作りかたがあったことがわかります。そして、もう一方では、すでにできている漢字に、べつな新しい使いかたをもたせて、漢字の使いかたの数をふやしているのです。これには二つの

山十石…(山のなかの石で)……………**岩**

田十力…(田で力をだしてはたらく人で)……………**男**

木十林…(木と林で)……………**森**

このように、大部分の漢字はいくつかの字の組み合わせでできていますが、その組み合わせの基本になる部分を部首といいます。部首は漢字の辞典のなかから目的の漢字を見つけるための目じるしになるものです。部首の意味がわかっていれば、その漢字のだいたいの意味はわかります。

安 ↓ 家はいえ。家と女の人で「やすらか」の意味。

政 ↓ 文は打つ。打って正しくすることで「政治」の意味。

吹 ↓ 欠は口を大きく開く。口を開くことで「ふく」の意味。

④ 形声文字

意味をしめす字と読みかたをしめす字とを組み合わせて、別の意味になるように、作られた字です。

【洋 ヨウ】 羊がヨウという読みかたをしめす。
シが水の意味をしめす。

【持 もつ】 寺がジという読みかたをしめす。
まが手の意味をしめす。

【根 ね】 艮がコンという読みかたをしめす。
ネが木の意味をしめす。

方法があり、まえの四つの方法といっしょにして「六書」とよんでいます。

① 象形文字

ものの形をかいた絵にうつつとった字です。①の例のほかに、「月・火・水・木・耳・手・子・女・雨・牛・犬・車・衣・鳥・馬・魚・門」などがあります。



② 指事文字

絵では書きあらわせないことばを、点や線で表した字です。



ほかに「一・二・四・八・本」などもそうです。

③ 会意文字

今までにできている漢字を組み合わせて、別の意味になるように作られた字です。

漢字のやく九〇パーセントは形声文字ですが、部首の意味がわかれば、その漢字のだいたいの意味はわかります。

池 海 水の意味の「氵」と組み合わせられて……いけ。

胸 脳 腹からだの部分の意味の「月」と組み合わせられて……むねのう・はら。

頭 額 顔にあたまたま・かおの意味の「頁」と組み合わせられて……あたま・ひたい・かお。

⑤ 転注文字

漢字のはじめの意味が、ひろがっていった、ほかの意味にも使われるようになった字です。

【楽】 「ガク」と読み、「音楽」の意味でしたが、「ラク」と読んで、「たのしい」の意味もできました。

【悪】 「アク」と読み、「悪い」の意味でしたが、「オ」と読んで、「にくむ」の意味もできました。

⑥ 仮借文字

あてはまる漢字がないので、同じ読みかたのほかの漢字をかりてきて、使われるようになった字です。

【自】 はじめは「鼻」の意味↓それをかりてきて「じぶん」の意味になりました。

【西】 はじめは「ぎる」の意味↓それをかりてきて「にし」の意味になりました。

漢字のくみたて

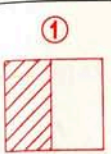
漢字には、日・月・山などのように、もうそれ以上わけられないものもありますが、ほとんどの漢字は、二つ以上にわけられます。

つまり、まず基本になる部分があって、それにほかの部分がついて、一つの漢字ができています。

このような組み合わせの基本になる部分を、部首といいますが、漢字の辞典には、同じ部首の漢字は同じな漢字としてまとめてのせられていきますから、部首は、さがす漢字を見つげるための目じるしになるのです。

また、部首はそれぞれ意味をもっていますから、同じ部首の漢字は、その部首の意味と深いかんけいを持っています。ですから、部首の意味がわかれば、その漢字のだいたいの意味もわかります。

部首は、それが漢字のどの部分にあるかによって、つぎのように、七つにわけられます。下の字は、その部首のついた漢字の例で、ぜんぶ小学校で習う字です。



① へん(偏)

左右にわけられる漢字の左がわの部分

- イ(人) || ひと …… 他付
- イ(水) || こおり …… 冷



② かんむり(冠)

上下にわけられる漢字の上の部分

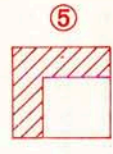
- 一(かんむり) || おおう …… 字
- 宀(かんむり) || いえ …… 安宅
- 艹(かんむり) || 両足 …… 発登
- 四(かんむり) || あみ …… 罪置
- 耂(かんむり) || 老人 …… 老考
- 宀(かんむり) || くさ …… 花芸
- 穴(かんむり) || あな …… 究空
- 竹(かんむり) || たけ …… 笑第
- 雨(かんむり) || あめ …… 雪雲



③ あし(脚)

上下にわけられる漢字の下の部分

- 儿(あし) || ひと …… 兄児
- 心(あし) || こころ …… 志忘
- 火(あし) || 照熱
- 皿(あし) || さら …… 益盟
- 貝(あし) || お金 …… 貧貴



④ たれ(垂)

漢字の、上から左下にたれている部分

- 厂(だれ) || げ …… 厚原
- 尸(だれ) || ひと …… 尺局
- 疒(だれ) || 病氣 …… 病痛



⑤ によう(繞)

漢字の、左と下の部分

- 辶(によう) || 遠くへ行く …… 延建
- 辶(によう) || 行く …… 近返

- 口(くち) || くち …… 味呼
- 女(おんな) || おんな …… 好妹
- 巾(おんな) || ぬの …… 帳
- 巾(おんな) || おか …… 除陸
- 扌(て) || 手 …… 技投
- 日(ひ) || 日光 …… 明昨
- 木(き) || き …… 机材
- 火(ひ) || ひ …… 焼灯
- 犛(けい) || けい …… 犯独
- 目(め) || め …… 眼
- 石(いし) || いし …… 研砂
- 禾(へい) || いね …… 私秋
- 糸(いと) || いと …… 紀約
- 月(つき) || からだ …… 肥肺
- ネ(ねん) || きもの …… 補複
- 貝(かい) || お金 …… 財貯
- 金(かね) || 金ぞく …… 針鉄
- 土(ち) || つち …… 地板
- 子(こ) || こども …… 孫
- イ(さん) || さん …… 待後
- 心(しん) || 心 …… 性情
- 方(かた) || かた …… 旅族
- 月(つき) || 月光 …… 月日
- 彳(ち) || ち …… 河浅
- 身(み) || うし …… 牧物
- 王(おう) || たま …… 現理
- 矢(や) || や …… 知短
- ネ(ねん) || 神 …… 礼社
- 米(こめ) || こめ …… 粉精
- 耳(みみ) || みみ …… 職
- 舟(ふね) || ふね …… 航船
- 言(げん) || ことば …… 記訪
- 車(くるま) || くるま …… 転軽
- 馬(うま) || うま …… 駅験



⑥ つくり(旁)

左右にわけられる漢字の右がわの部分

- リ(りつ) || かたな …… 列利
- 阝(びつ) || 村 …… 郡部
- 夕(さん) || もよう …… 形
- 斤(づくり) || おの …… 断新
- 攴(びつ) || 武器 …… 段殺
- 力(ちから) || ちから …… 功效
- 攴(びつ) || 打つ …… 政教
- 欠(ひく) || 口を開く …… 欲歌
- 隹(とせ) || とせ …… 集雜
- 頁(がい) || あたま …… 額顔



⑦ かまえ(構)

漢字のまわりをかこんでいる部分

- 走(はよう) || はしる …… 起
- ほかに、
- 冫(つみ) || つつむ …… 包
- 匚(かま) || かくす …… 区医
- 弋(がま) || 標識 …… 式
- 行(ぎょう) || 道 …… 術街
- 冫(かま) || かこい …… 因困
- 戈(がま) || 武器 …… 成戦
- 門(がま) || もん …… 開閉

こうしてみると、形のちがうべつの部首でも、同じ意味や、似たような意味を、表しているものがあることがわかるでしょう。そのような、意味のにている部首を、まとめてみました。よくおぼえて、漢字の学習にやくだててください。

意味の似た部首

- ひとの意味 …… イ(人)・儿(ひと)・尸(しつか)
- 行く・道の意味 …… 辶(しん)・辶(しん)・辶(しん)
- 武器の意味 …… 攴(びつ)・攴(びつ)
- 家の意味 …… 宀(かんむり)・厂(だれ)
- かたなや、おで切る意味 …… 斤(づくり)
- 穀物の意味 …… 禾(へい)・米(こめ)
- からだにかんけいするもの …… 月(つき)・頁(がい)
- 布にかんけいするもの …… 巾(おんな)・巾(おんな)
- 材料にかんけいするもの …… 土(ち)・木(き)・金(かね)

音読みと訓読み

漢字は、五世紀よりもまえに、朝鮮をとおって日本に伝わったといわれます。そのころは、漢字には中国での読みかたがなく、漢文(中国語の文)を書くときにだけ、使われていたはずですが、しかし、そのうち、漢字に日本語の意味をあてはめて、日本語を読み書きするくふうがされるようになり、漢字は、日本の文字となっていくたのです。

① 音読みと訓読み

たいていの漢字には、音読みと訓読みとの二種類の読みかたがあります。音読みとは、漢字がむかし中国から伝わってきたときの発音から変化してできた読みかたです。訓読みは、漢字に、同じ意味の日本語をあてはめて読んだ読みかたです。たとえば、「水」の字は、

水 すい……音読み
みず……訓読み

石

石油・磁石・百石
↓せき・しゃく・こく
行脚・行事・行脚

行

↓こう・ぎょう・あん
納入・納得・納屋・納戸・出納

このように、一つの漢字にいくつもの音読みがあるのは、日本が中国と長いあいだ行き来しているうちに、同じ字の読みが時代によって変わったり、地方によってちがったりしたのが、何回かにわかれて、日本に伝わってきたからです。

(2) 訓

訓がいくつもある字
訓も、一つの漢字にたくさんあるものがあります。

下

した・しも・もと・さげる・くだる・おりる……

漢字を日本語に訳して読むのが、訓読みです。同じ「下」の字がつく「下車」と「下段」という熟語を訳してみると、「下車」を「下段」に訳してみると、「下段」は「下」の字を「下」に訳して「下段」になります。こういうところから、「下」という一つの漢字に、「した」「おりる」というちがった訓読みができてきます。

となります。

しかし、「茶・菊・象」などは、もともと、むかしの日本にはなかったもので、こういう字には音読みしかありません。

反対に、「峠・畑・畑(む)」などは、日本で新しくつくられた字(国字)なので、訓読みだけです。「働(く)」も国字ですが、これには「どう」という音読みがあります。「動」の音をかりたのです。

(1) 音と訓と両方が使われる字

水 火 湖 田 犬 光 国 草
みず ひみずうみ た いぬ ひかりくくさ

(右の読みが音、左の読みが訓)

(2) おもに音だけが使われる字

点 胃 肉 職 材 医 感 演
てん いにくしよくざい いかん えん

(3) おもに訓だけが使われる字

峠 箱 坪 姫 株 届け 咲く
とうげ はこ つぼ ひめ かぶ とどく さく

これを見ると、音のほうは耳で聞いただけでは、すぐには意味のわかりにくいものが多いことがわかります。たとえば、(1)では、「すい・か・こ……

ほかの「しも・もと」や「さげる」「くだる」も、それぞれ、「した」「おりる」とにた意味なので、同じ「下」の訓になったのです。

訓の多い字には、ほかにも、つぎのようなものがあります。
上 うえ・かみ・あがる・のぼる……
生 いきる・うまれる・おう・はえる・き・なま……

③ 同じ訓をもつ漢字

②と反対に、「表す・現す・著す」のように、ちがう漢字でも、それにあてはまる日本語が一つしかないときは、同じ訓で読みます。

日本語としては、意味がまったくちがうわけではなく、だいたい似た意味をもっているからです。これを「同訓異字」といいます。「あらわす」のほかにも、つぎのようなものもあります。(428頁〜433頁にくわしく出ています)

あく 明く・空く・開く
のぼる 上る・登る・△昇る
はかる 図る・計る・測る・量る

……といっても、すぐになんのことかわかりませんが、「みず・ひ・みずうみ……」といえは、すぐにわかります。

(2)のなかでは、「材・医・感・演」は、耳で聞いただけではわかりにくく、「材・木・医者・感情・演奏」などと、ほかの字が加わって熟語になれば、意味がはっきりしてきます。

このように、訓は、そのままことばとして使われることが多いのですが、一字の漢字の音は、それだけでは、ことばとして使われることは少ないのです。音読みか訓読みかを見分けるとき、このことをおぼえておくと、べんりです。

ただし、音読みの中にも、(2)の「点・胃・肉・職」のように、音がそのままことばとして使われるものも、すこしはあります。「愛・案・恩・液・駅・王・億・役」などもそうです。

② いろいろの読みかた

(1) 音がいくつもあがる字
漢字の音読みは、一つとはかぎりません。つぎを見てください。

④ 重箱読みと湯桶読み

熟語には、音読みだけのもの(「往復・完全」など)、訓読みだけのもの(「手足・花火」など)、音読み・訓読みの両方があるもの(「草木・父母」など)右がわが音読み)があります。

さらに、熟語の上の字と下の字を「音十訓」「訓十音」と、上下ちがう読みかたをするものもあります。

「音十訓」の読みかたの代表的なものは「重箱」で、このような読みかたを「重箱読み」といいます。反対に「訓十音」の読みかたの代表的なものは「湯桶」(お湯を入れるおけ)で、この読みかたを「湯桶読み」といいます。つぎのようなものがその例です。(カタカナが音です)

重箱読みの例

土手・職場・宿場・両足・素手
洋間・客足・茶色・客種・本筋

湯桶読みの例

手帳・子役・親分・家賃・道順
生地・宿賃・豚肉・金具・関所

同訓異字

漢字には、訓読みがおなじでも、意味がすこしずつちがうものがあります。それを「同訓異字」といいます。意味がまったくちがっていけば見わけがつきますが、おたがいにているので、うっかりするとまちがえます。

つぎの表は、まちがえやすい漢字の使用例を示したものです。これを参考にして、漢字の力をゆたかにしてください。(△印のついていいる漢字は、学習漢字外の常用漢字です。)

〔あ行〕

あう 合う…計算が合う。服が体に合う。会う…人と会う。客と会う時刻。あう…災難に遭う。にわか雨に遭う。あがる・あげる 上がる…上げる…物価が上がる。△腕前を上げる。お祝いのお品物を上げる。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。△侵す…権利を侵す。領土を侵す。△冒す…危険を冒す(冒険)。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

あかす

あかす…罪を犯す(犯罪)。過ちを犯す。

同訓異字

いる いる…気に入る。日が山に入る。要る…お金が要る。返事が要る。居る…なかに人が居る。射る…弓で矢を射る。うける 受ける…試験を受ける(受験)。命令を受ける。注文を受ける。△請ける…請け合う。仕事を請け負う。うつ 打つ…くぎを打つ。ボールを打つ。討つ…敵を討つ。あだ討ち。△撃つ…ピストルを撃つ。△銃を撃つ。うつす・うつる 写す・写る…書類を写す。カメラで写す。写真に写る。映す・映る…かがみに映す。スクリーンに映る。かべに△影が映る。うむ・うまれる 生む・生まれる…新記録を生む。わたしは東京で生まれた。産む…卵を産む(産卵)。

おさめる 収める…収める…争いが収まる。利益を収める。成功を収める。納める…税金を納める(納税)。治まる…治める…痛みが治まる。国を治める。領地を治める。修める…学問を修める。おす 押す…はんこを押す。ベルのボタンを押す。念を押す。

おもて 表す…表と裏。表で遊ぶ。面…水の面(水面)。矢面に立つ。おりる・おろす 降りる…降ろす…電車を降りる。△霜が降りる。主役から降ろす。下りる…下ろす…幕が下りる。許可が下りる。貯金を下ろす。△卸す…問屋が品物を小売りに卸す。

〔か行〕

かえす・かえる 返す・返る…借った本を返す。恩を返す。答えが返る(返答)。帰る…家へ帰る。故郷へ帰る。かえりみる 顧みる…むかしを顧みる(回顧)。省みる…自分の行いを省みる(反省)。かえる・かわる 変える・変わる…形を変える。位置が変わる。かぜで声が変わる。△換える…次の駅で乗り換える。△替わる…入れ替わる。社長が替わる。代わる…父に代わってあいさつする。

かかる・かける

△掛かる・掛ける……かべに掛かった絵。
△こしを掛ける。保険を掛ける。
△懸かる・懸ける……優勝が懸かる。賞金を懸ける(懸賞)。
△架ける……橋を架ける(架橋)。
係る……係員。案内係。

かた

△形……自由形。△跡形もなく消え失せた。
△型……型にはめる。血液型。型紙。

かたい

△堅い……堅い材木。堅い氷。手堅い。
△固い……固い団結。固く信じる。
△硬い……硬い宝石。表情が硬い。

かわ

△皮……皮をはぐ。トラの皮。木の皮。
△革……革づつ。なめし革。革のベルト。

きく・きこえる

△聞く・聞こえる……物音を聞く。うわさを聞く。話し声が聞こえる。
△聴く……講演を聴く。音楽を聴く。

きく

△効く……薬が効く。効きめがある。
△利く……左手が利く。機転が利く。

せめる

△攻める……敵を攻める(攻撃)。
△責める……過ちを責める。

そう

△浴う……川沿いの家。線路に沿ってある。方針に沿う。
△添う……連れ添う。付き添い。

そなえる・そなわる

△備える・備わる……台風に備える。必要なものはずんぶ備わっている。
△供える……お花を供える。お供え物。

「た 行」

たずねる

△尋ねる……道を探る。尋ね人。
△訪ねる……友だちを訪ねる(訪問)。明日お訪ねします。

たたかう

△戦う……敵と戦う。
△闘う……病氣と闘う。牛と闘う(闘牛)。

たつ

△断つ……退路を断つ。お酒を断つ。
△絶つ……命を絶つ。△縁を絶つ(絶縁)。
△裁つ……紙を裁つ。布地を裁つ。

きわまる・きわめる

△窮まる・窮める……進退窮まる。窮まらない宇宙。真理を窮める。
△極める……山頂を極める。栄華を極める。極めてりつぱな成績。
△究める……学問を究める(学究)。

くら

△倉……穀倉。米倉。
△蔵……蔵開き。大蔵省。

こおる・こおり

△凍る……水が凍る。湖が凍る。
△氷……氷が張る。氷をかく。氷づめ。

「さ 行」

さがす

△探す……犯人を探す。家じゅうを探す。探す……空き家を探す。宝物を探す。

さげる

△下げる……頭を下げる。値段を下げる。
△提げる……手に提げる。手提げかばん。

さす

△さす……かさをさす。こしに刀をさす。水をさす。差し出す。
△指す……ゆびで指す。指し示す。しようぎを指す。目的地を指して進む。

たつ・たてる

△立つ・立てる……まっすぐ立つ。席を立てる。うわさが立つ。柱を立てる。
△建つ・建てる……家が建つ。ビルを建てる。銅像を建てる。

たつとい・とうとい

△尊い……尊い神。尊い犠牲。
△貴い……貴い体験。貴い忠告。

たま

△玉……玉にきず。目の玉。玉をみがく。
△球……電気の球(電球)。球を打つ。
△弾……ピストルの弾。大砲の弾。

つかう

△使う……道具を使う。人を使う。
△遣う……気を遣う。心遣い。小遣い銭。

つく・つける

△付く・付ける……ゴミが付く。利息が付く。名を付ける。気を付ける。
△着く・着ける……席に着く。手紙が着く。駅に着く。船を岸に着ける。
△就く・就ける……△床に就く。職に就く。ねむりに就く。家庭教師に就ける。

つく

△次ぐ……東京に次ぐ大都市。

さます・さめる

△刺す……とげを刺す。はりを刺す。
△覚ます・覚める……ねむりを覚ます。迷いを覚ます。目が覚める。
△冷ます・冷める……お湯を冷ます。料理が冷める。熱が冷める。

しずまる・しずめる

△静まる・静める……あらしが静まる。心が静まる。気を静める。
△鎮まる・鎮める……内乱が鎮まる。反乱を鎮める。痛みを鎮める。
△沈める……船を海に沈める。

しまる・しめる

△締まる・締める……交通違反を取り締まる。ねじを締める。帯を締める。
△絞める……首を絞める。

すめる

△進める……前へ進める。時計を進める。
△勧める……入会を勧める。貯金するよう勧める。
△薦める……選挙の候補者として薦める。

する

△刷る……本を刷る(印刷)。

つくる

△作る……米を作る(米作)。規則を作る。小説を作る。料理を作る。
△造る……船を造る(造船)。庭園を造る(造園)。お酒を造る(酒造)。

つとめる

△努める……完全に努める。解決に努める。努めて早起きする。
△勤める……会社に勤める。勤め人。
△務める……会長を務める。主役を務める。自分の務めをはたす。

とく・とける

△解く・解ける……問題を解く。ひもが解ける。雪が解ける。
△溶く・溶ける……絵の具を溶く。砂糖が水に溶ける。

ととのう・ととのえる

△整う・整える……整った文章。列を整える。身のまわりを整える。
△調える……味を調える(調味)。費用を調える。楽器の音の調子を調える。

とぶ

△飛ぶ……空を飛ぶ。うわさが飛ぶ。

△跳ぶ……みぞを跳びこす。跳びはねる。
 △とまる・とめる
 止まる・止める……水道が止まる。笑
 いが止まらない。息を止める。
 留める……ボタンを留める。書留。
 △泊まる・泊める……ホテルに泊まる。
 船が港に泊まる。友人を家に泊める。
 とる
 取る……手に取る。よこれを取る。資
 格を取る。メロを取る。年を取る。
 △採る……血を採る。会議で決を採る。
 △執る……筆を執る(執筆)。事務を執る。
 △捕る……ネズミを捕る。生け捕る。
 △撮る……映画を撮る。写真を撮る。

〔な行〕

ない
 無い……常識が無い。ぼくは金が無い。
 亡い……いまは亡き父をしのぶ。
 なおす・なおる
 直す・直る……誤りを直す。みだれた
 服を直す。機械の故障が直る。
 治す・治る……虫歯を治す。けがが治
 る。なかなか治らない病氣。

ひく
 ひく……つなを引く。線を引く。
 △弾く……ピアノを弾く。新曲を弾く。
 ふえる・ふやす
 △殖える……財産が殖える。
 増える・増やす……人口が増える。大
 雨で川の水が増える。人数を増やす。
 吹く
 △吹く……そよ風が吹く。ふえを吹く。
 △噴く……火山が火を噴く(噴火)。
 ふける
 △更ける……夜が更ける。夜更かし。
 老ける……老けてみえる。老けこむ。
 ふた
 二……二重まぶた。二つ折り。
 双……双子の赤ちゃん。小さな双葉。
 舟……舟をこぐ。小舟。ささ舟。
 船……船の甲板。世界一周の船旅。
 振るう……刀を振るう。士気が振るう。

〔ま行〕

まざる・まじる・ませる
 交じる・交ぜる……漢字にかなが交じ
 る。トランプのカードを交ぜる。
 混ざる・混じる……砂糖に塩が混ざる。
 異物が混じる。雑音が混じる。
 まち
 △町……海べの町。村と町。
 △街……学生の街。街の明かり。
 まるい
 丸い……背中が丸くなる。丸く治める。
 円い……円い人から。円く輪になる。
 まわり
 回り……身の回り。△胴回り。
 周り……池の周り。周りの人々。
 みる
 見る……景色を見る。調子を見る。
 △診る……病人を診る。脈を診る。
 もと
 下……大木の下。一撃の下にたおす。
 元……火の元。身元を保証する。
 本……本と末。本を正す。

ながい
 長い……長いさお。長い道。気が長い。
 永い……永年の経験。永の別れ(永別)。
 ならう
 習う……英語を習う。見習って覚える。
 △做う……いままでの例に做う。
 のせる・のる
 乗せる・乗る……母を飛行機に乗せる。
 車に乗る(乗車)。相談に乗る。
 △載せる・載る……たなに本を載せる。
 雑誌に広告を載せる。新聞に載る。
 のばす・のびる
 △伸ばす・伸びる……手足を伸ばす。草
 が伸びる。身長がぐんと伸びる。
 延ばす・延びる……出発を延ばす。開
 会を延ばす。△寿命が延びる。
 のぼる
 上る……川を上る。急な坂を上る。
 登る……山に登る(登山)。木に登る。
 △昇る……太陽が昇る。天に昇る。
 はえ・はえる
 奮う……声を震わせる。身震い。
 奮う……勇気を奮いおこす。奮い立つ。

〔は行〕

はえ・はえる
 奮う……声を震わせる。身震い。
 奮う……勇気を奮いおこす。奮い立つ。

やぶる・やぶれる
 破る・破れる……紙を破る。約そくを
 破る。服が破れる。
 敗れる……勝負に敗れる。
 よい
 良い……質が良い。成績が良い。
 善い……行いが善い。善いことをする。
 よむ
 読む……本を読む。人の心を読む。
 △詠む……短歌を詠む。俳句を詠む。
 わかれる
 分かれる……道が分かれる。意見が分
 かれる。勝敗の分かれめ。
 別れる……仲間と別れる。別れて住む。
 わざ
 業……至難の業。軽業。△離れ業。
 技……△剣道の技。技をみがく。

〔や行〕

映え・映える……きれいな夕映え。夕
 日に映える山の紅葉。
 栄え……栄えある勝利。でき栄え。
 はかる
 図る……解決を図る。合理化を図る。
 計る……時間を計る。国の将来を計る。
 測る……深さを測る。△距△離を測る。
 量る……目方を量る。容積を量る。
 △謀る……暗殺を謀る。悪事を謀る。
 △諮る……委員会に諮る。生徒会に諮る。
 はじまる・はじめ・はじめて・はじめる
 初め・初めて……年の初め。初めての
 経験。この手紙で初めて知った。
 始まる・始め・始める……会が始まる。
 始めと終わり。しごとを始める。
 はな
 花……花の都。花が落ち、実がなる。
 △華……華やかな。華々しい。
 はなす・はなれる
 △離す・離れる……間を離す。駅から遠
 く離れた町。離れ島。
 放す・放れる……小鳥を放す。見放す。
 放し飼い。矢がづるを放れる。
 はやい
 早い……時間が早い。気が早い。

熟語のできかた

二つ以上の漢字がむすびついて一つのことばとなり、一つの単語と同じはたらきをするものを、熟語といいます。そのなかでも、いちばん多いのは漢字二字でできた熟語で、その組み合わせかたには、いくつかの方法があります。

この方法を知っておくと、はじめて出た熟語でも、それがどんな意味か、だいたいの見当がつけられます。

① 漢字の組み合わせかた

(1) にた意味の字をかさねる



- 温暖(温かい・暖かい)
- 暗黒(暗い・黒い)
- 明朗(明るい・朗か)
- 安易
- 永遠
- 起立
- 研究
- 自己
- 思想
- 活動
- 完全
- 急速
- 清潔
- 生産
- 精神
- 接続
- 切斷
- 豊富
- 優美
- 秀
- 増加
- 尊敬
- 頂上
- 道路
- 豊富
- 優美
- 秀

(2) 反対の意味の字をかさねる



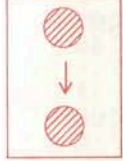
- 大小(大きい・小さい)
- 勝負(勝つ・負ける)
- 問答(問う・答える)
- 遠近
- 往復
- 加減
- 寒暑
- 強弱
- 公私
- 高低
- 黑白
- 左右
- 縦横
- 終始
- 晴雨
- 生死
- 前後
- 長短
- 天地
- 内外
- 売買

(3) かんけいの深い意味の字をかさねる



- 鳥獣(鳥と獣)
- 見聞(見る・聞く)
- 風雨(風と雨)
- 医薬
- 飲食
- 危険
- 牛馬
- 居住
- 金銀
- 軽薄
- 根本
- 山河
- 耳目
- 車馬
- 草木
- 重厚
- 多大
- 通過
- 手足
- 木石
- 歩行

(4) 上の字の意味が下の字にかかると



- 作品(作った品)
- 多数(多くの数)
- 笑声(笑う声)
- 暗室
- 植木
- 改選
- 古語
- 古語
- 清流
- 早朝
- 持参
- 指示
- 獣医
- 新設
- 清流
- 早朝
- 定価

(5) 下の字の意味が上の字にかかると



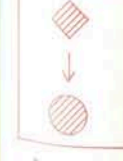
- 読書(書を読む)
- 愛国(国を愛する)
- 決心(心を決める)
- 乗車
- 着陸
- 投票
- 入港
- 閉会
- 来店
- 営業
- 延期
- 帰国
- 休学
- 計画
- 向上
- 作文
- 殺人
- 写真
- 修学
- 集金
- 就職

(6) 上の字が下の字の意味をうち消す



- 不足(足りない)
- 未知(まだ知らない)
- 非常(常でない)
- 不安
- 不意
- 不運
- 不慮
- 非常
- 非凡
- 否定
- 否認
- 無罪
- 無用
- 未定
- 未滿
- 無害
- 無限
- 無罪
- 無用

(7) 上の字が下の字に、尊敬・ていねいの意味をそえる



- 御殿(りっぱな住宅)
- 高著(りっぱな著書)
- 芳名(あなたの名)
- 衣
- 食
- 住
- 松竹梅
- 上
- 中
- 下
- 真
- 善
- 美
- 雪
- 月
- 花
- 知
- 情
- 意
- 天
- 地
- 人
- 優
- 良
- 可

③ 四字の熟語

四字の熟語にも、ふだんよく使われるものが、たくさんあります。

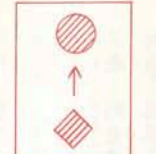
異口同声: 異なる口から同じ音(「こ」とば) ↓ 口をそろえて
一石二鳥: 一つの石を投げて二羽の鳥をとる ↓ 一つのことで二つとくする
我田引水: 自分(「我」)の田に水を引く ↓ 自分につこうよく
弱肉強食: 弱いものの肉を強いものが食う ↓ 強いものが勝ちのこる
針小棒大: 針ぐらゐの小ささを棒のよう大きな大きさにいう ↓ 小げさ

熟語のできかた

二字の熟語のできかたには、このほかにも、おなじ漢字をかさねる方法があります。「延延・刻刻・種種・順順・統統・淡々・年年・別別・方方」などがそうで、一つの字の意味を強めたいいかたです。

② 三字の熟語

三字の熟語のできかたは、大きく分けて二つあります。



- 美化(「:」ようにする」とい)
- 突然(「:」のような」とい)
- 病的(「:」のような」とい)
- 急性(意味をそえる「:」のような」とい)
- 感化
- 強化
- 進化
- 偶然
- 整然
- 断然
- 端的
- 美的
- 悪性
- 酸性
- 中性
- 良性

- 安全
- 学芸会
- 交通網
- 関係者
- 共通語
- 銀世界
- 常緑樹
- 食生活
- 上半身
- 消費者
- 常緑樹
- 食生活
- 大都市
- 大部分
- 大使館
- 大自然
- 植物園
- 体育会
- 多自然
- 不可能
- 文化祭
- 非常識
- 多人数
- 忍耐力
- 美意識
- 文筆業
- 百人力
- 夢心地
- 捕鯨船
- 未知数
- 無意識
- 遊園地
- 溶鉱炉
- 歴史的
- 錬金術

- 以心伝心
- 一進一退
- 空前絶後
- 千差万別
- 大同小異
- 東奔西走
- 半信半疑
- 一日千秋
- 一長一短
- 言語道断
- 取捨選択
- 前代未聞
- 大刀直入
- 日進月歩
- 不眠不休
- 一刻千金
- 危機一髪
- 三洋九拜
- 絶体絶命
- 大器晚成
- 適者生存
- 半死半生
- 有害無益

同音異義の熟語

発音が同じでも、意味のちがうことがあります。これを「同音異義語」といいます。この表は、おもな同音異義の熟語と、その意味や使いかたの例を五十音順に示したものです。よく参考にしてください。

- 愛称…あの子の愛称はミーです
- 愛唱…愛唱歌は「野ばら」
- 以外…大人以外入場禁止
- 意外…意外な結果
- 意義…意義のあるしごと
- 異義…同音異義語
- 異議…異議をとなえる
- 意志…かれは意志が弱い
- 意思…意思表示する
- 異常…異常な気候
- 異状…べつに異状はない
- 移動…移動図書館
- 異動…人事異動をする
- 運行…星の運行
- 運航…定期船の運航
- 温和…気候が温和
- 穂和…穂和な人がら
- 解答…問題の解答
- 回答…要求に回答する
- 開放…どれいを解放する
- 開放…校庭を開放する
- 鑑賞…名画を鑑賞する
- 親賞…バラを親賞する
- 親照…現実を親照する
- 感傷…感傷のなみだ
- 歓心…友だちの歓心を買う
- 感心…感心しない行動
- 関心…事件に関心がある
- 機会…絶好の機会
- 機械…農業の機械化
- 器械…器械体操をする
- 気管…気管支炎
- 厚意…厚意を受ける
- 好意…好意をよせる
- 交換…名刺を交換する
- 交歓…日米野球の選手の交歓
- 口頭…質問に口頭答する
- 口頭…口頭で説明する
- 同志…同じ野球部の同志
- 特長…安いのが特長です
- 特徴…特徴のある話しかた
- 反攻…反攻に転じる
- 反抗…目上の人に反抗する
- 反面…やさしい反面がある
- 微小…微小な生物(微生物)
- 微少…損害は微少だ
- 必死…必死に勉強する
- 必至…雨になるのは必至だ
- 不幸…親不孝
- 不幸…不幸な生活
- 平行…平行線は交わらない
- 並行…バスと車が並行する
- 保険…生命保険
- 保健…保健所へ行く
- 国政…選挙で国政に参加
- 国勢…国勢調査
- 最後…最後の仕上げ
- 最期…壮烈な最期(死)
- 作成…書類を作成する
- 作製…家具を作製する
- 参会…参会者は五十人
- 散会…これで散会します
- 実態…読書の実態調査
- 実体…ナゾの実体は?
- 辞典…国語辞典・英和辞典
- 事典…百科事典・文学事典
- 周知…周知の事実
- 衆知…衆知を集める
- 修了…修了証書
- 終了…今月で終了する
- 受賞…皆勤賞の受賞者

同音異義の熟語

- 紹介…友だちを紹介する
- 照会…住所を照会する
- 傷害…傷害保険
- 障害…障害物競走
- 食糧…食糧危機(主食)
- 食料…食料品
- 所用…所用で出かける
- 所要…所要時間を調べる
- 侵入…国境から敵が侵入
- 浸入…地下水が浸入
- 進路…卒業後の進路
- 針路…北北西に針路をとる
- 製作…機械を製作する
- 制作…壁画を制作する
- 正当…正当な権利
- 正統…日本画の正統派
- 青年…青年たちの読書会
- 成年…二十歳以上が成年
- 絶対…絶対になんば!
- 絶対…絶対絶命!
- 占有…土地を占有する
- 専有…会社の利益を専有
- 促成…トマトの促成栽培
- 速成…論文を速成する
- 即製…即製の雨具を作る
- 対称…左右対称
- 対照…全国平均と対照する
- 対象…読者対象
- 追求…利益の追求
- 追究…真理の追究
- 追及…責任の追及
- 適正…適正価格
- 適性…適性検査
- 同士…男同士
- 同志…同じ野球部の同志
- 特長…安いのが特長です
- 特徴…特徴のある話しかた
- 反攻…反攻に転じる
- 反抗…目上の人に反抗する
- 反面…やさしい反面がある
- 微小…微小な生物(微生物)
- 微少…損害は微少だ
- 必死…必死に勉強する
- 必至…雨になるのは必至だ
- 不幸…親不孝
- 不幸…不幸な生活
- 平行…平行線は交わらない
- 並行…バスと車が並行する
- 保険…生命保険
- 保健…保健所へ行く
- 国政…選挙で国政に参加
- 国勢…国勢調査
- 最後…最後の仕上げ
- 最期…壮烈な最期(死)
- 作成…書類を作成する
- 作製…家具を作製する
- 参会…参会者は五十人
- 散会…これで散会します
- 実態…読書の実態調査
- 実体…ナゾの実体は?
- 辞典…国語辞典・英和辞典
- 事典…百科事典・文学事典
- 周知…周知の事実
- 衆知…衆知を集める
- 修了…修了証書
- 終了…今月で終了する
- 受賞…皆勤賞の受賞者
- 補償…安全保険条約
- 補償…補償金
- 民俗…民俗学
- 民族…日本民族
- 無休…年中無休
- 無給…無給ではたらく
- 明記…持ちものに氏名を明記
- 銘記…心に銘記する
- 野生…野生のライオン
- 野性…野性的な感じの人
- 要件…要件をうかがう
- 要件…お話の要件は?
- 要綱…新しい法律の要綱
- 要項…募集要項
- 要談…社長は用談中です
- 要談…外国の大臣との要談

反对語・対義語

出発 出国 手段 縮小 收入 自由詩 重厚 集合 自由 失敗 子孫 自然 賛成 光明 幸福 公道 肯定 強情 攻撃 建設 減少 現実 理想・空想

尊敬 損害 創造 増進 早春 総合 善良 先輩 先天的 全体 前進 前者 絶対 精密 精神 新進 親切 私立 勝利 消費 承認 消極(的) 消火 需要

能動的 年始 生菓子 内服薬 鈍感 得点 動脈 当选 登校 点線 天災 天才 沈下 中止 着陸 暖房 単数 短所 單純 達筆 多勢 他殺 退却 退却 進撃

名目 無効 無限 未来 満腹 本流 豊富 平和 文明 分散 文語 不要 不明 不便 復活 副業 不快 非凡 否決 悲観 反抗 白米 白米 玄米

割引 和食 朗報 連続 连胜 連記 両方 良貨 略字 利己心 予算 幼虫 洋式 洋菓 容易 輸入 輸出 野党 野党 優等 優等 輸入 輸入 野党 野党 優等 優等 輸入 輸入

反对語・対義語

「前」と「後」のように、たがいに正反対になることを反対語といいます。また、「兄」と「姉」のように、意味のうえで対になるようなことばもあります。それで、両方をいっしょにして、対義語ともいいます。

悪人 善人 悪化 好転 安価 高価 安産 難産 安心 不安 安全 危険 安定 変動 異義 同義

音読 穩健 奥行 往路 往復 応答 横断 往信 延長 益虫 鋭角 運航 右翼 海の幸 陰性 飲酒 陰極 陰気

乾性 官製 感情(的) 元金 加入 合唱 火中 下端 片刃 下層 過少 過小 過失 革新 加害者 解放 解答 開通 快調 害鳥 外地 外出 開始 外向型 外交

欠点 継続 形式 具体(的) 偶然 空間 勤勉 近視 禁煙 許可 共通語 強健 及第 急性 容観(的) 義務 希望 起点 奇数 帰港 巻頭 官邸 千潮 簡單 間接

あて字のいろいろ

外国の国名や地名などは、ふつう、カタカナで書きますが、むかしは漢字の読みや意味をかりて書くことがありました。アメリカを「亜米利加」と書き、それをもっとみじかくして、「米(国)」と書いたりするやりかたです。

こういう書き方を「あて字」といい、いまでも新聞や雑誌、町のかんばんなどでは、使われることがあります。

① 漢字の読みをかりる

- △国名・地名・都市名▽
アメリカ(△亜米利加) ... 米(国)
イギリス(英△吉利) ... 英(国)
イタリア(伊△太利) ... 伊(国)
インド(印△度) ... 印
オーストラリア(△濠太刺利) ... 豪(州)
カナダ(加△奈陀) ... 加(州)
ドイツ(独△逸) ... 独(国)
フランス(仏△蘭西) ... 仏(国)
フィリピン(比△律賓) ... 比(国)

ましがえやすいかなづかい

ましがえやすいのは、つぎのように、じつさいの発音とすこしちがう書きかたをするところです。このほかは、ぜんぶ、発音どおりに書けば、ましがえません。

① オ・ワ・エと発音するのに、「を・は・へ」と書くもの

例 水を飲む(水お) 空を飛ぶ(空お)
ぼくは四年生です(ぼくわ)
先生、こんにちは(こんにちわ)
学校へ行く(学校え)
「を・は・へ」は、ほかのことばの下につけて使うことばです。

② ジ・ズと発音するのに、「ぢ・づ」と書くもの

例 はなぢ(鼻十血)が出た。

アジア(△亜細△亜) ... 亜(州)
ヨーロッパ(△欧△羅△巴) ... 欧(州)
ニューヨーク ... 紐育
パリ ... 巴里
ホンコン ... 香港
ローマ ... 羅馬
ロンドン ... 倫口敦
△人名▽
キリスト ... 基△督
シエークスピア ... 沙△翁
△身のまわりのもの・こと▽
カッパ ... 合羽
カルタ ... 加留多
コーヒー ... 珈非
ガス ... 瓦斯
グラム ... 公厘
△瓦 ... コンペイトウ ... 金米糖
ダース ... 打
メートル ... 米
リットル ... 立
ニンジン ... 人参
みそ ... 味噌

② 漢字の意味をかりる

カボチャ ... 南瓜(南の国から来た瓜)
ガラス ... 硝子(硝石が原料)
キセル ... 煙管(煙を出す管)
コップ ... 洋盃(西洋の盃)
タバコ ... 煙草(煙を出す草)
ビール ... 麦酒(大麦の酒)
マッチ ... 燐寸(燐が一寸)
のり ... 海苔(海の苔)
ぼや ... 小火(小さい火事)

「へやのかたづけ(片づけ)」をする。
「入れ知恵、かん詰め、小づかい、小包、近々、手近、身近、手づかみ、手作り、三日月、基づく」などのことばも、そうです。
(2) チのあとにジ、ツのあとにズという発音がつづくとき
例 セーターがちぢむ(ちぢむ)
大雨がつづく(つづく)
「ちぢれる、つづみ、つづら、つづる」などもそうです。

③ するときには、ふつう「おう・こう・そう・とう……」などと書く

例 おうえん(応△援) んごう(銀行)
そうとう(相当) のうりつ(能率)
ほうりつ(法律) もうふ(毛布)
ただし、つぎのことばは特別に「おお・こお・とお……」などと書きます。
例 おおい(多い) おおきい(大きい)
こおり(氷) とおい(遠い)
「公△覆う、おおかみ、凍る、△滞る、

アルコール ... 酒精
ボタン ... 釦
かたむり ... 蝸牛
こま ... 独楽
さるすべり ... 百日紅
せりふ ... 台詞
科白
えび ... 海老
たいまつ ... 松明
むかで ... 百足
やけど ... 火傷

③ 読みと意味の両方をかりる

カタログ ... 型録(型を記録したもの)
クラブ ... 倶楽部(俱に楽しむところ)
コンクリート ... 混△凝土(混せて凝りかためた土)
おしろい ... 白粉(白い粉)
かみそり ... 剃△刃(ひげを剃る刃)
そろばん ... 算△盤(計算する盤器具)
はだし ... 裸足(裸の足)

ほかに、つぎのようなあて字が、よく使われます。
あんず ... 杏子
すごろく ... 双六
いか ... 烏賊
すし ... 寿司
いちよう ... 銀杏
つくし ... 土筆
かげろう ... 陽△炎
ひばり ... 雲雀
かつば ... 河童
へちま ... 糸瓜
さざんか ... 山茶花
ほととぎす ... 時鳥
すいか ... 西瓜
ゆり ... 百合

④ するときには、ふつう「えい・けい・せい・てい……」などと書く
例 えいが(映画) がくせい(学生)
こうへい(公平) ていねん(停年)
とけい(時計) めいぶつ(名物)

⑤ ユーと発音するときは、ふつう「ゆう」と書く
例 ゆうがた(夕方) ゆうじん(友人)
ゆうき(勇氣) かみをゆう(結う)

ただし、ものを「言う」のときだけは「ゆう」ではなく、「いう」と書きます。
例 おせじをいう 日本という国

まちがえやすい送りがない

- ② たりない例
- みすから ○自ら
 - みぢか ○身近
 - みちびく ○導く
 - むらがる ○群がる
 - やしなう ○養う
 - よろこぶ ○喜ぶ
 - わかれる ○別れる
 - あつまる ○集まる
 - あぶない ○危ない
 - うしろ ○後ろ
 - かんがえる ○考える

- ③ 働きによって つけ方を変える
- きこえる ○聞える
 - さいわい ○幸い
 - したしい ○親しい
 - すこす ○過す
 - たしかめる ○確かめる
 - たやす ○絶やす
 - なかば ○半ば
 - なさけ ○情け
 - ひえる ○冷える
 - ひややか ○冷やか

- なをつけるときと、つけないときがあります。
- 頂 ○頂上
 - 帯 ○おみやげを頂く
 - 折 ○折紙
 - 組 ○小林先生の組
 - 話 ○話し合う
 - 光 ○黒光り
 - 巻 ○巻く
 - 割 ○二つに割る

- ④ 送りがなし
- さき ○先
 - さかい ○境
 - さきさき ○先々
 - したがう ○従う
 - しりぞく ○退く
 - すくない ○少ない

- △三字のことは▽
- 植木 ○植木
 - 合図 ○合図
 - 小包 ○小包
 - 座敷 ○座敷
 - 試験 ○試験
 - 字引 ○字引
 - 閉取 ○閉取
 - 立ち場 ○立ち場
 - 建物 ○建物
 - 手当 ○手当
 - 頭取 ○頭取
 - 仲買 ○仲買
 - 並木 ○並木
 - 切符 ○切符
 - 消印 ○消印
 - 木立 ○木立

まちがえやすい 送りがなし

送りがなしのつけ方は、ことばによっては、二、三とおりのものもあります。そして、そのどれが正しく、どれがまちがいのでもないものもあります。

しかし、それではおぼえるときに不便なので、教科書では、きまりをつくって、一つのことばには一つのつけ方をきめています。そのなかから、まちがえやすい例をしめします。よく見ておぼえてください。(印が教科書でつかうつけ方で、印のないのはまちがいです。印は、教科書にはでてきませんが、いっばんの社会では、つかわれることもあります。)

- ① つけすぎの例
- あからむ ○明らか
 - あかるい ○明かるい
 - あきなう ○商なう
 - あたい ○価(値)
 - あたらしい ○新らしい
 - あやまる ○誤る
 - あらた ○新らしい

- いきおい ○勢い
- いとなむ ○営む
- うしなう ○失う
- うたがう ○疑う
- うつくしい ○美しい
- うやまう ○敬まう
- えらぶ ○選ぶ
- おぎなう ○補なう
- おこなう ○行なう
- おさない ○幼ない
- おとずれる ○訪れる
- かえりみる ○省みる

- かならず ○必ず
- かまえる ○構える
- かり ○借り
- くらべる ○比べる
- こおり ○氷
- こころみる ○試みる
- こころよい ○快い
- さかい ○境
- さき ○先
- したがう ○従う
- しりぞく ○退く
- すくない ○少ない

- たがやす ○耕す
- たたかう ○戦う
- たつと ○尊い
- つらなる ○連なる
- ととのえる ○整える
- なま ○生
- にがい ○苦い
- はいる ○入る
- はたらく ○働く
- ふたたび ○再び
- まわす ○回す
- みじかい ○短かい

漢字の特別な音訓

この表は、常用漢字表で定められた音訓のうち、あることばにかぎって使われる音訓の例を、まとめたものです。

△のついた字は学習漢字外の常用漢字で、常用漢字表の順に、ならべてあります。

- 火 反安天親久因御疫三位春春雨遺帰
影応穩皇王遠縁利益病神一体
宮情行脚最開格街回散香夏何仮
内情行脚最開格街回散香夏何仮
序緒脚立末期眼子街道向華華至本病

総画さくいん

総画さくいん

Table of kanji with stroke counts (1-12) and examples. Includes characters like 一, 二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 九, 十, 十一, 十二, 十三, 十四, 十五, 十六, 十七, 十八, 十九, 二十, 二十一, 二十二, 二十三, 二十四, 二十五, 二十六, 二十七, 二十八, 二十九, 三十, 三十一, 三十二, 三十三, 三十四, 三十五, 三十六, 三十七, 三十八, 三十九, 四十, 四十一, 四十二, 四十三, 四十四, 四十五, 四十六, 四十七, 四十八, 四十九, 五十, 五十一, 五十二, 五十三, 五十四, 五十五, 五十六, 五十七, 五十八, 五十九, 六十, 六十一, 六十二, 六十三, 六十四, 六十五, 六十六, 六十七, 六十八, 六十九, 七十, 七十一, 七十二, 七十三, 七十四, 七十五, 七十六, 七十七, 七十八, 七十九, 八十, 八十一, 八十二, 八十三, 八十四, 八十五, 八十六, 八十七, 八十八, 八十九, 九十, 九十一, 九十二, 九十三, 九十四, 九十五, 九十六, 九十七, 九十八, 九十九, 一百.

学習漢字せんぶを画数順にならべました。おなじ画数の中は部首順です。数字は、上がページ、下が段です。漢字の下に、代表的な音訓を一つずつのせてあります。

画数をまちがえやすい漢字は、正しい画数のところのほかに、まちがえやすいところにも☆印をつけてのせましたから、画数をまちがえても、さがせます。画数をかぞえるとき、つぎのことに注意しましょう。(1)「おれ」「まがり」「はね」は「画(赤の部分)」。(2)「え・え・β・β・弓・么」は、三画にかぞえる。

総画さくいん

Table of kanji characters with stroke counts and readings. Columns include characters like 助, 努, 勞, 医, 卵, 吸, 君, 否, 告, 困, 囟, 囧, 告, 否, 君, 吸, 卵, 医, 勞, 努, 助. Rows list characters with their stroke counts and readings.

Table of kanji characters with stroke counts and readings. Columns include characters like 出, 刊, 功, 加, 包, 北, 区, 半, 去, 古, 句, 可, 台, 史, 右, 司, 号, 四, 庄, 処, 冬, 外, 央. Rows list characters with their stroke counts and readings.

総画さくいん

Table of kanji characters with their readings and page numbers. Columns include: 荷 (ノカ), 通 (ツウ), 速 (ソク), 造 (ゾウ), 連 (レン), 郡 (グン), 陸 (リク), 院 (イン), 除 (ジョ), 降 (カウ), 恩 (オン), 息 (ソク), 拳 (ケン), 料 (リョウ), 旅 (リョ), 時 (ジ), 書 (ショ), 朗 (ロウ), 校 (コウ), 株 (カブ), 根 (ネ), 格 (カク), 案 (アン). Rows include: 残 (ザン), 殺 (サツ), 浴 (ヨク), 消 (ソウ), 流 (リウ), 特 (トク), 班 (ハン), 留 (リウ), 病 (ビョウ), 益 (エキ), 真 (マ), 破 (ハ), 称 (ショウ), 秘 (ヒ), 笑 (ショウ), 粉 (コ), 納 (ノウ), 純 (ジュン), 紙 (シ), 素 (ソ), 耕 (コウ), 動 (ドウ), 副 (フ), 側 (ソバ), 健 (ケン), 停 (テイ), 高 (コウ), 骨 (コツ), 馬 (バ), 針 (シン), 酒 (シュ), 配 (ハイ), 起 (キ), 財 (サイ), 記 (キ), 訓 (クン), 討 (トウ), 蚕 (サン), 航 (コウ), 胸 (キョウ), 脈 (マク), 能 (ノウ), 皇 (コウ), 堯 (ヨウ), 焯 (トウ), 界 (カイ), 独 (ドク), 点 (テン), 炭 (タン), 洗 (セン), 浅 (セン), 海 (カイ), 派 (ハ), 活 (カツ), 洋 (ヨウ), 泉 (セン), 段 (ダン), 染 (セン), 榮 (エイ), 柱 (チュウ), 查 (サ), 映 (エイ), 昼 (チュウ), 是 (ゼ), 昭 (ショウ), 負 (フ), 計 (ケイ), 要 (ヨウ), 肺 (ハイ), 背 (ハイ), 胃 (イ), 美 (ミ), 紅 (コウ), 級 (キウ), 約 (ヤク), 紀 (キ), 秒 (ビョウ), 科 (カ), 秋 (アキ), 神 (カミ), 祝 (イハヒ), 祖 (ソ), 砂 (サ), 研 (ケン), 看 (カン), 県 (ケン), 省 (セウ), 相 (ソウ), 歸 (キ), 原 (ゲン), 勉 (ベン), 值 (チ), 排 (ハイ), 借 (カキ), 候 (コウ), 倍 (バイ), 個 (コ), 倉 (クラ), 俵 (ヒョウ), 修 (シユウ), 首 (クビ), 食 (シヤク), 飛 (トビ), 風 (カゼ), 音 (オン), 革 (カク), 面 (オモ), 重 (オモ), 軍 (グン), 從 (ジツ), 徒 (ト), 弱 (ジャク), 座 (ザ), 庭 (テイ), 庫 (コ), 帶 (オビ), 席 (セキ), 師 (シ), 差 (サ), 島 (シマ), 展 (テン), 党 (トウ), 將 (ショウ), 射 (シヤ), 宮 (ミヤ), 容 (ヨウ), 家 (カ), 害 (ガイ), 孫 (ソン), 夏 (ナツ), 員 (イン), 兼 (ケン).

Table of kanji characters with their readings and page numbers. Columns include: 乘 (ジョウ), 非 (ヒ), 青 (アヲ), 雨 (アメ), 門 (カド), 長 (チヨウ), 金 (カネ), 表 (ヒョウ), 育 (イク), 肥 (ヒ), 者 (シヤ), 空 (ソラ), 知 (チ), 直 (チヨク), 的 (テキ), 画 (ガ), 物 (モノ), 牧 (ボク), 版 (ハン), 沿 (エン), 泣 (キョク), 度 (タク), 卷 (マク), 屋 (ヤ), 專 (セン), 室 (シツ), 宣 (セン), 容 (ヤウ), 姿 (サ), 奏 (ソウ), 變 (ヘン), 城 (シヨウ), 型 (ケイ), 品 (シン), 厚 (コウ), 南 (ナン), 勇 (ユウ), 前 (ゼン), 則 (ソク), 信 (シン), 保 (ホ), 俗 (ソク), 係 (ケイ), 便 (ベン), 昨 (サク), 春 (ハル), 星 (シヨウ), 政 (セイ), 故 (コ), 指 (シ), 持 (モツ), 拾 (シヨウ), 思 (オモウ), 急 (キウ), 限 (ゲン), 逆 (ギャク), 送 (ソウ), 退 (タイ), 追 (オウ), 迷 (メイ), 草 (コウ), 茶 (チャ), 單 (タン), 後 (ゴ), 律 (リツ), 待 (タ), 建 (ケン), 皇 (コウ), 堯 (ヨウ), 焯 (トウ), 界 (カイ), 独 (ドク), 点 (テン), 炭 (タン), 洗 (セン), 浅 (セン), 海 (カイ), 派 (ハ), 活 (カツ), 洋 (ヨウ), 泉 (セン), 段 (ダン), 染 (セン), 榮 (エイ), 柱 (チュウ), 查 (サ), 映 (エイ), 昼 (チュウ), 是 (ゼ), 昭 (ショウ), 負 (フ), 計 (ケイ), 要 (ヨウ), 肺 (ハイ), 背 (ハイ), 胃 (イ), 美 (ミ), 紅 (コウ), 級 (キウ), 約 (ヤク), 紀 (キ), 秒 (ビョウ), 科 (カ), 秋 (アキ), 神 (カミ), 祝 (イハヒ), 祖 (ソ), 砂 (サ), 研 (ケン), 看 (カン), 県 (ケン), 省 (セウ), 相 (ソウ), 歸 (キ), 原 (ゲン), 勉 (ベン), 值 (チ), 排 (ハイ), 借 (カキ), 候 (コウ), 倍 (バイ), 個 (コ), 倉 (クラ), 俵 (ヒョウ), 修 (シユウ), 首 (クビ), 食 (シヤク), 飛 (トビ), 風 (カゼ), 音 (オン), 革 (カク), 面 (オモ), 重 (オモ), 軍 (グン), 從 (ジツ), 徒 (ト), 弱 (ジャク), 座 (ザ), 庭 (テイ), 庫 (コ), 帶 (オビ), 席 (セキ), 師 (シ), 差 (サ), 島 (シマ), 展 (テン), 党 (トウ), 將 (ショウ), 射 (シヤ), 宮 (ミヤ), 容 (ヨウ), 家 (カ), 害 (ガイ), 孫 (ソン), 夏 (ナツ), 員 (イン), 兼 (ケン).

総画さくいん

Table of kanji characters with readings and page numbers. Includes sections for 歌模様構旗慣態障際適 (14画), 敵遺選蔵導器劇億 (15画), 頭鋼録輸親衛興縦糖築積燈燃樹機橋整操憲菜奮 (16画), 類顔額題難臨觀職織簡曜 (18画), 護議競 (20画), 願鏡警識臍 (19画).

Table of kanji characters with readings and page numbers. Includes sections for 遊葉落營復属就尊寒富場報喜善博勝勤割創備 (12画), 極植森期朝最晚暑晴景敬散揮提悲階隊陽 (13画), 等筆童程稅短登痛番 (13画), 費貸買貴貯象詞評証覺補裁街衆着繪統給絶結筋策答 (13画), 幹幕塩墓園勸勢傷働 (13画), 罪福禁盟照源漢準楽業 (13画), 農辞路資賃 (13画), 豐誠話詩試解裏腹腸聖義群統絹節署置 (13画).